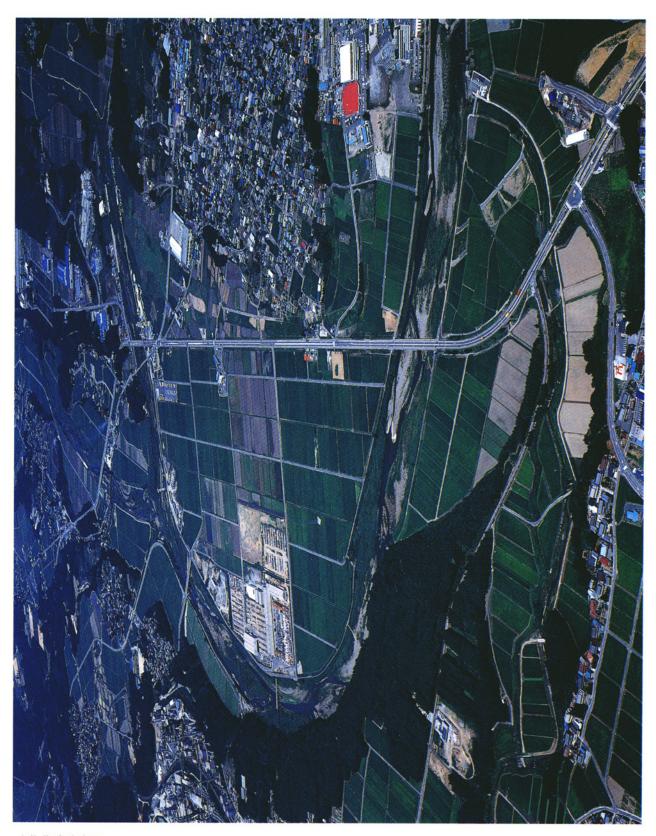
一般国道475号東海環状自動車道

上惣作遺跡

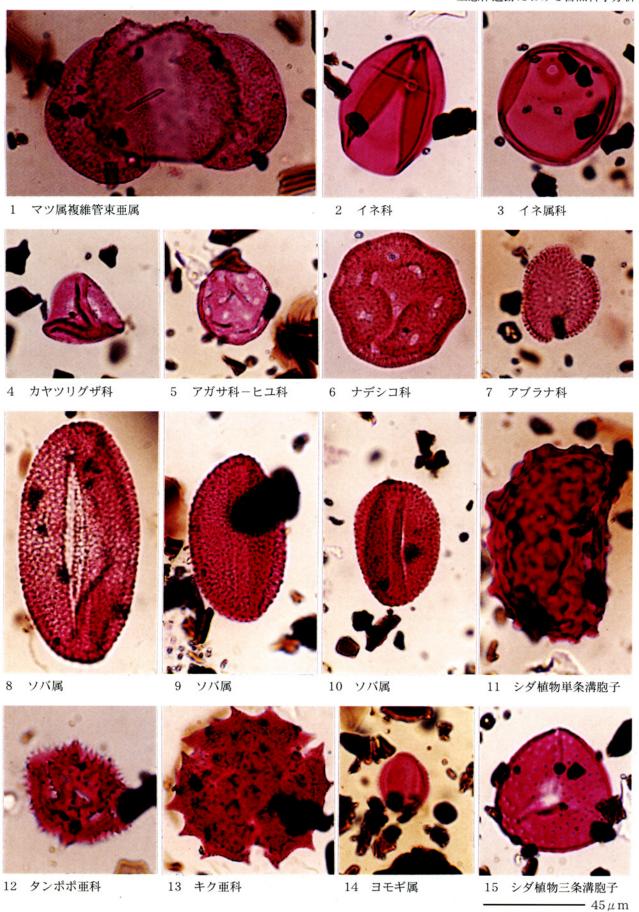
発掘調査報告

2 0 0 1.3

三重県埋蔵文化財センター



上惣作遺跡遠景



員弁郡は南北に長い三重県の中で最も北に位置します。鈴鹿山脈に源を発した員弁川は大小の支流を合わせながら中流域に河岸段丘、下流域に沖積平野を形成して伊勢湾に注いでいます。その員弁川によって形成された河岸段丘上には古代の人々の生活の跡を見ることができます。

上惣作遺跡は藤原岳麓の河岸段丘上に位置し、このたびの発掘調査により飛鳥時代を中心とした集落跡であることが判明しました。

調査を終えたところには、やがて新しい道路が開通し、地域と地域を結ぶ新しい文化活動の動脈となることでしょう。現状保存が困難なため記録保存というかたちになりましたが、発掘された膨大な記録を整理して報告書として公開することが、わたくしどもに課せられた責務であると考えています。本報告書が地域の歴史の解明の一助となることを切望いたします。

最後になりましたが、調査にあたり御協力いただきました関係諸機関および地元の皆様に心からお礼申し上げるとともに、今後とも県民の皆様の 文化財へのより一層の御理解と御協力をお願い申し上げる次第です。

平成13年3月

三重県埋蔵文化財センター

所長 藤澤英三

例 言

- 1. 本書は、平成7年度に三重県が建設省中部建設局から委託を受けて実施した一般国道475号東海環状自動車道建設予定地内に所在する埋蔵文化財の発掘調査にかかる報告書のうち、上惣作遺跡の報告書である。
- 2. 上惣作遺跡は、三重県員弁郡北勢町阿下喜に所在する。
- 3. 調査にかかる費用は、建設省中部建設局の負担による。
- 4. 発掘調査は、次の体制で行った。
 - ·調査主体 三重県教育委員会
 - ・調査担当 三重県埋蔵文化財センター
 - ·調査協力 東員町教育委員会

北勢町教育委員会

- ·現場作業 社団法人中部建設協会
- 5. 当報告書の執筆・編集は本堂弘之、森川幸雄の指導を受け、角正芳浩が行った。遺構写真は各担当者が、遺物写真は今尾宏記が撮影した。
- 6. 当報告書の作成業務は、担当職員が行ったほか、以下の者の協力を得た。

室内整理員 釜谷実加代 宮本理美 藤田有紀 樋口 愛 並河かおり 新貝里美 山中陽子 長野恵子 調査補助員 日紫喜勝重 長野恵子

7. 発掘調査およびその後の整理・報告書作成にあたっては、下記の方々のご指導・ご教示を賜りました。記して感謝の意を表します。(順不同・敬称略・所属は調査当時)

青木哲哉(立命館大学)、寒川旭(通産省工業技術院地質調査所)、尾野善裕(京都国立博物館)、松本 覚 (藤原町立白瀬小学校)、太田陽子(専修大学)、鈴木康弘(愛知県立大学)、田中欣治(三重短期大学)、服部俊之((財)愛知県埋蔵文化財センター)、森勇一(明和高校)、岩野見司(東海学園女子短期大学)、大下 明(雲雀丘学園中・高等学校)

- 8. 上惣作遺跡については、既に『一般国道475号東海環状自動車道埋蔵文化財発掘調査概報』II ~ IV · VI(三重県埋蔵文化財センター 1996~1998・2000) および『東海環状自動車道発掘調査ニュース』 7・10・11にその調査概要を報告しているが、本書をもって正式報告とする。
- 9. 「Ⅵ. 結語 SB73について」は、清水弘之「Ⅲ上惣作遺跡(3)中世」『一般国道475号東海環状自動車道発掘調査 概報Ⅳ』に加筆・修正を加え再掲載した。
- 10. 「W. 自然科学分析」では、環境考古研究会および(株)ズコーシャに分析を委託し、報文を掲載した。

- 11. 本書で用いた地図および遺構実測図等は、国土調査法の第VI座標系を基準とし、方位の表示は座標北とする。 当遺跡では、真北は座標北に対して0°18′两偏し、磁北は真北に対して6°50′西偏する。(平成5年現在)
- 12. 本書で報告した記録類および出土遺物は、三重県埋蔵文化財センターにおいて管理・保管している。
- 13. 本書で用いた遺構表示略記号は、以下のとおりである。

SB: 掘立柱建物 SD: 溝・自然流路 SF: 竈 SH: 竪穴住居 SK: 土坑

- 14. 本書で使用した遺構の名称・番号は、調査時の呼称を新たに改称したものである。
- 15. 本書で使用した土層および遺物の色調は、小山・竹原編『新版 標準土色帖』(1994年版) を用いた。
- 16. スキャニングによるデーター取り込みのため若干のひずみが生じています。 各図の縮尺率は、スケールバーを参照ください。

本 文 目 次

I. 前言····································	(1)
1. 事業の概要	(1)
2. 調査に至る経過	(1)
3. 調査の体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	(1)
4. 調査の方法	(2)
5. 調査の経過	(3)
Ⅱ. 位置と環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	(7)
1. 遺跡の位置	(7)
2. 歴史的環境	(7)
Ⅲ. 基本層序	(10)
Ⅳ. 遺構	(16)
1. 古墳時代	(16)
(1) 竪穴住居	(16)
(2)溝	(16)
2. 飛鳥・奈良時代	(17)
(1) 竪穴住居・竪穴状遺構	(17)
(2)掘立柱建物	(28)
(3)竈	(40)
(4)溝	(40)
(5) 土坑	(44)
3. 平安・鎌倉時代	(45)
(1)竪穴状遺構	(45)
(2)掘立柱建物	(45)
(3) 土坑	(46)
V. 遺物······· 角正···	(53)
1. 古墳時代	(53)
2. 飛鳥・奈良時代	(54)
3. 平安·鎌倉時代······	(74)
4. 包含層出土遺物	(77)
(1)縄文時代	(77)
(2) 古墳時代	(78)
(3) 飛鳥・奈良時代	(78)
(4) 平安·鎌倉時代······	(83)
(5) その他の遺物	(85)
5. その他の遺物	(85)

VI. 結語···············	(103)
1. 地形の形成	(103)
2. 縄文時代	(103)
3. 飛鳥・奈良時代	(103)
(1)遺構	(103)
a . 竪穴住居······	(103)
b. 掘立柱建物	(105)
c.溝······	(107)
d. その他·····	(107)
e.小結······	(108)
(2)遺物	(108)
a . 須恵器······	(108)
b. 土師器甕······	(108)
c. その他·····	(110)
d . 小結······	(110)
4. 平安・鎌倉時代	(110)
(1)掘立柱建物SB73·····	(110)
(2)中世集落	(112)
Ⅷ. 科学分析	(114)
上惣作遺跡における自然科学分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
環境考古研究会 金原正明 金原正子…	(115)
上惣作遺跡C地区から出土した土坑に残存する脂肪の分析	
(株)ズコーシャ 中野益男 中野寛子 清水了 門利恵 長田正宏…	(119)
₩ (参考資料)北勢沿岸流域下水道事業上物作遺跡隣接地立会調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	(129)

挿 図 目 次

第1図	調査区位置図(3)	第37図	竪穴住居 S H 69実測図 ·····(27)
第2図	試掘坑位置図(4)	第38図	竪穴住居 S H 70実測図 ·····(28)
第3図	調査区大地区割図(4)	第39図	竪穴住居 S H71実測図(28)
第4図	調査区小地区割図(5)	第40図	竪穴住居 S H 83実測図 · · · · · · (28)
第5図	周辺遺跡位置図(6)	第41図	S H83竈実測図(28)
第6図	周辺地形模式図(10)	第42図	掘立柱建物 S B 14実測図 ·····(29)
第7図	A地区東壁土層断面図(11)	第43図	掘立柱建物 S B 15 · 16実測図 · · · · · · · (29)
第8図	D地区東壁土層断面図(12)	第44図	掘立柱建物 S B 17実測図 ·····(30)
第9図	B地区東壁土層断面図(13)	第45図	掘立柱建物 S B 18実測図 ·····(30)
第10図	C 地区西壁土層断面図(1)······(14)	第46図	掘立柱建物 S B 20実測図 ·····(30)
第11図	C 地区西壁土層断面図(2)·····(15)	第47図	掘立柱建物 S B 24 · 25実測図 · · · · · · · (31)
第12図	竪穴住居SH76実測図(16)	第48図	掘立柱建物 S B 27 · 28実測図 · · · · · · · (31)
第13図	溝 S D75実測図・土層断面図······(17)	第49図	掘立柱建物 S B 29実測図 ·····(32)
第14図	竪穴住居SH1実測図(18)	第50図	掘立柱建物 S B 30 · 33実測図 · · · · · · · (32)
第15図	S H 1 竈遺物出土状況図 ······(18)	第51図	掘立柱建物 S B 34 · 35実測図 · · · · · · · (33)
第16図	竪穴住居SH3実測図(18)	第52図	掘立柱建物 S B 37実測図 ·····(33)
第17図	竪穴住居SH4実測図(19)	第53図	掘立柱建物 S B 41実測図 ·····(34)
第18図	S H 4 竈遺物出土状況図 ······(19)	第54図	掘立柱建物 S B 47実測図 · · · · · · · · (34)
第19図	竪穴住居SH8実測図(19)	第55図	掘立柱建物 S B 48実測図 ·····(34)
第20図	竪穴住居SH9実測図(20)	第56図	掘立柱建物 S B 49実測図 ·····(34)
第21図	SH9	第57図	掘立柱建物 S B 50実測図 ·····(35)
第22図	竪穴住居SH12実測図(21)	第58図	掘立柱建物 S B 51 · 52実測図 · · · · · · · (35)
第23図	S H12竈遺物出土状況図 ·····(21)	第59図	掘立柱建物 S B 53実測図 ·····(36)
第24図	SH12貯蔵穴遺物出土状況図(21)	第60図	掘立柱建物SB55実測図(36)
第25図	竪穴住居SH19実測図(21)	第61図	掘立柱建物SB56実測図(36)
第26図	竪穴住居 S H13実測図 ·····(22)	第62図	掘立柱建物 S B 57実測図 ·····(36)
第27図	竪穴住居SH21・22実測図(22)	第63図	掘立柱建物 S B 58実測図 ·····(37)
第28図	竪穴住居SH26実測図(22)	第64図	掘立柱建物 S B 59実測図 ·····(37)
第29図	竪穴住居SH36実測図(23)	第65図	掘立柱建物SB60実測図・・・・・(37)
第30図	竪穴住居SH38・39、竪穴状遺構SH40	第66図	掘立柱建物 S B 61実測図 ·····(37)
	実測図(24)	第67図	掘立柱建物 S B 62・63実測図 ·····(38)
第31図	竪穴住居 S H 43・44実測図(24)	第68図	掘立柱建物 S B 64実測図 ·····(38)
第32図	竪穴住居 S H 45 · 46実測図(25)	第69図	掘立柱建物SB65実測図(38)
第33図	S H 45·46遺物出土状況図(25)	第70図	掘立柱建物 S B 77 · 78実測図 · · · · · · · (39)
第34図	竪穴住居SH54実測図(26)	第71図	掘立柱建物 S B 79実測図 · · · · · · · (39)
第35図	S H 54遺物出土状況図 ······(26)	第72図	掘立柱建物 S B 81実測図 · · · · · · · · (39)
第36図	竪穴住居 S H 66~68実測図(27)	第73図	掘立柱建物 S B 82実測図 ·····(39)

第74図	掘立柱建物 S B 84実測図 · · · · · · · · (40)	第111図	出土遺物実測図(21)(81)
第75図	竈SF6実測図(40)	第112図	出土遺物実測図(22)(82)
第76図	竈SF7実測図(40)	第113図	出土遺物実測図(23)(83)
第77図	大溝 S D 5 実測図・土層断面図 ······(41)	第114図	出土遺物実測図(24)(84)
第78図	大溝 S D10·11実測図 ·····(42)	第115図	出土遺物実測図(25)(85)
第79図	大溝 S D 10 · 11土層断面図 · · · · · · · · (43)	第116図	出土遺物実測図(26)(86)
第80図	土坑 S K 42実測図 ······(44)	第117図	出土遺物実測図(27)(87)
第81図	竪穴状遺構 S H 2 実測図 ·····(45)	第118図	竪穴住居時期別の規模と辺の比 (104)
第82図	竪穴状遺構 S H 23実測図 · · · · · · · · (45)	第119図	「北勢型」甕の出土した主な遺跡(109)
第83図	掘立柱建物 S B 73実測図 · · · · · · · · (46)	第120図	遺溝変遷図 (109)
第84図	掘立柱建物 S B 85実測図 ·····(47)	第121図	中世の民家(111)
第85図	土坑 S K31実測図(47)	第122図	近世の特色を残す民家(111)
第86図	土坑 S K 32実測図 ·····(47)	第123図	SB73間取り想定図(111)
第87図	土坑 S K 72実測図 ······(48)	第124図	SB73周辺の地区割り(112)
第88図	土坑 S K 80実測図 ······(48)	科学分	析
第89図	土坑 S K 86 · 87実測図 ·····(48)	第1図	土壌サンプル採取地点 (114)
第90図	土坑 S K 74実測図 ······(49)	第2図	上惣作遺跡における
第91図	出土遺物実測図(1)(53)		花粉ダイアグラム(118)
第92図	出土遺物実測図(2)(55)	第3図	試料中に残存する
第93図	出土遺物実測図(3)(56)		脂肪の脂肪酸組成(125)
第94図	出土遺物実測図(4)(57)	第4図	試料中に残存する
第95図	出土遺物実測図(5)(58)		脂肪のステロール組成(126)
第96図	出土遺物実測図(6)(59)	第5図	試料中に残存する脂肪の
第97図	出土遺物実測図(7)(60)		脂肪酸組成樹状構造図(127)
第98図	出土遺物実測図(8)(67)	第6図	試料中に残存する脂肪酸組成による
第99図	出土遺物実測図(9)(68)		種異性相関(128)
第100図	出土遺物実測図(10)(69)	参考資	料
第101図	出土遺物実測図(11)(70)	第1図	調査区位置図 (129)
第102図	出土遺物実測図(12)(71)	第2図	No. 3 調査区実測図······ (130)
第103図	出土遺物実測図(13)(72)	第3図	出土遺物実測図(1)(130)
第104図	出土遺物実測図(14)(73)	第4図	№ 5 調査区実測図······ (131)
第105図	出土遺物実測図(15)(75)	第5図	出土遺物実測図(2)(131)
第106図	出土遺物実測図(16)(76)	付 図	
第107図	出土遺物実測図(17)(77)	A地区遺	t構実測図および等高線図(別添1)
第108図	出土遺物実測図(18)(78)	B・D地	2区遺構実測図および等高線図(別添 2)
第109図	出土遺物実測図(19)(79)	C地区遗	t構実測図および等高線図(別添 3)

第110図 出土遺物実測図(20) ……(80)

表 目 次

表1			
表 2	竪穴住居一覧(50)	表19 遣	遺物(土器・陶器)観察表(13)(100)
表 3	掘立柱建物一覧(1)(51)	表20 遣	貴物(土器・陶器)観察表(14)(101)
表 4	掘立柱建物一覧(2)(52)	表21 遣	遺物(土器・陶器)観察表(15)(102)
表 5	土坑一覧(52)	表22	遺物(土製品)観察表(102)
表 6	溝一覧(52)	表23 遣	遺物(石製品)観察表(102)
表7	遺物(土器・陶器)観察表(1) (88)	表24 遣	貴物(金属製品)観察表(102)
表 8	遺物(土器・陶器)観察表(2)(89)	表25 遺	遺物(ガラス製品)観察表(102)
表 9	遺物(土器・陶器)観察表(3)(90)	表26 据	a立柱建物規模別一覧······(106)
表10	遺物(土器・陶器)観察表(4)(91)	表27 三	至重県内鉄製紡錘車出土遺跡一覧(110)
表11	遺物(土器・陶器)観察表(5) (92)	表28 S	B73周辺土器出土量·····(112)
表12	遺物(土器・陶器)観察表(6)(93)	科学分析	f
表13	遺物(土器・陶器)観察表(7)(94)	表1 土	- 壌サンプル一覧・・・・・・・・(114)
表14	遺物(土器・陶器)観察表(8) (95)	表 2 上	- 惣作遺跡における寄生虫卵(花粉)
表15	遺物(土器・陶器)観察表(9)(96)		分析結果(117)
表16	遺物(土器・陶器)観察表(10)(97)	表3 土	- 壌試料の残存脂肪抽出量・・・・・・・(124)
表17	遺物(土器・陶器)観察表(11)(98)	表 4 註	代料註に分布するステロールの割合(124)
	写真	図 版	
PL1		凶 版 PL10	SH54(北東から)
PL1			S H54 (北東から) S H54竈遺物出土状況(南西から)(142)
P L 1	A地区全景		
	A地区全景 D地区全景······(133)	P L 10	SH54竈遺物出土状況(南西から)(142)
	A 地区全景 D 地区全景 B 地区全景	P L 10	S H54竈遺物出土状況(南西から)(142) S H54貯蔵穴遺物出土状況 (北東から)
P L 2	A地区全景 (133) D地区全景 (134)	P L 10	S H54竈遺物出土状況(南西から)(142) S H54貯蔵穴遺物出土状況(北東から) S H69 (南西から)(143)
P L 2	A地区全景 (133) D地区全景 (134) C地区全景 (134) SH1・2 (西から)	P L 10 P L 11 P L 12	S H54竈遺物出土状況(南西から)(142) S H54貯蔵穴遺物出土状況(北東から) S H69 (南西から)
P L 2	A地区全景(133)D地区全景(134)C地区全景(134)SH1・2 (西から)(135)	P L 10 P L 11 P L 12	S H54竈遺物出土状況(南西から)(142)S H54貯蔵穴遺物出土状況(北東から)S H69 (南西から)(143)S H66・68 (北から)S H67・68 (北から)(144)
P L 2	A地区全景(133)D地区全景(134)C地区全景(134)SH1・2 (西から)(135)SH8 (東から)(135)	P L 10 P L 11 P L 12 P L 13	S H54竈遺物出土状況(南西から)(142) S H54貯蔵穴遺物出土状況(北東から) S H69 (南西から)(143) S H66・68 (北から) S H67・68 (北から)(144) S H71 (西から)
P L 2 P L 3	A地区全景(133)D地区全景(134)C地区全景(134)SH1・2 (西から)(135)SH8 (東から)(135)SH4 (南から)(136)	P L 10 P L 11 P L 12 P L 13	S H54竈遺物出土状況(南西から)(142)S H54貯蔵穴遺物出土状況(北東から)S H69 (南西から)(143)S H66・68 (北から)S H67・68 (北から)(144)S H71 (西から)S H76 (北から)(145)
P L 2 P L 3	A地区全景(133)D地区全景(134)C地区全景(134)SH1・2 (西から)(135)SH8 (東から)(135)SH4 (南から)(136)SH9 (北から)	P L 10 P L 11 P L 12 P L 13 P L 14	S H54竈遺物出土状況(南西から)(142) S H54貯蔵穴遺物出土状況(北東から) S H69 (南西から)(143) S H66・68 (北から) S H67・68 (北から)(144) S H71 (西から) S H76 (北から)(145) S H83 (東から)
P L 2 P L 3 P L 4	A地区全景(133)D地区全景(134)C地区全景(134)SH1・2 (西から)(135)SH8 (東から)(135)SH4 (南から)(136)SH9 (北から)(137)	P L 10 P L 11 P L 12 P L 13 P L 14	SH54竈遺物出土状況(南西から)(142)SH54貯蔵穴遺物出土状況(北東から)SH69(南西から)(143)SH66・68(北から)SH67・68(北から)(144)SH71(西から)SH76(北から)(145)SH83竈(西から)SH83竈(西から)(146)
P L 2 P L 3 P L 4	A地区全景(133)B地区全景(134)C地区全景(134)SH1・2 (西から)(135)SH8 (東から)(135)SH4 (南から)(136)SH4 電遺物出土状況 (東から)(136)SH9 (北から)(137)SH13 (北から)(137)	P L 10 P L 11 P L 12 P L 13 P L 14	S H54竈遺物出土状況(南西から)(142) S H54貯蔵穴遺物出土状況(北東から) S H69 (南西から)(143) S H66・68 (北から) S H67・68 (北から)(144) S H71 (西から) S H76 (北から)(145) S H83 (東から) S H83竈 (西から)(146) S B14 (北から)
P L 2 P L 3 P L 4 P L 5	A地区全景(133)B地区全景(134)C地区全景(134)SH1・2 (西から)(135)SH4 (南から)(135)SH4 (南から)(136)SH9 (北から)(137)SH13 (北から)(137)SH12 (西から)(138)	P L 10 P L 11 P L 12 P L 13 P L 14 P L 15	S H54竈遺物出土状況(南西から)(142) S H54貯蔵穴遺物出土状況(北東から) S H69 (南西から)(143) S H66・68 (北から) S H67・68 (北から)(144) S H71 (西から) S H76 (北から)(145) S H83竈 (西から)(146) S B14 (北から) S B15~18 (東から)(147)
P L 2 P L 3 P L 4 P L 5	A地区全景 D地区全景 C地区全景 C地区全景 C地区全景 C地区全景 (134) SH1・2 (西から) SH8 (東から) SH4 (南から) SH4 (竜から) SH4 (竜から) SH4 (竜から) SH9 (北から) SH13 (北から) SH12 (西から) SH12 (西から) SH12 (西から)	P L 10 P L 11 P L 12 P L 13 P L 14 P L 15	S H 54 竈遺物出土状況(南西から)(142) S H 54 貯蔵穴遺物出土状況(北東から) S H 69 (南西から)(143) S H 66・68 (北から) S H 67・68 (北から)(144) S H 71 (西から) S H 76 (北から)(145) S H 83 電(西から)(146) S B 14 (北から) S B 15~18 (東から)(147) S B 24・25 (南から) S B 41、S K 42 (北から)(148)
P L 2 P L 3 P L 4 P L 5 P L 6	A地区全景 D地区全景 C地区全景 C地区全景 C地区全景 C地区全景 C地区全景 (134) SH1・2(西から) SH8(東から) SH4(南から) SH4(南から) SH46遺物出土状況(東から)・・・ (136) SH9(北から) SH13(北から) SH12(西から) SH12電遺物出土状況(西から)・・・ (138) SH19(西から) SH12~23(南から)・・・・ (139)	P L 10 P L 11 P L 12 P L 13 P L 14 P L 15 P L 16	SH54竈遺物出土状況(南西から)(142) SH54貯蔵穴遺物出土状況(北東から) SH69(南西から)(143) SH66・68(北から) SH67・68(北から)(144) SH71(西から) SH76(北から)(145) SH83竈(西から)(146) SB14(北から) SB15~18(東から)(147) SB24・25(南から) SB41、SK42(北から)(148)
P L 2 P L 3 P L 4 P L 5 P L 6	A地区全景 D地区全景 C地区全景 C地区全景 C地区全景 C地区全景 (134) SH1・2(西から) SH8(東から) SH4(南から) SH4衛遺物出土状況(東から)・・・ (136) SH9(北から) SH13(北から) SH12(西から) SH12電遺物出土状況(西から)・・・ (137) SH12(西から) SH12電遺物出土状況(西から)・・・ (138) SH19(西から) SH21~23(南から) ・・・・ (139) SH38~40(東から)	P L 10 P L 11 P L 12 P L 13 P L 14 P L 15 P L 16	S H 54 竈遺物出土状況(南西から)(142) S H 54 貯蔵穴遺物出土状況(北東から) S H 69 (南西から)(143) S H 66・68 (北から) S H 67・68 (北から)(144) S H 71 (西から) S H 76 (北から)(145) S H 83 電(西から)(146) S B 14 (北から) S B 15~18 (東から) S B 15~18 (東から) S B 41、S K 42 (北から)(148) S H 54、S B 56・57 (南東から) S B 64 (南から)(149)

P L 19	SB61 (西から)		P L 33	出土遺物(8)(165)
	SB62・63(東から)((151)	P L 34	出土遺物(9)(166)
P L 20	SB73、SK72・74 (北から)		P L 35	出土遺物(10)(167)
	SH76、SB77・78 (北から) ((152)	P L 36	出土遺物(11)(168)
P L 21	SB81 (北から)		P L 37	出土遺物(12)(169)
	SB82 (北から)((153)	P L 38	出土遺物(13)(170)
P L 22	SB84 (北から)		P L 39	出土遺物(14)(171)
	SB85、SK86・87 (北から) ((154)	P L 40	出土遺物(15)(172)
P L 23	SF6 (東から)		P L 41	出土遺物(16)(173)
	SK31(東から)((155)	P L 42	出土遺物(17)(174)
P L 24	S K72 (西から)		P L 43	出土遺物(18)(175)
	S K80 (南から) ((156)	P L 44	出土遺物(19)(176)
P L 25	S D75 (東から)			
	縄文土器出土状況((157)	カラー!	写真
P L 26	出土遺物(1)((158)	上惣作遺	遺跡遠景(巻頭)
P L 27	出土遺物(2)((159)	上惣作遺	は跡の花粉・胞子遺体(巻頭)
P L 28	出土遺物(3)((160)		
P L 29	出土遺物(4)((161)		
P L 30	出土遺物(5)((162)		
P L 31	出土遺物(6)((163)		
P L 32	出土遺物(7)((164)		

I. 前 言

1 事業の概要

一般国道475号東海環状自動車道は、名古屋市を中心とする30~40km圏に位置する四日市市、大垣市、岐阜市、瀬戸市、豊田市などの諸都市を有機的に結ぶ延長約160kmの高規格幹線道路である。名古屋市と周辺都市の機能分担を効果的に進め、都市内外の交通混雑緩和を図り、都市全域の道路網の拡充、四日市港集積の拡大による活性化、また内陸部の適正な開発等に寄与することが期待されている。

三重県内における当自動車道は、四日市北JCTで近畿自動車道名古屋神戸線(第二名神)と分岐後、 員弁川の右岸を北上し、東員町、員弁町、大安町、 北勢町を経た後、岐阜県養老町と連絡する計画となっている。

当事業は、平成2年度に「一般国道475号東海環 状自動車道(北勢〜四日市)」として員弁郡北勢町 阿下喜〜四日市市北山町の区間、延長14.4kmが事業 化された。また、平成4年度1月21日に三重県知事 により「東海環状自動車道」の都市計画化が決定さ れた。計画区間は、四日市市伊坂町から員弁郡北勢 町阿下喜までで、計画延長は18.7kmである。

2 調査に至る経過

一般国道475号東海環状自動車道計画地内の埋蔵 文化財発掘調査については、平成2年度の事業化に 対して同年度に計画路線内の分布調査を行った。その結果をもとに、三重県埋蔵文化財センターは平成 4年度に四日市市、北勢町、藤原町、東員町、員弁 町、大安町の各教育委員会と「東海環状自動車道等 にかかる文化財保護連絡会議」を開催し、計画予定 地内の文化財保護および関連開発事業計画にかかる 文化財保護について協議を行った。平成5年度には 建設省中部地方建設局と三重県教育委員会が、埋蔵 文化財の取り扱いについて協議を行い、現状保存が 困難な遺跡については事前に発掘調査を実施し、記 録保存をはかることとなった。

事業の実施にあたって、平成6年4月1日付けで 建設省中部建設局と三重県との間で、事業地内に存 在する埋蔵文化財の適切な保護措置を講じるための 事前調査について、「協定書」を締結した。

なお、事前調査の調査主体は三重県教育委員会で、 調査担当は三重県埋蔵文化財センターである。

調査にあたっては「県教育委員会・市町村教育委員会職員人事交流実施要綱」に基づき、平成7年~9年度に東員町、平成10~12年度に北勢町の各教育委員会から一名ずつ職員の派遣を得ている。

また、現地作業は調査の円滑を期して、建設省中部建設局が社団法人中部建設協会に委託した。このため、事業の実施にあたっては、建設省中部地方建設局・三重県・中部建設協会の三者間で、「一般国道475号東海環状自動車道(北勢~四日市)埋蔵文化財発掘調査協定書」を締結し、事業を推進している。その後も、事業の進捗状況により必要に応じて三者協議を行い、工程の細部調整や計画および見直しを行っている。

3 調査の体制

上惣作遺跡の調査は、三重県教育委員会が調査主体となり、三重県埋蔵文化財センターが担当した。現地調査は平成7~9年度および11年度に、整理・報告書作成業務は平成12年度に実施した。その体制は以下の通りである。

【平成7年度】

調査第二課

主幹兼課長 伊藤克幸主査兼第一係長 清水正明技 師 竹内英昭主 事 小菅文裕

主 事 清水弘之

(東員町教育委員会から派遣)

調査補助員 日紫喜勝重(別府大学学生)

長野恵子 (奈良大学学生)

室内整理員 釜谷実加代·宮本理美·藤田有紀

【平成8年度】

調査第二課

 主幹兼課長
 山田 猛

 主査兼第一係長
 清水正明

 主事
 片岡 博

 技師
 竹内英昭

主 事 清水弘之

(東員町教育委員会から派遣)

調査補助員 長野恵子(奈良大学学生)

室内整理員 釜谷実加代·宮本理美·樋口 愛

【平成9年度】

調査第二課

 主幹兼課長
 山田 猛

 第一係長
 森川幸雄

 主 事
 片岡 博

 技 師
 杉﨑淳子

 主 事
 清水弘之

(東員町教育委員会から派遣)

室内整理員 宮本理美・樋口 愛・並河かおり

·新貝里美

【平成11年度】

調査第二課

主幹兼課長 吉水康夫主査兼第一係長 本堂弘之技 師 角正芳浩主 事 今尾宏記

(北勢町教育委員会から派遣)

室内整理員 新貝里美・山中陽子・長野恵子

【平成12年度】

調査第二課

主幹兼課長 吉水康夫
 主 幹 新田 洋
 主查兼第一係長 森川幸雄
 技 師 角正芳浩
 主 事 今尾宏記

(北勢町教育委員会から派遣)

室内整理員 新貝里美・山中陽子・長野恵子

4 調査の方法

調査は、遺跡を北からA・D・B・Cの4つの 調査区に分けてA・B地区から開始し、C地区、 D地区の順に実施した。

調査区は、路線計画地内に限定されるため幅約30 mに設定された。

調査区は、国土調査法の第VI系国土座標に合わせて座標値のX=-94,100.000 Y=+46,800.000 を基点に100mを単位とする大地区として6つに区切り、 $A\sim F$ で表示した。さらに大地区の中を4 m×4mを1単位として25分割するグリッド(地区割)を設定したものを小地区とした。各グリッドは北西隅を原点とし、調査区の西から東へは $1\sim25$ の算用数字、北から南へは $A\sim Y$ のアルファベットで表示した。

調査にあたって、表土削除は重機(バックホー) を用いて行い、包含層および各遺構の掘削は人力 をもって行った。

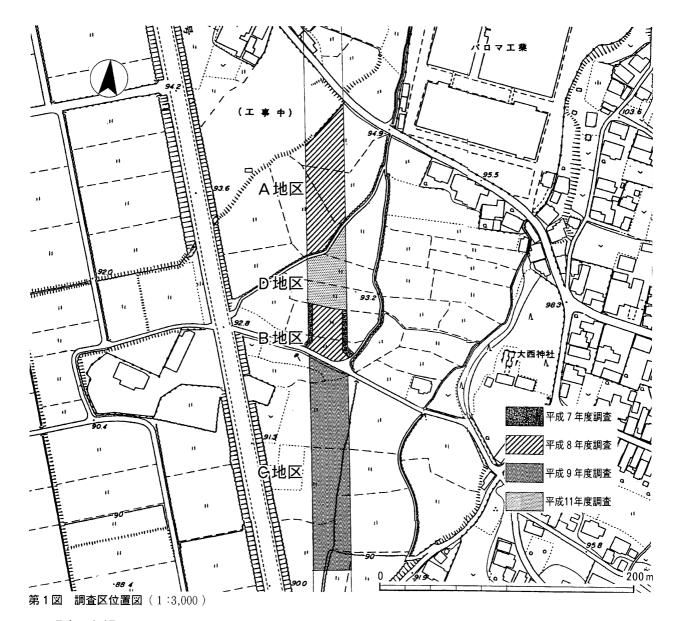
遺構番号は、ピットについては、各グリッドごとに通し番号を与えたほか、土坑や溝などの他の遺構については、各調査区ごとに通し番号を付与した。ただし、本報告にあたっては、概報などで報告された遺構番号をすべて改称し、遺跡全体を通じての連番とした。

遺構実測は、遺物出土状況図および土層図などについては調査の必要に応じて適宜1/10ないしは1/20の縮尺で実測図を作成した。調査区全体の遺構図の作成および測量は1/50と1/100の縮尺の遺構図・等高線図・平面図を作成した。

写真は、遺構写真にはモノクロネガとカラーリ バーサルフィルムを用い、 $35 \, \mathrm{mm}$ 、 ブローニー判 $(6 \times 7 \, \mathrm{cm}, 6 \times 9 \, \mathrm{cm})$ 、 $4 \times 5 \, \mathrm{cm}$ 判を使用した。 また適宜 $35 \, \mathrm{mm}$ カラーネガも併用した。遺物写真に は $6 \times 9 \, \mathrm{cm}$ のモノクロを使用した。

埋め戻しは、航空写真測量の現地校正後、重機 を用いて行った。

出土遺物は、洗浄・接合・注記などを行った後、 実測すべき遺物を選別し、実測を行った。実測された遺物は実測図との照合ができるよう遺物と図面の両方に「R」を付した登録番号を与え、さらに報告書記載遺物には報告書と同じ番号を与えた。



5 調査の経過

上惣作遺跡は、平成2年度に行われた東海環状自動車道建設予定地内埋蔵文化財分布調査で発見された遺跡である。この時の分布調査では、南北65m、東西50mの範囲にわたって土師器片、山茶椀片などの散布することが確認されている。

第1次調査は、平成7年3月に範囲確認調査に先立ち、B地区の両側部分において路線によって分断される路線外の水田に水を確保するために作られる用排水部分240㎡を対象に緊急発掘調査を行った。

調査は、用水路設置工事によって掘削される範囲に合わせ幅2mほどの狭小な調査区であったため詳細なデータは得られなかったが、複数のピットを検出し、掘立柱建物を主体とする集落の存在が想定された。遺物は飛鳥時代の須恵器や土師器を中心に出

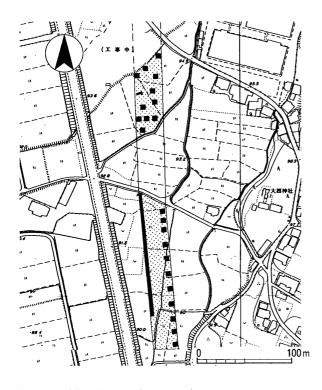
土した。

同年12月5日~12日にかけて、遺跡の北部(A地区)の3,450㎡を対象に範囲確認調査を実施した。調査は4m×4mを基本とした試掘坑を11カ所、幅2mのトレンチを2カ所設定して行い、全てのグリッドおよびトレンチから飛鳥時代の須恵器・土師器、平安時代末期から鎌倉時代にかけての山茶椀・磁器などの遺物が出土した。これらの結果から範囲確認調査を実施した全ての部分について本調査が必要であると判断された。

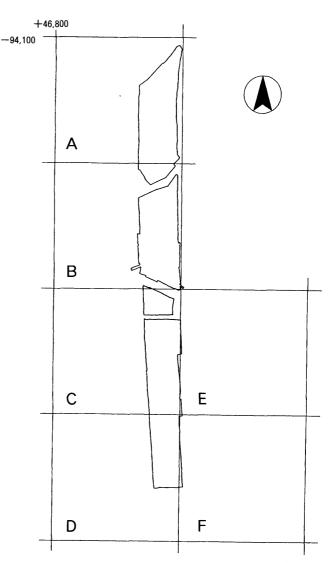
第2次調査は、平成8年度に前年度の第1次調査 と範囲確認調査の結果をうけて、遺跡最北部のA地 区(3,200㎡) および南に40mほどの未買収地(D地 区)を隔てたB地区(1,270㎡) を対象に4月17日に 開始した。調査は遺構検出面の大部分が礫層である ため遺構の検出が難航した。調査の結果、A地区では飛鳥時代の大溝や竪穴住居、掘立柱建物、須恵器・土師器・山茶椀などの遺構・遺物を確認した。B地区でも、同時代の掘立柱建物群や遺物を確認した。また、地震痕跡と思われる地面の歪みが見られたため、通産省工業技術院地質調査所の寒川旭氏らの現地視察を受けたところ、地形が褶曲してできた活断層の一種に起因する可能性があるとの指摘を受けた。現地説明会は8月3日に開催し、県内外から160名の参加を得た。8月12日にすべての調査を終了した。

B地区の調査結果を受けて、遺跡がさらに南に広がることが判明したため同年10月21日~24日にかけて遺跡南部(C地区)の範囲確認追加調査を実施した。11カ所の試掘坑と幅2mのトレンチを設定し調査した結果、南端部を除く部分で柱穴や土坑などの遺構を確認したほか、包含層から若干の遺物が出土した。これらのことから5,000㎡の範囲について本調査が必要と判断された。

第3次調査は、平成9年度に前年度の範囲確認調査の結果を受け、C地区において5,000㎡(下層600㎡を含む)を対象に実施した。調査は4月21日に開始した。遺構密度は希薄であったが確認された遺構には古墳時代前期の竪穴住居、飛鳥時代の竪穴住居



第2図 試掘坑位置図(1:4,000)

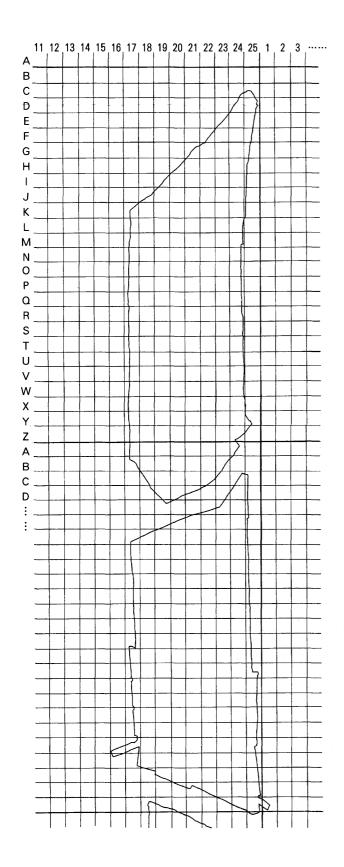


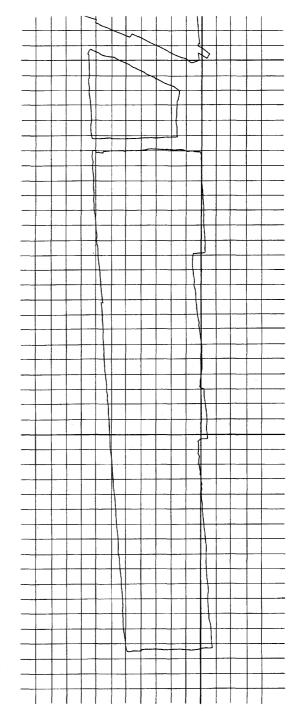
第3図 調査区大地区割図(1:3,000)

および掘立柱建物、平安時代から鎌倉時代にかけての掘立柱建物があり、古式土師器、須恵器、土師器、山茶椀などの遺物が出土した。古墳時代前期の竪穴住居は、員弁郡内においては初の調査事例として注目された。現地説明会は10月25日に開催し約100名の参加を得た。

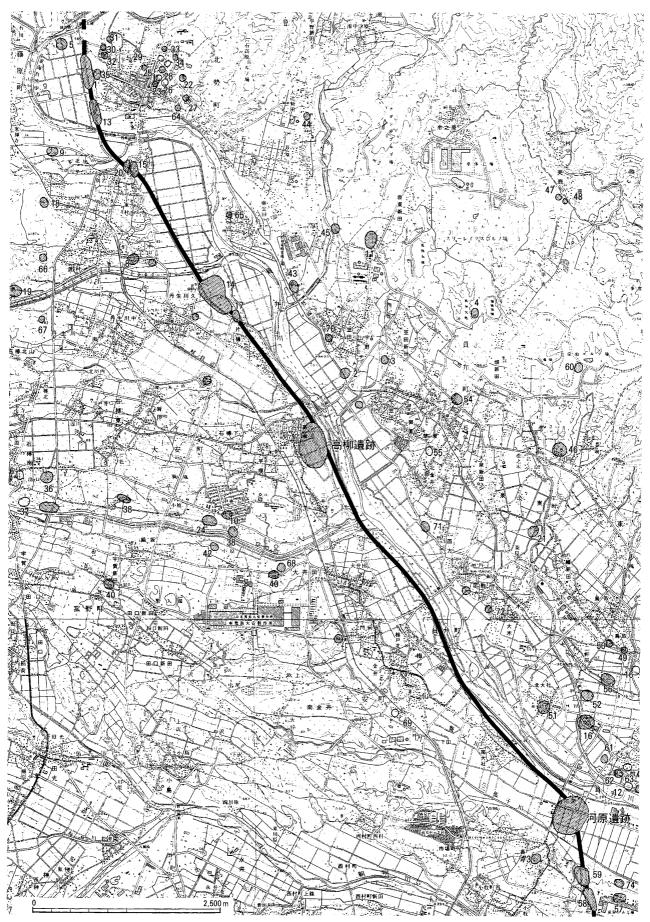
第4次調査は、平成11年度にA・B地区の間に残されたD地区において1,470㎡を対象に5月10日から開始した。調査の結果、飛鳥時代の竪穴住居や大型の掘立柱建物などの建物群、平安時代末期から鎌倉時代にかけての竪穴住居、須恵器・土師器・山茶椀・ガラス玉などの遺構・遺物を確認した。現地説明会は7月24日に開催し、70名の参加を得た。

最終的な調査面積は、11,180m2である。





第4図 調査区小地区割図(1:1,000)



第5図 周辺遺跡位置図(1:50,000)[国土地理院1:25,000 阿下喜·菰野·桑名·弥富]

Ⅱ. 位置と環境

1 遺跡の位置

遺跡は、三重県最北部の員弁郡に所在する。員弁郡は藤原・北勢・大安・員弁・東員の5町から成り、養老山地を隔てて岐阜県と、また鈴鹿山脈を隔てて滋賀県と境を成す。中央を鈴鹿山脈北端の烏帽子岳や三国岳に源を発する員弁川が流れる。員弁川とその支流は、この地域の平野の形成に貢献し、中流域に河岸段丘が下流域には小規模ながら沖積平野が発達している。

員弁川は、養老山系から流れる鎌田川と合流する 地点から押し出されるように大きく西に蛇行する。

上惣作遺跡(1)は、この蛇行する員弁川に取り 囲まれた左岸の東から西および北から南にゆるやか に傾斜する標高約90~94mの下位段丘上に立地する。 前面には、員弁川の氾濫源が広がり、背後には阿下 喜の集落が展開する一段高い段丘がひかえる。

周辺には中川原、川向等の地名が残っており、河道が現在の阿下喜の集落の存在する段丘の間近を流れていたことがうかがわれる。

2 歴史的環境

当地域の埋蔵文化財調査については、戦後早くから員弁高等学校郷土史研究部などによって踏査され 資料が蓄積されてきた。近年は、東海環状自動車道 建設に伴う埋蔵文化財発掘調査によって新たな発見 がなされている。

旧石器時代 この時期の遺跡の存在する可能性については古くから江坂輝弥氏により指摘されていた。 その後、員弁高等学校郷土史研究部や鷲野憲成氏の 分布調査により里畑遺跡 (2)、芽指遺跡 (3)、深田遺跡 (4) など旧石時代に所属すると考えられる遺跡が数箇所確認されている。表面採集された石器は地元産のチャート製のものが多いが、サヌカイトや黒曜石、下呂石など外来産のものも見られる。

発掘調査で確認された例としては北勢町瀬木の川向 遺跡(5)からナイフ型石器と思われる遺物が出土 している。[®]

縄文時代 この時代の遺跡はかつて「員弁川左岸には縄文時代の遺跡が少ない」と言われたように、員弁川右岸に多く分布する。[®]

宇賀川流域の照光寺(西南)遺跡(6)は県内で初めて早期の押型文土器が確認されたほか、繊維土器や有舌尖頭器などの石器が採集されている。また、照光寺遺跡の南東に位置する野々田遺跡(7)からも早期の楕円押型文土器、繊維土器が採集されている。前期の遺跡としては、中山遺跡(8)、奥仙遺跡(9)、照光寺(西南)遺跡、野々田遺跡、中大野遺跡(10)、北野遺跡(11)があり、北白川下層式を中心とする遺構・遺物が確認されている。なかでも北勢町中山の中山遺跡は旧中山神社跡採集の石斧や石棒をはじめとする石器の種類の多様性が注目されている。。

大安町石榑の中大野遺跡は、昭和26年に縄文時代の遺跡としては県内のとなる発掘調査が員弁高等学校郷土研究部や名古屋大学考古学研究室によって実施され、土器や石器が出土している。また、遺跡周辺で押型文土器や有舌尖頭器が採集されており、早期の遺跡の存在が推測される[®]。員弁町上笠田の北野

1	上惣作遺跡	16	山田遺跡	30	西別当遺跡	45	北野中古墳群	60	奴女里溜古窯址
2	里畑遺跡	17	大久保城跡	31	別当古墳	46	岡古墳群	61	下貝戸遺跡
3	芽指遺跡	18	垣内遺跡	32	町割古墳	47	町名古墳	62	天野A・B遺跡
4	深田遺跡		(加毛神社境内遺跡)	33	鳥坂古墳	48	平古古墳群	63	西垣内遺跡
5	川向遺跡	19	奥村遺跡	34	堂ノ上古墳	49	鳥取塚古墳群	64	上木城
6	照光寺(西南)遺跡	20	東村遺跡	35	大西神社古墳	50	築山古墳	65	麻生田城
7	野々田遺跡	21	大谷・奥田遺跡	36	南林古墳	51	猪名部神社古墳群	66	治田城
8	中山遺跡	22	見性寺遺跡	37	野々田古墳群	52	西畑古墳	67	丹生川上城
9	奥仙遺跡	23	正邸遺跡	38	小原古墳群	53	旭遺跡	68	大井田城
10	中大野遺跡	24	下小原遺跡	39	下小原古墳群	54	段遺跡	69	梅戸城
11	北野遺跡	25	見性寺下遺跡	40	宇賀新田古墳群	55	名部坂遺跡	70	上笠田城
12	村前遺跡	26	八幡山遺跡	41	大辻古墳群	56	栗ノ木遺跡	71	金井城
13	覚正垣内遺跡	27	西広遺跡	42	船臥古墳群	57	西山遺跡	72	大木城
14	宮山遺跡	28	堂ノ上遺跡	43	麻積塚古墳群	58	広山A遺跡(広山遺跡)	73	長深城
15	権現坂遺跡	29	二俣遺跡	44	楚原南古墳	59	広山B遺跡	74	中上城

表 1 周辺遺跡一覧

遺跡からは前期後半の竪穴住居が4棟検出されている。

中期の遺跡としては川向遺跡や東員町瀬古泉の村前遺跡(12)で竪穴住居が確認されている[®]。

後期では、上惣作遺跡の南に位置する覚正垣内遺跡(13)で中津式を主体とする遺物が出土している。また、川向遺跡からは同時期の竪穴住居が検出されている。

晩期としては大安町片樋の宮山遺跡(14)で平地住居跡の可能性がある柱穴群が確認されている。宮山遺跡を含め権現坂遺跡(15)、山田遺跡(16)からは深鉢を転用した晩期の合口土器棺墓が確認されている。³⁸宮山遺跡の南に隣接する大久保城跡(17)からは石棒や石剣が採集されている。

この他、北勢町垣内の垣内遺跡(加毛神社境内) (18)、同町奥村の奥村遺跡(19)で石棒・石鏃・ 石匙などの石器が採集されている。

弥生時代 弥生時代の遺跡はこの地域ではあまり知られていなかったが、北勢町東村の東村城跡 (20) の調査で前期の土器が出土したことから遠賀川文化の影響がこの地域まで及んでいたことが判明した。[®]

宮山遺跡からは、鈴鹿山系に分布するハイアロクラスタイトと呼ばれる玄武岩質の石材を用いた磨製石斧が大量に出土したが、大半が未成品であることから石斧の製作遺跡として注目される。また、中期の竪穴住居や倉庫と考えられる掘立柱建物、末期の墳墓も確認されている。員弁町東一色の大谷・奥田遺跡(21)でも中期の竪穴住居が確認されている。

後期になると、東村城跡、川向遺跡、見性寺遺跡 (22)、正邸遺跡 (23)、下小原遺跡 (24)、照光寺 (西南) 遺跡、野々田遺跡で少量の遺物が採集され ている。

古墳時代 古墳時代の集落と考えられる遺跡は北勢 町阿下喜周辺に多く分布する。正邸遺跡、見性寺下 遺跡(25)、八幡山遺跡(26)、西広遺跡(27)、堂 ノ上遺跡(28)、二俣遺跡(29)、西別当遺跡(30) などがあるが詳細は不明である。

上惣作遺跡では、平成10年度の発掘調査で員弁郡では初めて元屋敷期の竪穴住居や遺物が確認された。 この地域の古墳の分布は、北勢町阿下喜周辺・宇賀川流域・山田川流域・戸上川流の4つの地域に分 けられる。

北勢町阿下喜周辺には、別当古墳 (31)、町割古墳 (32)、鳥坂古墳 (33)、堂ノ上古墳 (34)、大西神社古墳 (35) がある。大西神社古墳は大西神社の敷地内に所在し、現在は1号墳および2号墳がかろうじて墳丘の高まりを残している。昭和4年の道路拡張工事により横穴式石室が露呈し、鉄刀や玉類、須恵器などが出土した。

宇賀川流域には最も多くの古墳が分布しており、 左岸に南林古墳群 (36)、野々田古墳群 (37)、上小 原古墳群 (38) 下小原古墳群 (39)、右岸に宇賀新 田古墳群 (40)、大辻古墳群 (41)、野添古墳群 (42) がある。宇賀新田古墳群と下小原古墳群は一部が発 掘調査され、横穴式石室を主体とする7世紀後半の 群集墳であることが判明している ®。

山田川流域には、全長43mの前方後方墳である麻 積塚1号墳を主体とする麻積塚古墳群(43)の他、 二子塚古墳、楚原南古墳(44)、北野中古墳群(45) などがある。

戸上川流域の岡古墳群(46)は、前方後円墳と推定される1号墳を含む3基の古墳が分布する。このうち3号墳は片袖式で狭長な羨同をもつ横穴式石室を埋葬施設とし、6世紀前半代の須恵器が出土している。戸上川流域にはこの他に、町名古墳(47)、平古古墳群(48)、鳥取塚古墳群(49)、築山古墳(50)、猪名部神社古墳群(51)、西畑古墳(52)などが分布し、このうち前方後円墳は猪名部神社1号墳、西畑古墳の2基が知られている。

岡古墳群と同じ丘陵麓に後期の須恵器窯である岡古窯址が存在したが、土砂採取によって消滅した。 飛鳥時代 この時代の遺跡は、この地域ではほとんど知られていない。上惣作遺跡の他、東員町中上の西山遺跡、新野遺跡で竪穴住居が確認されている程度である。

奈良・平安時代 この時代になると、沖積地の微高値に立地する川向遺跡、村前遺跡以外にも、それまで遺跡の存在があまり知られていなかった中位段丘上にも広く分布するようになり、権現坂遺跡、里畑遺跡、北野遺跡、芽指遺跡、旭遺跡(53)、段遺跡(54)、名部坂遺跡(55)、大谷・奥田遺跡、栗ノ木遺跡(56)、山田遺跡、西山遺跡(57)などが知ら

れる。

権現坂遺跡からは緑釉陶器、円面硯等の他、「桑名国依」と刻印された須恵器が出土した。「桑名国依」は『大日本古文書』、『寧楽遺文』、『平安遺文』に類似した人名が見られることから員弁群周辺に勢力を持った豪族の名である可能性が考えられる。奥田・大谷遺跡は奈良時代の竪穴住居を主体とする集落遺跡であり、川向遺跡は奈良時代の、段遺跡、『山田遺跡、村前遺跡は平安時代の掘立柱建物を主体とする集落遺跡である。

西山遺跡のA地区からは、フイゴの羽口や多数の 鉄滓が出土しており鍛冶専業遺跡の可能性も考えら れる。

東員町山田の周辺では、単弁八葉蓮華文軒丸瓦や 偏行唐草文軒平瓦が採集されており、山田廃寺(員 弁廃寺・六把野廃寺)があったと想定され、延喜式 内社、員弁十座の一つ猪名部神社との関係が注目さ れる。。また、周辺の奥田・大谷遺跡、山田遺跡、村 前遺跡などの戸上川流域の遺跡からは布目瓦や多量 の緑釉陶器、円面硯が出土しており、山田廃寺や猪 名部神社と併せて、猪名部氏との関わりが考えられる。。

また、戸上川の上流には奈良時代の須恵器窯である奴女溜古窯址(60)があり、採集資料が大安町郷 土資料館に所蔵されている。

鎌倉時代の『神鳳抄』・『外宮神領目録』による と、平安時代末には員弁川左岸の中位段丘上に、御 厨・御園が成立したことが知られる。

中世 集落遺跡としては、東員町山田・穴太地域の 下貝戸遺跡 (61)、天野A・B遺跡 (62)、西街途遺跡 (63) などが知られているが、詳細は不明である。

北勢地域には、北勢四十八家といわれる国人領主が割拠し、各地に多くの城館が築かれた。 員弁郡内の中世城館としては、藤原町の山口城、白瀬城、野尻城、東禅寺城、北勢町の田辺城、上木城 (64)、麻生田城 (65)、治田城 (66)、東村城、大安町の丹生川上城 (67)、大久保城、大井田城 (68)、梅戸城 (69)、員弁町の上笠田城 (70)、下笠田城、金井城 (71) 御園城、大泉城、東員町の大木城 (72)、長深城 (73)、中上城 (74)、山田城などが知られている。昭和48年大安町石槫下に所在する中世墓群の発掘

調査が行われ、壇上に整形された斜面から常滑甕の 骨壺が出土している。また同丘陵の斜面裾で火葬址 も確認されている。

(註)

- ①江坂輝弥「縄文式文化以前の遺跡」『猪名部』第8号 1954
- ②鷲野憲成「三重県員弁郡に於ける考古学的新知見」「猪名部」第23号 1981
- ③松本覚他『川向遺跡発掘調査報告』北勢町教育委員会 1993
- ④江上辰男「山郷村大字麻生田の遺跡及遺物」「猪名部」第6号 1952
- ⑤平岡 容「照光寺遺跡の考察」『猪名部』第4号 1951
 - 篠木二郎「員弁郡石榑村照光寺西南遺跡出土遺物」「猪名部」第9号 1955
- ⑥並河 豊「野々田遺跡と遺物について(上)・(下)」「猪名部」 第4・5号1951
- ⑦並河 豊「治田村中山遺跡」『猪名部』第2号 1950
 - 同 「続・治田村中山遺跡| 『猪名部』第3号 1950
- 川瀬 聡「北勢町中山遺跡とその遺物」『研究紀要』第8号 三重県埋蔵文化 財センター 1999
- ⑧江上辰男「石榑村中大野発見の磨製石斧」「猪名部」第6号1952 並河 豊「三重県員弁郡石榑村中大野遺跡発掘調査概要」「猪名部」第8号 1954
- ⑨鷲野憲成他『北野遺跡発掘調査報告書』員弁町教育委員会 1981
- ⑩ 「村前遺跡現地説明会」東員町教育委員会 1992
- ⑪清水弘之他 「覚正垣内遺跡」『一般国道475号東海環状自動車道埋蔵文化財発掘調査概報』Ⅱ・Ⅲ・V・Ⅵ三重県埋蔵文化財センター 1996・1997・1999・2000
- ②竹内英昭『一般国道475号東海環状自動車道宮山遺跡埋蔵文化財発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター 1999
- ・砂清水弘之他「権現坂遺跡」「一般国道475 号東海環状自動車道埋蔵文化財発 掘調査概報」 Ⅰ・Ⅲ 三重県埋蔵文化財センター 1995 ・1997
- 山田 猛『山田遺跡発掘調査報告ー縄文時代編ー』東員町教育委員会 1991
- ⑭岩野見司『考古学上から見た北伊勢』 三岐鉄道株式会社 1956
- ⑤鈴木敏雄「治田の古代遺物と加毛神社」『猪名部』第11号 1965 清水弘之他『一般国道475号東海環状自動車道東村城発掘調査報告』三重県 埋蔵文化財センター 2000
- ⑩杉﨑淳子他「上惣作遺跡」『一般国道475号東海環状自動車道埋蔵文化財発掘 調査概報』Ⅳ三重県埋蔵文化財センター 1998
- ⑪田中欣治「阿下喜町字町割りの古墳発掘調査報告」「猪名部」第2号 1950
- (18鈴木敏雄「員辨郡阿下喜町考古誌考」 1937
- ⑲「南林第3号古墳調査概報」「猪名部」第9号 1955
- ⑩「伊勢国石榑村野々田第3号古墳調査概報」「猪名部」第13号 196
- ②松本 覚他『下小原古墳群発掘調査報告』大安町教育委員会 1993
- 字質新田古墳群発掘調査見学会資料『大安町の古墳を掘る』三重大学人文学 部考古学研究室・大安町教育委員会 1999
- ②三重大学「三重県員弁町岡古墳群調査報告」「古代学研究」63号 1972
- ②小玉道明『西山遺跡·新野遺跡』東員町教育委員会 1983
- 邳蔭山誠一『段遺跡発掘調査報告』員弁町教育委員会 1994
- ⑤鈴木敏雄『三重懸古瓦圖録』1933

『三重県の古瓦』三重県の古瓦刊行会 1996

- ⑩鈴木敏雄『考古学よりみたる稲部の猪名部神社」『猪名部』第9号 1955
- ②田中欣治他「北勢町田辺城趾隣接地遺跡調査報告書」北勢町教育委員会 1980
- ⑱杉谷正樹他『丹生川上城発掘調査報告』三重県教育委員会 1985
- ❷松本 覚他「山田城発掘調査報告」東員町教育委員会 1984
- ⑩ 「図録三重の考古遺物」三重の考古遺物編集委員会 1981

Ⅲ. 基本層序

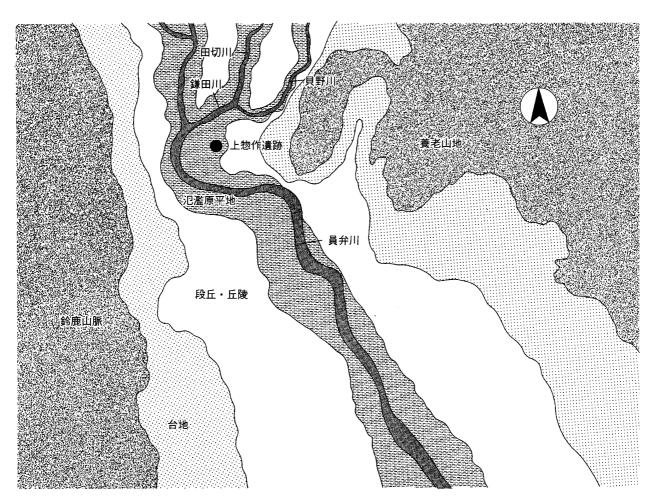
上惣作遺跡は、員弁川の形成した下位段丘上に位置しており、北から南に向かって緩やかに傾斜する。標高は北端で約94.8m、南端で91.0m、比高は約3.8 mである。現状は階段状の水田面が広がる。

調査区は幅約30m、長さが南北約360mに及ぶ細長いものである。

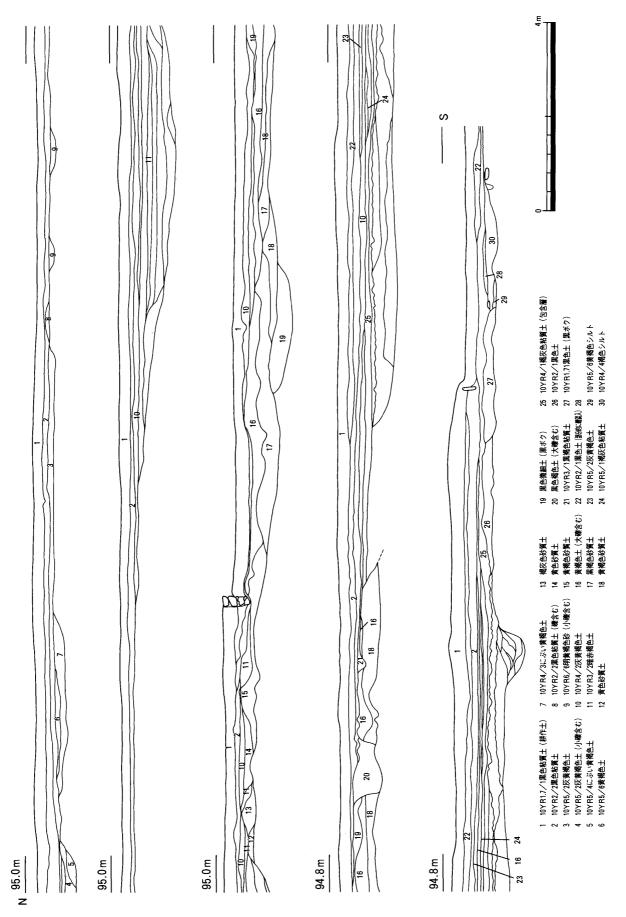
基本層序は、上層から耕作土、旧耕作土、暗褐色 粘質土(遺物包含層)、黄褐色砂質土(遺構検出面) となる。

土層断面の観察から、現在の耕作面の下に旧耕作 土面が2~4面存在することが確認された。このこ とから水田面の形成が繰返し行われたことがわかる。 旧耕作面は調査区の南へ行くほど多くなる。 地形に 沿って土砂が流入し、その結果、自然堆積と水田の 造営が繰返し行われたものと考えられる。 旧耕作面の下には、やや粘性のある暗褐色砂質土面がある。中世と飛鳥時代の遺物を包含しており、この暗褐色砂質土層が遺物包含層と認識される。 C地区では、暗褐色砂質土層の下に黒色粘質シルト層が堆積する場所もあり、古式土師器が包含される。 黒色粘質シルト層が堆積する場所は部分的なもので、他の場所では、本来は存在していたが後世の耕作活動によって削平された可能性も考えられる。

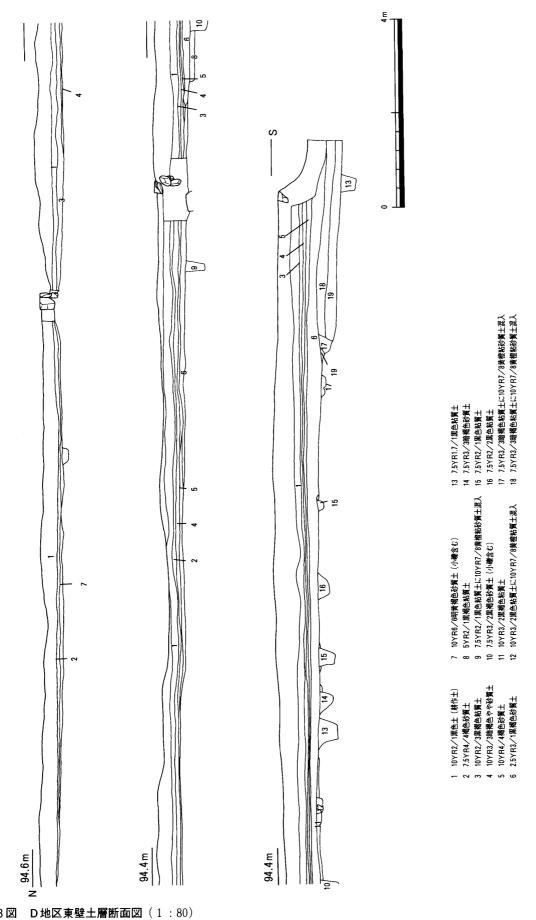
遺構の検出は、暗褐色砂質土層の下の黄褐色砂質 土層の上面で行った。黄褐色砂礫層は人頭大の砂岩 を多く含んでおり、遺跡の立地する場所がかつては 員弁川の氾濫源であったことをうかがわせる。また、 遺構検出面も現在の地形同様に南方向に向かって緩 やかな傾斜を示す。



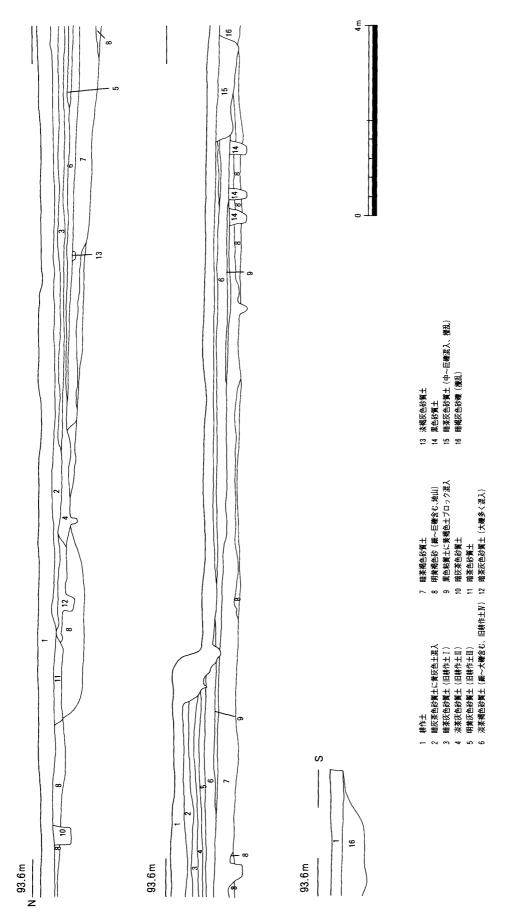
第6図 周辺地形模式図



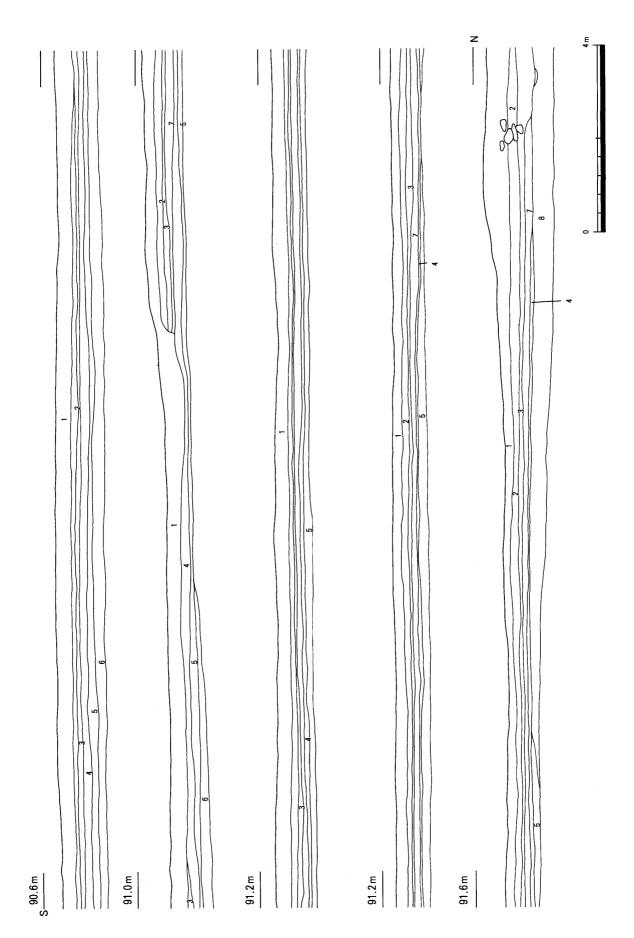
第7図 A地区東壁土層断面図(1:80)



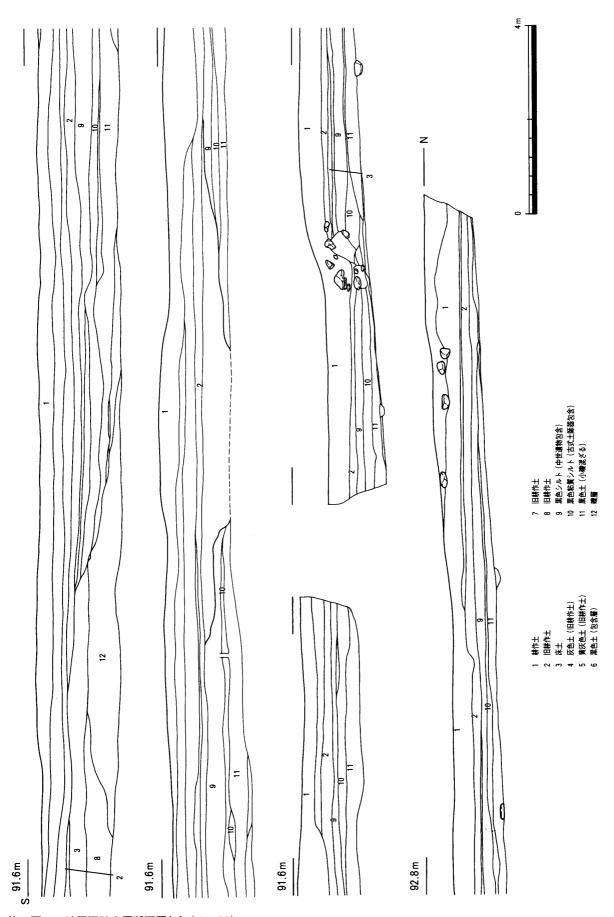
第8図



第9図 B地区東壁土層断面図(1:80)



第10図 C地区西壁土層断面図(1)(1:80)



第11図 C地区西壁土層断面図(2)(1:80)

№. 遺 構

遺構は、古墳時代前期、飛鳥・奈良時代、平安・ 鎌倉時代の遺構を確認した。また、遺物の中には、 縄文土器も含まれるが、縄文時代に遡る遺構は今回 の調査では確認されなかった。

1 古墳時代

古墳時代初期の竪穴住居を確認した。当該時期の 遺構は員弁郡内ではこれまで確認されたことがなく、 今回が初の事例となる。

(1) 竪穴住居

SH76(第12図) C地区のほぼ中央で検出した。東西約6.2m×南北約6.4m、平面プランは住居内側に比べ、周溝外側がやや丸みを帯びる隅丸正方形である。検出面からの深さは平均で約30cmを測り、南壁の中央部分を除く全ての辺で周溝を確認した。周溝は床面から5~10cmの深さで巡る。主柱穴は住居隅に向かって、放射状に各4基ずつ計8基確認された。また、床面で一回り内側に段差が認められ、これに沿って周溝の痕跡と思われるピット状の窪みが存在することから、2棟の竪穴住居が重複していると判断される。内側の住居は東西約5.0m×南北約5.2mの規模で、建替えに伴い床面積を拡張させたと考えられる。

主柱穴は円形で径25~50cmとばらつきが見られ、 床面からの深さは70~75cmと深い。また、北東隅で 貯蔵穴と考えられる小土坑も2基確認した。

北側の主柱穴の間で焼土と被熱した石を検出した。 焼土は2箇所で確認され、北側のものは厚さ10cmほ どあり、炉跡であると判断される。

出土遺物は、古式土師器の高杯(1)・鉢(2・3)・瓢壷(4)・直口壷(5)・S字状口縁台付甕(6・7)がある。

炉跡と考えられる焼土と被熱した石を北側の主柱 穴の間で確認した。地床炉と考えられるがいずれの 住居に伴うものかは断定しがたい。

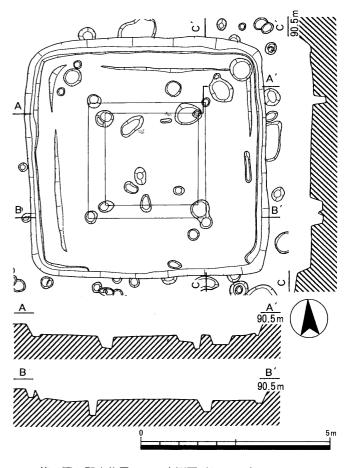
(2)溝

SD75 (第13図) C地区の北寄りの位置に部分的 に広がる黒色土層上面で検出した、S字状に緩やか に蛇行しながら調査区を横断する東西溝である。 S D75が検出された黒色土層は古式土師器を包含しており、SD75の周辺だけで確認されたもので、他の場所では確認されていない。

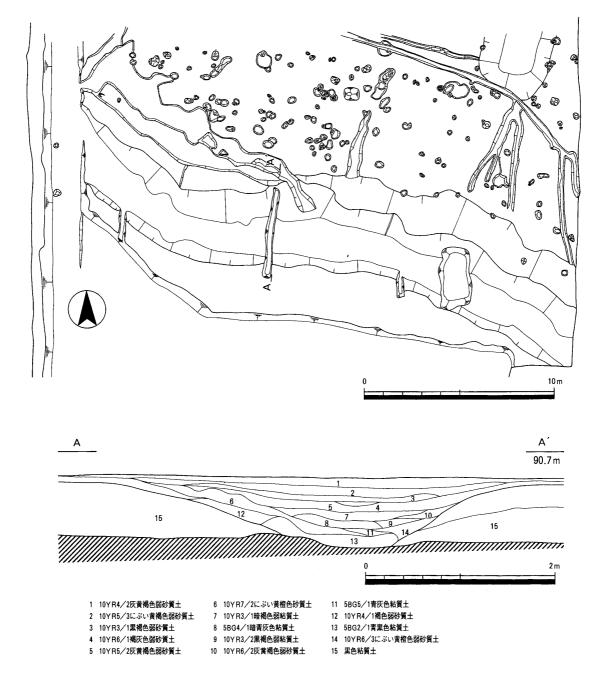
溝幅約3.2~5.0m、検出面からの深さは約0.7mを 測る。溝底は比較的平坦である。上層は褐色系砂質 土、下層は黒色系粘質土を埋土とし、土層の観察か ら、北側から徐々に埋没していった様子がうかがわ れる。

時期は明確にし難いが、須恵器や山茶椀など後世 の遺物が見られないことから古墳時代の遺構と判断 した。

出土遺物は、古式土師器高杯(8・9)・S字状口 縁台付甕(10・11)・壷(12~15)があるが、いず れも下層の黒色土層からの混入と考えられる。



第12図 竪穴住居SH76実測図(1:100)



第13図 溝SD75実測図(1:200)・土層断面図(1:40)

2 飛鳥・奈良時代

飛鳥・奈良時代の遺構は、竪穴住居・竪穴状遺構 28棟、掘立柱建物39棟、土坑1基、溝3条がある。

(1) 竪穴住居·竪穴状遺構

この時期の竪穴住居には、平面形が正方形のものと長方形のものとがある。また、D地区では同一場所での建替えと考えられる重複する住居を複数棟検出した。いずれも規模の小さい住居が新しく、建替えに伴い規模を縮小したと考えられる。

SH1 (第14図) A地区の北端の位置で検出した

竪穴住居である。後述する平安・鎌倉時代の竪穴状遺構SH2と重複する。SH1の西側部分は調査区外へ延びるため全体は確認されなかったが、推定で東西約6.6m×南北約6.8mの平面長方形のプランもつと考えられる。検出面からの深さは、2cm前後と浅い。棟方向は南北軸でN4°Eをとる。

竈の痕跡と考えられる焼土の広がりを北壁で確認 した。竈は、袖に相当する部分が残存し、焼土の混 じる褐色土で構成される。竈中央部から、須恵器杯 蓋(20)、土師器甕(30・33)などが出土した。 主柱穴と考えられる径約25~30cm、床面からの深さ15cm前後の小柱穴を2基確認した。主柱穴間の距離は約2.45mである。貯蔵穴、周溝は確認されていない。

竈以外からは、須恵器杯身(24~26)・杯蓋(21~23)・高杯(27)・細頸壷(28)・甕(29)、土師器甕(31・32・34)が出土している。土師器甕には平底(34)のものも見られる。

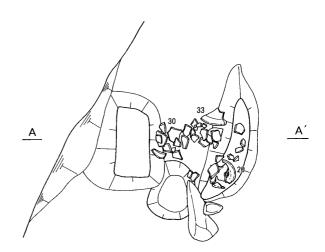
SH3 (第16図) 住居の北西側部分は調査区外へ 延びるため全体は確認されていない。確認された南 東辺で約4.5mを測り、方位は、N48°Eをとる。検 出面からの深さは7cm前後と浅い。

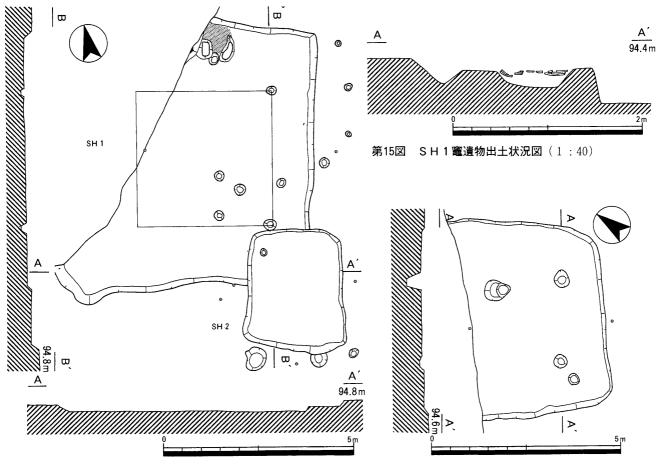
主柱穴と考えられる柱穴を2基検出した。平面円形で径40cm前後、床面からの深さは北側の柱穴で約40cm、南側の柱穴で約15cmを測る。主柱穴間の距離は、約2.15mである。竈痕跡、貯蔵穴、周溝は確認されなかった。

出土遺物は、確認されなかった。

SH4 (第17図) A地区のSD5の北側で検出した。平面形は台形に近く、東西約5.3m×南北は西辺が約4.7m、東辺が約6.3mを測る。棟方向は、長軸方向でN13°Eをとる。検出面からの深さは15cm前後である。

竈痕跡は、東壁のほぼ中央部分で検出した。竈は 焼土を含む褐色土で作られ、両袖間の距離は約1.0 m である。竈のほぼ中央部分から底部を欠いた土師器





第14図 竪穴住居SH1実測図(1:100)

第16図 竪穴住居SH3実測図(1:100)

甕(50)が口縁を下にした状態で出土した他、竈周辺からは、2個体の長胴甕(53·54)が出土している。

主柱穴は、床面で径20~50cmのピットを複数検出 したが、SH4に伴う柱穴と判断するには至らなかった。貯蔵穴、周溝は確認されなかった。

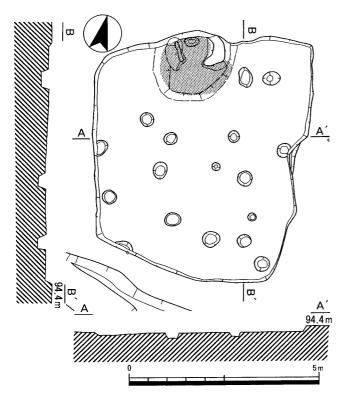
出土遺物は、竈周辺から出土した 3 個体の土師器 甕以外に、須恵器杯蓋 (35~38)・杯身 (39·40)・ 高杯 (41)・甕 (42)、土師器甕 (42~49、51~54) がある。

SH8 (第19図) A地区のほぼ中央、西壁際の位置で検出した竪穴住居である。平面プランは東西約3.0m×南北約3.3mの長方形をなす。検出面からの深さは3~10cmで南西隅が浅くなる。

住居の四隅に近い位置で、主柱穴と考えられる柱穴を4基検出した。平面円形で径約25cm、床面からの深さは15~20cmである。主柱穴間の距離は東西約2.55m、南北約2.15mを測る。

東壁中央やや北寄りで検出した土坑が、貯蔵穴と 考えられる。貯蔵穴は平面長方形で、長軸約0.8m× 短軸約0.7m、床面からの深さは約15cmである。

竈痕跡、周溝は確認されなかった。

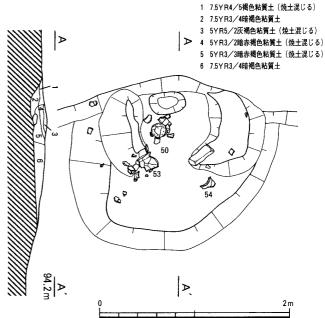


第17図 竪穴住居SH4実測図(1:100)

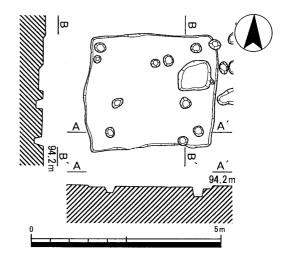
出土遺物は、須恵器、土師器の小片が見られる程 度である。

SH9(第20図) SD10の北側で検出した。東西約4.0m×南北約7.2m、東壁が弧状になる隅丸長方形の平面プランをもつ。検出面からの深さは8cm前後を測る。棟方向は長軸でN3°Wである。住居床面の北側は礫が散在するのに対して、南側では礫が見られないなど、2棟が重複する可能性も考えられるが、土層の観察からは確認されなかった。

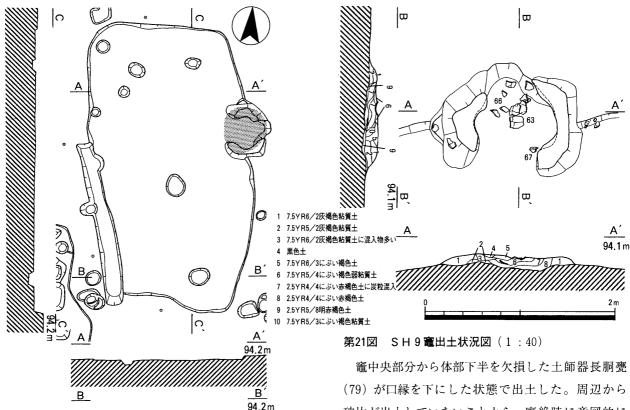
東壁の北寄りに約1.2m×約1.5mの規模の竈痕跡を検出した。竈は主に灰褐色粘質土で作られ、焼土が周囲に広がる。周辺から土師器甕が3個体(63・66・67)出土した。



第18図 SH4 竈遺物出土状況図(1:40)



第19図 竪穴住居SH8実測図(1:100)



第20図 竪穴住居SH9実測図(1:100)

主柱穴と考えられる柱穴は2基確認した。主柱穴 間の距離は約5.7m、柱穴の規模は径約25~40cm、床 面からの深さは15cm前後である。

貯蔵穴、周溝は確認されなかった。

竈周辺以外からの出土遺物は、須恵器高杯(61)・ 平瓶 (60)・壷の脚台部 (62)、土師器甕 (63) が ある。

SH12(第22図) D地区の北端で検出した大型の 竪穴住居である。平面形は一辺約6.8mの正方形で、 南隅がやや丸みを帯びる。検出面からの深さは20~ 25cmと残存状況は比較的良好である。棟方向は南北 軸でN35°Wをとる。

北壁中央部分で竈痕跡と考えられる焼土の広がり を検出した。竈本体は焼土を含む黄褐色粘質土で作 られる。両袖に相当する位置に補強材に用いられた と考えられる自然石が、右に2個、左に1個わずか に内傾して立った状態で出土した。石は住居床面を わずかに掘り下げ、そこに基部を差し込んで据えら れる。上部と内側は平坦面をそろえる。

(79) が口縁を下にした状態で出土した。周辺から 破片が出土していないことから、廃絶時に意図的に 打ち欠いて据え置かれたと考えられる。

両袖間の距離は推定で約1.2mである。

主柱穴は4基確認された。柱穴の規模は径0.25~ 0.5mの円形で、床面からの深さは7~12cmである。 主柱穴間の距離は約2.9m等間である。

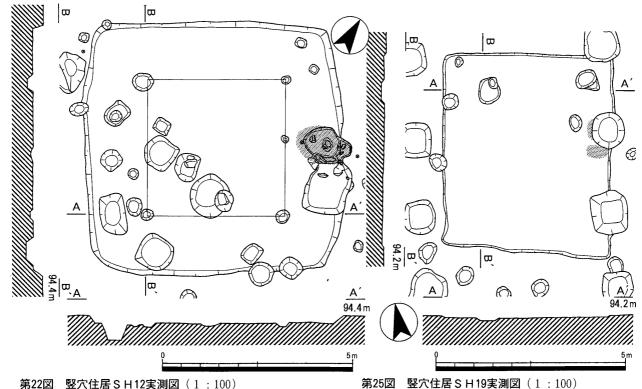
竈の対面、住居の南西隅近くで貯蔵穴を検出した。 長軸約1.2m×短軸約0.6mの平面隅丸方形をなし、 床面からの深さは約50cmを測る。底面から土師器甕 (78) が出土した。

出土遺物は、須恵器杯身(71)・杯蓋(68~70)・ 高杯(74) · 璲 (72·73)、土師器甕 (75~77) · 把 手(80)がある。

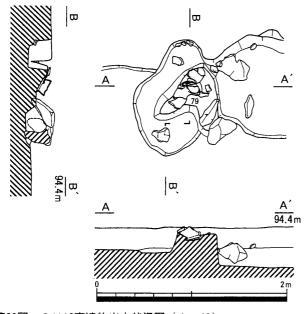
SH13(第26図) SH12の西側の位置で検出した。 平面形は東西約6.0m×南北約6.2mのほぼ正方形に 近い平面プランをもつ。棟方向は長軸でE16°Sを とる。検出面からの深さは3~10cmで住居中央部分 に比べ、壁際が浅くなる。

主柱穴は4基検出した。平面円形で径0.4~0.5 m、 床面からの深さは10~20cmである。西側の2基の柱 穴は細長く、廃絶時に柱が抜き取られた可能性も考 えられる。

出土遺物には、須恵器高杯 (81)、土師器長胴甕 (82) がある。



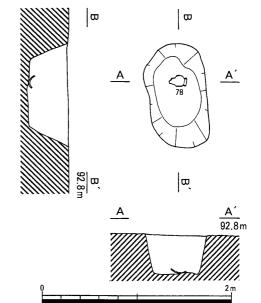
第22図 竪穴住居SH12実測図(1:100)



第23図 SH12竈遺物出土状況図(1:40)

SH19(第25図) SH12の南側の位置で検出した。 東西約4.5m×南北約5.2mの長方形の平面プランを もつ。検出面からの深さは約5cmと浅い。棟方向は 南北方向でN13°Eをとる。

竈痕跡と考えられる焼土の広がりを東壁のほぼ中 央で確認した。竈の右袖に相当する部分は掘立柱建 物SB14の柱穴によって破壊されており、SB14に 先行することがわかる。



第24図 SH12貯蔵穴遺物出土状況図(1:40)

床面にピットを検出したがSH19の主柱穴と判断 するには至らない。また、貯蔵穴、周溝も確認され なかった。

出土した遺物には、須恵器横瓶 (83)、土師器甕 (84) などがある。

S H21·22 (第27図) D地区のほぼ中央東寄りの 位置で重複する2棟の竪穴住居である。 西壁のライ ンを共有してSH22がSH21に取り込まれるように 重複する。また、後述する平安・鎌倉時代の竪穴状 遺構SH23とも重複する。新旧関係は古い方からS H21→SH22→SH23となる。

SH21の平面形は、東西約5.2m×南北約4.5mの 東西に長い長方形プランをもつ。検出面からの深さ は約5cmと浅い。棟方向は、南北軸でN2°Wをとる。

東壁中央部分の床面が被熱して赤褐色化しており、 竈の痕跡と考えられる。

主柱穴、貯蔵穴、壁周溝を確認することはできなかった。また、出土遺物も確認されなかった。

SH22は、東西約4.5m×南北約3.5mの東西に長い長方形プランをもつ。検出面からの深さは10~15 cmを測る。棟方向は南北軸でN2°Wをとる。竈痕跡、主柱穴、貯蔵穴、周溝は確認されていない。

須恵器杯身 (86)・杯蓋 (85)、土師器甕 (87) が出土している。

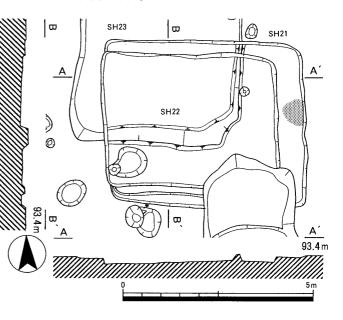
SH26(第28図) D地区の中央東端で検出した。 住居の東側部分は調査区外へ延びるため、全体を確認することはできなかった。検出面からの深さは約5cmを測る。検出された辺で約4.2m、軸方向はN13° Wをとる。

床面で複数のピットを検出したが、SH26の主柱 穴と断定するには至らない。 調査区の東壁際で検出した長軸約0.8m以上×短軸約0.7m、床面からの深さ約35cmを測る平面隅丸長方形をなす土坑は、SH26の貯蔵穴である可能性が考えられる。

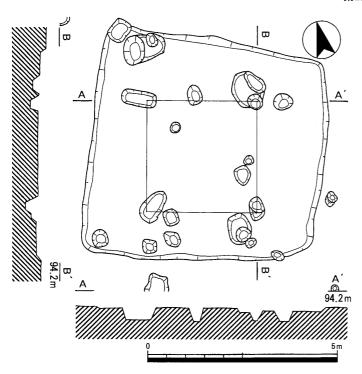
竈痕跡、周溝は確認されなかった。

掘立柱建物SB25の柱穴はSH26の埋土上で検出 しており、前後関係はSH26が古いと判断される。

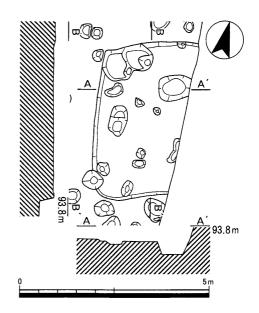
出土遺物は、須恵器、土師器の小片がわずかに見 られる程度である。



第27図 竪穴住居 S H 21 · 22実測図(1:100)



第26図 竪穴住居SH13実測図(1:100)



第28図 竪穴住居SH26実測図(1:100)

SH36(第29図) D地区の中央西端で検出した。 平面プランは東西約5.3m×南北約5.8mの長方形を なす。検出面からの深さは、15~20cmを測る。棟方 向は、南北軸でN41°Eをとる。

北東壁の中央南寄りに竈の痕跡と考えられる焼土 の広がりを確認した。焼土の広がる範囲は住居外へ も及び、土師器長胴甕(94・95)が出土した。

床面で複数のピットを検出したが、SH26の主柱 穴と判断されるには至らない。また、貯蔵穴、周溝 も検出されなかった。住居西側にある土坑は、SH 36の埋土上から掘削されており、SH36に伴う貯蔵 穴ではない。

重複する掘立柱建物 S B 29、 S B 33、 S B 34、 S B 35との新旧関係は、 S H 36が掘立柱建物より古い。 出土遺物には、竈周辺から出土した 2 個体の土師器長胴甕のほか、高台の付く須恵器杯身 (88~90)・高杯 (91)・壷 (92)・鉢 (93) などがある。

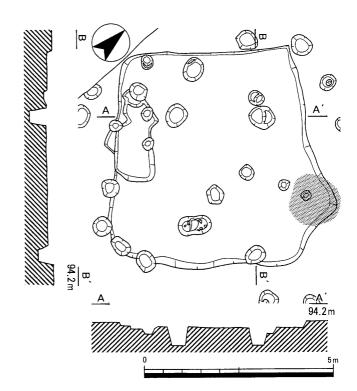
SH38は、東西約5.1m×南北約4.9mのほぼ正方形の平面プランをもつ。検出面からの深さは約5cmと浅い。

主柱穴は、平面円形で径約0.5m、床面からの深さは約45cmの柱穴を2基検出した。検出されなかった北側の2基はSH39によって破壊されたと考えられる。主柱穴間の距離は約2.4mを測る。竈痕跡、周溝は確認されていない。

出土遺物には、須恵器片などがある。

SH39は、東西約6.5m×南北約4.9mの東西に長い長方形をなす平面プランをもつ。検出面からの深さは $10\sim20$ cmで東側が浅くなる。棟方向は南北軸でN39°Eである。

北東側の壁の中央西寄りで竈痕跡を検出した。残存する袖は黄褐色粘質土で作られ、焼土が周囲に広がる。これより東に約1.5m隔てた位置にも焼土の広がりを検出した。また、北西壁の住居外にあるピットからも焼土が検出されている。土層の観察から住居の建替えは認められないため、竈の作り替えがあったと考えられる。



第29図 竪穴住居SH36実測図(1:100)

周溝は、全周はしないが幅約35cm、深さ約5cmの溝を4辺で検出した。竈の下にも周溝とつながる溝が存在することから竈は周溝を掘削した後に付設されたことがわかる。

床面で検出された複数のピットは、SH38の主柱 穴と断定するには至らない。また、貯蔵穴は確認さ れていない。

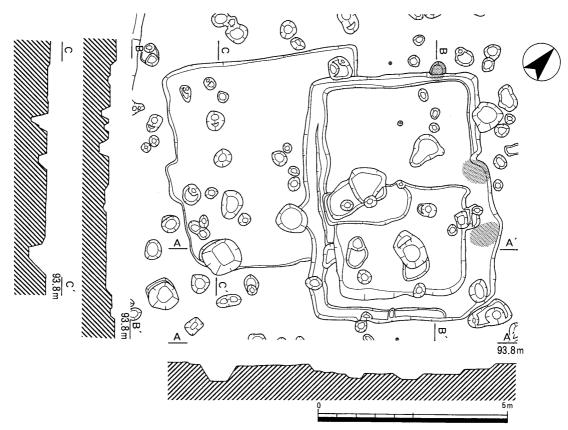
SH40は、SH38内で検出した東西約2.9m×南北約3.3mの竪穴状遺構である。検出面からの深さは約30cmを測る。棟方向は南北軸でN39° Eをとる。竈痕跡等の施設は確認されなかった。

SH43・44 (第31図) D地区の南西隅で検出した 重複する2棟の竪穴住居である。SH43の西側部分 は調査区外へ延びるため全体は確認できなかった。

新旧関係は、SH43→SH44である。

SH43は、北東壁のラインが明確でないが、東西約5.8m×南北約4.2mの長方形プランをもつと推定される。検出面からの深さは約4cmと浅い。竈痕跡、貯蔵穴、周溝は確認されなかった。

出土遺物は、須恵器、土師器の小片がわずかに見 られる程度である。



第30図 竪穴住居SH38·39、竪穴状遺構SH40実測図(1:100)

S H44は、東西約5.3m×南北約5.6mのほぼ正方形に近いプランをもつ。検出面からの深さは $10\sim25$ cmで南西隅が浅くなる。棟方向は、南北軸でN34° Wをとる。

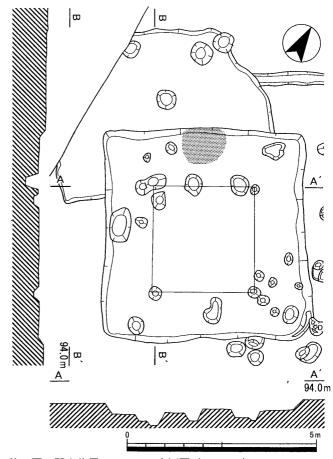
北西壁の中央でわずかな焼土を確認しており竈が あったと考えられる。

主柱穴は4基確認された。平面円形で径約0.3m、 床面からの深さは約25cm、主柱間の距離は約1.8mを 測る。貯蔵穴、周溝は確認されていない。

出土遺物は、須恵器杯身(103)・杯蓋(102)・ 広口壷(104)、土師器甕(105)・把手付甕(106) がある。

SH45・46(第32図) B地区とD地区の境で検出した重複する 2 棟の竪穴住居である。住居の東側部分は調査区外に延びるため全体は確認できなかった。南壁のラインを共有し、SH46はSH45に取り込まれるように重複する。新旧関係は、SH45→SH46である。

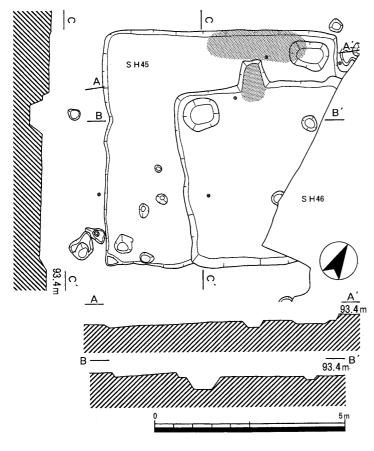
SH45の平面プランは、一辺約6.2mの正方形に近い形になると推定され、SH12に次ぐ規模をもつ。 検出面からの深さは10cmを測る。棟方向は、南北軸



第31図 竪穴住居SH43·44実測図(1:100)

でN30°Wをとる。

北壁中央に竈の痕跡と考えられる焼土を検出した。 焼土は広範囲にひろがり、焼土とともに須恵器杯身 (113)、土師器杯 (114)・鉢 (115)・甕 (117・118)・ 長胴甕 (119~121)・甑 (122)・把手付甕 (123)が



第32図 竪穴住居 S H 45 · 46実測図 (1:100)

重なった状態で出土した。

貯蔵穴は、竈の右脇で検出した。平面長方形で、 長辺約1.2m×短辺約0.8m、床面からの深さは約15 cmを測る。貯蔵穴内からは器種不明土師器(116) や竈周辺から流入した土師器片が出土した。

床面で検出したピットは、SH45の主柱穴と判断 するに至らない。周溝は、確認されなかった。

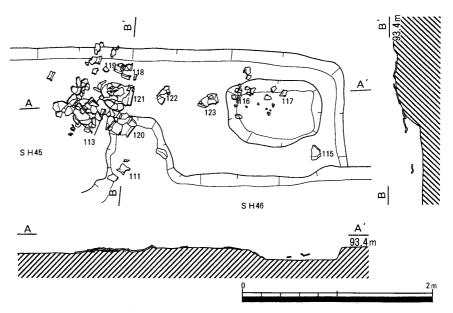
竈周辺以外からの遺物の出土は確認されなかった。 SH46は、東西4.5m以上、南北約4.7mの規模を もつ。棟方向は、南北軸でN30°W前後をとる。検 出面からの深さは約25㎝を測る。

竈は、北壁中央を奥行き約0.8m、幅約0.7mの規模で逆「U」字型に掘り込んで作られる。火床面がわずかに赤色化するが、焼土の広がりはわずかしか確認されていない。竈内からは、土師器甕(111)が出土している。

貯蔵穴は竈の左脇で検出した。平面楕円形で、長辺約1.0m×短辺約0.8m、床面からの深さは約30cmを測る。

竈以外からの出土遺物は、須恵器杯身 (107・108)、 土師器甕 (109・110) などがあるが、SH46からの 混入品である可能性も考えられる。

SH54(第34図) B地区の中央西寄りの位置で検出した。平面形は一辺約6.0mの正方形プランをもつ。 検出面からの深さは約10cm、棟方向は南北軸で N44°Eをとる。



第33図 SH45·46遺物出土状況図(1:40)

北東壁のほぼ中央に住居外へ延びる竈の痕跡を確認した。周囲には焼土が広がる。両袖間の距離は約0.3m、奥行きは約0.6mを測る。左袖に相当する位置で検出された川原石は、補強材に用いられたと考えられる。竈中央部分からは、土師器甕(131)が出土した。

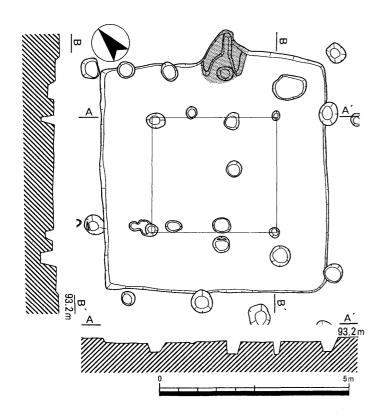
竈の右脇で検出した長軸約0.45m×短軸約0.35m、 床面からの深さ約20cmの貯蔵穴からは、土師器甕 (132) が出土した。

主柱穴は4基確認された。平面円形で径0.2m~0.4m、床面からの深さは20~30cmである。 主柱穴間の距離は東西約3.2m×南北約3.0mを測る。

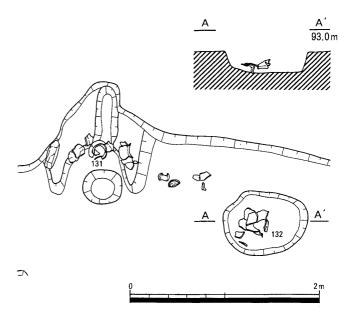
重複する掘立柱建物 S B 53、 S B 55より古い。竈と貯蔵穴以外からの出土遺物は、須恵器杯蓋(124~127)・杯蓋(128~130)がある。

SH66・67・68(第36図) B地区の南端で検出した重複する3棟の竪穴住居である。新旧関係はSH67がSH66・68より新しい。SH66とSH68との前後関係は直接の重複がないため判断しがたいが、出土遺物からはSH66が若干古いと思われる。、

SH66は南壁が不明瞭であるが、確認された辺で約5.3mを測る。検出面からの深さは約5cm、棟方向



第34図 竪穴住居SH54実測図(1:100)



第35図 SH54遺物出土状況図(1:40)

は東西軸でN21°Wをとる。

北壁のほぼ中央部分に竈痕跡と考えられる焼土の 広がりを確認した。

主柱穴は4基確認された。平面円形で径約0.4m、 床面からの深さは約40cmを測る。主柱穴間の距離は、 東西約3.0m×南北約3.1mを測る。

貯蔵穴、周溝は確認されなかった。

出土遺物は、須恵器杯蓋 (133)・甕 (134)、土師器杯 (135)・甕 (136~138) がある。

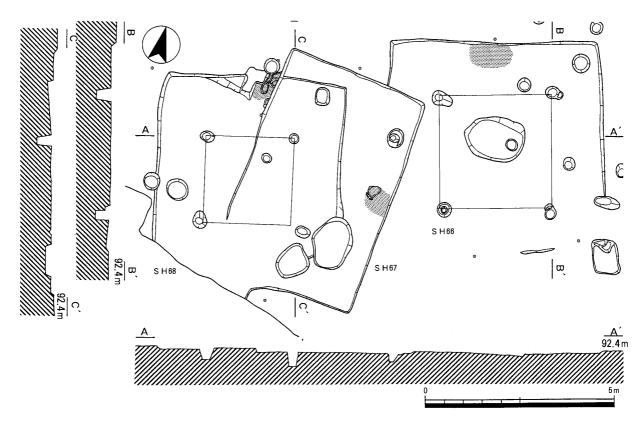
SH67は、東西約4.0m×南北約6.0mの長方形プランをもつ。検出面からの深さは約10cmである。棟方向は南北軸でN4° Eをとる。

東壁中央部分に焼土が広がり、竈痕跡と考えられる。竈痕跡からは、須恵器横瓶(143)が出土した。 貯蔵穴、主柱穴、周溝は確認されなかった。

SH68は,南辺が不明瞭で一部のみ検出された。確認された辺で一辺約4.8mを測る。棟方向は、南北軸でN16°Wをとる。

北壁中央部分で竈の左袖の痕跡と焼土の広がりを確認した。右袖はSH67によって破壊されている。 竈からは平底の土師器甕 (153) が出土した。

主柱穴は4基確認した。平面円形で径約0.3m、床面から深さは約35cmである。主柱穴間の距離は、約2.2mを測る。貯蔵穴、周溝は確認されていない。



第36図 竪穴住居 S H 66~68実測図(1:100)

出土遺物は、須恵器杯蓋 (148・149)・杯身 (150) ・甕 (151)、土師器甕 (152) がある。

SH69(第37図) B地区の南東隅の位置で検出した。南東隅のラインが不整形であるが、平面形は長辺約3.5m×短辺約3.0mの長方形に近いプランをもつ。床面積が10cm余りと小さい。検出面からの深さは約15cm、棟方向は長軸でE35°Nをとる。

北東側の壁のほぼ中央部分に竈の痕跡と考えられる焼土が広がり、土師器長胴甕(147)が出土した。 床面で複数のピットを検出したがSH69に伴う主 柱穴と判断するには至らない。また、貯蔵穴、周溝 は確認されなかった。

竈以外からの出土遺物は、須恵器や土師器の小片が見られる程度である。

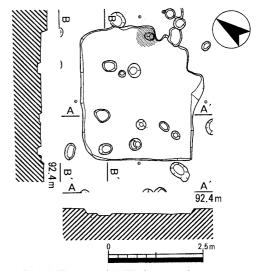
SH70(第38図) C地区の北端で住居の南端部分を検出した。住居の北側は調査区外へ延びるため全体は確認されていない。確認された辺で約3.6mを測り、軸方向はW8°Nをとる。

主柱穴と考えられる柱穴を2基確認した。平面円形で径0.25m、床面からの深さは約5cmである。主柱穴間の距離は約2.25mを測る。竈痕跡、貯蔵穴、

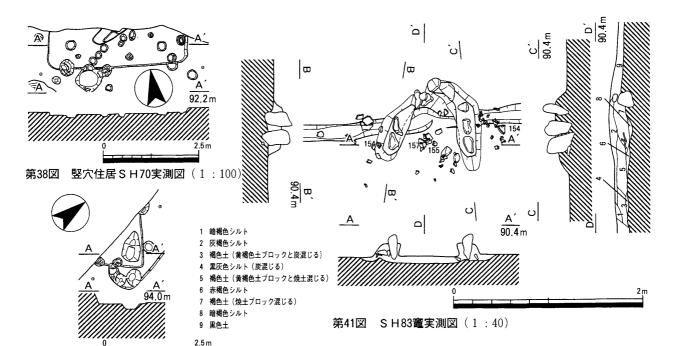
周溝などは確認されなかった。

SH71 (第39図) C地区の北西の位置で住居の南東隅部分を検出した。住居の大部分は、調査区外へ延びるため詳細は不明である。検出面からの深さは約5 cmである。

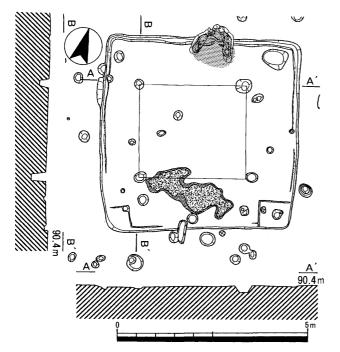
SH83(第40図) C地区のほぼ中央の位置で検出 した。一辺約5.2mの平面正方形プランをもつ。検出 面からの深さは約8cm、棟方向は、南北軸でN16°E



第37図 竪穴住居SH69実測図(1:100)



第39図 竪穴住居SH71実測図(1:100)



第40図 竪穴住居 S H 83実測図 (1:100)

をとる。

北壁のやや東に偏った位置で竈の痕跡を確認した。 両袖間は約0.6mで周囲に焼土や炭化物粒がひろがる。 竈本体は焼土や炭を含む黄褐色粘質土で構成される。 天井部は崩壊しているが、左右の袖に相当する位置 に右に2個、左に3個の補強材と考えられる川原石 を検出した。石はすべて同質の砂岩で、構築時の位 置をほぼ保つと考えられる。石の基部は周溝に据え られ、竈の下からも周溝が確認されており、竈は周溝を掘削したのちに付設されたと考えられる。竈周辺からは須恵器杯身(154)、土師器甕(155~157)が出土した。

主柱穴は、平面円形で径0.25~0.4m、床面からの深さ20~40cmの柱穴を4基確認した。主柱穴間の距離は東西約2.8m×南北約2.5mを測る。北西の柱穴から(154)と接合する須恵器杯身片が出土した。

竈の右脇の住居南東隅で貯蔵穴を検出した。 長軸 約0.65m×短軸約0.5m、床面からの深さ約20cmの土 坑である。底面から土師器片が出土した。

壁周溝は、南辺の一部を除く4辺で確認された。 幅約15cm前後、床面からの深さ約5cmである。竈の 下部では溝状の窪みとして確認された。

竈の対面に貼床と考えられる厚さ $1 \sim 2$ cmの黄色 土の硬化面がある。黄色土の下層には黒色土がひろ がり、充填材と考えられる。

住居南側の両隅に深さ約4cmの方形の窪みを確認した。内側2辺が直線を描き、住居内側に対してほば直角をなす。この部分では壁周溝が途切れており、排水機能を果たしていたと考えられる。

竈周辺以外からの出土遺物は、ほとんど見られない。

(2)掘立柱建物

掘立柱建物は、A地区で検出された溝 (SD5・ 10・11)以南で検出されている。特にB・D地区の 密度が高く、全体の8割が集中する。棟方向は南北 棟が大半を占め、北に対して西に振る建物が多い。

建物の構造では、側柱建物に梁行が2間のものと3間のものとがある。梁行3間の建物は竪穴住居と重複する場合が多く、竪穴住居から掘立柱建物への移行を考えるうえで興味深い。

倉庫と考えられる2間×2間の総柱建物は8棟検出され、平面形が正方形と長方形のものとがある。 SB14(第42図) D地区の北側で検出した桁行6間×梁行3間の側柱建物である。南北棟で、棟方向

S B 12 (3) S B 19 € 0 S B 23 <u>A'</u> 94.2 m

第42図 掘立柱建物 S B 14実測図 (1:100)

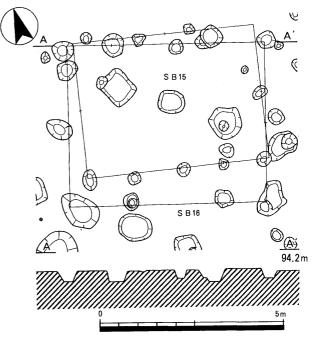
はN9°Eをとる。建物規模は桁行12.6m、梁行4.8m、柱間は桁行2.1m等間、梁行1.6m等間である。柱掘形は平面略方形で規模にばらつきが見られ、東西側柱が短辺0.8~1.0m×長辺1.0~1.2m、妻柱が短辺0.5~0.8m×長辺0.8~1.0mと妻柱がひとまわり小さい。検出面からの深さは0.2~0.4mで穴底のレベルは北側が浅くなる。柱痕跡は、径0.25m前後の円形で柱抜取痕跡は認められない。

出土遺物は、須恵器杯身 (162・163)、土師器甕 (176) 等がある。

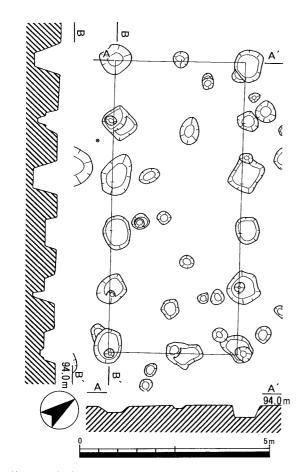
SB15 (第43図) D地区の北側で検出した。北側柱列が不明瞭で建物としてのまとまりに問題はあるが、桁行4間×梁行2間の側柱建物と判断した。東西棟で棟方向はE12°Sをとる。建物規模は、桁行4.8 m、梁行3.6mで、柱間は桁間1.2m等間、梁間1.8 m等間である。柱掘形は径0.3~0.6mの不揃いな不整円形で検出面からの深さは30~40cmを測る。

遺物は、柱掘形から土師器片が出土している。

SB16(第43図) D地区の北側で検出した桁行3間×梁行2間の側柱建物である。東西棟で棟方向はE17°Sをとる。建物規模は桁行5.2m、梁行4.2mである。柱間は桁間が1.3m+2.6m+1.3mと中央の1間が広くなるが、柱穴をもたない構造で柱があった可能性が考えられる。梁間は2.1m等間である。柱掘形の平面形は不整円形で径0.3~0.6m、検出面か



第43図 掘立柱建物 S B 15·16実測図(1:100)



第44図 掘立柱建物 S B 17実測図 (1:100)

らの深さは20~40cmを測る。

柱掘形から土師器、須恵器片が出土している。

SB17 (第44図) D地区の北側で検出した桁行 5間 ×梁行 2間の側柱建物である。棟方向は、E36°S をとる。建物規模は桁行5.2m、梁行4.2mを測る。 柱間は、桁間が西から1.5m等間、梁間は、1.7m等 間である。柱掘形は方形と円形があり、いずれも長 辺0.9m前後、短辺0.7m前後である。柱痕跡は確認 されたもので、径約0.3mを測る。

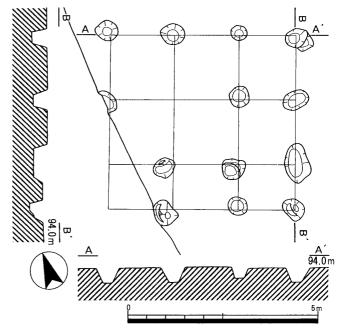
出土遺物は、須恵器杯身(164)・高杯(170)がある。

SB18 (第45図) D地区の北西隅で桁行 3 間分× 梁行 3 間分を検出した総柱建物である。東西棟で棟 方向はE20°Sをとる。建物規模は、桁行4.9m以上、 梁行4.6m以上、柱間は桁間で西から1.7m+1.7m+ 1.5m、梁間で北から1.7m+1.7m+1.2mである。桁 間の東1間分、梁間の南1間分が狭く庇を伴う建物 とも考えられる。

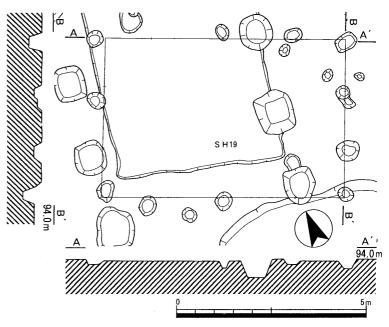
出土遺物は、土師器片がある。

SB20(第46図) SH19、SB14と重複する桁行

4間×梁行3間の側柱建物である。東西棟で棟方向はE26°Sをとる。SH19に重複する北側柱が1箇所で検出されなかった。建物規模は、桁行6.4m、梁行4.2mを測る。柱間は、桁間が西から1.3m+1.9m+1.9m+1.3m、梁間が北から1.3m+1.6m+1.3mである。桁間は中央2間分、梁間は中央1間分が他より広くなる。柱掘形は、不整円形で径0.4~0.6m、検出面からの深さは20cm前後である。SB14との前



第45図 掘立柱建物 S B 18実測図 (1:100)



第46図 掘立柱建物 S B 20実測図(1:100)

後関係は、SB14が先行する。

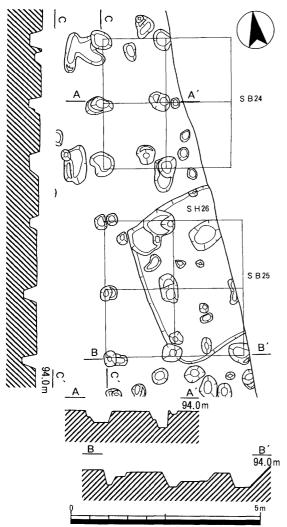
出土遺物は、須恵器甕(171)が出土した。

SB24・25 (第47図) D地区の東端で検出した2間×2間の総柱建物である。建物の東側は調査区外へ延びるため全体は確認されていないが、柱掘形規模や柱間から2間×2間の総柱建物と判断した。

2 棟は、ほぼ直列に並び 1 棟の建物のようにも見えるが、棟方向、柱間にわずかな差が認められる。 $SH26 \ge Omega > SH26 \ge Omega > SH26 > SH2$

SB24は建物規模が桁行、梁行ともに約3.4m、柱間寸法は1.7m等間である。棟方向はN9°Eをとる。柱掘形は円形で径0.5m前後、検出面からの深さは約30cmである。

SB25は建物規模が桁行、梁行ともに3.6m、柱間は1.8m等間である。棟方向はN8°Eをとる。柱掘形は円形で径0.7m前後、検出面からの深さは約30cmである。



第47図 掘立柱建物SB24·25実測図(1:100)

SB27・28 (第48図) D地区の中央北寄りの位置で検出した規模を同じくする桁行 2 間×梁行 2 間の側柱建物である。棟方向は S B27が N27° E、S B28が E36° Sをとる。建物規模は桁行4.2m、梁行3.4m、柱間は桁間、梁間がそれぞれ2.1m等間、1.7 m等間である。柱掘形は不整円形で径 $0.3\sim0.6$ mとばらつきが見られる。検出面からの深さは $20\sim30$ cmを測る。

2 棟は同じ位置で棟方向だけを変えて建替えた建物と考えられるが、柱穴に重複関係がなく、出土遺物もわずかなため、前後関係は不明である。

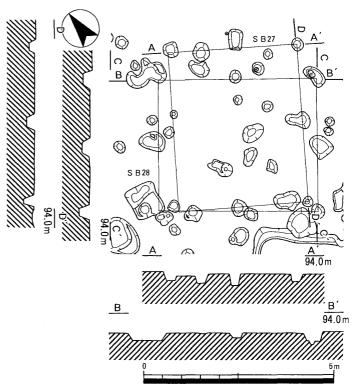
出土遺物は、土師器片がある。

SB29 (第49図) 前述のSB27・28と重複する桁行4間×梁行2間の側柱建物である。南北棟で棟方向はN2°Eをとる。建物規模は桁行4.6m、梁行3.2m、柱間は桁間が2.3m、梁間が1.6mの等間である。柱掘形は不整円形で径約0.4~0.6m、検出面からの深さは30cm前後を測る。

SB27・28との前後関係は不明である。

出土遺物は、確認されなかった。

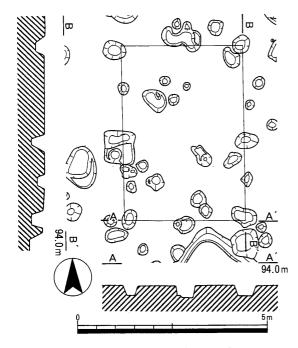
SB30(第50図) D地区の中央西寄りの位置で検 出した側柱建物である。東西棟で棟方向はE20°S



第48図 掘立柱建物 S B 27 · 28実測図 (1:100)

をとる。SH36と重複する部分で柱穴が2箇所確認されなかった。建物規模は桁行5.2m、梁行3.2m、柱間は、桁間が不揃いで西から1.4m+2.1m+1.7m、梁間は1.6m等間である。柱掘形は径約0.5mの円形で検出面からの深さは $30\sim40cm$ を測る。

遺物は土師器、須恵器片が出土している。



第49図 掘立柱建物 S B 29実測図(1:100)

SB33 (第50図) SB30と重複する梁行 4 間×梁行 2 間の側柱建物である。棟方向は $E25^\circ$ Sをとる。建物規模は桁行5.6m、梁行4.0m、柱間は桁間が西から1.2m+1.6m+1.6m+1.2mと中央 2 間が広くなる。梁間は、2.0m等間である。柱掘形は不整形で、径約0.4~0.6mとばらつきが見られる。検出面からの深さは、30~60cmを測る。

北東隅の柱穴がSK32と重複し、前後関係はSB 33→SK32となる。

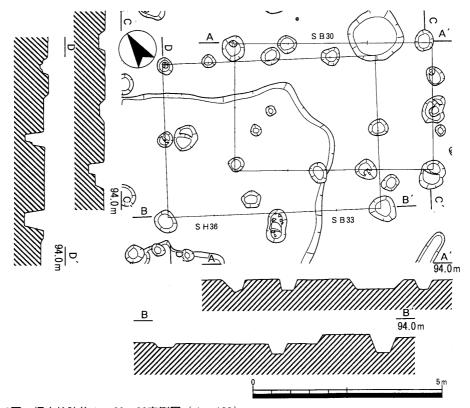
出土遺物は、土師器片がある。

SB34・35 (第51図) D地区の中央西端の位置で 検出した2棟の掘立柱建物である。SB34の西側柱 とSB35の東側柱とが1間ずれた状態で重複する。 重複関係は古い方からSB34→SB35となる。

SB34は、桁行3間以上×梁行1間以上の南北棟と考えられ、棟方向はN17° Eをとる。建物規模は桁行4.8m以上、梁行1.3m以上、柱間は桁間が1.6m等間、梁間が1.3mである。柱掘形は径0.5m前後の円形で、検出面からの深さは約55cmを測る。

出土遺物には土師器片、須恵器杯片がある。

SB35は、桁行4間×梁行2間の南北棟である。 棟方向はN18°Eをとる。竪穴住居SH36と重複し、



第50図 掘立柱建物 S B 30・33実測図 (1:100)

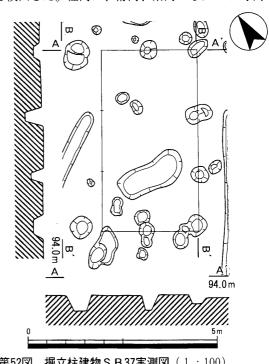
SH36と重複する東側柱筋の柱穴が検出されなかっ た。建物規模は桁行6.2m、梁行4.0m、柱間は桁間、 梁間がそれぞれ1.55m、2.0mの等間である。柱掘形 は径0.5m前後の円形をなす。検出面からの深さは、 約55cmを測る。

柱掘形から土師器片、須恵器杯片が出土している。 SB37(第52図) D地区の中央西寄りの位置で検 出した桁行3間×梁行2間の側柱建物である。南北 棟で棟方向はN32°Eをとる。建物規模は桁行4.8m、 梁行2.6m、柱間は桁間、梁間それぞれ1.6m、1.3m の等間である。柱掘形は径0.45m前後の円形で、検 出面からの深さは30~40cmを測る。

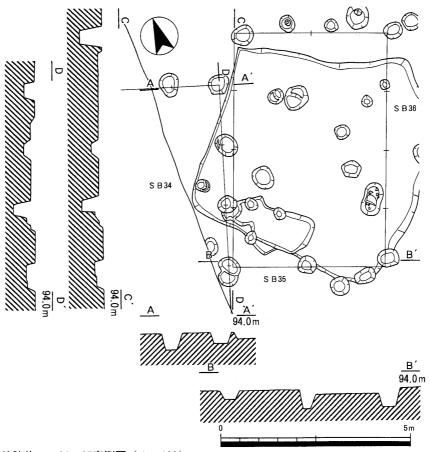
SB41(第53図) D地区の中央やや南寄りの位置 で検出した桁行5間×梁行3間の東西棟である。棟 方向はN12°Eをとる。建物規模は桁行10.5m×梁 行5.7m、柱間寸法は桁行が2.1m等間、梁行が2.1m +1.5m + 2.1mとなり、中央の1間分が狭くなる。

柱掘形は方形と不整形のものとがあり一辺0.6~0.9 m、検出面からの深さは30cm前後である。柱の並び を見ると、妻柱は隅柱を直線でつないだラインより

建物の外側に柱穴半分ほどずれている。柱痕跡は、 径約0.25m前後で柱抜取痕跡は、確認されなかった。 SB47(第54図) B地区の北東隅の位置で2間分 を検出した。柱間は、桁間、梁間ともに1.7m等間で



第52図 掘立柱建物SB37実測図(1:100)



第51図 掘立柱建物 S B 34·35実測図(1:100)

ある。検出した柱筋でN43°Eの棟方向をとる。建物の大部分は調査区外へ延びる。

出土遺物は、確認されなかった。

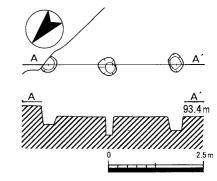
SB48・49(第55・56図) B地区の東端で検出した桁行1間×梁行1間の東西棟である。建物規模はSB48が桁行2.5m×梁行2.4m、SB49が桁行3.0m×梁行2.5mである。棟方向はそれぞれW34°N、W8°Nをとる。柱掘形はともに径約0.45mの円形で検出面からの深さは約20cmを測る。

出土遺物は、SB49から須恵器杯蓋 (159)、土師器甕 (175) が出土している。

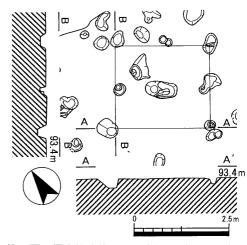
SB50(第57図) SB49の西側で検出した桁行2間×梁行2間の総柱建物である。東西棟で棟方向はE34°Sをとる。建物規模は桁行4.2m、梁行3.4m、

柱間は桁間が2.1m、梁間が 1.7mの等間である。柱 掘形は $0.5\sim0.6$ m前後の隅丸方形で,検出面からの深 さは約20cmである。

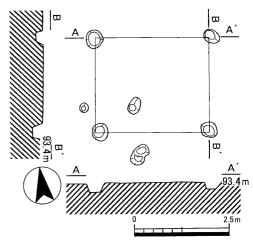
SB51 (第58図) B地区の北西隅の位置で検出した桁行4間×梁行3間の側柱建物である。南北棟で棟方向はN37°Wをとる。建物規模は桁行6.4m、梁行4.2m、柱間は桁間が1.6m等間、梁間が西から1.3m



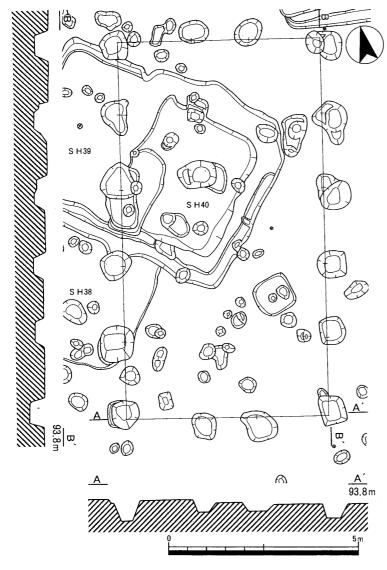
第54図 掘立柱建物 S B 47実測図(1:100)



第55図 掘立柱建物 S B 48実測図(1:100)



第56図 掘立柱建物 S B 49実測図 (1:100)



第53図 掘立柱建物 S B 41実測図 (1:100)

+1.6m+1.3mと中央の1間分が広くなる。柱掘形 は不整形で一辺0.3~0.6mとばらつきが見られる。 検出面からの深さは20~30cmを測る。

SB52と重複するが、柱穴の重複がないため前後 関係は不明である。

SB52(第58図) SB51と重複する2間×2間以 上の総柱建物である。棟方向は判断し難いが、東西 軸でE42°Sをとる。建物規模は東西3.6m以上、南 北3.2m以上である。柱間は東西方向、南北方向でそ れぞれ1.8m、1.6mの等間である。柱掘形は一辺0.5 ~0.6mの隅丸方形である。検出面からの深さは30cm 前後である。

遺物は、須恵器杯身(167)が出土している。

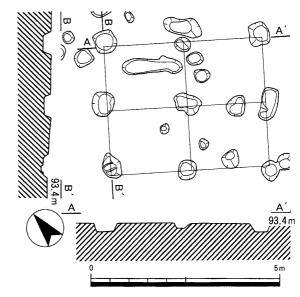
SB53(第59図) 竪穴住居SH54に重複する桁行 3間×梁行3間の側柱建物である。東西棟で、棟方 向はE43°Sをとる。

建物規模は桁行5.1m、梁行4.0m、柱間は桁間が1.5 m+2.1m+1.5mと中央の1間分広くなるのに対し て、梁間は1.4m+1.2m+1.4mと中央の1間分が狭 くなる。柱掘形は円形で径約0.4mを測る。

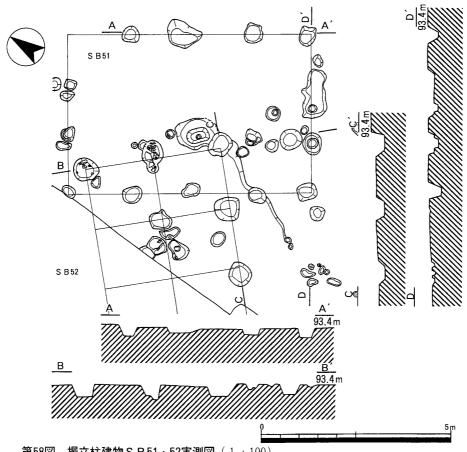
SB55·56 (第60·61図) SB55・56は、B地区 の中央西寄りの位置で検出した桁行2間×梁行2間 の総柱建物である。

SB55の建物規模は、桁行、梁行とも3.2m、柱間 1.6m等間で棟方向N31°Wをとる。

SB56は、棟方向N38°Wをとる。 建物規模は桁



第57図 掘立柱建物 S B 50実測図 (1:100)

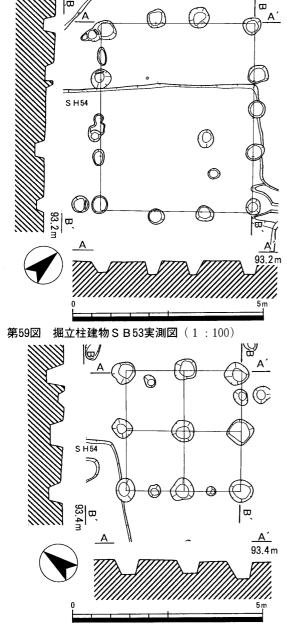


第58図 掘立柱建物SB51·52実測図(1:100)

行3.2m、梁行3.0m、柱間は桁間が1.6m等間、梁間 が1.5m等間である。

SB56からは、土師器甕(173)が出土している。 柱掘形はともに径約0.6m前後の円形で、建物規模 に比べ大きい。検出面からの深さは30~40cmである。 SB57(第62図) B地区の中央付近で検出した 桁行2間×梁行2間の総柱建物である。棟方向は E44° Sの東西棟である。建物規模は桁行3.4m、梁 行2.8m。柱間は桁間、梁間がそれぞれ1.7m、1.4m の等間である。柱掘形は不整円形で径約0.4m、検出 面からの深さは約20cmである。

柱掘形から須恵器杯蓋(160)が出土している。

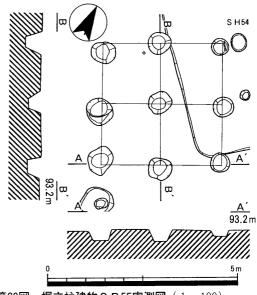


第61図 掘立柱建物SB56実測図(1:100)

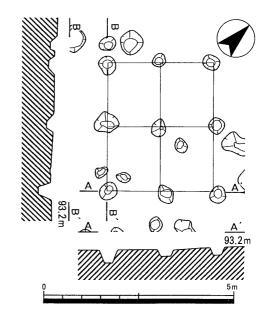
SB58(第63図) B地区の中央東寄りの位置で検 出した桁行3間×梁行2間の総柱建物である。東西 棟で棟方向はE10°Sをとる。建物規模は桁行4.5m、 梁行3.2m。柱間は桁間、梁間それぞれ1.5m、1.6m の等間である。柱掘形は径0.3~0.5mの円形である。 検出面からの深さは約15cmと比較的浅い。

出土遺物は、須恵器、土師器の破片がある。

SB59(第64図) SB58・60と重複する桁行2間 ×梁行2間の総柱建物である。棟方向はN37°Eを とる南北棟である。建物規模は桁行3.1m、梁行2.8m、 柱間は桁間が1.55m、梁間が1.4mの等間である。



第60図 掘立柱建物SB55実測図(1:100)



第62図 掘立柱建物SB57実測図(1:100)

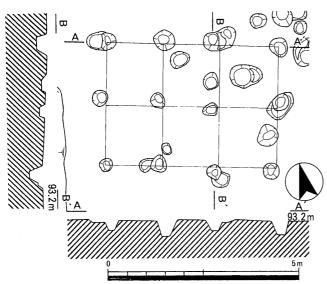
柱掘形は径0.4~0.5mの円形で、検出面からの深さは約30cmを測る。

出土遺物は、須恵器杯身 (168)、土師器甕 (174) がある。

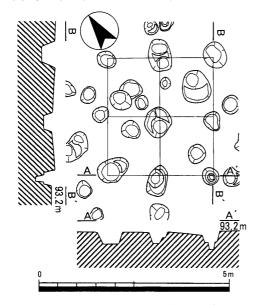
SB60(第65図) SB59と重複する桁行3間×梁行2間の総柱建物である。棟方向はN19°Wをとる南北棟である。建物規模は桁行3.6m、梁行3.2m、柱間は桁間が1.2m、梁間が1.6mの等間である。柱掘形は径約0.5mの円形で、検出面からの深さは30~45cmとばらつきが見られる。

重複するSB59との前後関係は、古い方からSB 59→SB60となる。

出土遺物は、須恵器杯身(169)がある。



第63図 掘立柱建物 S B 58実測図 (1:100)

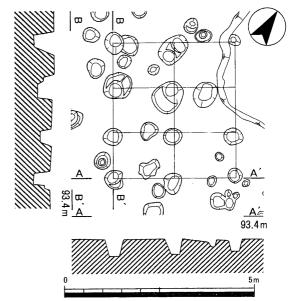


第64図 掘立柱建物SB59実測図(1:100)

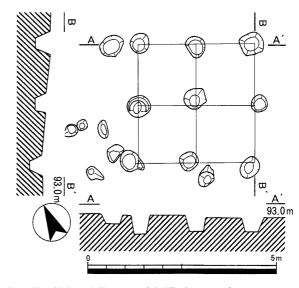
SB61 (第66図) SB58の南側で検出した桁行 2間×梁行 2間の総柱建物である。南北棟で棟方向は E24°Sをとる。建物規模は桁行、梁行ともに3.1m、柱間はともに1.55m等間である。柱掘形は径約0.5mの円形あるいは隅丸方形である。検出面からの深さは30~40cmを測る。

出土遺物は、土師器甕(178)がある。

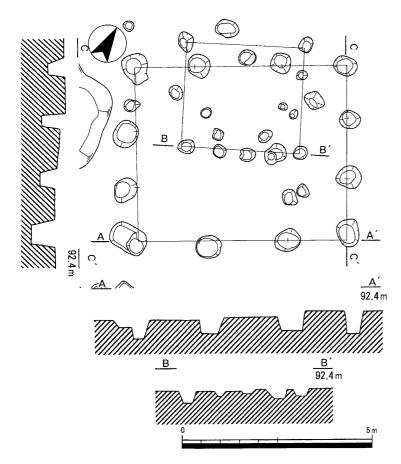
SB62 (第67図) B地区の南西の位置で検出した 桁行2間×梁行2間の側柱建物である。棟方向は南 北棟でE31°Nをとる。建物規模は桁行3.1m、梁行 2.8m、柱間は桁間が1.55m、梁間が1.4mの等間で ある。柱掘形は不整円形で径0.5~0.6m、検出面か らの深さは約50cmを測る。



第65図 掘立柱建物 S B 60実測図(1:100)



第66図 掘立柱建物 S B 61実測図(1:100)



第67図 掘立柱建物 S B 62·63実測図(1:100)

妻柱は建物の外側へ張り出しており、棟持構造の 建物である可能性も考えられる。

出土遺物は、須恵器、土師器片がある。

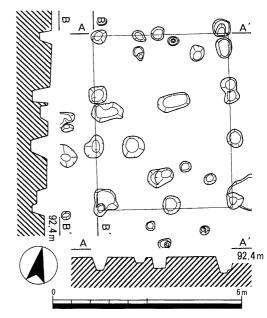
SB63 (第67図) SB62と重複する桁行 3 間×梁行 3 間の側柱建物である。東西棟で棟方向はE31°Nをとる。建物規模は桁行5.6m、梁行4.5m、柱間は桁間が1.7m+2.3m+1.7m、梁間が1.6m+1.6m+1.4mである。柱掘形は隅丸方形で一辺約0.5m、検出面からの深さは $40\sim50$ cmを測る。

須恵器杯蓋(158・161)が出土している。

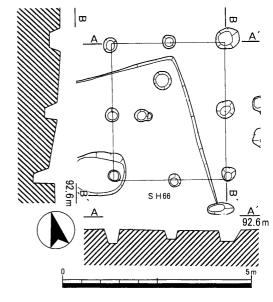
SB62との前後関係は柱穴の重複がないため不明である。

SB64(第68図) B地区の中央南寄りの位置で検出した桁行3間×梁行3間の側柱建物である。南北棟で、棟方向はN2°Eをとる。建物規模は桁行4.8m、梁行3.6m、柱間は桁間が1.7m+1.4m+1.7mと中央の1間分が狭くなる。梁間は1.8m等間である。柱掘形は不整円形で径0.4m前後、検出面からの深さは約35cmを測る。

出土遺物は、土師器甕(172)などがある。



第68図 掘立柱建物SB64実測図(1:100)



第69図 掘立柱建物 S B 65実測図 (1:100)

SB65(第69図) SB64の西側に棟方向をほぼ同じにして建つ桁行2間×梁行2間の側柱建物である。南北棟で棟方向はN3°Eをとる。建物規模は桁行3.6m、梁行3.0m、柱間は桁間が1.8m、梁間が1.5mの等間である。柱掘形は円形で径0.3~0.4m、検出面からの深さは30cm前後である。

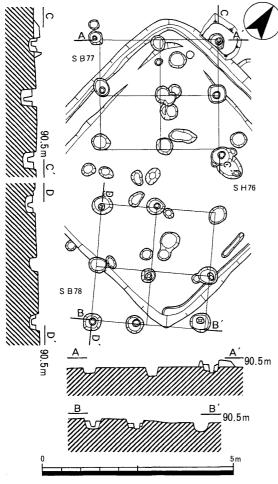
出土遺物は、須恵器杯身 (165)、土師器甕 (177) 等がある。

SB77・78 (第76図) C地区の中央で検出した桁行2間×梁行2間の総柱建物である。古墳時代前期の竪穴住居SH76と重複する。

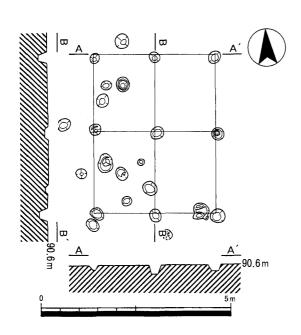
SB77は、建物規模が桁行3.1m、梁行が2.9m、

柱間は桁間が1.55m、梁間が1.45mの等間である。 棟方向はN36°Wをとる。

SB78は、建物規模が桁行、梁行ともに3.0m、柱



第70図 掘立柱建物 S B 77 · 78実測図 (1:100)

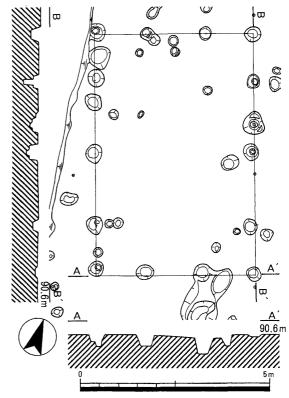


第71図 掘立柱建物 S B 79実測図 (1:100)

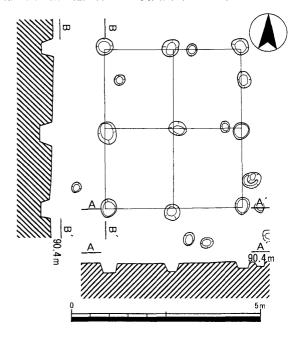
間が1.5m等間である。棟方向はN38°Wをとる。

柱掘形は径約0.5mの円形で、検出面からの深さは $30\sim50$ cmを測る。柱痕跡は、径約0.25mで18基の柱 穴のうち12基で認められた。

SB79 (第71図) 竪穴住居SH76の南側で検出した桁行2間×梁行2間の側柱建物である。棟方向はN13°Eをとる南北棟である。建物規模は桁行4.2m、



第72図 掘立柱建物 S B 81実測図 (1:100)



第73図 掘立柱建物SB82実測図(1:100)

梁行3.2m、柱間は桁間が2.1m、梁間が1.6mの等間である。柱掘形は円形で径約0.3m、検出面からの深さは15~25cmを測る。

出土遺物は、土師器片がある。

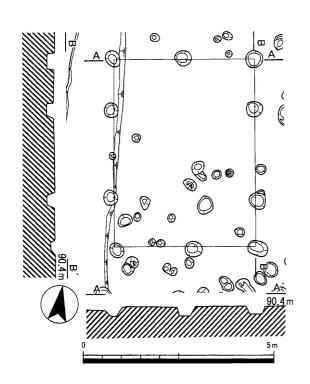
SB81 (第72図) SB79の南側で検出した桁行 4 間×梁行 3 間の側柱建物である。南北棟で棟方向は N15°Wをとる。建物規模は桁行6.4m、梁行4.2m、柱間は、桁間が1.3m+1.9m+1.9m+1.9m+1.3m、梁間が 1.3m+1.6m+1.3mである。桁間、梁間ともに中央が広くなる。柱掘形は円形で径 $0.35\sim0.45$ m、検出面からの深さは $20\sim30$ cmを測る。

遺物は、柱掘形から土師器片が出土した。

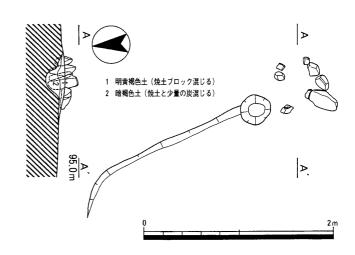
SB82 (第73図) C地区の中央南東寄りの位置で 検出した桁行 2間×梁行 2間の総柱建物である。南 北棟で棟方向はN1°Eをとる。建物規模は桁行4.2 m、梁行3.6m、柱間は、桁間が2.1m、梁間が1.8m の等間である。柱掘形は径0.4~0.45mの円形で検出 面からの深さは30cm前後を測る。

出土遺物は、土師器片がある。

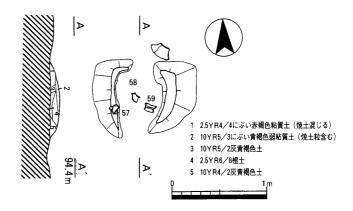
SB84(第74図) C地区の中央南西寄りの位置で 検出した桁行3間×梁行2間の側柱建物である。南 北棟で棟方向はN9°Wをとる。建物規模は桁行5.0 m、梁行3.8m、柱間は、桁間が1.3m+2.4m+1.3m、



第74図 掘立柱建物 S H84実測図(1:100)



第75図 電SF6実測図(1:40)



第76図 竈SF7実測図(1:40)

梁間が1.9mの等間である。桁間は中央1間分が広くなる。柱掘形は径0.4m前後の円形で検出面からの深さは約20cmを測る。

出土遺物は、土師器片がある。

(3)竈

SF6 (第75図) A地区のSD5の南側の位置で 検出した。竈の袖に相当する位置に、川原石が並ん だ状態で右に4個、左に3個検出された。両袖間の 距離は0.6~0.8mを測る。竈から北西方向に続く段 は、竪穴住居の壁の痕跡である可能性が考えられる。

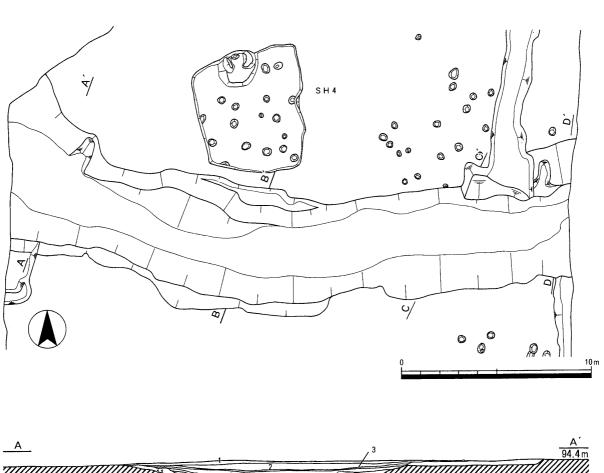
SF7 (第76図) SF6の南側の位置で焼土の広がりを検出した。竈は褐色系の粘質土でつくられ、両袖間の距離は約0.7~1.2mを測る。竈の中央部分

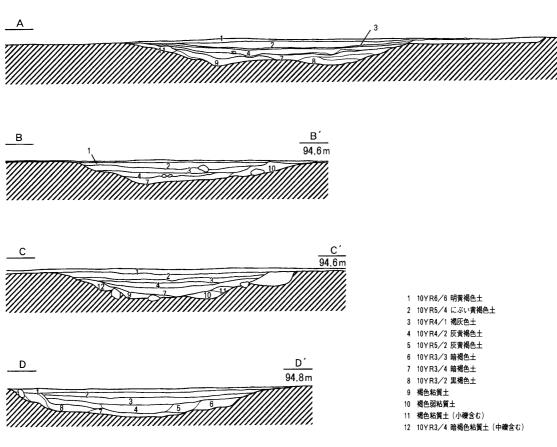
出土遺物は、平底の土師器甕(56)がある。

から土師器鉢(57)・甕(58・59)が出土した。

(4)溝

SD5 (第77図) A地区の東側で検出した。東か

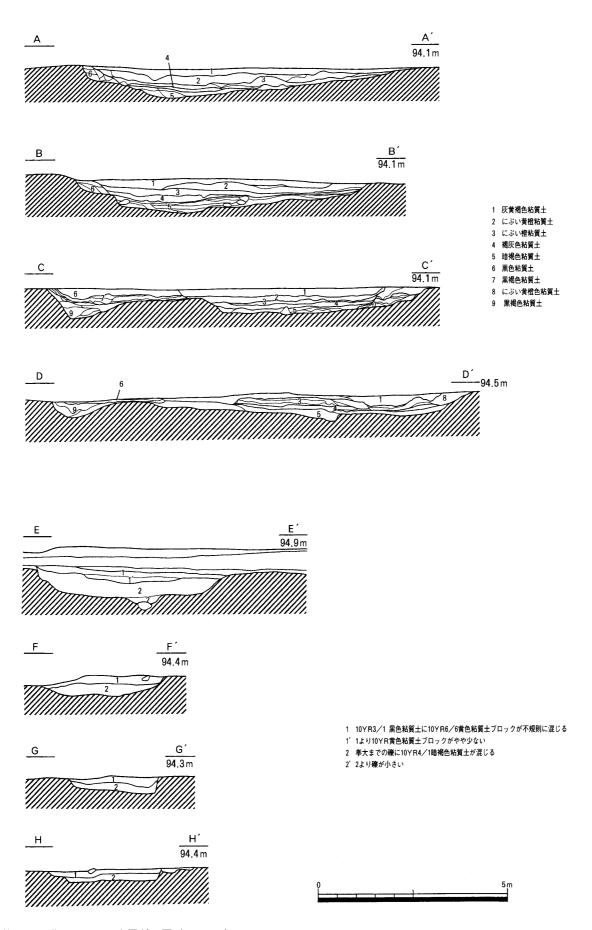




第77図 溝SD5実測図(1:200)・土層断面図(1:100)



第78図 溝SD10·11実測図(1:200)



第79図 溝SD10・11土層断面図(1:100)

出土状況は、各層から出土するが、特にⅣ層の灰 黄褐色土層からの出土量が多い。特に一括投棄され た状況もなく、溝全体から出土する。また、上層と 下層から出土して接合される遺物も少なくない。

埋土や遺物の出土状況から見て、SD5の開削時期はともかくとして、埋没は比較的短期間に行われたと考えられる。

SD10(第79図) A地区の南端の位置で検出した 北東から南西方向へ向かって弧を描いて流れる溝で ある。検出された長さ約34m、溝幅8.0~10.0m、検 出面からの深さ約0.9mを測る。溝底の起伏は激しく、 一定の流れがあったと推測される。

土層の観察から埋土は細かく分層でき、鉄分を多く含んだ薄い層を挟んで下層は砂質、上層は粘質土層に大きく分かれる。土層断面を見ると、北側が緩やかなのに対して、南側は傾斜が強くなる。また、南端は深く窪むことから、SD6に先行する別な流れがあったようである。

最下層の青灰色砂層は、波涛状に堆積する状況が認められ、地震痕跡である可能性が指摘されている。 最下層からの遺物の出土量は少ない。上層からは山茶椀が出土している。

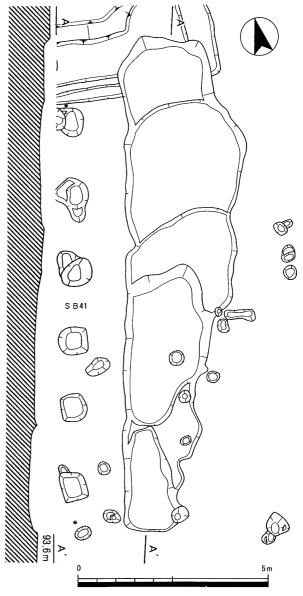
出土遺物を見ると、掘削時期はSD5より新しく、あまり時間幅がないことから、開削されてから短期間のうちに埋没したようである。ただし、上層からは山茶椀が出土しており、完全に埋没することなく長期間存続していたようである。

出土遺物は、須恵器杯(415~423)・高杯(424)・ 壷(425)・瓶類(426~428)・甕(429~431)、土 師器甕(434~438)、ミニチュア土器(432・433)、 銀環(439)、山茶椀等がある。

SD11 (第79図) A地区の南端で検出した幅3.0~5.0m、深さ約0.9mの溝である。溝の流れはSD10と逆向きの弧を描く。埋土は大きく2層に分けられ、上層は黒色粘質土、下層は拳大から人頭大の礫を含む暗灰色粘質土である。下層からは須恵器杯(440~445)・高杯(446)・壷(447)、土師器甕(448~451)等が出土した。また、上層からは山茶椀が出土しており、SD10と同様に、完全に埋没しない状態で長期間存続していたようである。

(5) 土坑

SK42 (第80図) D地区の中央南寄りの位置で検出した長さ約13.0m、幅1.2~3.1m、検出面からの深さ15~30の南北に長い土坑である。掘立柱建物SB41の東約1.2mの位置にあって、雨落溝状にこれとほぼ並行して掘削される。平面の形態や底面に認められる窪みなどから、本来は複数掘削された土坑の集合であると推測される。その単位は、SB41の柱穴にほぼ対応するようにも見える。土層の観察からは埋土に違いが見られなかったことから、時間差をもって掘削されたものではないと考えられる。また、東側のラインが不定形であるのに対してSB41に面する西側のラインは直線的であることから、掘削時



第80図 土坑SK42実測図(1:100)

にSB41に対する意識が働いていたことがうかがわれる。

出土遺物は、須恵器杯身(453・454)・杯蓋(452) 壷(455)、土師器長胴甕(456)、ガラス小玉(457) などがある。

3 平安・鎌倉時代

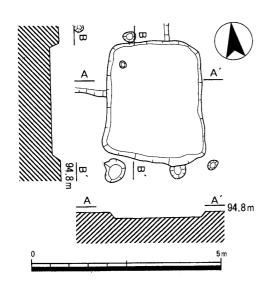
この時期の遺構としては、竪穴状遺構 2 棟、掘立 柱建物 2 棟、土坑 7 基を検出した。

各遺構及び包含層からは、比較的まとまった量の 遺物が出土しており、調査で検出された以外にも調 査区外に、この時期の遺構が存在する可能性は高い と思われる。

(1)竪穴状遺構

SH2 (第81図) A地区の北端の位置で検出した。 前述の竪穴住居SH1に重複する。遺構の規模は、 東西約3.3m×南北約3.1mのやや東西に長い、長方 形に近い平面プランをもつ。軸方向は、南北軸でN 21°Eをとる。検出面からの深さは10~15cmを測る。 出土遺物は、山茶椀(460)、小椀(458・459) が ある。

SH23(第82図) D地区の中央東寄りの位置で検出した。竪穴住居SH21・22と重複する。平面プランは、東西約4.4m×南北約6.2mの長方形に近い形をなし、長辺の中央部分が弧状にへこむ。軸方向は、南北軸でN3°Eをとる。残存する深さは検出面か



第81図 竪穴状遺構 S H 2 実測図(1:100)

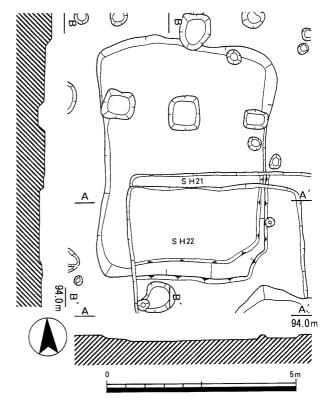
ら約5 cmと浅い。竈痕跡、主柱穴等は確認されていない。

出土遺物は、土師器甕 (464)、ロクロ土師器 (462・363)、山茶椀 (469~480)、小椀 (465~468) がまとまって出土した。

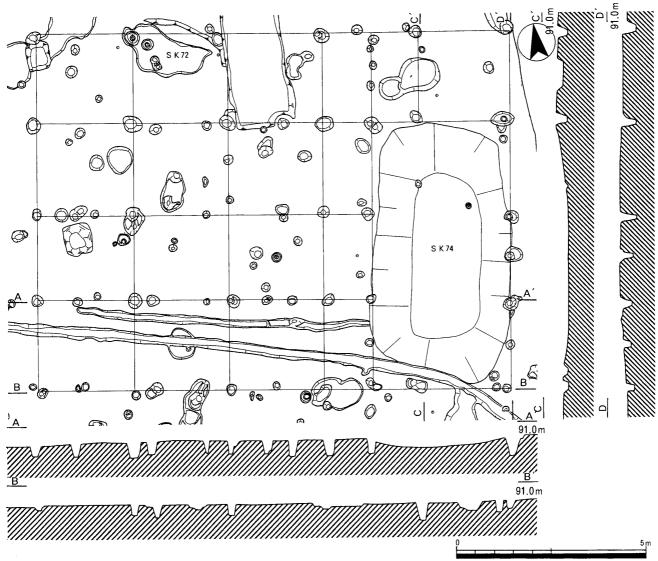
(2)掘立柱建物

SB73(第83図) C地区の北寄りの位置で検出した桁行5間×梁行4間の総柱建物である。南北棟で棟方向はE8°Sをとる。建物規模は、桁行12.6m、梁行9.6m、柱間は、桁行方向は東端が2.4mと狭く、他は2.55m等間である。梁行方向は2.4m等間である。北側柱の西から2番目の柱穴はSK72の底に掘削される。柱掘形は、円形で径0.2~0.45mとばらつきが見られる。検出面からの深さは15cm前後だが、締まりの悪い黒ボク土の箇所は深く掘削されるため約50cmを測る。

建物の南東隅の位置には、後述するS K74が伴う。 桁行方向に東から1.5間分の位置にはS K74を取り囲むように梁行方向に柱列が認められる。柱列の柱間は、南から1.05m+1.05m+2.40m+2.40m+0.95m+0.55m+0.70mである。また、それぞれの柱穴間にも1 ないしは2 基の小ピットが存在し、東柱と推



第82図 竪穴状遺構 S H 23実測図(1:100)



第83図 掘立柱建物 S B 73実測図(1:100)

測される。

出土遺物は、柱掘形から山茶椀 (494~496)、ロクロ土師器皿 (481~487)、土師器皿 (488・489)・鍋 (490)の他、炭等がある。

SB85(第84図) C地区の南側で検出した3間×3間の総柱建物である。南北棟で棟方向はN10°Eをとる。建物規模は桁行、梁行ともに6.6m、柱間は桁間、梁間ともに2.2m等間である。柱掘形は、不整円形で、径0.2~0.5mとばらつきが見られる。検出面からの深さは、15~30cmを測る。

出土遺物が微細なため、時期決定に苦慮したが、 柱掘形の形状や規模、柱間の間隔などから判断して この時期の建物とした。

(3)土坑

SK31(第85図) D地区の中央やや北西寄りの位

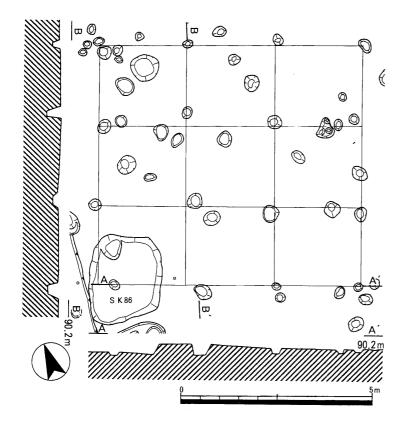
置で検出した。平面形は径1.2×1.0mの円形をなし、 検出面からの深さは約30cmを測る。坑底には人頭大 の川原石が複数検出された。川原石は中央付近にあっ て、自然に転落したとは考えにくい。また、出土遺 物は川原石によって押し潰された状態にある。こう した状況から川原石は土器を投棄した後、意図的に 投棄されたと考えられる。

出土遺物には、山茶椀(505)、山皿(503・504)、 ロクロ土師器皿(491~502)がある。

SK32(第86図) D地区の中央北西寄りの位置で 検出した。平面形は隅丸方形をなし、径約1.4m、検 出面からの深さは25cmを測る。

底面から山茶椀(506・507)が出土した。

S K 72 (第87図) C 地区で検出した掘立柱建物 S B 73の北側で重複する土坑である。平面形は、長軸



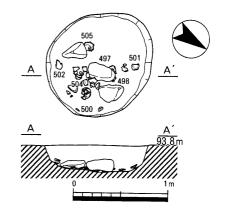
第84図 掘立柱建物 S B 85実測図 (1:100)

約2.5m×短軸約1.4mの不定形で、検出面からの深さは10cm前後と浅い。軸方向は長軸でN10°Eをとる。 底面でSB73の柱穴を検出した。埋土には多量の灰や炭が含まれており、SB74の厨房に関わる土坑と考えられる。

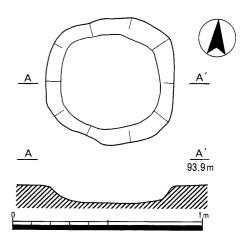
出土遺物は、山茶椀(515~516)、山皿(517)、耳皿(518)、ロクロ土師器皿(508~514)の日常雑器の他、藁の圧痕が残る粘土塊等が出土した。

SK74 (90図) C地区の北側で検出した掘立柱建物SB73に伴う土坑で、一般に「南東隅土坑」と呼ばれるものである。平面形は隅丸長方形をなす。規模は、長軸約6.9m×短軸3.7mである。検出面からの深さは全体に浅く、中央に向かって緩やかにへこむ程度で最深部分でも31cmにとどまる。

SB73の南東隅に位置し、建物の桁行方向に1.5間分、梁行方向に3間分を占める。南側3分の2には拳大から人頭大の川原石が集中して検出された。石の粗密の境は建物の梁行方向の南から2列目とほぼ一致するが、石の配置に規則性などは、特に認められない。



第85図 土坑SK31実測図(1:40)



第86図 土坑 S K 32実測図(1:40)

埋土は、黒色粘質土を中心に砂質の層が複雑に入り込み、埋没過程が短かったことが想像される。また、埋土中には、土器の他にタール質の塊や粘土塊、植物の種子が含まれる。

掘立柱建物に伴う南東隅土坑の性格については、 厨房説や厩説などがある。S K74の性格について科 学的な根拠を得るため、脂質分析と寄生虫卵分析を 行ったところ、分析結果は厩である可能性を示した が決定的なものではなく、S K74の性格について言 及するに至らなかった。

出土遺物は、土師器皿(519・520)・鍋(521)、 山茶椀(534~573)、小椀(527~529)山皿(530~533)、ロクロ土師器皿(522~526)、白磁片等の他、 土錘(576~578)が出土した。

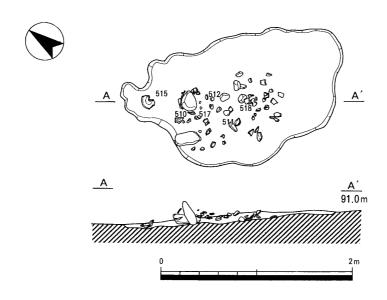
SK80(第88図) SH76の南東に位置する。平面 形は長軸約1.3m×短軸約1.0mの長楕円形をなす。 検出面からの深さは約41cmである。底面に拳大から 人頭大の川原石が多量に認められる。 SK86(第89図) C地区の東側で検出した掘立柱建物SB86と重複する土坑である。長軸約2.4m×短軸約1.9m、検出面からの深さ約5cm、平面形は長方形をなす。SB86との前後関係は、明らかにすることはできなかった。

遺物は、山茶椀片(574)が出土した。

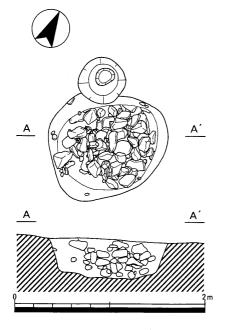
SK87 (第89図) C地区の東側のSK86に接する 位置で検出した。長軸約2.0m×短軸約1.4m、検出 面からの深さ約13cm、平面形が三角形に近い土坑で 第84図 掘立柱建物SB85実測図ある。 遺物は、 山茶椀 (575) が出土した。

【註】

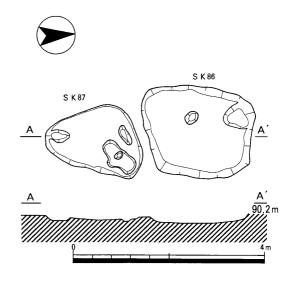
①寒川昭氏等の現地指導の際に御教示頂いた。



第87図 土坑 S K 72実測図(1:40)



第88図 土坑 S K 80実測図(1:40)



第89図 土坑 S K 86 · 87実測図 (1:80)



17 2.5Y2/2黒褐色シルト(炭・橙色土ブロック混)

第90図 土坑 S K 74遺物出土状況図(1:50)

^{3 10}YR4/3 にぶい黄褐色シルト(炭、橙色土ブロック混)

^{4 10}YR2/3黒褐色シルト(//) 5 10YR3/1黒褐色シルト(//)

^{6 10}YR2/3黒褐色シルト(/)

^{9 10}YR3/1黒褐色シルト(炭多い、橙色土ブロック混)

^{10 10}YR3/2黒褐色シルト

^{11 10}YR3/1黒褐色シルト

^{12 10}YR3/1黒褐色シルト(明黄褐色砂混)

^{15 10}YR4/3にぶい黄褐色シルト(炭、橙色土ブロック混) 16 2.5YR3/3暗オリーブ灰色シルト(炭・橙色土ブロック混)

遺構番号	規模(m) 東西×南北	棟方向	竈	主柱穴 東西×南北 (m)	貯蔵穴	周溝	出土遺物	時代	備考
S H76	5.0×5.2 6.2×6.4	N3°E	地床炉	4	地床炉	東西北	古式土師器	古墳前期	拡張
S H 1	6.6×6.8	N 4° E	北壁	2 2.45			須:杯身・蓋・高杯・壷・甕 土:甕	飛鳥	SH2に先行
S H 3	4.5×-	N 48° E		2 2.15				飛鳥	
S H 4	5.6×6.5	N 13° E	北壁				須:杯身・杯蓋・高杯・甕 土:甕	飛鳥	
S H 8	3.0×3.3	N 2° E		4 2.55×2.15	東壁北寄			飛鳥	
S H 9	4.0×7.2	N 3° W	東壁				須:高杯・壺 土:甕	飛鳥	
S H12	6.8×6.8	N 35° W	東壁	4 3.6	竈の対面		須:杯身・杯蓋・高杯・횷 土:甕・長胴甕	飛鳥	
S H13	6.0×6.2	E 16° S		4 2.9			須:髙杯	飛鳥	柱抜取?
S H19	4.7×5.3	N 13° E	東壁		-		須:横瓶 土:甕	飛鳥	SB14・SB20に先行
S H21	4.3×5.3	N 2° W	東壁					飛鳥	SH22・23に先行
S H 22	3.5×4.5	N 2° W	東壁					飛鳥	SII23に先行
S H26	4.2×-	N 13° W	1		北壁 東寄り		須:杯 土:甕	飛鳥	SB24・25に先行
S H36	5.3×5.8	N 41° E	東壁				須:杯・髙杯・瓶・鉢 土:甕	飛鳥~奈良	SB33・34・35 に先行
S H38	5.1×5.5	E 42° N		2 2.4				飛鳥	SH39に先行
S H39	4.5×6.5	N 39° E	北壁			4周	須:杯身・ハソウ・横瓶	飛鳥	SH40に先行 竈作り替
S H40	2.9×3.3	N39° E						飛鳥	
S H 43	4.2×5.8	E 42° N						飛鳥	SH44に先行
S H44	5.3×5.6	N 34° W	西壁	4 1.8			須:杯身・杯蓋・直口壷 土:甕・鍋	飛鳥	
S H45	6.2×6.2	N 30° W	北壁		竈の右脇		須:杯身 土:杯・鉢・甕・長 胴甕・鍋	飛鳥	SH46に先行
S H46	(4.5)×4.7	N 30° W	北壁		竈の左脇		須:杯身 土:甕	飛鳥	
S H 54	6.0×6.0	N 44° E	東壁	4 3.2×3.0	竈の右脇		須:杯身・杯蓋 土:甕	飛鳥	SB53・55・56 に先行
S H 66	5.3×-	N 21° W	北壁	4 3.0×3.1			須:杯蓋・甕 土:杯・甕	飛鳥	SH67に先行
S H67	4.0×6.0	N 4° E	東壁				須:杯身・杯蓋・颹・横瓶 土:平底甕	飛鳥	
S H 68	4.8×4.8	N 16° W	北壁	4 2.2			須:杯身・杯蓋・甕 土:甕	飛鳥	SH67に先行
S H69	3.0×3.5	E 35° N	東壁				土:長胴甕	飛鳥	
S H70	3.6×-	W 8° N		2 2.25				飛鳥	
S H71	-×-				北東隅			飛鳥	
S H83	5.2×5.2	N 16° E	北壁	4 2.8×2.5	竈の右脇	4周(南半浅い)	須:杯身 土:甕	飛鳥	
S H 2	3.3×3.1	N 21° E					陶:山茶椀・小椀	平安~鎌倉	
S H23	4.4×6.2	N 3° E					土:鍋 ロクロ土:皿 陶:山茶椀・小椀	平安~鎌倉	

表 2 竪穴住居一覧

遺構番号	規模(間) 梁行×桁行	梁行 (m)	桁行 (m)	梁間 (m)	桁間 (m)	棟方向	柱掘形	出土遺物	時 代	備考
S B 14	3×6	4.8	12.6	1.6	2.1	N 9° E	略方	須:杯身 土:甕	飛鳥~奈良	
S B 15	2×4	3.6	4.8	1.8	1.2	E 12° S	不整円		飛鳥~奈良	
S B 16	2×3	4.2	5.2	2.1	1.3+2.6+1.3	E 7° S	不整円		飛鳥~奈良	
S B 17	2×5	3.4	7.5	1.7	1,5	E 36° S	方、円	須:杯身・高杯	飛鳥~奈良	
S B 18	3×3	(4.6)	(4.9)	1.7+1.7+1.2	1.7+1.7+1.5	E 20° S			飛鳥~奈良	総柱 東西庇?
S B 20	3×4	4.2	6.4	1.3+1.6+1.6	1.3+1.9 +1.9+1.3	E 26° S	不整円	土師器片	飛鳥~奈良	
S B 24	2×2	3.4	3.4	1.7	1.7	N 9° E	円	須:甕	飛鳥~奈良	総柱
S B 25	2×2	3.6	3.6	1.8	1.8	N 8° E	円		飛鳥~奈良	総柱
S B 27	2×2	3.4	4.2	1.7	2.1	N 27° E	不整円		飛鳥~奈良	
S B 28	2×2	3.4	4.2	1.7	2.1	N 54° W	不整円		飛鳥~奈良	
S B 29	2×2	3.2	4.6	1.6	2.3	N 2° E	不整円		飛鳥~奈良	
S B 30	2×3	3.2	5.2	1.6	1.4+2.1+1.7	E 20° S	円		飛鳥~奈良	総柱
S B 33	2×4	4.0	5.6	2.0	1.2+1.6 +1.6+1.2	E 25° S			飛鳥~奈良	SB30、SK32と重複
S B 34	2×4	4.0	6.2	2.0	1.6	E 18° S	円		飛鳥~奈良	SB35と重複
S B 35	(1)×(3)	(1.3)	(4.8)	1.3	1.6	N 17° E	円		飛鳥~奈良	
S B 37	2×3	2.6	4.8	1.3	1.6	N 32° E	円		飛鳥~奈良	
S B 41	3×5	5.7	10.5	2.1+1.5+2.1	2.1	N 12° E	略方		飛鳥~奈良	
S B 47	2×-	1.7	-	1.7	_	N 43° E	不整		飛鳥~奈良	
S B 48	1×1	2.4	2.5	2.4	2.5	W 34° N	円		飛鳥~奈良	
S B 49	1×1	2.5	3.0	2.5	3.0	W 8° N	円	須:杯蓋 土:甕	飛鳥~奈良	
S B 50	2×2	3.4	4.2	1.7	2.1	E 34° S	隅丸方		飛鳥~奈良	
S B 51	3×4	4.2	6.4	1.3+1.6+1.3	1.6	N 37° W	不整		飛鳥~奈良	SB52と重複
S B 52	(2)×(2)	(3.2)	(3.6)	1.6	1.8	E 42° S	隅丸方	須:杯身	飛鳥~奈良	SB51と重複
S B 53	3×3	4.0	5.1	1.4+1.2+1.4	1.5+2.1+1.5	E 43° S	Ħ		飛鳥~奈良	
S B 55	2×2	3.2	3.2	1.6	1.6	N 31° W	円		飛鳥~奈良	総柱
S B 56	2×2	3.0	3.2	1.5	1.5	N 38° W	円		飛鳥~奈良	総柱
S B 57	2×2	2.8	3.4	1.4	1.7	E 44° S	不整円	須:杯蓋 土:甕	飛鳥~奈良	総柱
S B 58	2×3	3.2	4.5	1.6	1.5	E 10° S	円		飛鳥~奈良	総柱
S B 59	2×2	2.8	3.1	1.4	1.55	E 37° S	円	須:杯身 土:甕	飛鳥~奈良	総柱 SB60に先行
S B 60	2×3	3.2	3.6	1,6	1.2	N 19° W	円	須:杯身	飛鳥~奈良	SB59と重複
S B 61	2×2	3.1	3.1	1.55	1.55	E 24° S	円、隅丸方	土:甕	飛鳥~奈良	
S B 62	2×2	2.8	3.1	1.40	1.55	E 31° S	不整円		飛鳥~奈良	総柱 棟持構造?
S B 63	3×3	4.5	5.6	1.6+1.6+1.4	1.7+2.3+1.7	E 31° S	隅丸方	須:杯蓋	飛鳥~奈良	SB62と重複
S B 64	2×3	3.6	4.8	1.8	1.7+1.4+1.7	N 2° E	不整円	土:甕	飛鳥~奈良	
S B 65	2×2	3,0	3.6	1.5	1.8	N 3° E	円	須:杯身 土:甕	飛鳥~奈良	総柱

表 3 掘立柱建物一覧(1)

遺構番号	規模(間) 梁行×桁行	梁行 (m)	桁行 (m)	梁間 (m)	桁間 (m)	棟方向	柱掘形	出土遺物	時 代	備考
S B77	2×2	2.9	3.1	1.5	1.6	N 36° W	H		飛鳥~奈良	総柱 SH76と重複
S B 78	2×2	3.0	3.0	1.5	1.5	N 38° W	円		飛鳥~奈良	総柱 SH76と重複
S B80	2×2	3.2	4.2	1.6	2.1	N 13° E	円		飛鳥~奈良	総柱
S B81	3×4	4.2	6.4	1.3+1.6+1.3	1.3+1.9 +1.9+1.3	N 15° W	円		飛鳥~奈良	
S B 82	2×2	3.6	4.2	1.8	2.1	N 1°E	円		飛鳥~奈良	総柱
S B84	2×4	3.8	5.0	1.9	1.3+2.4+1.3	N 9° W	円		飛鳥~奈良	
S B73	5×4	9.6	12.6	2.4	2.4 + 2.55 + 2.55 + 2.55	E 8° S	円	陶:山茶椀 土:皿・ 鍋 ロクロ土:皿	平安~鎌倉	総柱
S B 85	3×3	6.6	6.6	2.2	2.2	N 10° E	円		平安~鎌倉	

表 4 掘立柱建物一覧(2)

遺構番号	規模(m) 長軸×短軸	深さ(cm)	平面形態	出土遺物	時 代	備考
S K41	13.0×1.2~3.1	15~30	不整長方形	須:杯身・杯蓋・壷 土:長胴甕 ガラス小玉	飛鳥・奈良	SB41に並行 小土坑の集合?
S K31	1.2×1.0	30	円形	陶:山茶椀・山皿 ロクロ土:皿	平安~鎌倉	
S K32	1.4×1.4	25	隅丸方形	陶:山茶椀	平安~鎌倉	
S K 72	2.5×1.4	10	不整形	陶:山茶椀・山皿・耳皿 ロクロ土:皿	平安~鎌倉	SB73に伴う厨房?
S K74	6.9×3.7	31	隅丸長方形	陶:山茶椀・小椀・山皿 土:皿・鍋 ロクロ土:皿 土錘	平安~鎌倉	SB73に伴う南東隅土坑 厩?
S K80	1.3×1.0	41	長楕円形	礫	平安~鎌倉	
S K86	2.4×1.9	5	三角形	陶:山茶椀	平安~鎌倉	
S K87	2.0×1.4	13	方形	陶:山茶椀	平安~鎌倉	

表 5 土坑一覧

遺構番号	長 (m)	幅 (m)	深さ(cm)	出土遺物	時 代	備考
S D75	28	3.2~5.0	70	古式土師器	古墳	
S D 5	29.5	5.5~6.0	100	須恵器・土師器・鉄製品	飛鳥・奈良	
S D10	34	8.0~10.0	90	須恵器・土師器・山茶椀 ・鉄器・銀環	飛鳥~鎌倉?	地震痕跡らしき堆積
S D11	25	3.0~5.0	90	須恵器・土師器・山茶椀	飛鳥~鎌倉?	

表 6 溝一覧

V. 遺 物

遺物は、整理箱148箱分が出土した。時期的には、 縄文時代、古墳時代前期、飛鳥・奈良時代、平安・ 鎌倉時代があり、中心となるのは、飛鳥・奈良時代 である。

1 古墳時代

主に本屋敷式並行段階の遺物が、C地区の北寄りの範囲に限定して出土した。

SH76出土遺物 (1~7)

古式土師器 高杯(1)は北東の周溝付近から杯部 のみ出土した。口縁部は杯底部からわずかに屈曲し て立上がり、直線的に延びる。内外面にミガキを施 す。

鉢(2・3)の体部は丸く、口縁部はS字状に屈曲して斜め外方に延びる。3は偏平な体部から口縁部が 大きく開く。内外面に斜め方向の丁寧なヘラミガキを施す。

瓢壷(4)は、球形の体部の内外面にヘラミガキ

を施す。

壷(5)は、口縁部のみ残る。やや外反気味に延び、内面に横方向、外面に縦方向の荒いヘラミガキ 調整が施される。

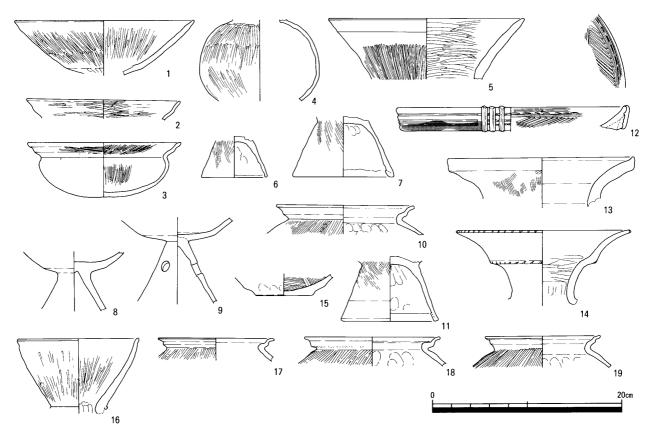
S字状口縁台付甕(6・7)の脚台部は端部を内側に折り曲げる。この他に2個体分の破片が確認されている。

S D 75出土遺物 (8~15)

古式土師器 高杯(8・9)の杯底部は平坦で、口 縁部との境は屈曲が見られる。9は三方向に円形の 透孔が見られる。

S字状口縁台付甕は口縁部(10)と脚台部(11)がある。口縁部は斜め外方へ突出する。

壷は、広口壷(12・13)と二重口縁をなす(14)がある。12は、所謂パレス壷で、口縁端部に粘土を貼り付け面をつくる。面には3条の擬凹線文を巡らし、3本1対の棒状浮文を張り付ける。内面には爪型文と斜線文を施す。外面には赤彩が残る。13は、



第91図 出土遺物実測図(1)(1:4)

口縁端部外面に垂直な面をもつ。口頸部外面に縦方向のハケメが残る。14は、口唇部と有段部にキザミを施し、一次口縁内面に横方向のヘラミガキが施される。

Pit出土遺物(16~19)

古式土師器 ピットからは瓢壷(16)やS字状口縁台付甕(17~19)が出土しているが、いずれも柱穴埋土に混入したものと考えられる。16は内弯気味に延びる口縁部で、内外面に縦方向のヘラミガキを施す。S字状口縁台付甕は、山田編年のB類に相当する。17・18は口頸部が肥厚する。

2 飛鳥・奈良時代

SH1出土遺物(20~34)

須恵器 杯蓋 (20~23) は、かえりの付くもの (20~22) と口縁端部を下に折り曲げるもの (23) がある。20は、天井部に偏平なつまみが付く。

杯身(24~26)は口径11.8~12.6cm、24は、無高台の平坦な底部から口縁部が外方へ延びる。口縁端部をヨコナデし、底部外面はヘラ切りの後、粗いナデで仕上げる。

高杯(27)は、方形透かしの痕跡が残る。

28は、細頸壷の口縁部と考えられる。口縁端部を下垂させ、下位に稜を巡らせる。

甕(29)は、口縁外面に稜と2条1対の沈線によって2段に区画された中に刺突斜線列が施される。口 縁端部は強い内傾し、外側に面をもつ。

土師器 甕は小型甕(30・31)、中型甕(32・33)、 平底甕(34)がある。30は、体部に比べ口径が大きい。口頸部外面は強いナデにより段をなす。口縁部は外反して外上方に開き、端部をつまみ出して外面は凹面状をなす。口縁部内面をヨコハケ、体部外面をタテハケ、内面を板状工具によるナデを施す。31は、口縁端部が内傾し、外側に狭い面をもつ。32は、外反して延びる口縁部の端部をヨコナデした後、板状工具で外側に面をつくるため、口縁端部外面にハケメ状の痕跡が残る。31・32は、口縁部内面に横方向のハケメが残る。33は、体部から「く」字状に口縁部を折り曲げ、口縁端部はヨコナデを施し尖り気味に延びる。体部内外面に斜め方向のハケメを施す。34は、底部のみ残る。平坦な底部は窪み、外面には ハケメが施される。

SH4出土遺物(35~55)

須恵器 杯蓋にはかえりの付かないもの (35)、かえりの付くもの (37)、口縁端部を下方に折り曲げる (38) ものがある。37は、口径9.0cm、かえりは口縁端部より内側におさまる。天井部は回転ヘラケズリが施される。

36は、壷の蓋とも考えられる。口縁端部はやや肥厚し、内側に面をもつ。天井部は丁寧に回転ヘラケズリを施す。

杯身は(39・40)がある。39は、口径12.0cm、立ち上がりはほぼ垂直で受け部の付け根に沈線が巡る。40は、口径12.0cm、口縁端部がわずかに肥厚する。 底部外面はヘラギリ後ナデで仕上げる。

高杯(41)は、脚柱部に2条の沈線が巡り、透か しをもたない。

甕(42)は、口縁端部が肥厚し、断面方形をなす。 外面は強いナデにより凹面状をなす。体部外面にタ タキ後カキメを施す。

土師器 甕は(43~55)がある。口縁部は外反し、端部内側にヨコナデを施すことで凹面状に窪ませ、つまみ上げは顕著ではない。調整は口縁部をヨコナデし、体部外面にタテハケ、内面にヨコハケを施す。51は、体部外面をタテハケの後、下半をケズリ調整する。内面は横方向のハケメを施す。55は、大型で口径31.0cmである。

長胴甕(54)は、体部外面に3段以上のタテハケ、 内面は口縁部、体部ともにヨコハケを施す。

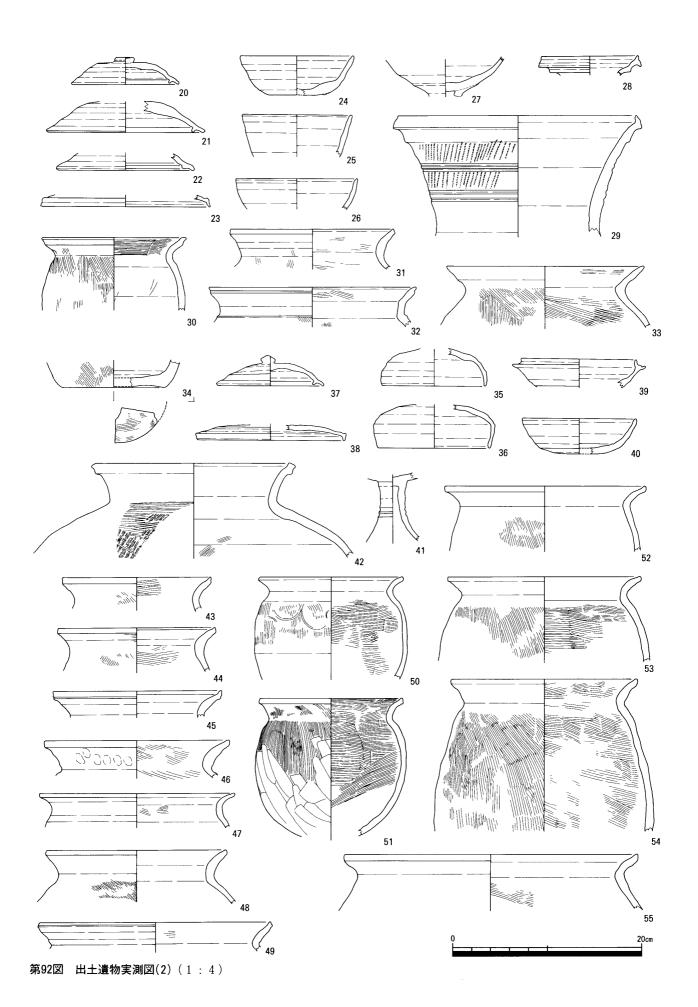
SH9出土遺物(60~67)

須恵器 平瓶 (60)、高杯 (61)、有台壷の台部 (62) がある。61は、脚柱部に沈線が巡り、無透かしであ る。

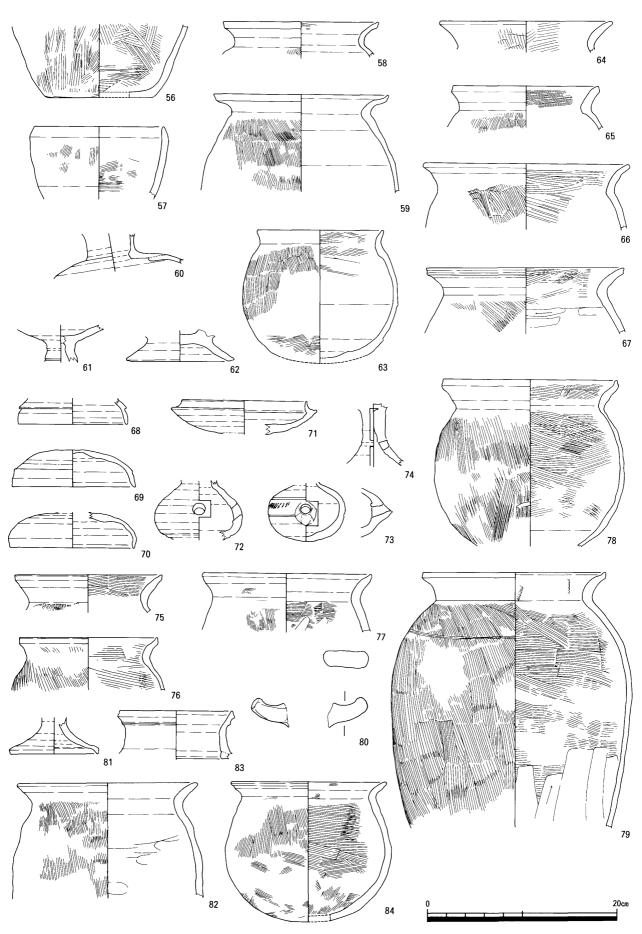
土師器 甕は(63~67)がある。63は、短い口縁がほぼ垂直に延びる。64~67は、口縁部が外反するが端部のつまみ上げは顕著でない。調整は、内外面ともにハケメを施す。67は、体部内面のハケメをナデ消す。

S H12出土遺物(68~80)

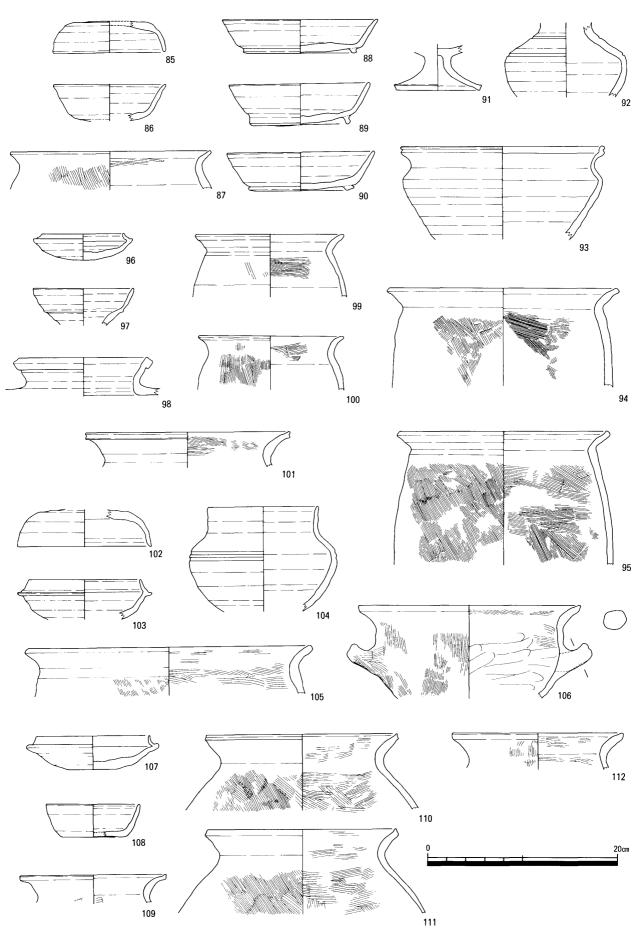
須恵器 杯蓋は (68~70) がある。68は、天井部と 口縁部との境に明瞭な稜をもつ。69は、天井部と口 縁部との境の稜を凹線状の窪みを巡らすことでつく



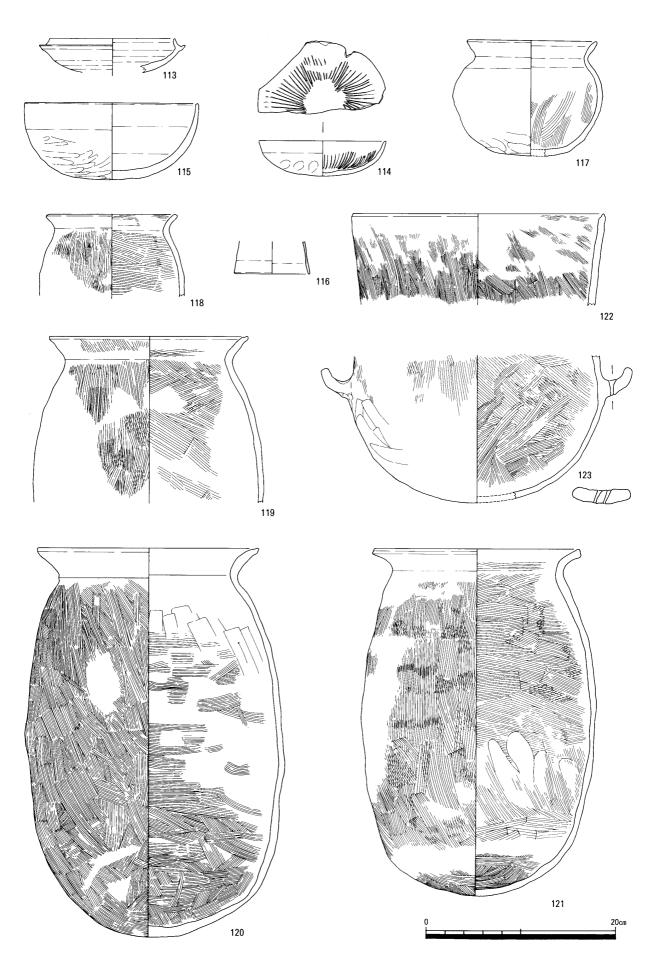
— 55 —



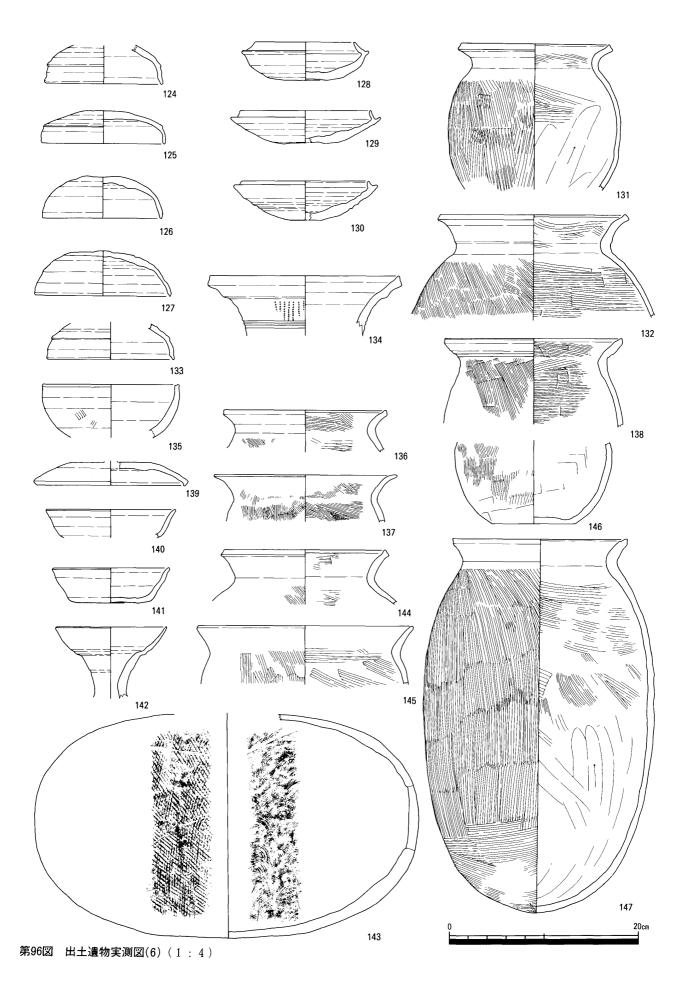
第93図 出土遺物実測図(3)(1:4)



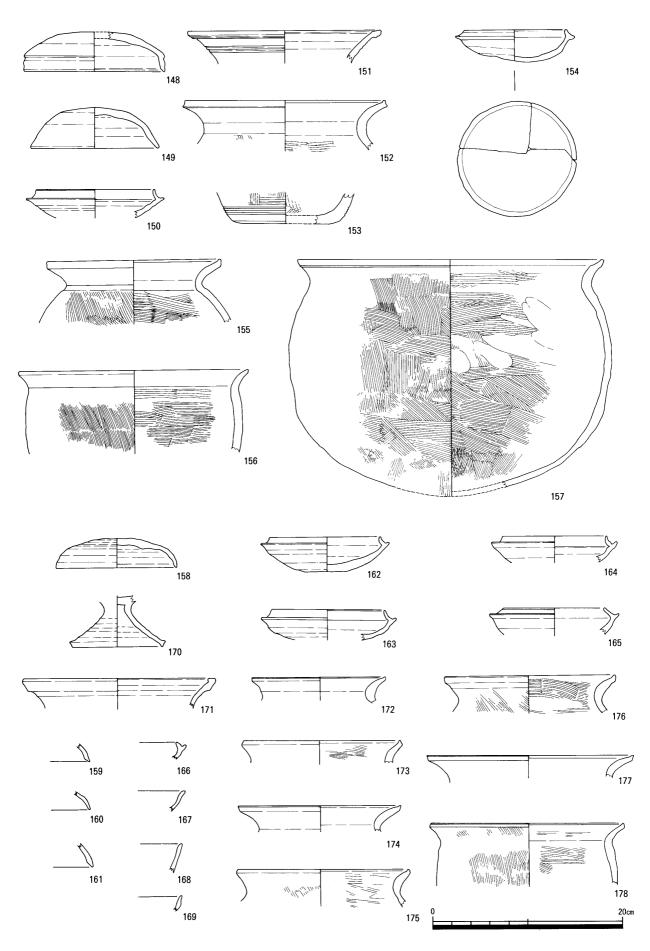
第94図 出土遺物実測図(4)(1:4)



第95図 出土遺物実測図(5)(1:4)



--- 59 ---



第97図 出土遺物実測図(7)(1:4)

りだす。口縁端部内面に面をもつ。回転ヘラケズリ 調整は天井部の1/2の範囲に施す。70は、口縁端部 を強くヨコナデする。

杯身(71)の受け部は短く、立ち上がりは短く垂直に延びる。

高杯(74)は、脚柱部に長方形の透かしが2段施される。上段の透かしの下端の位置に沈線が巡る。

腿は (72・73) がある。72は最大径が体部下位に 位置する。円孔が体部中央に穿たれる。底部は回転 ヘラケズリ調整を施す。73は、体部に 2条の沈線が 巡り、その間に刺突による斜線文が施される。円孔 が穿たれ、注口は上向きに突出する。

土師器 75~77の甕は口縁部が外反し、端部外側に面をもつ。76は、端部内面がヨコナデにより凹面をなす。77は、口縁端部をつまみ上げ、体部外面にススが付着する。

長胴甕 (79) は口縁部をヨコナデし、体部外面を 4段以上のタテハケ、内面上位をヨコハケ、下位を ヨコハケ後ケズリ調整する。肩部外面に横位のハケ メがみられる。

80は、把手である。

SH13出土遺物(81·82)

須恵器 高杯 (81) の脚部はラッパ状に開き、端部を下方に折曲げる。

土師器 長胴甕 (82) は、口縁端部を丸くおさめる。 体部外面に縦方向のハケメ、内面にケズリ調整を施 す。

SH19出土遺物(83·84)

須恵器 83は、横瓶の口頸部である。口縁端部は外面に面をもち、端部下位に稜が巡る。内外面に自然 釉が付着する。

土師器 甕(84)は、球形の体部外面上位を縦方向、下位を斜め方向のハケメ調整する。内面は上位を横方向、底部を不整方向にハケメ調整する。中程が肥厚する口縁部は「く」字状に折曲がり、端部外面に沈線が巡る。

SH22出土遺物(85~87)

須恵器 杯蓋の(85)は、平坦な天井部をヘラ切り 後、粗いナデで仕上げる。

杯身(86)は、直線的に延びる口縁部の端部がヨコナデにより外反する。

土師器 甕(87)は、短く外反する口縁端部の内面はヨコナデにより凹面状をなす。

SH36出土遺物(88~95)

須恵器 杯身 (88~90) は、口径14.8~16.2cmで高台を有する。高台は底部と口縁部との境より内側に付けられ、口縁部は直線的に立ち上がる。高台の接地面は内側である。89は、底部が高台より下に突出する。89・90は、底部と口縁部との屈曲が弱い。

高杯(91)は、短脚で、脚柱部は杯部から垂直に 延びた後、大きく開く。脚端部外側に面をもつ。

壷(92)は、偏平な体部をもち、口頸部と肩部直上に沈線が巡る。

鉢(93)は、大きく肩の張る体部から屈曲した口 縁部が外反して延びる。口縁端部は、凹面状に面を なす。

土師器 94・95の長胴甕は、外反気味に延びる口縁の端部内側に凹面状をなし、外側は面をもつ。調整は口縁部をヨコナデ、体部外面に斜め方向、内面に横方向のハケメを施す。

SH39出土遺物 (96~101)

須恵器 杯身(96)は、口径8.4cm、短い受け部をも ち、立ち上がりは短く内傾する。

璲(97)の口縁部は頸部から屈曲して稜をなし、 内弯気味にのびる。

横瓶 (98) の口縁端部は断面方形をなし、上端に ヨコナデを施す。体部内面に同心円状の当て具痕が 残る。

土師器 甕は(99~101)がある。99・100は、外反する口縁部の端部を丸く仕上げる。101は、口縁端部を強くヨコナデするため、端部は上方につまみ上げられ内側は凹面状をなす。

SH44出土遺物(102~106)

須恵器 杯蓋(102) は、平坦な天井部からやや開き気味の口縁部が延び、口縁端部内側に面をもつ。

杯身(103)の受け部は短く立上がりは内傾する。 壷(104)は、口縁部が垂直に立上がり、体部に 2条の沈線が巡る。底部外面に回転ヘラケズリを施 す。

土師器 甕は(105)がある。短い口縁部を緩やかに外反させ、端部に面をもつ。

把手付甕(106)は、体部に比べ口径が広い。棒

状の把手は断面が楕円形で、体部に差込んで取り付けられる。調整は体部外面をタテハケ、内面をヨコハケの後横方向のケズリで仕上げる。

SH45出土遺物(113~123)

須恵器 杯身(113)の受け部はやや上向きで、立ち上がりは内傾し、端部内側に面をもつ。

土師器 皿(114) は精緻な胎土で内面に放射暗文が施される。口縁端部をヨコナデし、体部外面をユビオサエ後ナデ、内面をナデ調整する。

椀(115)の口縁部は内弯する。体部外面に横方 向のケズリを施す。

116は、器壁が非常に薄く、器種不明である。全体が比熱し、支脚の可能性もある。

甕は(117・118)がある。117は、体部が球形で口縁端部は肥厚し、丸く仕上げる。調整は体部外面をケズリ、体部内面を粗くハケメ調整する。体部外面はススが付着する。底部は、熱を受けて炭化する。118は、口縁部が緩やかに外反し、端部外側に面をもつ。

長胴甕(119~121)は、口縁端部のつくりが異なる。119は、内面に沈線が巡る。120は、ヨコナデを施し、外側に狭い面をもつ。121は、やや肥厚し、外側に沈線の巡る面をもつ。調整はいずれも体部外面をタテハケ、内面にヨコハケを施す。120は内面上位に、121は内面下位にタテハケの後ケズリを施す部分が見られる。

甑(122)の胎土は精緻で焼成も良好である。口 縁端部内面に段をなし、調整は内外面とも丁寧なハ ケメを施す。

把手付甕(123)は、2箇所に穿孔を施した偏平な把手が付く。調整は体部外面にタテハケ、内面上位に左上がり、下位を右上がりのハケメを施す。また、把手は張り付けた後、ケズリを施す。

SH46出土遺物(107~112)

須恵器 杯身は(107·108)がある。107は、短い受け部の端部を丸く仕上げ、立上がりは垂直にのびる。108は、口縁部が平坦な底部から強く屈曲し内弯気味にのびる。

土師器 甕は(109~112)がある。109は口縁部が 大きく外反し、端部を上方につまみ上げる。 110・ 111は、長胴甕で緩やかに外反する口縁の端部は上 方につまみ上げられ、外面に面をもつ。

SH54出土遺物(124~132)

須恵器 杯蓋は(124~127)がある。天井部と口縁部との境に明瞭な稜を有する。また、124は、口縁端部に段をもち、外方に開く。125は、天井部が偏平で、ヘラ切り後ナデ調整する。127の天井部はヘラ切り後、粗いナデを施す。126は、ヘラ切り後ナデ調整する。

杯身は(128~130)がある。128は、短く上向きの受部に立上がりは内傾する。底部の調整はヘラ切り未調整である。129は、器高が浅く、立上がりは内傾気味である。130の立上がりは短い。129・130は、ともに底部をヘラ切り後ナデ調整する。

土師器 甕 (131) は、球形の体部をもつ。口縁端部はヨコナデによって内側が凹面状をなし、外側に面をなす。調整は口縁部をヨコナデ、体部外面をタテハケ、内面上位をヨコハケ、下位にケズリを施す。

長胴甕 (132) は、口縁端部をつまみ上げ、端部外側に面をなす。口縁部内面に荒いハケメが残る。

SH66出土遺物(133~138)

須恵器 杯蓋(133) は、天井部と口縁部との境に 稜を有し、口縁端部内面に段をなす。

甕(134)は、口頸部に2条の沈線が巡り、その 上位に刺突文が施される。

土師器 鉢(135)の口縁端部は、平坦に仕上げられる。体部外面に荒いハケメが残る。

甕は(136~138)がある。136は、外反する口縁部の端部を上方につまみ上げる。137は、口縁部を強く外反させ、外方に開く。端部は尖り気味に仕上げる。138は、口縁部が肥厚し、口縁端部内面に凹面をもつ。口縁基部に沈線が巡る。

SH67出土遺物(148~153)

須恵器 杯蓋は(148・149)がある。148は、天井部と口縁部との境に稜を有する。口縁部は天井部から垂直にさがり、口縁端部に段をなす。149は、丸い天井部から緩やかに口縁部がのび、端部はやや外反する。

杯身(150)の受部は尖り気味で、立上がりは内 傾気味である。

甕(151)は、口頸部外面に2条の沈線が施される。口縁端部は、断面長方形で上端は凹面をなす。

土師器 甕は、口縁部(152)と底部(153)がある。 152は、外反する口縁部の端部を上方につまみ上げる。153は、平底で、底部外面にヨコハケが見られる。内面はナデ調整である。

SH68出土遺物(139~146)

須恵器 杯蓋(139) は、平坦な天井部に偏平なつ まみが付く。口縁端部は下方に折り曲げられる。

杯身(140・141)は、底部から直線的に口縁部が のび、口縁端部をやや外反させる。

題(142)は、口頸部のみ残る。口頸部と口縁部 との境に段をなし、口縁部は内弯気味に開く。

横瓶(143)は、体部外面に格子タタキ、内面に 同心円状の当て具痕が残る。

土師器 甕は(144~146)がある。144は、口縁端部に明瞭な面を有する。145は、口縁部が「く」字状に折れ曲がり、口縁端部を丸く仕上げる。146は、平坦な底部をもつ。体部外面にタテハケ、内面に横方向のケズリ、底部外面に横方向のケズリを施す。

SH69出土遺物(147)

土師器 長胴甕(147) は、口縁部が肥厚し、口縁端部に明瞭な面をもつ。調整は体部外面上位に5段のタテハケ、下位にヨコハケを施す。内面は上位をヨコハケ、下位を縦方向のケズリで仕上げる。

S H83出土遺物(154~157)

須恵器 杯身(154)は、短い受部をもち、立上が りも短く内傾する。底部はヘラ切りの後、回転ヘラ ケズリを施す。

土師器 甕は(155~157)がある。155は、口縁部を外反させ、口縁端部をつまみ上げる。156の口縁部は短く外反し、口縁端部外面に面をなす。157は、偏平な体部から口縁部は外反してのび、口縁端部内側はヨコナデによって凹面状をなし、、外側に面をもつ。調整は体部外面をタテハケの後、一部にヨコハケを施し、内面もヨコハケの後、上位は横方向のケズリを施す。

SF6出土遺物(56)

土師器 56は、平底の甕の底部である。内外面ともハケメ調整する。

SF7出土遺物(57~59)

土師器 57は、鉢である。やや内弯する口縁の端部 をヨコナデする。58・59は、甕である。59は、口縁 部が大きく開き、端部内面が凹面状をなす。

掘立柱建物出土遺物(158~178)

掘立柱建物からは、須恵器杯身・杯蓋・高杯、土 師器甕が出土している。

須恵器 杯蓋(158~161)は、158以外は小片のみである。いずれもかえりが付かないタイプである。 158は、平坦な天井部から口縁部は丸みを帯びて短く延び、口縁端部は内側に面をもつ。

杯身は、受け部をもつ($162\sim166$)と、受け部をもたない($167\sim169$)がある。受け部は上向きで、端部を丸くおさめる。 $167\sim169$ は小片のため、蓋の可能性もある。

高杯(170)は、端脚で杯部から大きく「ハ」字状に開く。脚端部は外側に面をもつ。

甕(171)は、口縁端部が肥厚し、内側の折り曲 げられる。

土師器 甕 (172~178) は□縁端部をつまみ上げる。 SD5出土遺物

(1) I層(179~191)

須恵器 杯蓋は (179~181) がある。179は、天井部から口縁部は真直ぐに下に延び、口縁端部内側に面を有する。180・181は、天井部からそのまま丸みをもって口縁がのびる。180は、口縁端部を強くヨコナデする。179・180は、ヘラ切り後ナデ調整する。杯身 (182) は受部が短く、立上がりは内傾する。 腹 (183) は、体部に2条の沈線が巡り、その間に刺突文が見られる。底部外面はロクロケズリする。 提瓶 (184) は、体部にカキメが施され、左右の肩には環状の把手が付く。

横瓶(185)は、口頸部内面に接合痕が残る。口 縁部は体部に垂直に取付けられ、内側にわずかな段 をなす。

土師器 甕は(186・187)がある。187は、口縁部が「く」字状に折曲がり、口縁端部上端に面をもつ。 186は、口縁端部を上方につまみ上げる。

鉄製品 鉄鏃 2 点、(188・189)、鎌 1 点 (190) がある。

(2) Ⅱ層 (191~264)

須恵器 杯蓋は (191~206) がある。191~201は、 かえりの付かない古墳時代タイプである。丸い天井 部から口縁部がのび、明確な稜はなさない。口径8.6 ~10.4cmの小型のもの(191~194) と口径12.1~14.0 cmの大型のもの(195~199) がある。202~205は、 天井部につまみが付き内面にかえりがある。204を 除いて、かえりは稜の内側におさまる。206は、天 井部につまみが付き口縁端部を折り曲げる。口径に 対し大きいつまみが付く。

杯身は(207~221)がある。207~211は、受部が立上がる古墳時代タイプものである。口径9.6~15.8 cm。210の立ち上がりは短く、内傾する。212~216 は、無高台である。口径が小さく底部に丸みをもつ。口縁部はやや外反する。212の口縁部は、高台の付かない平坦な底部から斜め外方に直線的に延び、端部付近でやや外反する。217~221は、口径が大きく底部に高台が付く。217~220の高台は底部と口縁部との境より内側に付けられる。220・221の高台は内弯する。

高杯(222~226)の杯部は、丸い(222)と、底部と口縁部との境に稜をなす(223·224)がある。 脚台部に透かしはみられない。225は、脚台端部を下方に折曲げる。

聴は(227・229)がある。230は、偏平な体部に 2条の沈線が巡り、下位の沈線の位置に円孔が穿た れる。口縁部(227)は、口頸部から屈曲し、外反 して開く。

細頸壷(228)は、肩部に沈線が巡り、その下位 に波状文が施される。底部には台が付く。

提瓶 (230) は、頸部から体部上半の破片である。 頸部には2条の沈線が巡る。231は、提瓶の把手である。

232~234は瓶類の、235~237は横瓶の口頸部である。237は、体部外面にタタキ、内面に板状工具によるナデを施す。

短頸壷(238)は、沈線の巡る肩が強く屈曲し頸 部は垂直に延びる。

239・240は、台付壷の高台である。239は、方形 の透かしが施される。

甕(241)の口縁部は外反して大きく開き、端部は断面三角形をなす。調整は、体部外面に平行タタキを施し、内面には無文の当具痕が残る。

土師器 皿(242) は、平坦な底部から口縁部が内 弯気味に延びる。口縁端部に面をもち、沈線がみら れる。底部内面に放射暗文が施される。

甕は(243~256)がある。243・244・249は口径の広い口縁部が体部から直線的に延び、口縁端部は失り気味につくられる。247・255は、口縁端部外側に凹面状をなす広い面を有する。248・251の口縁部は、端部付近で屈曲する。250の口縁部は、直線的に立ち上がる口頸部から外反して開く。

把手付甕(257)は、口頸部に2条の沈線が巡る。 口縁端部は上方につまみ上げて、面をもつ。口縁部 をヨコナデ、体部は内外面とも縦方向のハケメを施 す

258・259は、甕の把手である。

土製品 土錘 (260・261)、知多式製塩土器 (262・263) の脚部が残る。

(3) Ⅲ層 (264~396)

須恵器 杯蓋はかえりの付かない(264・265)とかえりの付く(266~268)、口縁端部を下方に折り曲げる(269・270)がある。264は、天井部と口縁部との境に稜をもち、265は、沈線を巡らす。265は、口縁端部内面にも沈線がみられる。266~268は、口径11.6~13.6cm、頂部にやや偏平なつまみが付く。かえりは口縁端部より内側におさまる。269は、口縁端部を下方に折り曲げ、外側に面をもつ。

杯身は(271~278)がある。272~274の立ち上がりは長く、わずかに内傾する。受け部は短く上方を向く。271・275~277の立ち上がりは短く内傾する。受け部はほぼ水平に延びる。279は、無高台の杯である。底部外面は回転ヘラケズリ調整する。

280は、有蓋高杯、281・282は無蓋高杯の杯部である。283は、高杯の脚部である。2段透かしが施されるが、上段の透かしは貫通しない。沈線が2条巡る。279は、無蓋高杯の杯部と考えられる。

284は、長頸壷の口頸部である。沈線が2条巡る。 横瓶(285)は口頸部のみ残る。口縁端部外面に 面をもつ。

287は、フラスコ瓶の胴部である。

甕は(288・289)がある。288は、口縁部のみ残る。焼成不良で淡黄色を呈する。口縁端部は上端に面をもつ。289は、口縁端部が断面三角形をなす。 体部外面に平行タタキを施し、内面には同心円状の当て具痕が残る。 土師器 杯(290)は、赤褐色を呈する。口縁端部をヨコナデし、体部内面に放射状暗文を施す。

甕(291~394)は、球形の体部から口縁部が外反して延びる。291・294は、口縁部の端部を上方につまみ上げる。292・293は、口縁端部内側にヨコナデを施し、凹面状をなす。調整は、体部外面をタテハケ、内面をヨコハケである。また、口縁部にも横方向のハケメが残る。

295は土錘、296は鉄鏃である。

(4) IV層 (297~372)

須恵器 杯蓋は、かえりの付かないもの(297~304)、かえりの付くもの(305~312)、口縁端部を下方に折り曲げるもの(313)がある。297~304は、口径11.4~12.8cm、器高3.5~4.2cmである。297は、天井部と口縁部との境に明瞭な稜をもつ。300・303・304は、口縁部内面に段をもち、かつ面をなす。天井部の調整は回転ヘラケズリを施す。305は、平坦な頂部に擬宝珠型のつまみが付く。306は、偏平なつまみが付く。306~311にも同様のつまみが付いていたと考えられる。307以外はかえりが口縁部の内側におさまるか、口縁端部と同一線上にある。309~311は、口縁端部が肥厚し、丸く仕上げられる。

杯身は、立ち上がりをもつもの(313~323)、無高台のもの(324)、高台の付くもの(325~328)がある。313~316は、口径9.2~12.2cmで立ち上がりが高く、端部内面に面をなす。受け部は短く、上方を向く。321・322は口径に対して器高が高く、立ち上がりが短い。323の受部端部は,意図的に打ち欠かれた可能性がある。324は、口径11.0cm、器高4.1cm。丁寧にヘラケズリされた底部から口縁部が直線的に延びる。蓋の可能性もある。有台杯(325~328)は、「八」字形に開く断面方形の高台を有する。325~327は、外端で接地する。腰部の屈曲は強く、口縁部は直線的に延びる。底部は回転ヘラケズリ調整する。328は、内弯する口縁部の端部をヨコナデする。高台端部外面に面をもち、内端で接地する。

高杯(329~333)の330は、長脚高杯で脚部中央に2条の沈線を施し、方形の透かしを2段施す。脚端部上位に稜が巡る。331は、短脚で杯部から「ハ」字状に延びる脚部は端部近くで下方に屈曲し、脚端部内側で接地する。

聴は(334・335)がある。335は、偏平な体部から、口頸部が開き気味に長く延びる。体部には肩部を挟んで沈線が巡り、中央部に円形の透かしが穿たれる。

平瓶(336~338)は口頸部のみ残る。336は、口縁端部がわずかに内弯する。337は、直線的に延びる。338は、口縁部が口縁端部付近でわずかに内側へ屈曲する。内外面に自然釉が付着する。

壷(339~342) は、339が口径11.0cm、340が口径9.4 cmである。口縁部はやや内弯して延びる。341は、口頸部を欠損する。体部上位の大きく張った肩部に1条の沈線が巡る。(342) は、肩部以下をヘラケズリし、肩部から上位にはわずかにカキメが確認される。内面は工具によるナデが施される。

フラスコ瓶 (343) は、球形の体部下半が残る。 底部にカキメが施される。

長頸壷(344)は、口頸部のみ残る。直線的に延 びる頸部からラッパ状に口縁部が開く。口縁部と頸 部にそれぞれ2条1対の沈線が巡る。

鉢(346)は、内弯して延びる口縁部の内側に段をもつ。口縁端部は外面に面をなす。外面に平行タタキが施される。

甕(347)は、体部から外反して延びる口縁部の端部が断面方形に肥厚し、上端に面をなす。また、口縁端部外面が凹面状を呈する。体部外面は格子タタキを施し、内面は同心円状の当て具痕が残る。

大型甕 (348) は、口径46.4cm、最大径90.2cm、器高104.1cmである。口頸部は、体部からほぼ垂直に立ち上がり、中位付近からわずかに開く。口縁端部は内側へ折り込まれるように仕上げられ、外側に面をなす。口頸部上位には4条1対の沈線に区画された中に縦方向に板状工具によって施文される。体部は上位1/3付近に最大径をとり、底部は尖り気味に作られる。調整は外部上位に斜め方向、下位に縦方向ののタタキを施し、内面は板条工具によると考えられるナデあるいはヘラケズリで仕上げる。体部の肩部直上まで自然釉が付着する。底部は他の部分と

比較して、磨滅の度合いが高い。

横瓶(349・350)は、底部を欠損する。349は、 体部に中央に横方向の平行タタキ、両端にカキメを 施す。350は、全体にタタキを施す。口縁端部はと もに外面に面をもち、349は、端部外面直下に稜を なす。また、349は内面の片側に、350は外面に自然 釉が付着する。

土師器 杯(369)は、口径11.8cm、口縁端部をヨコナデし、体部内面に放射状暗文を施す。

甕は (351~368) がある。352は、口縁端部を丸くおさめる。363は、凹面状をなす口縁端部を上方につまみ上げる。366は、口縁端部上端に沈線が巡る。351・353~362・364・367・368は、口縁端部にヨコナデを施し、内側が凹面状をなす。調整は、体部外面を縦方向、内目の横方向にハケメを施す。351・367・368は、体部内面にハケメ後、ヘラケズリを施す。

370・371は把手、372は土錘である。

(5) V層出土遺物(373~414)

須恵器 杯蓋 (373~379) は、端部内側に面をもつ。 376は、天井部と口縁部との境に稜を有する。379は、 全体に丸みを帯び、壷蓋の可能性がある。口径9.6~ 11.6cmのもの (373~375) と、口径12.0~13.2cmの もの (376~379) にわけられる。

杯身($380\sim392$)は、受け部をもつ。口径によって $10.0\sim11.4$ cmのもの($380\sim391$)と、13.4cmのもの(392)にわけられる。受け部は短く、立ち上がりはやや内傾する。

高杯は(387~389)がある。杯部(387)は丸みを帯び、2条の沈線が巡る。口縁端部はわずかに外反する。388の脚部は丸い杯部から直線的に延び、端部付近で外方に開く。389は、真直ぐに延びた後、端部付近で外方に大きく開く。接地面は端部内側である。

颹は、口縁部(390・391)と体部(392)がある。 口縁部は、口頸部から屈曲して内弯気味に開く。屈 曲部に稜を有する。体部は球形で、中央に円形の透 孔が穿たれる。

393・394は、瓶類か壷の口頸部である。

平瓶 (395) は、丸みのある体部に沈線が巡る。 口頸部は体部に比べ太く、口縁部は外方に開く。口 縁端部は断面方形に肥厚し、稜が巡る。

壷(396)は、丸みのある肩部に沈線が巡る。

土師器 甕は (397~413) がある。397の口縁部は 大きく外方に開く。398~400・417・409・411・412 は口縁端部を上方につまみ上げる。その他は、口縁 端部内側がヨコナデによって凹面状をなす。

長胴甕(413) は体部外面にタテハケ、内面上位に ヨコハケ、下位にヘラケズリを施す。

石製品 砥石(414) は、4 面とも使用痕が認められる。

S D 10出土遺物(415~439)

須恵器 杯蓋 (415・416) は口縁端部を下方に折り 曲げる。頂部には偏平なつまみが付く。

杯身は、受け部の付くもの(417・418)、高台の付かないもの(419・420)、高台の付くもの(421~423)がある。受け部は上方を向き、立ち上がりは短く内傾する。421・422は、腰部の屈曲が強く、口縁端部が外反する。423は、杯底部が高台下端まで突出する。

高杯(424)は、杯底部が残る。内面に「×」状の線刻が残る。

台付壷(425)は、肩の張った体部に波状文が施 される。底部外面に線刻が認められる。体部外面に 釉が流れる。底面に線刻が残る。

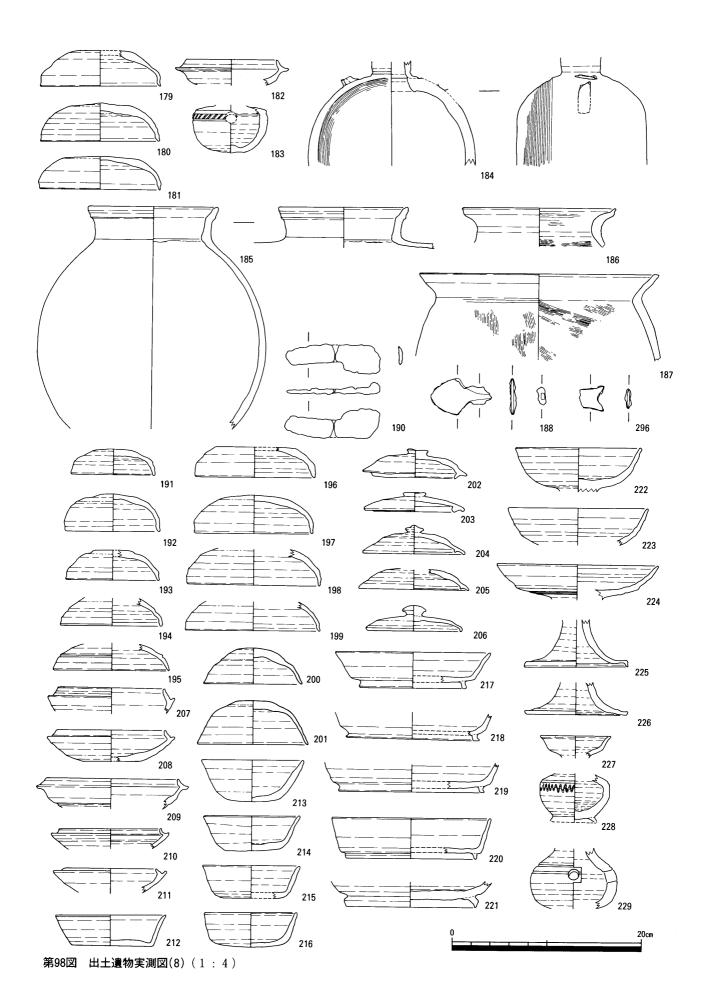
横瓶(426・427)は、口頸部のみ残る。口縁端部は外側に面をもち、427は下端が外側に引き出され、口頸部に「田」に類似した線刻が施される。

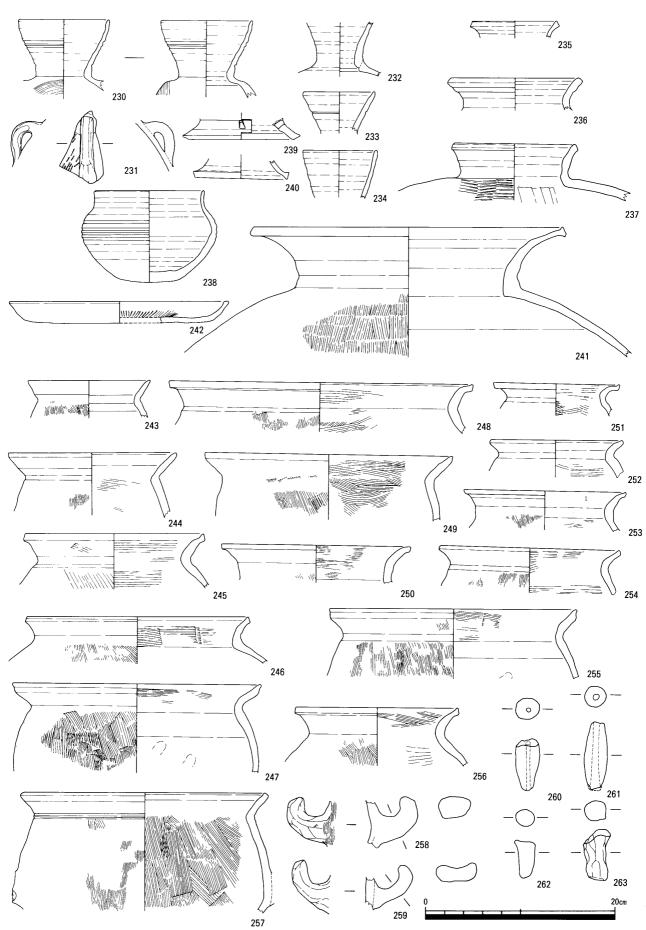
平瓶(428)は、2条1対の沈線が巡る口頸部の み残る。

甕は、(429~431)がある。429の口縁端部は断面 三角形をなし、下位に稜が巡る。432・431は玉縁状 の端部をもつ。

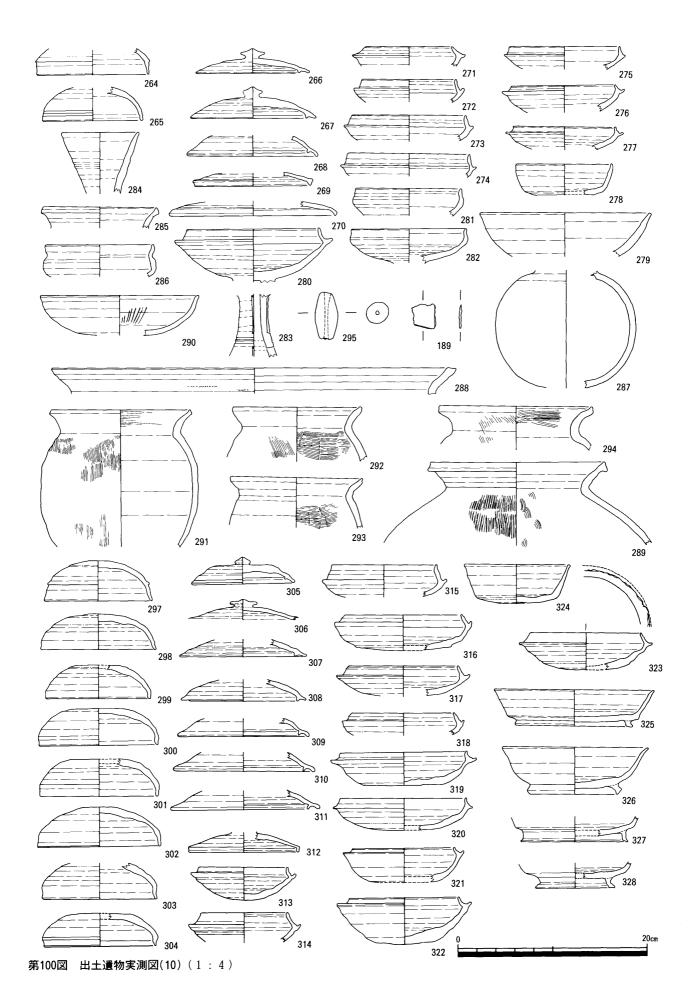
小型壷(432)は、蓋(433)とセットになる。

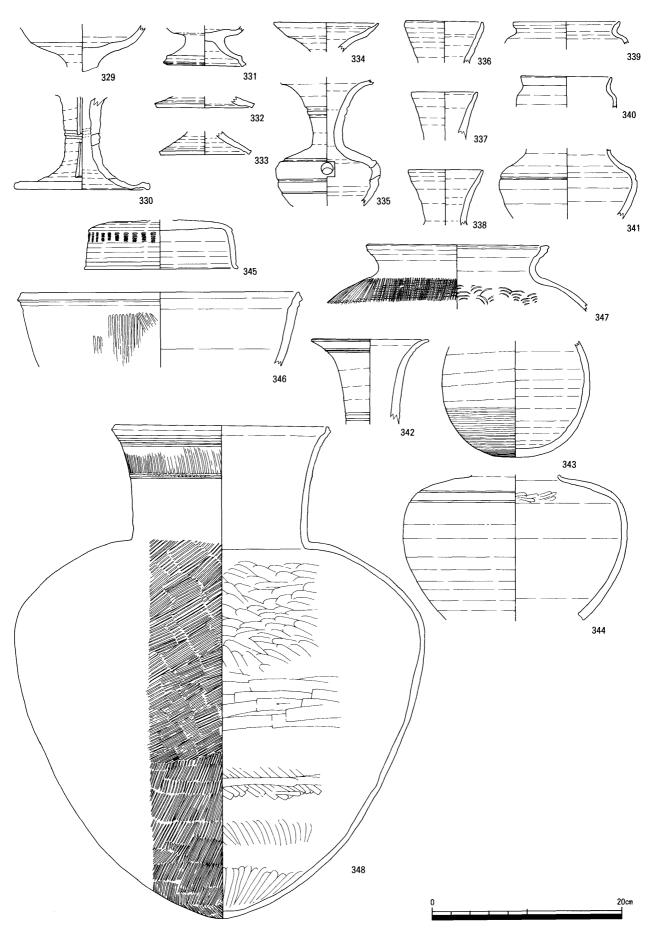
土師器 甕は、(434~438) がある。434は、口縁端部にヨコナデを施し、尖り気味におさめる。436は、口縁端部を上方につまみ上げる。436は、口縁部内側が段をなす。端部外側に面をもち、わずかに上方につまみ上げる。437の口縁端部は内傾し、外側に面をもつ。調整は、体部外面タテハケ、内面ヨコハケ、口縁部内面ヨコハケである。



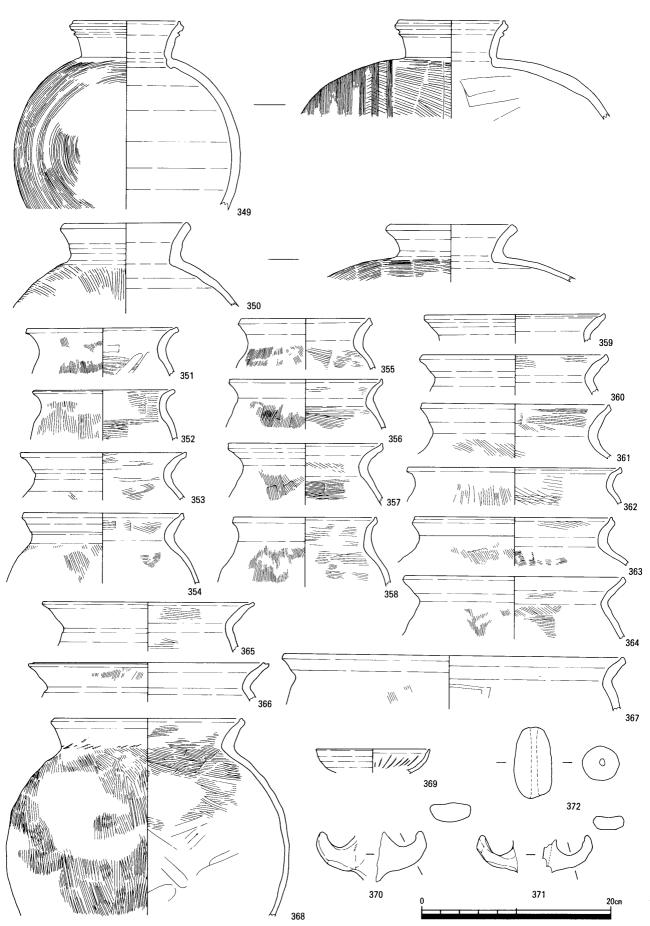


第99図 出土遺物実測図(9)(1:4)

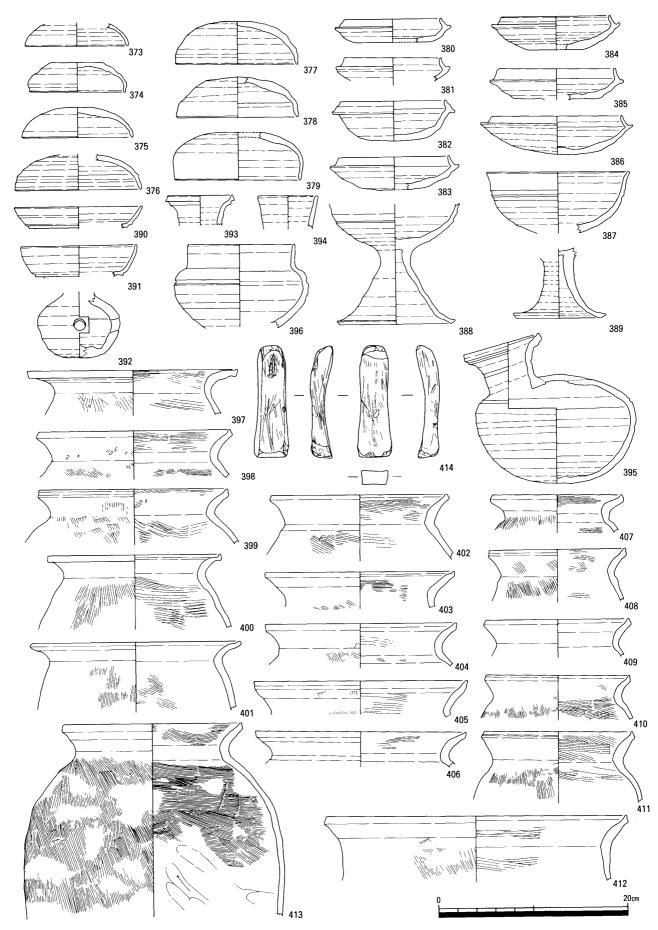




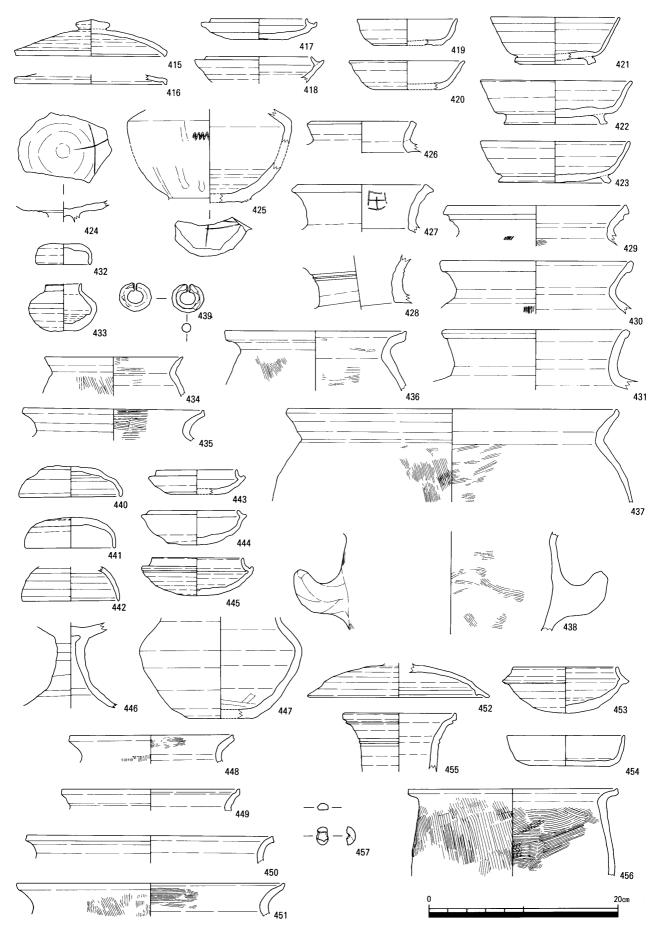
第101図 出土遺物実測図(11)(1:4)348のみ(1:8)



第102図 出土遺物実測図(12)(1:4)



第103図 出土遺物実測図(13)(1:4)



第104図 出土遺物実測図(14)(1:4)

金属製品 銀環(439)は、銅芯に銀板を巻いて製作したものと考えられる。

S D 11出土遺物(440~451)

須恵器 杯蓋 (440~442) は、口径9.2~10.5cm。 440 は、天井部からそのまま口縁部が延び、端部はわずかに内傾する。 441の口縁部は、平坦な天井部から下方に延びる。

杯身(443~445)は口径8.4~11.4cm、丸みを帯びた杯部に短い受け部がつく。445の立ち上がりは短く、内傾する。

高杯(446)は、垂直に延びる無透かしの脚柱部から、脚部は外方に開く。

壷(447)は肩の張る体部に、底部は平底である。 底部内面にヘラケズリを施す。

土師器 甕は、小型のもの(448・449)と大型のもの(450・451)がある。450は、口縁端部を上方につまみ上げる。451は、内側が凹面状の面をなし、端部は尖り気味におさめる。

SK42出土遺物(452~457)

須恵器 杯蓋(452) は、口縁端部より内側におさまるかえりを有する。天井部は陣笠状をなす。

杯身は、(453・454) がある。453は、受け部と立ち上がりの境が不明瞭である。端部は丸くおさめられる。454は、受け部をもたない。平坦な底部に高台は付かない。

長頸壷(455)は、垂直に延びる口頸部から口縁 部は外方に開く。口縁端部内側に段をなす。口頸部 に2条1対の沈線、口縁部に稜が巡る。

土師器 甕(456)の口縁部は短く、水平に開く。 端部は上方につまみ上げられる。調整は、体部外面 にタテハケ、内面にヨコハケを施す。

ガラス製品 小玉 (457)、全体の1/2が残る。緑 色を呈し、接合痕が認められる。

3 平安・鎌倉時代の遺物

山茶椀、山皿、土師器が出土している。山茶椀は 藤澤編年の4型式から5型式に相当し[®]、土師器皿は ロクロ成形によるものが大半を占める。

SH2出土遺物(458~460)

陶器 山茶椀 (460) と小椀 (458・459) がある。 藤沢編年の4型式に相当すると考えられる。 SH23出土遺物(461~480)

ロクロ土師器 皿は(462・463) がある。462は、 底部糸切り未調整である。463は断面弓状をなし、 全体に器壁が厚い。

土師器 甕(464) は口縁部が体部から外反気味に 延び、口縁端部をヨコナデする。調整は、体部外面 にタテハケ、口縁部および体部内面にヨコハケを施 す。

陶器 山茶椀(469~480)は高台に籾殻痕が認められる。469・470は、体部下半が丸みを帯び、口縁端部を外反させる。471は、口縁部が直線的に延びる。

小椀(465~468)は、平坦な底部からのびる口縁 部の端部が外反する。

461は、甕の底部である。器壁の厚い体部が直線 的に延びる。

SB73出土遺物(481~496)

ロクロ土師器 皿 (481~484)、椀 (485)、高台部 (486·487) がある。

土師器 Ⅲ (488・489) は底部をユビオサエ、口縁 端部をヨコナデ調整する。

鍋(490)の口縁端部は、内側に折り返される。

陶器 山茶椀 (494~496) は、籾殻痕の残る偏平な 高台のみ残存する。496は、丸みを帯びた体部をも つ。

小椀は、口縁部の外反が弱いもの(491・492)と 強く外反するもの(493)がある。

藤沢編年の4型式に相当すると考えられる。

SK31出土遺物(497~505)

ロクロ土師器 皿は、(497~502) がある。497~499 は、底部が厚い。500は、口縁部が外反する。501・ 502は、高台が付く。

陶器 山茶椀(505)と小椀(503・504)がある。

S K 32出土遺物 (506·507)

陶器 山茶椀 (506・507) の口縁部は直線的で、偏 平な高台が付く。

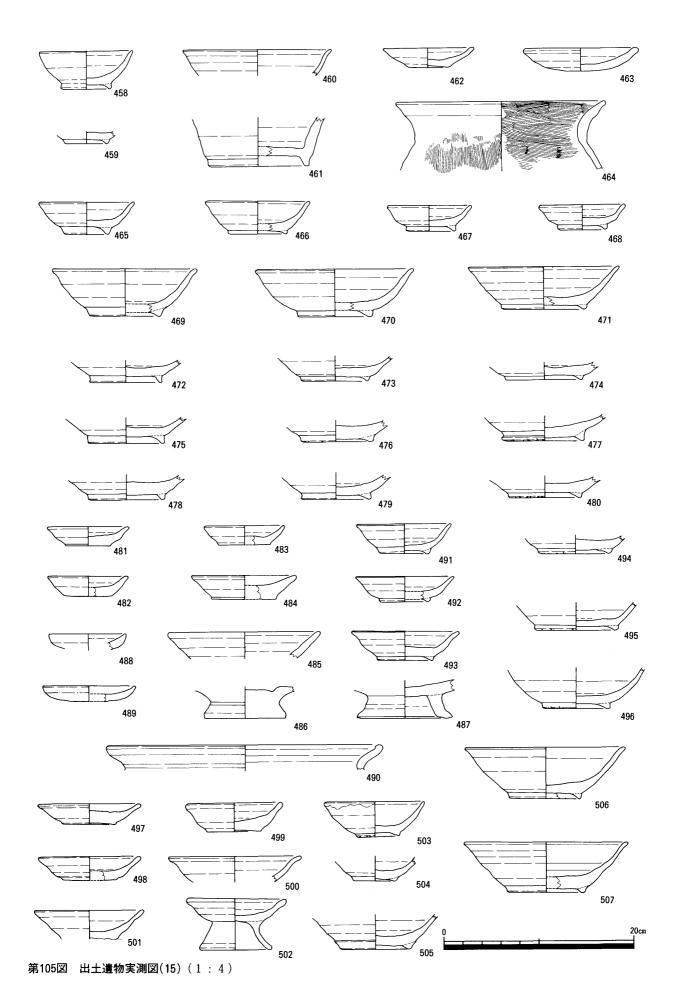
藤沢編年の4~5型式に相当すると考えられる。

SK72出土遺物(508~518)

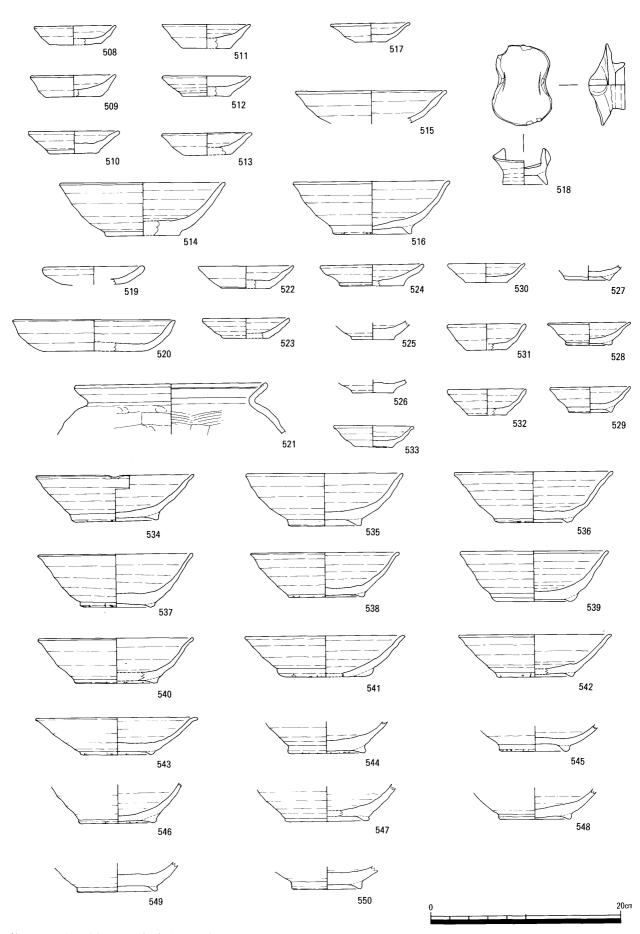
ロクロ土師器 Ⅲ (508~513) は厚い底部から口縁 部が直線的に延びる。

椀(514)は、 底部が突出する。

陶器 山茶椀 (515・516) の516は、体部が丸みを



--- 75 ---



第106図 出土遺物実測図(16)(1:4)

帯びる。ほかに、山皿(517)、耳皿(518)がある。 藤沢編年の5型式に相当すると考えられる。

SK74出土遺物(519~578)

土師器 Ⅲ (519·520) は底部をユビオサエ、口縁端部をヨコナデで仕上げる。

鍋(521)は口頸部が短く、口縁端部は内側に折り返して肥厚させる。

ロクロ土師器 皿は、(522~526) がある。522·523 は、口縁部が直線的に延びる。524~526は、底部が 突出する。

陶器 小椀 (527~529)、小皿 (530~533)、山茶椀 (534~575)がある。540は、片口椀か。535は体部が

丸みを帯び、高台は断面三角形に近い。大半は、口 径に比して器高が浅く、高台は潰れている。

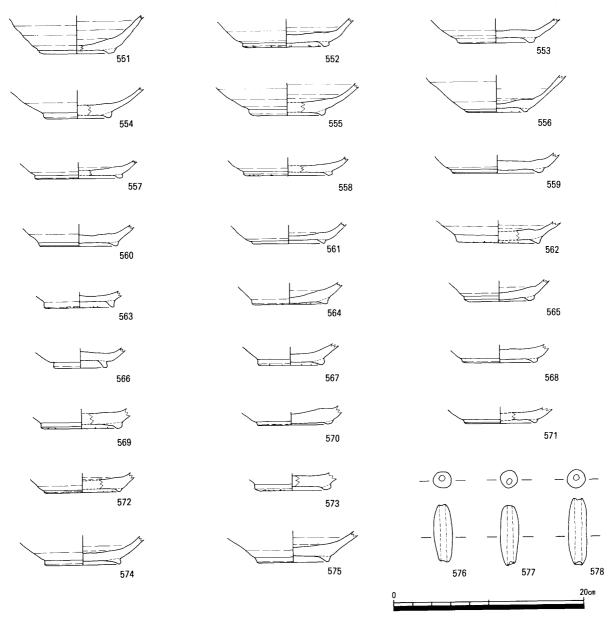
藤沢編年の4~5型式に相当すると考えられる。 **土製品** 土錘は、(576~578) の3点がある。

4 包含層出土遺物 (579~837)

(1)縄文時代(579~582)

この時期の遺構は確認されていないが、遺物が若 干数出土している。

縄文土器 鉢 (579) は、早期後半の八ツ崎 I 式に 比定される[®] 黄橙色を呈する口縁部は波状口縁で、 波頭部頂は杯状に窪む。口頸部には屈曲が見られる。



第107図 出土遺物実測図(17)(1:4)

口縁部の文様帯には横位の二枚貝による貝殻条痕と 連続爪型文を施す。また口唇部にも刻みを施す。屈 曲部上端には竹管文が巡る。

580は、深鉢の底部と考えられる。浅黄~灰黄色を呈し、底面に網代痕が残る。底径は復元推定で14.4 cmである。

581は、鉢の底部と考えられる。底部付近に穿孔が施される。

(2) 古墳時代(583~627)

古式土師器 器台(583~587) は、口縁部が屈曲 するもの(583・584)、直線的に延びるもの(585)、 内弯するもの(586・587)がある。脚部は外反して 大きく開き、円孔が3方向に穿たれる。外面に縦方 向のミガキを施す。

脚部(588・589)は、脚部が外反して大きく開く。 内外面にミガキを施し、円孔が穿たれる。

瓢壷は、口頸部(591)と底部(604~606)がある。体部は球形で、口頸部は直線的に延び、口縁部近くでやや内弯する。口頸部内外面にミガキを、体部内面は工具によるナデを施す。底部は、平底でやや突出する。

直口壷(592)は口頸部のみ残る。直線的に開く口頸部の内外面にミガキを施す。

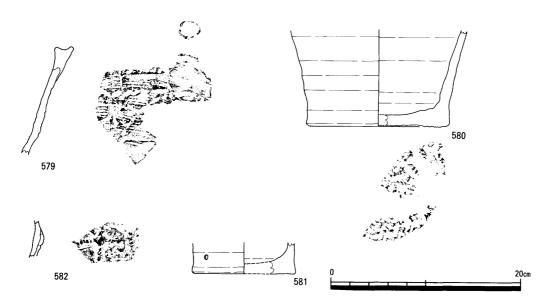
壷は、口縁部が有段状をなす、いわゆる柳ケ坪型 壷(593~595)、二重口縁壷(596~598)がある。 柳ケ坪型壷は、口縁部内面に羽状文を施す。北村分類のC類に相当する。596は、内外面に丁寧な縦方向のミガキを施す。597は、横方向のミガキを施す。甕は口縁部が受口状をなすもの(599~601・603)、「く」字状をなすもの(602)がある。S字状口縁台付甕は、山田分類のB類に相当する。

(3) 飛鳥·奈良時代(628~690)

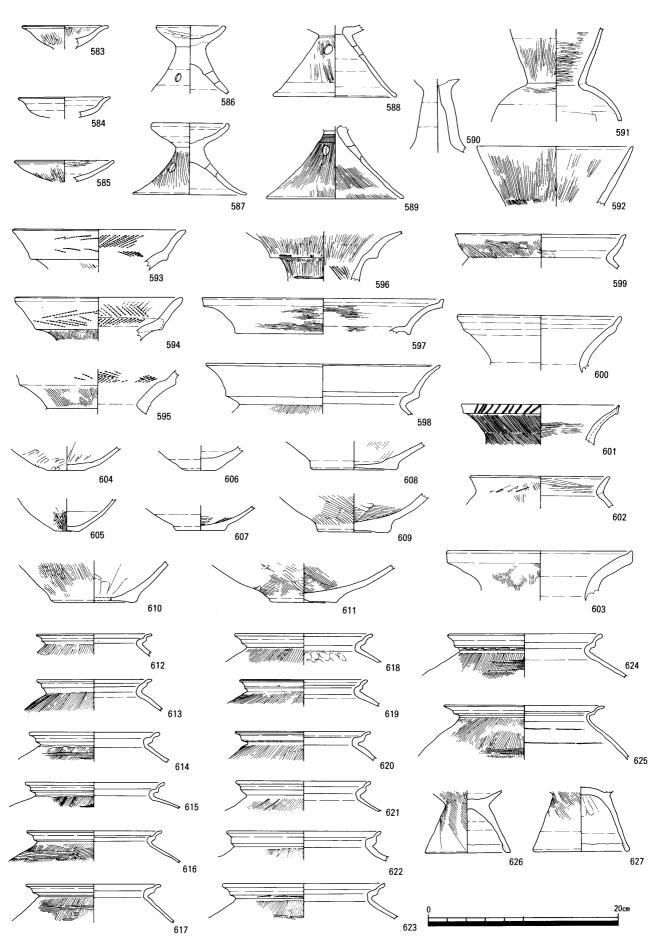
須恵器 杯蓋は、かえりの付かない(628~636)、 口縁部内側にかえりの付く(637~639)、口縁端部 を下方に折り曲げる(640~643)がある。628~636 は、口径10.8~13.9cm、天井部と口縁部との境に稜 をもつ。637は、口径が小さい。638のかえりは、口 縁端部より下に延びる。つまみは偏平でボタン型を なす。

杯身は、受け部をもつもの($644\sim664$)、平坦な底部に高台の付かないもの($665\sim667$)、底部に高台の付くもの($668\cdot669$)がある。受け部をもつものは口径によって $7.6\sim11.0$ cmと $11.9\sim14.0$ cmとに分けられる。 $644\sim646\cdot653$ の立ち上がりは短く内傾する。高台の接地面は、668は外端で、669は内端で接地する。

高杯は、(670・671) がある。670は、三方向に方形の透かしが施される。671は、脚端部上位に強いヨコナデを施す。



第108図 出土遺物実測図(18)(1:4)



第109図 出土遺物実測図(19)(1:4)

部に波状文を施す。674は、2条の沈線によって区 画された間に刺突による斜線文が施される。底部内 面に当て具跡が残る。

提瓶は、(675・676) がある。675は、口頸部に2 条1対の沈線を巡らせる。676は、把手を欠損する。 口頸部に2条1対の沈線を巡らせ、その上位に櫛描 による斜線文を施す。体部は、回転ヘラケズリを施 す。

平瓶 (677) は、肩が強く屈曲する。 口頸部接合

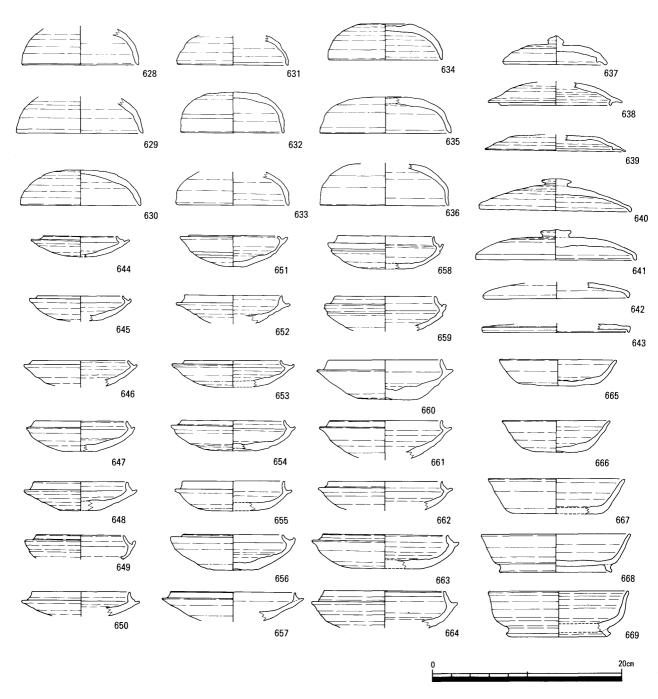
部分横に粘土円板充填痕が認められる。

横瓶の口頸部は、(679・680) の2個体分がある。 681は、細頸壷の口縁部である。口縁端部を垂下 させ、下位に稜が巡る。

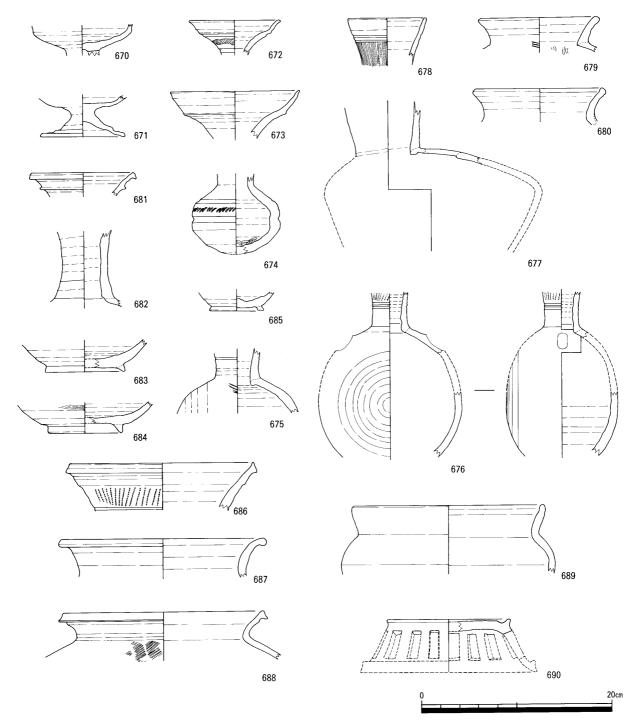
683~685は、台付壷の高台である。

鉢(689)は、口縁端部内弯気味に延びる口縁の 端部を丸くおさめ、内面は凹面状をなす。

要は、断面三角形の口縁端部内面が凹面状をなす。 口頸部には不明瞭な稜と沈線を巡らせて区画された



第110図 出土遺物実測図(20)(1:4)



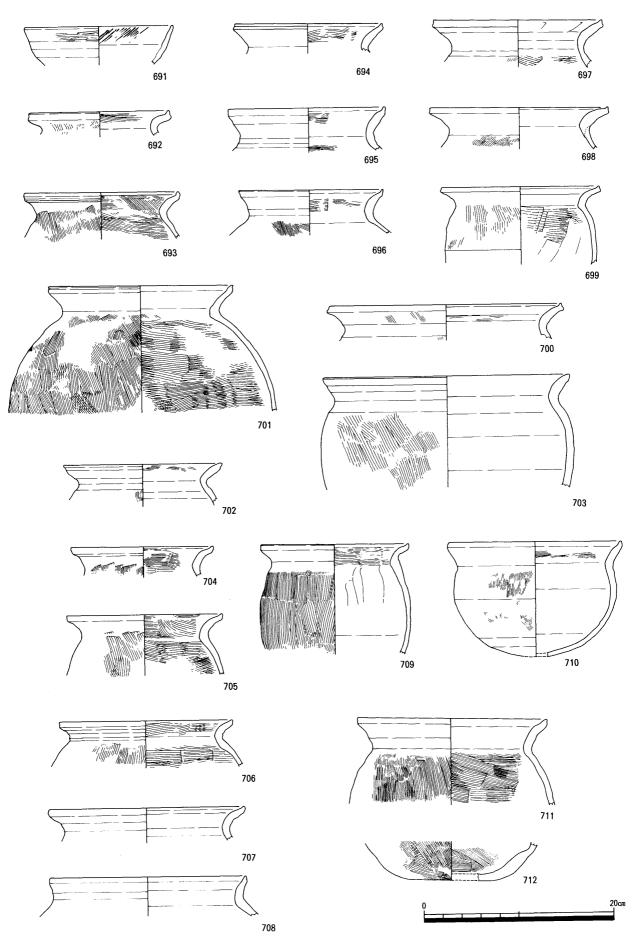
第111図 出土遺物実測図(21)(1:4)

中に刺突文を施すもの(686)、口縁部を外方に引き出し、端部を丸くおさめるもの(687)と口縁端部を下垂させ、下位に稜を巡らすもの(688)がある。689は、体部外面にタタキを施す。

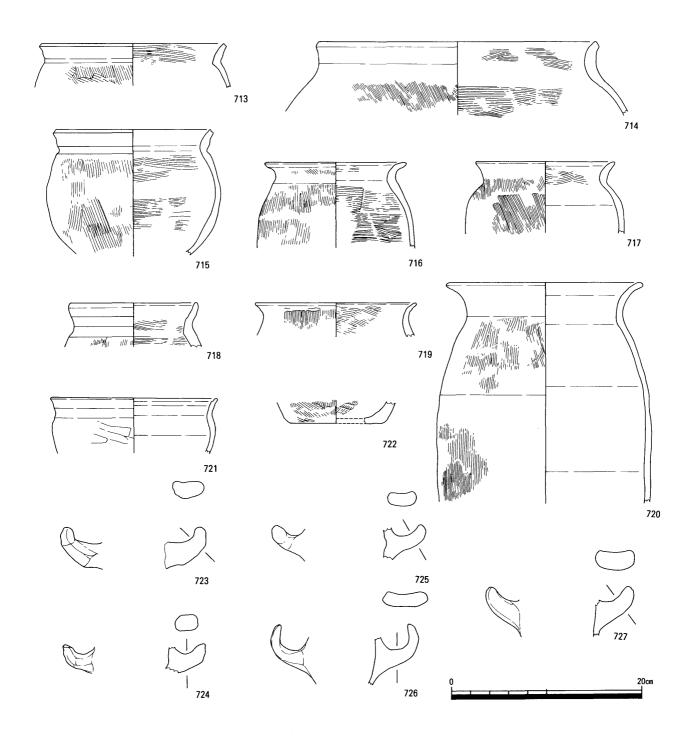
円面硯(690)は、脚台部を欠損するが痕跡から 方形の透かしがあったことがわかる。外堤は陸部よ り高く、強いナデによって外方へ開く。硯面は擦痕 が認められ、使用されたことがうかがわれる。

土師器 杯(691)は、外面に横方向のミガキ、 内面に放射状暗文を施す。

甕は、口縁端部を上方につまみ出すもの(697~701)、口縁部が肥厚し、端部を丸くおさめるもの(703・704)と、口縁端部内面が凹面状に窪み、外面が丸みを帯びる(705~712)がある。口縁端部のつまみ上げは



第112図 出土遺物実測図(22)(1:4)



第113図 出土遺物実測図(23)(1:4)

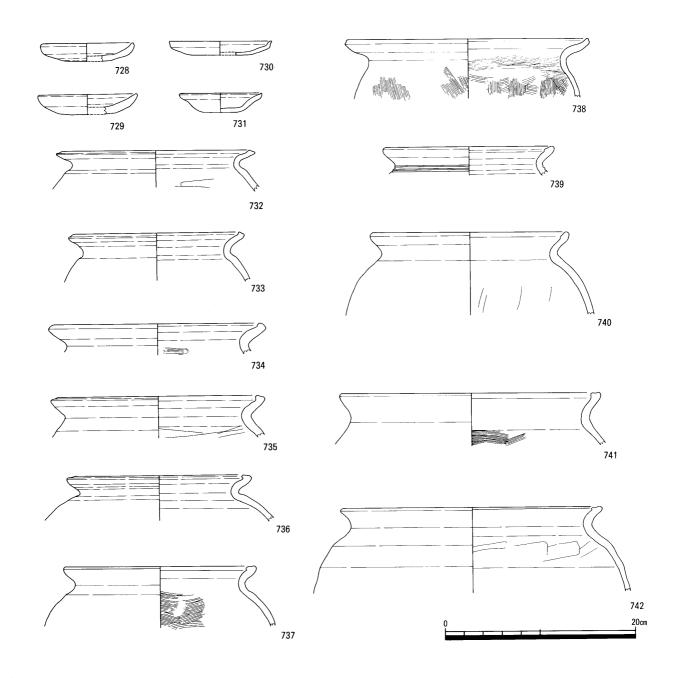
顕著でない。

700は、体部外面をタテハケ、内面はヨコハケの後、中位以下にケズリを施す。709は、体部外面をタテハケ、内面をケズリ調整する。712は、平底をなす。713・714は、口縁基部に沈線が巡る。口縁部は短く、肥厚する。715の口縁部は短く外反する。716~719の縁部は大きく外反し、端部は丸くおさめる。720の口縁部は内弯する。721は、口縁端部内面

に段をなし、体部外面はケズリ調整する。722は、 平底である。723~726は、甕の把手である。

(4) 平安時代~鎌倉時代 (728~821)

土師器 皿は、(728~731) があり、手づくね成形される。728・729は器壁が厚く口縁部は内弯する。730は、器高が厚く、口縁端部をヨコナデする。731は、京都系である。口縁部は「て」字状に近い形態をなす。



第114図 出土遺物実測図(24)(1:4)

鍋 (732~742) は、口縁部のみ残る。南勢系伊勢 鍋に系統的につながる一群である。口縁端部は内側 に折り返され、口径 17.4~21.4cmの小型のものと、 25.2~27.4cmの大型のものに分けられる。体部には 煤が付着する。738は、口縁部が大きく開く。739は、 口縁部が短い。調整は、体部内面にハケメを施すも の (737・738) とケズリを施すもの (735・742) が ある。

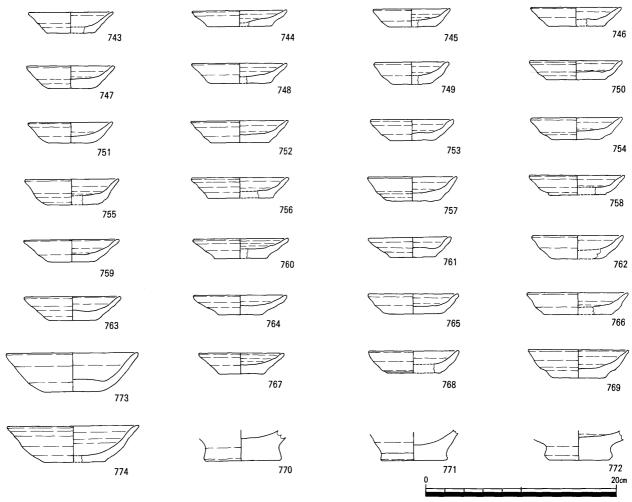
ロクロ土師器 Ⅲ (743~769)は□径7.6~10.8cm、 器壁の厚い底部から□縁部が直線的に延びる。 744・745・752・756・766・768は底部が広くなる。 759~769は、底部が突出気味になる。

有台皿(770~772)の高台は柱状をなす。

椀 (773・774) は口縁端部が外反し、内側に面を なす。773は、底部内面が盛り上がる。

陶器 山茶椀 (775~789) は、口径15.0~17.4cm、口縁部は外反する。底部には籾殻痕が残る。 784~789は、口径に対して器高が低く、高台は偏平である。

小椀は、体部が丸みを帯びる (790~797)、体部



第115図 出土遺物実測図(25)(1:4)

が直線的な(798~815)がある。

小皿 (816~821) は底部が突出する (816~818)、 偏平な体部をもつ (819~821) がある。

(5) その他の遺物 (822~839)

白磁 椀は、(823~830) がある。822・823は、口縁端部が玉縁状をなす。822は、太宰府編年のⅡ類、823は、Ⅲ類に相当する。824は、口縁部を外反させ、端部を丸くおさめる。内面に沈線が巡る。太宰府編年のⅤ類に相当する。825は、いわゆる口禿口縁である。太宰府編年のⅣ類に相当する。826の口縁部の外反は、825より強い。内面に沈線が巡る。827・828は、口縁端部を外反させて水平な面をつくる。828は、櫛で内面に花文を描く。827は、無文である。太宰府編年のⅤ類に相当する。829は、皿である。830は、高台が波状をなす。

青磁 椀は、(831~834) がある。831は、体部外面 に連弁文様をもつ。鎬は認められず、太宰府編年の I-5類に相当する。832は、丸みを帯びた体部か ら、口縁部を外方に屈曲させて面をなす。内面に蓮 弁文様をもつ。833は、器壁が厚く、口縁端部を外 反させる。834は、肥厚した底部に断面方形の高台 が付く。高台部の内側は露胎である。太宰府編年の 類に相当する。

瀬戸美濃 天目茶椀 (835) の口縁部は内傾し、口 縁端部が玉縁状をなす。瀬戸大窯編年の11型式に相 当する。

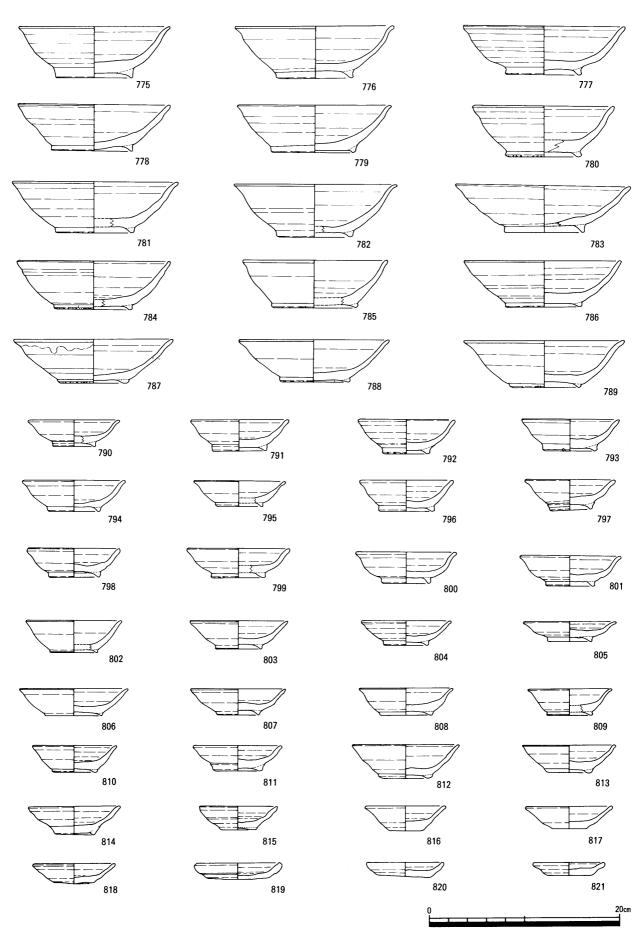
瀬戸 皿(14) は、口縁部から内面に浅黄色の釉が 掛かる。

5 その他の遺物 (840~842)

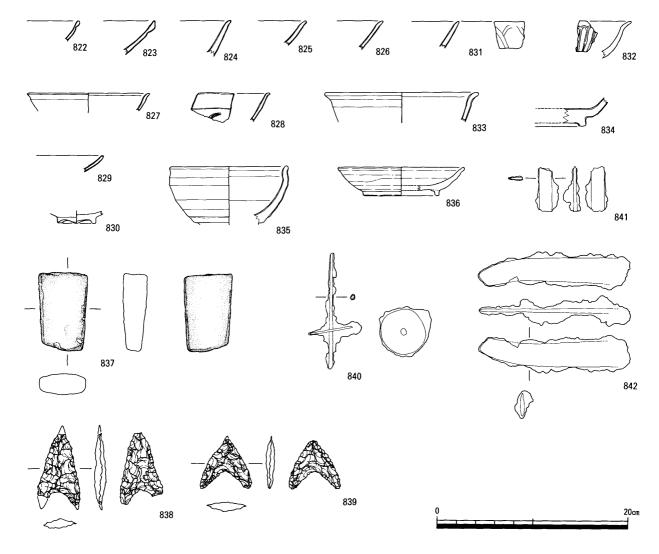
石製品 砂岩製の磨製石斧 (837) が 1 点、石鏃2 点 (838・839) がある。

鉄製品 紡錘車 (840) は、輪径4.8cm、断面十字型 をなす。

他に、刀子片(841)、鎌(842)がある。



第116図 出土遺物実測図(26)(1:4)



第117図 出土遺物実測図(27)(1:4) 838・839のみ(3:4)

【註】

- ① S 字状口縁台付甕の分類は、山田猛氏の分類による。(山田猛 『山城・北瀬古遺跡』三重県埋蔵 文化財センター 1994)
- ②山茶椀、小椀、山皿の時期は、藤沢良佑氏の編年による。(藤沢 良佑「山茶椀研究の現状と課題」『研究紀要』第3号 三重県埋蔵 文化財センター 1994)
- ③増子康真「八ツ崎式 I をめぐって」『古代人』41 名古屋考古学会 1983
- ④柳ケ坪型壷の分類は、北村和宏氏の分類による。(北村和宏「柳ケ坪型壷について」『古代』86 早稲田大学考古学会 1988)
- ⑤伊藤裕隼氏は、藤沢良佑氏の山茶椀編年の尾張型第4形式〜第5 型式頃までの土器については、それ以前の土器との器形上の隔絶 性が見いだせないことから南伊勢系として把握しないとした。

- (伊藤裕偉「伊勢の中世煮沸用土器から東海を見る」『鍋と甕そのデザイン』第4回考古学フォーラム研究・資料集 1996)
- ⑥白磁、青磁の分類は太宰府分類による。(「太宰府出土の輸入中国 陶磁器について一形式分類と編年を中心として一」「太宰府陶磁 器研究一森田勉氏遺稿集・追悼論文集ー」森田勉氏遺稿集・追悼 毎刊行会 1905)
- ⑦天目茶椀の時期は、藤沢良佑氏の編年による。(藤沢良佑「瀬戸大窯発掘調査報告」「瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要」 瀬戸市歴 史民俗資料館1986)
- ⑧石鏃の実測は、大下明氏による。また、石鏃について同氏よりご 教示頂いた。

1 SH76 古土田部 18.5 (5.5) 内州東京 25715.6 書 一0.1cm大の砂粒合 負 25715.6 書 一0.1cm大の砂粒合 負 25715.6 書 一0.1cm大の砂粒合 負 3 SH76 古土田部 16.0 (2.0) 内州東京 75717.4 章 一0.1cm大の砂粒合 負 3 SH76 古土田部 16.0 (2.0) 内州東京 75717.4 章 一0.1cm大の砂粒合 負 3 SH76 古土田部 16.0 (2.0) 内州東京 75717.4 章 一0.1cm大の砂粒合 負 3 SH76 古土田部 16.0 (2.0) 内州東京 75717.4 章 一0.1cm大の砂粒合 負 3 Tana 75717.4 Tana 75717.4 文章 一0.1cm大の砂粒合 負 3 Tana 75717.4 文章 一0.1cm大の砂む合 負 3 Tana 75717.4 文章 一0.1c		NA	備考35円孔	登録番号 3020 - 04 3020 - 02 3020 - 05 3021 - 02 3021 - 01 3020 - 03 3022 - 02 3023 - 01 3023 - 01 3023 - 02 3026 - 04 3070 - 03 3027 - 04 3023 - 03 3024 - 04 3022 - 03 3067 - 01 3067 - 03 3067 - 02 1002 - 01 1001 - 05 1001 - 04
1 S 176		□縁10% 50% 体部50% 「縁25% 台部60% 50% 脚部60% 即部60% 間の% に総55% □縁15% □縁20% □縁20% □縁20% □縁20% □縁20% □科を20%		3020 - 02 3021 - 02 3021 - 02 3021 - 01 3020 - 03 3022 - 02 3023 - 01 3023 - 02 3066 - 04 3070 - 03 3023 - 04 3072 - 04 3022 - 03 3067 - 01 3067 - 03 3067 - 02 1002 - 01 1001 - 05 1001 - 04
S H76 古土田路 16.0 (2.0) 内内面: 57 内面: 5		50% 体部50% 口練25% 台部60% 50% 脚部60% 排部60% 10% 底部55% 口練10% 口練20% 口練20% 口練20% 口練20% 口練20% 口練20% 口練20% 口練20% 口線20% 口線20% 口線20% 口線30% はほ完形		3020 - 05 3021 - 02 3021 - 01 3020 - 03 3022 - 02 3023 - 01 3023 - 02 3066 - 04 3070 - 03 3023 - 04 3072 - 04 3022 - 03 3067 - 01 3067 - 03 3067 - 02 1002 - 01 1001 - 05 1001 - 02 1002 - 02
3 SH76 古式土部部 (16.0) 5.7 日報: 牙を接手子 内内面: ボキ 内介 によい値 5次円 (4 をつしに 大の砂粒合 身 大き 大き 日本 (4 に の		体部50% □縁25% 台部60% 50% 脚部60% 10% 底部55% □縁15% □縁20% □縁20% □縁20% □縁20% □縁20% □縁20% □縁20% □縁20% □縁20% □縁20% □縁20% □縁30% ほぼ完形		3021 - 02 3021 - 01 3020 - 03 3022 - 02 3023 - 01 3023 - 02 3066 - 04 3070 - 03 3023 - 04 3023 - 04 3022 - 03 3067 - 01 3067 - 03 3067 - 02 1002 - 01 1001 - 05 1001 - 02 1002 - 02 1002 - 02
4 SH76 古式土部部 (4.2) 外面:ダキカ南国コナア 内: 関示機 (5.1) (4.2) の (4.2)	是是	口線25% 台部60% 50% 脚部60% 10% 底部55% 口線15% 口線20% 口線30% 60% 口線20% 口線20% 口線20% 口線10% 口線10% 口線10%		3021 - 01 3020 - 03 3022 - 02 3023 - 01 3023 - 02 3066 - 04 3070 - 03 3023 - 04 3022 - 03 3024 - 04 3022 - 03 3067 - 01 3067 - 02 1002 - 01 1001 - 05 1001 - 04 1001 - 02 1002 - 02
5 日 5 日本土 日曜 5 日本土	【 【 直 良 中中中 良 【 中中 中 良 中 中 中 良 电 中 中 良 电 中 中 良 自 中 中 中 良 电 中 中 良 电 中 中 良 电 中 中 良 自 中 中 良 自 中 中 良 自 中 中 良 自 中 中 良 自 中 中 良 自 中 中 良 自 中 中 良 自 中 中 良 自 中 中 良 自	台部60% 50% 脚部60% 脚部60% 10% 底部55% 口縁15% 口縁20% 口縁30% 60% 口縁20% 口縁20% 口縁20% 口縁20% 口縁20% 口縁20% 口縁20% 口縁30% ほぼ完形 口縁10%		3020 - 03 3022 - 02 3023 - 01 3023 - 02 3066 - 04 3070 - 03 3023 - 04 3072 - 04 3022 - 03 3024 - 04 3027 - 01 3067 - 02 1002 - 01 1001 - 05 1001 - 04 1001 - 02 1002 - 02
S H 16 S F K 1	是	50% 脚部60% 脚部60% 10% 底部55% 口縁15% 口縁20% 口縁30% 白縁20% 口縁20% 口縁20% 口縁20% 口縁20% 口縁20% 口縁20% 口縁20% 口縁30% はほ字形 口縁10% 口縁10%		3022 - 02 3023 - 01 3023 - 02 3066 - 04 3070 - 03 3023 - 04 3022 - 04 3022 - 03 3024 - 04 3027 - 01 3067 - 01 3067 - 02 1002 - 01 1001 - 05 1001 - 02 1002 - 02 1002 - 02
8 8 S D75	度 电心度 ! 如今 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	脚部60% 脚部60% 10% 底部55% 口縁15% 口縁20% 口縁20% 口縁20% 口縁20% 口縁20% 口縁20% 口縁20% 口縁20% 口縁30% ほほ完形 口縁10% 口縁10% 口縁10%		3023 - 01 3023 - 02 3066 - 04 3070 - 03 3023 - 04 3022 - 03 3024 - 04 3022 - 03 3067 - 01 3067 - 02 1002 - 01 1001 - 05 1001 - 02
S D 15 古式土田部 (8.8) 内外温素	中央	脚部60% 10% 底部55% 口縁15% 口縁20% 口縁30% 60% 口縁20% 口縁20% 口縁20% 口縁20% 口縁20% 口縁30% ほほ完形 口縁10% 口縁10% 口縁10%		3023 - 02 3066 - 04 3070 - 03 3023 - 04 3072 - 04 3022 - 03 3024 - 04 3022 - 03 3067 - 01 3067 - 02 1002 - 01 1001 - 05 1001 - 04 1002 - 02 1002 - 02
5 日 10 S D75 古式土部路 14.2 (3.0) 日報ヨコナア外面ヨコハケ 内 にぶい種 5 YR5/6 松 や 報 へり 1 の	一、一个小人, 一个小人, 一个小人, 一个一个人, 一个人,	10% 底部55% 口縁15% 口縁20% 口縁30% 口縁20% 口縁20% 口縁20% 口縁20% 口縁20% 口縁20% 口縁30% ほぼ完形 口縁10% 口縁10% 口縁10%		3066 - 04 3070 - 03 3023 - 04 3072 - 04 3023 - 03 3024 - 04 3022 - 03 3067 - 01 3067 - 02 1002 - 01 1001 - 05 1001 - 02 1002 - 02 1002 - 02
11 S D75 S字状口縁合行變 (4.2) (5.6) 底庭 (7.8) (6.8) 底庭 (7.8) (7.8)	や良 ・ や中へ ・ ややし ・ やんし ・ やんし ・ やんし ・ もし ・ もし もし ・ もし もし もし ・ もし もし もし もし もし もし もし もし もし もし	展部55% □縁15% □縁20% □縁30% □縁20% □縁20% □縁20% □縁20% □縁20% □縁20% □縁20% □縁30% はほ完形 □縁10% □縁10% □縁30% □縁10%	パレス壷	3070 - 03 3023 - 04 3072 - 04 3023 - 03 3024 - 04 3022 - 03 3067 - 01 3067 - 02 1002 - 01 1001 - 05 1001 - 04 1002 - 02
12 S D 75 S 字状口線台付甕	や不良 や不良 や不良 や中良 やゆ良 やや良 ・や不良 をかります。	□縁15% □縁20% □縁30% 60% □縁20% □縁20% □縁20% □縁30% ほぼ完形 □縁10% □縁10% □縁30%	パレス壷	3023 - 04 3072 - 04 3023 - 03 3024 - 04 3027 - 03 3067 - 01 3067 - 02 1002 - 01 1001 - 05 1001 - 02 1002 - 02 1002 - 02
13 SD75 広口藤 (24.0) (2.3) 文斜線文 「外:浅東僧 10YR8/3 社会 反 反 下	や不良 や不良 や不良 や内良 や中良 ・や不良 ・や中良 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	□釋20% □釋30% □釋30% 60% □釋20% □釋20% □釋20% □釋20% □釋30% □採12完形 □釋10% □釋10% □釋10% □釋10%	パレス壷	3072 - 04 3023 - 03 3024 - 04 3022 - 03 3067 - 01 3067 - 02 1002 - 01 1001 - 05 1001 - 04 1002 - 02 1002 - 02
14	や不良 や不良 ・や良 ・や良・・や良・・・ ・・・・ ・・・・ ・・・・ ・・	口線30% 日線30% 60% 口線20% 口線20% 口線30% ほぼ完形 口線10% 口線10%		3023 - 03 3024 - 04 3022 - 03 3067 - 01 3067 - 02 1002 - 01 1001 - 05 1001 - 04 1002 - 02 1002 - 02
15 SD75 古式土師器	や不良 や良 や良 や不良 「良 やや良 」	口線30% 60% 口線20% 口線20% 口線30% ほぼ完形 口線10% 口線10% 口線10%		3024 - 04 3022 - 03 3067 - 01 3067 - 02 1002 - 01 1001 - 05 1001 - 04 1002 - 02 1002 - 02
16	や良 や良 や良 や中良 や中良 ・や良 ・で良 ・で良 ・で良 ・で良 ・で良 ・で良 ・で良 ・で	60% □釋20% □釋20% □釋20% □釋30% ほぼ完形 □釋10% □釋10% □釋10% □釋10% □釋40%		3022 - 03 3067 - 01 3067 - 02 1002 - 01 1001 - 04 1001 - 02 1002 - 02
Tr	や良や良いや良いや良いや良いや良いや良いや良いや良いや良いや良いや良いや良いや良	□様20% □様20% □様30% ほぼ完形 □縁10% □縁10% □縁10% □縁10%		3067 - 01 3067 - 02 3067 - 02 1002 - 01 1001 - 04 1001 - 02 1002 - 02
18	や良 ・や良 ・や不良 ・や水良 ・で、良 ・・や良 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	□縁20% □縁30% ほぼ完形 □縁10% □縁10% □縁10% □縁10% □縁30% □縁30%		3067 - 03 3067 - 02 1002 - 01 1001 - 05 1001 - 04 1001 - 02 1002 - 02 1001 - 06
18 Pit1 S字状口縁合行後 (12.0) (3.3) エ	や良 ・ や不良 ・ や良 ・ で良 ・ で良 ・ や良 ・ や良	口縁30% ほぼ完形 口縁10% 口縁10% 口縁30% 口縁30%		3067 - 02 1002 - 01 1001 - 05 1001 - 04 1001 - 02 1002 - 02 1001 - 06
S字状口縁合行妻	や不良 や良 は	日ぼ完形 口縁10% 口縁10% 口縁10% 口縁30% 口縁30%		1002 - 01 1001 - 05 1001 - 04 1001 - 02 1002 - 02 1001 - 06
20 SH 杯畫 11.1 2.3 つまお貼付ナア 外: 灰白 SY7 / 1 数数量合 大部 大部 大部 大部 大部 大部 大部 大	や不良 や良 ・や良 ・や良 ・や良 ・や良	口縁10% 口縁10% 口縁10% 口縁30% 口縁10%		1001 - 05 1001 - 04 1001 - 02 1002 - 02 1001 - 06
22 SH1 杯畫 (10.2) (1.8) 内外面ロクロナデ 外:暗灰黄 (2.5%) 粒微量合 (14.2) (1.8) 内外面ロクロナデ 内:反 (7.5%) 量金 (17.6) (1.2) 内外面ロクロナデ 内:にぶい橙 (5YRE/4) 量金 (17.6) (1.2) 内外面ロクロナデ 内:にぶい橙 (5YRE/4) をや密 (-0.1cm大の砂 (2.5%) 人をを密 (-0.1cm大の砂 (2.5%) 人を密 (-0.1cm大の砂 (2.5%) 人を密	や良 良 ・や良 ・や良 ・や良	□縁10% □縁10% □縁30% □縁10%		1001 - 04 1001 - 02 1002 - 02 1001 - 06
23 SH1 杯畫 (14.2)	·良 ・・ や良 ・・ や良 ・・ や良	口縁10% 口縁30% 口縁10%		1001 - 02 1002 - 02 1001 - 06
24 SH1 杯畫 (11.6) (1.2) 「対面ロクロナア 底部へラ羽後ナア 外:にぶい橙 5YRE/4 粒微量合 小	や良 ・や良 ・や良	口縁30%		1002 - 02 1001 - 06
25 SH 杯身	や良	口縁10%		1001 - 06
26 SH 杯身	や良			+
27 SH		口縁15%		100* **
28 SH 1 高杯 (10.0) (2.0) 内外面ロクロナデ 外:灰黄褐 10YRF/2 量合 一次 一次 一次 一次 一次 一次 一次 一	や良		 	1001 - 01
29 SH 1 編頻養		杯部のみ	方形透孔	1003 - 02
30 SH 1	や良	口縁15%	内面自然釉付着	1001 - 03
31 SH1 生師器 (17.0) (4.2) □縁ョコナア外面ョコハケ 内面ョコハケ 内:にぶい黄橙 10y R7/4 やや密~0.2 cm 大の砂 や	や良	口縁25%	外面自然釉付着	1002 - 03
32 SH1 生師器 (21.6) (4.2) 口縁ヨコナデ外面ケテハケ内面ヨコハケ 内: 橙 5YRT/4 密 ~ 0.1cm大の砂粒樹 や	や良	口縁35%		1004 - 02
20 CU1 土師器 (20.0) (2.0) 口煙ココナラ 州東からの人 内部ココルト 内:明黄褐 10YR7/6 やや密 ~ 0.3 cm 大の砂 co	や不良	口縁10%		1004 - 01
【 33 【 C LI 】 ― 工卵研	や良	口縁10%		1004 - 05
35 5 1 変 (20.6) (6.2) 日終3-1 / 7 所到 7 / 7 7 9 回 3 7 7 / 9 大 2 7.5YR6 / 6 粒微量含	や不良	口縁25%		1004 - 04
元 (10.0) 7ト:にふい男位 101氏1/4 位版量占	や良	底部25%	平底	1004 - 06
30 31 4 杯蓋 (10.0) (4.0)		□縁30%		1010 - 01
50 511-7 杯蓋	や良	口縁20%		1011 - 01
SH4 杯蓋 9.0 3.2 つまみ貼付ナデ 外:明青灰 5PB3/1 粒多含 1	ゆ良	ほぼ完形		1010 - 02
50 51 杯蓋 (10.4) (1.6) (10.4) (1.6) (10.4) (1.6) (10.4) (1.6) (10.4) (1.6) (10.4) (1.6) (10.4)	_	口縁15%		1010 - 03
77 77 77 77 77 77 77 7		口縁15%		1010 - 04
40 Sn 4 杯身 (12.0) (3.7) P37H回コロフラ 成部ペラジ版で、 9 明春灰 5PB7/1 笛 ~ 0.1cm人の移私名 及 (資本)9		体部30% 脚部上面		1010 - 05
41 5 11	- 1	完存		1010 - 06
75 7	-	口縁10%		1011 - 03
19 3 11 4 第 (15.57 (5.57) 148-3-77 7 7 3 3 1 7 7 7 7 3 3 3 7 7 7 7 3 3 3 7 7 7 7		口縁小片		1007 - 02
44 3.1.4 変. (10.4) (4.0) 口称ココリー外回ココハリ 外:橙 7.5YR7/6 粒微量含 ~		口縁15%		1009 - 02
【 ⁴³ 5月4 変 (17.67 (2.67 日終コラブ 7 四ヨコブブ 外:橙 7.5YR6/8 量合		口縁10%		1009 - 04
 [→]○ Sing 	-	口縁10%		1005 - 03
41 5 1 4 多 (20.4) (3.6) 日曜コーバッ 外:橙 5YR7/7 粒酸量含 ~ 5.50/3 かか細 6.0 上の単		口縁10%		1009 - 01
10 3 10 夏 (10.07) (10.17) 1.084-2-17/7		口縁50%		1007 - 03
9 5 11 9 (24.2) (3.2) 日曜コーノ 外:にぶい黄橙 10VR7/4 粒微量合		口縁10%		1009 - 03
00 Sn 4 変 (14.0) (10.0) List コーパー 外:にぶい黄橙 10YR6/3 粒多含 (14.0) (10.0) List コーパー 外:にぶい黄橙 10YR6/3 粒多含	177120 1	体部30%		1008 - 01
91 91 9 11・1 9 11・1 9 11・1 9 11・11・11・11・11・11・11・11・11・11・11・11・11・		底部欠損		1005 - 01
³⁶ ³¹⁴ 発 ^{(21,27} ^{(0,67} 内面ヨコハケ 外:橙色 5YR7/6 含		口縁10%		1005 - 04
30 5日4 長朋連 (20.0) (6.0) 口称ココリ 沖山アハリ 河田ココリ 外: 浅黄檀 10YRM/3 粒多合		口縁25%		1006 - 01
94 5月4 長朋隻 (19.4) (19.		□縁50%		1006 - 02
55 S H 4 土師器 (31.0) (5.9) 内外面ヨコハケ 内: 橙 7.5YR7/6 社会 ヤや粗 ~0.3cm大の砂 不近 サ・電子 大・電子 カ・電子 555 (4)		口縁20%		1007 - 01
2E	 -⊦	底部25%	平底	1016 - 03
57 SF7 土師器 外: 橙 (13.4) (7.6) 口様ヨコナデ 内面ヨコハケ 内: 浅黄橙 外: 橙 10YR8/3 7.5YR7/6 やや密 ~0.3cm大の砂 7.5YR7/6 不月	i di	口縁20%		1016 - 04
58 SF7 土師器 変 (16.2) (3.4) 口様ヨコナデ 内面ナデ 外面ケテハケ 外: 橙 内: にぶい黄橙 5 YR6/6 10YR7/3 粒合 やや粗 ~0.2cm大の砂 大み		口縁10%		1016 - 02

報告書	che f. Macilia	BOSE + 12	法	量 (cm))	ですべ 3回動せたとの4年3年	4.	調	645	Jak chi	残存度	備考	登録番号
報告書番号	出土遺構	器種など	口径	器高	その他	成形・調整技法の特徴	色	阿	胎 土	焼成	7文11-1支	THH 15	豆辣雷万
59	SF7	土師器	(18.2)	(10,1)		口縁ヨコナデ 内面ナデ 外面タテハケ	内:橙 外:橙	5YR6/6 5YR6/6		やや良	口縁40%		1016 - 01
60	S H 9	須恵器 平瓶		(4.8)		内外面ロクロナデ 粘土円盤貼付	内:灰 外:灰		粒微量含	やや良	頸部30%	外面自然釉付着	1015 - 03
61	S H 9	須恵器 高杯		(3.9)	ļ	内外面ロクロナデ 脚柱部沈線	内:灰 外:灰	N6/ N6/	やや密 ~0.1cm大の砂 粒微量含	やや良	頸部50%		1015 - 02
62	S H 9	須恵器 有台長頸瓶		(3.2)	高台径 (10.2)	内外面ロクロナデ	内:灰 外:灰黄	5Y6/1 2.5Y7/2		やや良	底縁部40%	外面自然釉付着	1015 - 04
63	S H 9	土師器 変	(13.0)	(13.9)		口縁ヨコナデ 外面上位タテハケ下位 ヨコ ハケ 内面上位ヨコハケ下位ナデ	内:灰黄褐 外:褐灰	10YR6/2 10YR6/1	粒微量含	やや良	口縁40%		1014 - 01
64	S H 9	土師器		(3.3)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	内:橙 外:橙	7.5YR6/6		やや良	小片		1013 - 03
65	S H 9	土師器		(4.4)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	外:橙		やや密 ~0.3cm大の砂 粒微量含	やや良	小片		1013 - 02
66	SH9	土師器	(21.4)	(7.0)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	内:にぶい黄橙 外:にぶい黄橙	10YR7/2 10YR7/2	密 ~0.1cm大の砂粒含	やや良	口縁20%		1013 - 04
67	S H 9	土師器	20.6	(7,0)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面上位 ヨコ ハケ下位ケズリ	内:浅黄橙 外:にぶい黄橙	10YR6/4	やや密 ~0.2cm大の砂 粒微量含	やや良	口縁15%		1013 - 01
68	S H12	須恵器 杯蓋	(11.2)	(2.7)		内外面ロクロナデ	内:灰オリーブ 外:灰オリーブ	10Y6/1 10Y6/1	密 ~0.1cm大の砂粒含	良	口縁15%	外面自然釉付着	4002 - 01
69	S H12	須恵器 杯蓋	(12.8)	(4.0)		内外面ロクロナデ 頂部回転ヘラケズリ	内:灰外:灰	5Y6/1 5Y6/1	やや密 ~0.2cm大の砂 粒含	やや良	60%		4001 - 05
70	S H12	須恵器 杯蓋	(12.8)	(3.7)		口縁ヨコナデ 内外面ロクロナデ 頂部回 転ヘラケズリ	外:灰白	5Y7/1 5Y7/1	やや密 ~0.4cm大の砂 粒含	やや不良	口縁10%		4001 - 02
71	S H12	須恵器 杯身	(13.0)	(3.5)		内外面ロクロナデ 底部ヘラ切	内:灰白外:灰	N7/ N5/	やや密 ~0.1cm大の砂 粒含	良	口縁10%	外面自然釉付着	4001 - 01
72	S H12	須恵器		(6.3)		外面上位ロクロナデ 内面ロクロナデ 底部 回転ヘラケズリ	外:灰	N5/ N5/	やや密 ~0.4cm大の砂 粒含	良	体部40%		4001 - 03
73	S H12	須恵器		(6,3)		外面上位ロクロナデ下位回転へ ラケズリ 刺突文 沈線2条	内:灰 外:灰	5Y6/1 5Y6/1	やや粗 ~0.2cm大の砂 粒含	やや良	体部のみ		4001 - 06
74	S H12	須恵器 高杯		(6.6)		内外面ロクロナデ 外面沈線1条	内:灰 外:灰		やや密 ~0.1cm大の砂 粒含	良	脚部40%	方形透孔2段	4001 - 04
75	S H12	土師器	(15.2)	(4.0)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	内:灰黄褐 外:灰黄褐	10YR6/2 10YR6/2	やや密 ~0.2cm大の砂 粒含	やや不良	口縁25%		4002 - 03
76	S H12	土師器	(14.2)	(5.5)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	内:浅黄 外:浅黄	2.5Y8/3 2.5Y8/3	密 ~0.1cm大の砂粒含	やや不良	口縁45%		4005 - 01
77	S H12	土師器 菱	(17.4)	(6.1)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面上位 ヨコ ハケ下位ヘラケズリ	内:にぶい黄橙 外:にぶい橙	10YR7/4 7.5YR7/4	密 ~0.3cm大の砂粒含	良	口縁10%	内面煤付着	4002 - 02
78	S H12	土師器 変	(18,2)	(17.6)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	内:浅黄 外:灰白	10YR7/1		やや良	口縁45%		4003 - 01
79	S H12	土師器 長胴 蹇	(19.2)	(27.0)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面上位 ヨコ ハケ下位ヨコハケ後ケズリ	内:灰黄 外:灰黄褐	2.5Y6/2 10Y6/2	粒含	やや良	口縁完存		4004 - 01
80	S H12	土師器 把手			残存長 (3.9)	ナデ下位ヘラケズリ	内:浅黄橙 外:浅黄橙	10YR8/3	やや密 ~0.3cm大の砂 粒含	やや良	把手部のみ		4002 - 04
81	S H13	須恵器 高杯		(3.9)	底径 (9.0)	内外面ロクロナデ	内:緑灰 外:緑灰	10G6/1 10G6/1	やや密 ~0.1cm大の砂 粒含	やや不良	底縁35%	内外面自然釉付着	4006 - 02
82	S H13	土師器 長胴 甕	(18.4)	(12.1)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヘラケズ リ	内:にぶい橙 外:にぶい橙	5YR6/3 5YR6/4	密 ~0.4cm大の砂粒含	良	口縁20%		4006 - 01
83	S H19	須恵器 横瓶	(11.6)	(5,1)		ロクロナデ	内:灰 外:灰	N6/ N6/	やや密 ~0.2cm 大の砂 粒含	やや良	口縁20%	内外面自然釉付着	4007 - 01
84	S H19	土師器	(15.8)	(6.1)		口縁ヨコナデ 外面上位タテハケ 内面上位 ヨコハケ下位タテハケ	内:にぶい橙 外:にぶい橙	7.5YR6/4 7.5YR6/4	やや密 ~0.2cm大の砂 粒含	良	□縁25%		4008 - 01
85	S H 22	須恵器 杯蓋	(11.8)	(3.3)		内外面ロクロナデ 頂部ヘラ切後ナデ	内:明オリーブ灰 外:明オリーブ灰	5GY7/3 5GY7/3	やや密 ~0.1cm大の砂 粒含	やや不良	口縁20%		4018 - 02
86	S H 22	須恵器 杯身	(11.6)	(3.9)		内外面ロクロナデ 底部回転へラケズリ後 ナデ	内:灰白 外:灰白	N7/ N7/	密 ~0.2cm大の砂粒含	良	□縁20%		4018 - 01
87	S H 22	土師器 麦	(20.8)	(4.1)		□練ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ 粘土紐接合痕	内:にぶい黄橙 外:にぶい黄橙	10YR7/2 10YR7/2	密 ~0.1cm大の砂粒含	良	口縁10%		4018 - 03
88	S H36	須恵器 有台杯	(16.2)	3.5	高台径(11.0)	内外面ロクロナデ 底部回転へラケズリ 高台貼付ナデ	内:灰 外:灰	10Y6/1 10Y6/1	やや粗 ~0.1cm大の砂 粒含	やや不良	底部50%		4014 - 01
89	S H36	須恵器 有台杯	(14.8)	4.4	高台径 (10.6)	内外面ロクロナデ 底部回転へラケズリ 高台貼付ナデ	内:灰黄褐 外:灰黄褐	10YR6/2 10YR6/2	やや密 ~0.2cm大の砂 粒含	不良	底部完存		4014 - 06
90	S H36	須恵器 有台杯	(15.2)	4.1	高台径 (9.6)	内外面ロクロナデ 底部回転へラケズリ 高台貼付ナデ	内:灰白 外:灰白	7.5Y7/1 7.5Y7/1	やや密 ~0.2cm大の砂 粒含	不良	底部60%		4014 - 02
91	S H36	須恵器 高杯		(4.6)	底径 (8.7)	内外面ロクロナデ	内:灰 外:灰	5Y6/1 5Y6/1	やや密 ~0.1cm大の砂 粒含	やや不良	20%		4014 - 05
92	S H36	須恵器		(7.8)		外面上位ロクロナデ下位回転へ ラケ ズリ 内面ロクロナデ	内:灰白 外:灰白	2.5Y7/1	やや密 ~0.2cm大の砂 粒含	やや良	体部30%		4014 - 03
93	S H36	須恵器 鉢	(21.0)	(9.9)		内外面ロクロナデ	内:灰白 外:灰白	5Y8/1 5Y8/1	密 ~0.1cm大の砂粒含	やや不良	口縁20%		4014 - 04
94	S H 36	土師器 長 胴甕	(23.8)	(10.5)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	内: にぶい黄橙 外: にぶい黄橙	10YR6/4 10YR6/4	密 ~0.1cm大の砂粒含	良	□縁15%		4017 - 01
95	S H 36	土師器 長胴蹇	(21.4)	(14.1)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面上位 ヨコ ハケ下位タテハケ			密 ~0.4cm大の砂粒含	良	口縁30%		4016 - 01
96	S H39	須恵器 杯身	(8.4)	(2.8)		内外面ロクロナデ 底部回転ヘラケズリ	内:灰白 外:灰白	2.5Y7/1 N7/	密 ~0.1cm大の砂粒含	良	□縁45%		4020 - 01
97	S H39	須恵器 颹	(10,4)	(3,9)		内外面ロクロナデ	内:灰 外:灰	N6/ N5/	やや密 ~0.1cm大の砂 粒含	良	口縁20%		4019 - 01
98	S H 39	須恵器 横瓶	(13.4)	(4.0)		口様ヨコナデ 内外面ロクロナデ 内面同心 円文	内:灰 外:灰	N6/ N6/	密 ~0.3cm大の砂粒含	良	口縁20%		4019 - 02
99	S H 39	土師器	(15.2)	(6.7)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	内: にぶい黄橙 外: にぶい黄橙	10YR7/3	やや粗 ~0.3cm大の砂 粒含	不良	口縁25%		4020 - 02
100	S H 39	土師器	(14.8)	(5.6)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	内:灰褐 外:にぶい橙		やや密 ~0.2cm大の砂	良	口縁10%	,	4019 - 04
101	S H 39	土師器	(21.2)	(3.8)		口縁ヨコナデ 内面ヨコハケ	内:にぶい橙 外:にぶい橙		やや密 ~0.1cm大の砂	良	□縁20%		4020 - 03
102	S H44	須恵器 杯蓋	(13.9)	(3.5)		内外面ロクロナデ 頂部ヘラ切	内:灰 外:灰	N6/ N5/	やや粗 ~0.1cm大の砂 粒含	やや良	□縁10%		4022 - 02
103	S H44	須恵器 杯身	(11.6)	(4.1)		内外面ロクロナデ 底部回転ヘラケズリ	内:灰 外:灰	N5/ N5/	密 ~0.2cm大の砂粒含	良	口縁10%		4022 - 03
104	S H44	須恵器	(11.4)	(10.9)		内外面ロクロナデ 体部外面沈線2条 底部 回転ヘラケズリ	内: にぶい橙 外: 灰	5YR6/4 5Y8/1	やや密 ~0.1cm大の砂 粒含	不良	口縁10%		4022 - 01
105	S H44	土師器	(29,6)	(5.0)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	内: にぶい黄橙 外: 灰褐		やや密 ~0.3cm大の砂	やや良	口縁15%		4024 - 01
106	S H44	上師器 把手付賽	(23.6)	(9.9)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ 後ケズリ 把手付後ハケメ	内:にぶい黄橙 外:にぶい橙		やや密 ~0.3cm大の砂	良	口縁20%		4025 - 01
107	S H46	須恵器 杯身	(11.8)	(3.2)		内外面ロクロナデ	内:灰白 外:灰		やや粗 ~0.3cm大の砂	やや良	口縁20%		4026 - 04
108	S H46	須恵器 杯身	(9.8)	(3.5)		内外面ロクロナデ 底部ヘラ切	内:灰 外:灰		やや密 ~0.2cm大の砂	良	口縁40%		4026 - 03
109	S H 46	土師器	(15.2)	(3.0)		□縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	内:灰白 外:灰白	2.5Y8/2 2.5Y8/2	やや密 ~0.1cm大の砂	不良	口縁25%		4027 - 01
110	S H46	土師器 長胴甕	(20.0)	(7.8)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	内: 灰口 内: にぶい黄橙 外: にぶい黄橙		やや密 ~0.2cm 大の砂	やや良	口縁15%		4026 - 01
111	S H46	上師器 長胴甕	(19.8)	(8.8)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	外:にあい黄檀 内:にぶい黄褐 外:にぶい黄褐		やや密 ~0.1cm大の砂	やや良	口縁30%		4026 - 02
112	S H46	土師器	(17.8)	(3,8)	-	口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	内:にぶい黄橙	10YR7/4	やや密 ~0.3cm 大の砂	良	口縁20%		4023 - 01
113	S H 45	須恵器	(13.0)	(3.6)		内外面ロクロナデ 底部回転ヘラケズリ	外:にぶい橙 内:灰	N6/	粒含 やや密 ~0.2cm 大の砂	やや良	口縁15%		4032 - 04
114	S H 45	杯身 土師器	(13.3)	(3.7)		口縁ヨコナデ 外面ユビ オサエ後ナデ 内	外:灰 内:明赤褐 外:明赤褐	N5/ 5YR5/6	粒含 密 ~0.1cm大の砂粒含	やや良	40%	内面放射暗文	4031 - 01
115	S H 45	土煎器	(18.0)	(8.2)		面ナデ 内外面ナデ 底部ヘラケズリ	内:黄灰	5YR5/6 2.5Y6/1	やや粗 ~0.2cm 大の砂	やや不良	口縁55%		4032 - 03
116	S H 45	針 土師器 出統子品	<u> </u>	(3.4)	底径	内外面ナデ	外:黄橙 内:にぶい橙	7.5YR7/8 7.5YR7/4	やや密 ~0.5cm大の砂	やや良	底部50%		4033 - 02
		器種不明		/	(7.8)		外:橙	7.5YR7/6	私百				

報告書番号			×+-	量(cm)	- 1										
	出土遺構	器種など	口径		その他	成形・調整技法の特徴		色	調	胎	± 	焼成	残存度	備考	登録番号
117	S H45	土師器	(13.4)	(12,2)		口縁ヨコナデ 外面ケズリ 内面タテハケ 底部ヘラケズリ	内:	にぶい橙 にぶい橙	7.5YR6/4 5YR6/4	密 ~0.6cm大	の砂粒含	良	口縁70%		4032 - 02
118	S H45	土師器 変	(13.2)	(8,6)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	内:	灰黄褐 にぶい橙	10YR6/2 7.5YR7/4	密 ~0.1cm大	の砂粒含	やや不良	口縁完存		4032 - 01
119	S H45	土師器 長胴 甕	(20,6)	(!7.5)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	内:	橙 橙	7.5YR7/6 7.5YR7/6	やや密 ~0.5 粒含	cm大の砂	良	口縁20%		4028 - 01
120	S H45	土師器 長胴蹇	(18.0)	41.2		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ 一部ケズリ	内:	にぶい橙 にぶい橙	7.5YR7/3 7.5YR7/3	やや密 ~0.2 粒含	cm大の砂	やや良	ほほ完存		4035 - 01
121	S H45	土師器 長胴 甕	(21.4)	36.7		口縁ヨコナデ 外面上位タテハケ底部ハケ 内面ヨコハケ中位ケズリ	外:	明黄褐 明黄褐	10YR7/6 10YR7/6	やや密 ~0.3 粒含	cm大の砂	やや良	口縁60%		4034 - 01
122	S H 45	土師器 籔	(20.6)	(9.6)		口縁ヨコナデ 内外面タテハケ	外:	にぶい黄褐 にぶい黄褐	10YR7/4 10YR7/4	密 ~0.2cm大		良	□縁30%		4033 - 01
123	S H 45	土師器 把手付 賽		(15.2)		外面上位タテハケ下位ケズリ 内面ナナメ ハケ 把手ナデ	内:	橙 橙	5Y6/6	やや密 ~0.3 粒含	cm大の砂	やや良	体部30%		4030 - 01
124	S H54	須恵器 杯蓋	(12.0)	(4.1)		内外面ロクロナデ 頂部回転ヘラケズリ	外:	灰黄 灰白	2,5Y7/2 N7/	密 ~0.2cm大		良	口縁15%		2005 - 06
125	S H54	須恵器 杯蓋	(12.7)	(3.5)		内外面ロクロナデ 頂部回転ヘラ切後ナデ	外:	灰赤 灰赤	2.5YR5/2 2.5YR5/2			良	口縁10%		2005 - 02
126	S H54	須恵器 杯蓋	(12.4)	(4.4)		内外面ロクロナデ 頂部回転ヘラ切	外:	灰白	5Y7/1 5Y7/1	やや密 ~ 0.1 含		良	60%		2005 - 01
127	S H54	須恵器 杯蓋	(14.2)	(4.8)		内外面ロクロナデ 頂部ヘラ切	外:	青灰 青灰	5B5/1 5B5/1	やや密 ~0.2 粒含	cm大の砂 	やや不良	30%		2006 - 01
128	S H54	須恵器 杯身	(10.5)	(3.9)		内外面ロクロナデ 底部ヘラ切	外:	灰灰	N5/ N5/	粗 ~0.3cm大		やや良	口禄20%		2005 - 04
129	S H 54	須恵器 杯身	(13.6)	(3.5)		内外面ロクロナデ 底部ヘラ切	外:	黄灰 灰白	2.5Y6/1 2.5Y7/1	やや粗 ~0.2 粒含		やや良	口縁15%		2005 - 05
130	S H54	須恵器 杯身	(13.4)	(4.2)		内外面ロクロナデ 底部へラ切後ナデ	外:	青灰	10GB6/1 10GB6/1	粒含	cm大の砂	良	口縁50%		2005 - 03
131	S H54	土師器	(15.8)	(15.6)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面上位ヨコ ハケ下位ケズリ	外:		2.5YR6/8	やや密 ~0.8 粒含	cm大の砂	やや不良	口縁のみ		2003 - 01
132	S H54	土師器 長胴 変	(19.7)	(10.8)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	外:	にぶい橙にぶい橙	7.5YR7/4 7.5YR7/4	密 ~ 0.3cm大		やや良	口縁完存 体部50%		2002 - 01
133	S H66	須恵器 杯蓋	(13.2)	(3.8)		内外面ロクロナデ		灰	N6/ N6/	やや密 ~0.1 粒含		R	口縁20%		2007 - 05
134	S H66	須恵器	(19.8)	(6.4)		口頸部沈線2条 上位刺突文 内外面ロクロ ナデ		灰日 灰白 黄橙	5Y7/1 5Y7/1	密 ~0.1cm大 やや密 ~0.7		良	[1縁10%	外面自然釉付着	2008 - 01
135	S H66	土師器	(14.4)	(5.6)		口縁ヨコナデ 体部外面ハケメ		橙	7.5YR7/8 2.5YR6/8	を含 ~0.7 粒含 ~0.2		不良	口縁10%	内外面摩滅	2007 - 03
136	S H66	土師器	(17.0)	(4.4)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	外:		5YR6/6 5YR6/6	粒含	cm大の砂	1112	口繰15%		2007 - 04
137	S H 66	土師器	(19.0)	(5.0)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	外:	にぶい黄檀 にぶい黄橙	10YR7/3 10YR7/4	粒含	cm大の砂	やや良	口繰15%		2007 - 02
138	S H66	土師器 薨	(18.4)	(9.0)		口縁ヨコナデ 外面ヨコハケ 内面タテハケ	外:	にぶい黄橙 灰白	10YR5/3 N7/	粒含		やや良	口縁15%		2007 - 01
139	S H67	須恵器 杯蓋	(15.4)	(2.5)		内外面ロクロナデ 頂部回転ヘラケズリ	外:	青灰	5PB8/1	粒含	em大の砂	良	口縁15%		2009 - 04
140	S H67	須恵器 杯身 須恵器	(13.4)	(3.0)		内外面ロクロナデ	外:	賛灰 灰白	2.5YR5/1 2.5Y5/1 7.5Y8/1	密 ~0.1cm大 やや密 ~0.1		やや不良	口縁30%		2009 - 05
141	S H67	有思研 杯身 須恵器	(12.2)	(3.8)		内外面ロクロナデ 底部ヘラ切		灰白		粒含	cm大の砂	やや不良	50%		2009 - 06
142	S H 67	观	(11.4)	(7.5)		内外面ロクロナデ	外:	灰	N6/ N6/	粒含	cm大の砂	やや良	口縁30%		2012 - 01
143	S H 67	横瓶		(23.7)		外面タタキ 内面同心円文 粘土板貼付	外:	灰	7.5YR4/1 5YR6/6	粒含		良	体部50%	_	2010 - 01
144	S H 67	上師器	(16.8)	(5,7)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ			5YR7/6 5YR7/4	粒含 やや密 ~0.5		やや良	口縁10%	-	2009 - 01
145	S H67	土師器	(22.4)	(6.2)	底径	口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	内	にぶい橙 にぶい橙 灰黄褐	5YR7/4 10YR5/2	粒含 粗 ~0.1cm大	_	やや良	口縁25% 底部のみ	平底	2009 - 03
146	S H 67	賽 土師器	(18.3)	(8.7)	(8.7)	外面タテハケ 内面板ナデ 底部外面ケズリ 口縁ヨコナデ 外面上位タテハケ下位ヨコ	外:	<u>にぶい橙</u> 橙	7.5YR6/4 7.5YR6/8				ほぼ完存	THE	2014 - 01
147	S H 69	長胴甕 須恵器	(14.6)	(4.2)		ハケ 内面上位ヨコハケ下位ケズリ 内外面ロクロナデ	外:	灰	7.5YR6/8 N5/	やや密 ~0.1	cm大の砂	良	口縁25%		2013 - 04
148	S H 68	杯蓋 須恵器	(13.2)	(4.4)		内外面ロクロナデ 頂部ヘラ切	外:	浅黄	N5/ 5Y7/3	粒含 やや密 ~0.1	cm大の砂	不良	口縁15%		2013 - 05
150	S H68	杯蓋 須恵器	(12.1)	(3.0)		内外面ロクロナデ	内:	浅黄 灰	5Y7/3 10Y5/1	粒含 密 ~0.1cm大	の砂粒含	やや良	口縁10%		2013 - 06
151	S H68		(20.0)	(3.4)		内外面ロクロナデ 外面沈線2条	内:	灰 赤灰	10Y5/1 2.5Y5/1	密 ~0.1cm大	_	良	口縁15%		2013 - 03
152	S H 68	土師器	(20.8)	(5.3)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ		赤灰 にぶい黄橙 灰黄褐	2.5Y5/1 10YR7/4	やや密 ~0.2			口縁10%		2013 - 01
153	S H68	變 土師器	(20.0)	(3.2)	底径 (9.0)	内面ナデ 底部外面ヨコハケ	外:	灰黄褐 にぶい黄橙	10YR5/2 10YR7/3	粒含 やや密 ~0.2 粒含	cm大の砂		底部25%	平底	2013 - 02
154	S H83	要 須恵器	10.7	3.3	(9.0)	内外面ロクロナデ 底部ヘラ切後回転 ヘラ	内:	灰白	N7/	粒含 密 ∼0.1cm大		良	完存	 	3019 - 03
155	S H83	杯身 土師器	(18.0)	(6.8)		ケズリ 口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	外: 内: 外:	灰白 橙	7.5YR6/6	æ - 01+		良	口縁10%		3019 - 02
156	S H83	土師器	(24.0)	(8.7)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	内:	明褐灰	7.5YR6/6 7.5YR7/2	ota a d		良	口縁20%		3019 - 01
157	S H83	土師器	(32.4)	(24.5)		口縁ヨコナデ 外面上位タテハケ下位ヨコ ハケ 内面ヨコハケ後ケズリ	内:	浅黄橙 にぶい黄橙 にぶい黄橙	10YR8/3 10YR7/3 10YR7/3	やや粗 ~0.5		やや不良	口縁10%		3018 - 01
158	S B 63		(12.5)	(3.1)		内外面ロクロナデ	内:		N8/ 25V3/1	松凸 やや密 ∼0.3 粒含	cm大の砂	1	口縁10%		2015 - 02
159	S B 49	須恵器 杯蓋		(1,9)		内外面ロクロナデ	内:	暗灰 暗緑灰	N3/ 7.5GY7/1	やや家 ~0.1			小片		2015 - 03
160	S B 57	須恵器 杯蓋		(1.8)		内外面ロクロナデ	内:	灰白 灰白		やや密 ~0.1	cm大の砂	不良	小片		2015 - 04
161	S B 63	須恵器 杯蓋		(2.5)		内外面ロクロナデ	内:	青灰 青灰		やや密 ~0.1	cm大の砂	良	小片		2015 - 05
162	S B14	須恵器 杯身	(11.5)	(3.6)		内外面ロクロナデ 底部ヘラ切	内:	灰白 灰白	5Y7/1 5Y7/1	密 ~0.1cm大	の砂粒含	不良	口縁10%		4036 - 05
163	S B 14	須恵器 杯身	(11.8)	(3.2)		内外面ロクロナデ 底部回転ヘラケズリ	内:	灰灰	5Y6/1 7.5Y6/1	密 ~0.1cm大	の砂粒含	良	口繰10%		4036 - 03
164	S B 17	須恵器 杯身	(10.8)	(2.8)		内外面ロクロナデ	内:	灰灰	N6/ N6/	密 ~0.1cm大	の砂粒含	良	口縁10%		4037 - 02
165	S B 65	須恵器 杯身	(10.8)	(2.8)		内外面ロクロナデ	内:	別オリープ灰 曵黄	2.5GY7/1 2.5Y7/3	やや密 ~0.2	cm大の砂	不良	10%		2015 - 01
166	S B 41	須惠器 杯身		(1.8)		内外面ロクロナデ	内:	灰褐 灰褐		やや密 ~0.1	cm大の砂	やや不良	小片		4039 - 02
167	S B 52	須恵器 杯身		(2,1)		内外面ロクロナデ	内:	灰白 灰	N7/ N4/	やや密 ~0.1 粒含		126	小片		2015 - 08
168	S B 59	須恵器 杯身		(3.1)		内外面ロクロナデ	内: 外:	褐灰 灰褐	5YR6/1 5YR5/2	やや密 ~0.1 粒含		やや良	小片		2015 - 07
169	S B 60	須恵器 杯身		(1.6)		内外面ロクロナデ	内:外:	にぶい橙 灰白	7.5YR7/4 7.5Y8/2	やや密 ~0.1 粒含		不良	小片		2015 - 06
170	S B 17	須恵器 高杯		(5.4)	底径 (9.4)	内外面ロクロナデ	内:	灰黄 灰黄	2.5Y7/2 2.5Y7/2	やや密 ~0.2 粒含		やや不良	底部10%		4037 - 03
171	S B 20	須惠器 蹇	(19.9)	(3.1)		内外面ロクロナデ	内:	灰 灰	N5/ N5/	やや密 ~0.1 粒含		良	口縁10%		4038 - 01
172	S B 64	土師器 賽	(14.0)	(2.5)		口縁ヨコナデ	外:	にぶい黄 にぶい黄	2.5Y6/3 2.5Y6/3	やや密 ~0.3 粒含		良	口縁10%		2016 - 05
173	S B 56	土師器	(16.8)	(2.3)		口縁ヨコナデ 内面ヨコハケ	内:外:	にぶい黄橙 にぶい黄橙	10YR7/3 10YR7/3	やや密 ~0.4 粒含		良	口縁20%		2016 - 03
	S B 59	土師器	(17.1)	(2.7)		口縁ヨコナデ	内:	浅黄 浅黄		やや密 ~0.2	cm大の砂	良	□縁10%		2016 - 04

報告書	ele 1. valuable	80 S.S. J. 1.0	法	量 (cm))	中式 细胞补补内能器		4.	300				Ada etc	瑞方庇	/# #/	改经景具
番号	出土遺構	器種など	口径	器高	その他	成形・調整技法の特徴		色	調		始 土	-	焼成	残存度	備考	登録番号
175	S B 49	土師器 変	(18.2)	(4.8)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ		にぶい黄橙 にぶい黄橙		粒含			良	口縁10%		2016 - 01
176	S B14	土師器	(17.8)	(3.9)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	外:	にぶい黄橙にぶい黄橙		粒含			やや良	口縁15%		4036 - 01
177	S B 65	土師器	(21.8)	(2.4)		口縁ヨコナデ	外:	浅黄	5Y7/3 5Y7/3	粒含			良	口縁10%		2017 - 01
178	S B 61	土師器	(20.6)	(6.5)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	外:	浅黄	5Y8/3 5Y8/3	粒含	~0.1cm		良	口縁20%		2016 - 02
179	SD5 I層	須恵器 杯蓋 須恵器	(12.4)	(3.8)		内外面ロクロナデ 頂部へラ切		灰白灰	7.5Y6/1	やや密 粒含			良	30%		1034 - 04
180	SD5 IME SD5	杯蓋	(12,4)	(4,1)		内外面ロクロナデ 頂部ヘラ切	外:	灰	N7/ N4/ N6/	粒含	~0.1cm		身	口縁10%		1034 - 01
181	I層	須恵器 杯蓋 須恵器	(12.8)	(3.6)		内外面ロクロナデ 頂部ヘラ切	外:	灰	N7/ N6/	粒含	~0.1cm		良	25%		1034 - 03
182	SD5 I層 SD5	利息品 杯身 須恵器	(9.4)	(2.7)		内外面ロクロナデ 内外面ロクロナデ 外面沈線2条 刺突文	外:	灰	7.5YR6/1	粒含	~0.1cm		良	25%		1034 - 05
183	I ME S D 5	類思辭 颹 須恵器	ļ	(5.0)		底部外面ロクロケズリ	外:	灰呂 明青灰	N7/ 5PB7/1	粒含			良	口縁10% 肩部30%		1034 - 02
184	I層 SD5	提瓶	ļ	(11.2)		内外面ロクロナデ 外面カキメ	外:	明青灰 青黒	5PB7/1 5B2/1		.2cm大の値 ~0.1cm		良	頸部50%	外面自然釉付着	1035 - 01 1049 - 01
185	I層 SD5	横瓶	(13.4)	(23.5)		口縁ヨコナデ 外面タタキ 内面同心円文	内:	長否 にぶい黄橙	N7/	粒含			良	20%		1050 - 01
186	I層 SD5	土師器	(16.0)	(4.0)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	好: 内:	にぶい黄橙	10YR6/4 5YR6/8		.2cm大のf .6cm大の		やや良	口縁20%		1086 - 03
187	I M∰	運 須恵器	(24.2)	(9.1)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	外:	橙	5YR6/8 7,5R6/1	含	~0.1cm		不良	口縁10%		1092 - 02
191	SD5	杯蓋 須恵器	(8.6)	(2.7)		内外面ロクロナデ 頂部へラ切後ナデ	外:	灰	N6/ 10Y6/1	粒含	~0.1cm		良	口縁10%		1047 - 03
192	II層 SD5	杯蓋 須恵器	9.7	3.9		内外面ロクロナデ 頂部ヘラ切	外:	灰	10Ŷ6/1 7.5Y6/1	粒含や密			やや良	ほぼ完存		1037 - 02
193	II層 SD5	杯蓋 須恵器	(9.8)	(4.6)		内外面ロクロナデ 頂部へラ切後ナデ	外:	灰	5Y6/1 5Y6/1	粒含	~0.1cm		やや不良	口縁10%		1042 - 08
194	II層 SD5	杯蓋 須恵器	(10.4)	(3.0)		内外面ロクロナデ 頂部回転ヘラケズリ	外:	灰	5Ŷ6/1 N6/	粒含や密密			やや良 良	口縁15%	-	1036 - 05
195	II層 SD5	杯蓋 須恵器	(12.1)	(2.8)		内外面ロクロナデ 頂部回転へラケズリ 内外面ロクロナデ 頂部へラ切後ナデ	外:	<u>灰</u> 灰白	N6/ N8/	粒含 やや密			良	25%		1047 - 07
196	II層 SD5	杯蓋 須恵器	(12.8)	(3.2)		内外面ロクロナデ 内面ロクロナデ 頂部へ	外:	<u>灰白</u> オリーブ灰	N7/ 2,5GY6/1	粒含	.1cm大の祈		良	□縁30%		1042 - 05
197	II層 SD5	杯蓋 須恵器	(12.2)	(4.0)		ラ切後ナデ	外:	<u>灰</u> 灰	N6/ N6/	やや密	~0.1cm			口稼30% 口縁10%		1041 - 01
198	II層 SD5	杯蓋 須恵器	(13.8)	(3.8)		内外面ロクロナデ 頂部ヘラケズリ 内外面ロクロナデ	外:	<u>灰白</u> 灰	N7/ N7/	粒微量	含		やや良	□縁10%		1044 - 04
200	II層 SD5	杯蓋 須恵器	(10.2)	(3.8)		内外面ロクロナデ 底部回転ヘラケズリ	外:	灰	N7/ N6/	粒含 やや粗			やや不良	口縁15%		1044 - 03
200	II層 SD5	杯蓋 須恵器	(11.6)	(4.6)		内外面ロクロナデ 底部へう切後ナデ	内:	灰	10YR7/3 10Y6/1	粒含 やや密 粒含	~0.1cm	大の砂	良	日禄10%		1047 - 02
201	II層 SD5	杯蓋 須恵器	8,7	3,0		内外面ロクロナデ 頂部回転ヘラケズリ	外:	尿	2.5Y6/1 N8/	やや密		大の砂	R R	完形		1041 - 06
202	II層 SD5	杯蓋 須恵器	(8,4)	(2.0)		つまみ貼付ナデ 内外面ロクロナデ 頂部回転ヘラケズリ	内:	<u> </u> 灰オリーブ 灰白	5Y6/2 N7/	粒含 ~ 0	.1cm大の研	油粉 今	良	体部15%	外面自然釉付着	1053 - 06
203	II層 SD5	杯蓋 須恵器	(10.5)	(3.1)		つまみ貼付ナデ 内外面ロクロナデ 外面頂部ヘラ切後ナデ	外:	灰	N7/ N4/	やや粗	~0.4cm		やや良	口縁20%	2 First 12 Worth 12 Vil	1036 - 01
204	II層 SD5	杯蓋 須恵器	(11.2)	(2,1)		つまみ貼付ナデ 内外面ロクロナデ	外:	灰	N5/ N6/	粒含や容	~0.1cm	大の砂	ę.	口縁15%	外面自然釉付着	1046 - 02
206	II層 SD5	杯蓋 須恵器	(9.8)	(2.7)		内外面ロクロナデ 頂部ヘラケズリ つまみ		灰	7.5Y6/1 N6/	粒含や容	~0.1cm	大の砂	良	60%	外面自然釉付着	1041 - 02
207	II層 S D 5	杯蓋 須恵器	(11.0)	(2.5)		貼付 内外面ロクロナデ	内:	暗灰 灰白	N3/ N7/	粒含や容	~0.1cm	大の砂	良	口縁25%	71 14 14 14 14 14 14	1042 - 07
208	II層 S.D.5		(11.3)	(3.3)		内外面ロクロナデ 底部回転ヘラケズリ		灰黄	N7/ 2.5Y7/2	粒含	~0.1cm	大の砂	やや不良	口縁10%		1037 - 01
209	II層 SD5	杯身 須恵器	(15.8)	(3.1)		内外面ロクロナデ	内:		2.5Y7/2 N5/	粒含	~0.2cm	大の砂	やや良	口縁10%		1045 - 06
210	II 層 S D 5	杯身 須恵器	(10.6)	(2.2)		内外面ロクロナデ	内:		N5/ 5YR6/1	粒含	~0.1cm	大の砂	良	口縁25%		1040 - 03
211	II層 S.D.5	無	(9.6)	(2.6)		内外面ロクロナデ	内:		N6/ N7/	粒含や密	~0.1 cm	大の砂	やや良	口縁10%		1045 - 02
212	II層 SD5	無	(11.4)	(3.3)		内外面ロクロナデ 底部回転ヘラケズリ	内:	灰白	7.5Y7/1	粒含 やや粗	~0.5cm	大の砂	やや良	口縁30%	内外面自然釉付着	1036 - 04
213	II層 S.D.5	無 杯身 須恵器	(10.6)	(4,3)		内外面ロクロナデ 外面底部ロクロヘラケ		灰	7.5Y7/2 N7/ N7/	粒含 やや密 粒含	~0.1cm	大の砂	やや不良	口縁50%		1036 - 06
214	II層 SD5	杯身 須恵器	(10.0)	(3.7)		ヘリ 内外面ロクロナデ 底部ヘラ切後ナデ	内: 内: 外:	灰灰	N5/ N5/		~0.2cm	大の砂	良	底部完存		1042 - 01
215	II層 SD5 II層	杯身 須恵器 好な	(10.0)	(3.4)		内外面ロクロナデ 底部ヘラ切後ナデ	内:	灰白	N7/ N5/		~0.1cm	大の砂	良	口縁75%		1042 - 03
216	SD5 II層	杯身 須恵器 杯身	(9.6)	(3.7)		内外面ロクロナデ 底部ヘラ切後ナデ		月オリーブ灰	5GY7/1 2.5GY7/1		.1cm大の資	少粒含	やや不良	口縁60%		1042 - 02
217	SD5 II層	須恵器 有台杯	(15.4)	(4.1)	高台径 (10,8)	内外面ロクロナデ 底部回転ヘラケズリ 高台貼付	内:	灰白	10Y7/1 N5/	密 ~0	.1cm大の配	少粒含	良	口縁10%		1041 - 03
218	SD5 II層	須恵器 有台杯		(2.7)	高台径 (12.8)	内外面ロクロナデ 高台貼付	内:	バ にぶい黄橙 黄灰		やや密	~0.1 cm	大の砂	やや不良	底部15%		1045 - 01
219	SD5 II層	須恵器 有台杯		(2.4)	高台径 (15.2)	内外面ロクロナデ 底部回転ヘラケズリ 高台貼付	内:	灰黄		やや密	~0.1cm	大の砂	やや良	底部30%		1042 - 04
220	SD5 II層	須恵器 有台杯	(16.4)	(4.3)	高台径 (13.6)	内外面ロクロナデ 底部ヘラケズリ 高台貼			7.5Y7/1 N7/	やや密	~0.1cm	大の砂	良	口縁20%		1040 - 04
221	SD5 II層	須恵器 有台杯		(2,6)	高台径 (13.2)			灰白	10YR7/1 N6/		~0.1 cm	大の砂	良	底部25%		1047 - 01
222	SD5 II層	須恵器 高杯	(13.0)	(4.6)		内外面ロクロナデ	内:	<u>ハ</u> オリーブ灰 明青灰			.1cm大の研	少粒含	良	口縁50%	杯部	1043 - 06
223	SD5	須恵器 高杯	(14.6)	(3.9)		内外面ロクロナデ 底部回転ヘラケズリ	内:	灰白	10Y7/1 10Y7/1		~0.1 cm	大の砂	不良	口縁15%		1045 - 03
224	SD5 II層	須恵器 高杯	(16.8)	(3.5)		内外面ロクロナデ 外面回転ヘラケズリ	内:	灰	N7/ N7/		~0.1cm	大の砂	不良	口縁10%		1044 - 05
225	SD5 II層	須恵器 高杯		(4.9)	底径 (11,0)	内外面ロクロナデ	内:	灰白	N8/ N8/	密 ~0.	.3cm大の耐		良	底部30%		1040 - 06
226	SD5 II層	須恵器 高杯		(3.4)	底径 (10.4)	内外面ロクロナデ	内:	灰白	5Y7/1 5Y7/1	やや密 粒含	~0.1 cm	大の砂	不良	脚部25%		1048 - 03
227	SD5	須恵器 醜	(7.2)	(2.2)		内外面ロクロナデ	内:	灰白	N7/ N5/	やや密 粒微量	含		やや良	□縁20%		1037 - 06
228	SD5 II層	須恵器 細頸壷		(5.1)		内外面ロクロナデ 外面肩部沈線 下位 波状 文 底部糸切後ナデ 高台貼付		灰黄橙	10YR6/2 N8/	やや密		大の砂	良	体部50%		1040 - 01
229	SD5 II層	須恵器 颹		(6.4)		内外面ロクロナデ 外面沈線2条下位回転へ ラケズリ	内:	青灰	5B5/1 5B5/1	密 ~0.	1cm大の例		良	体部30%		1040 - 02
230	SD5 II層	須恵器 提瓶	(9.4)	(7.6)		内外面ロクロナデ 頸部沈線2条	内:	明青灰 明青灰	5PB7/1 5PB7/1	やや密 粒含	~0.3cm	大の砂	やや良	口縁25%	外面自然釉付着	1039 - 01
231	SD5 II層	須恵器 提瓶				把手部ヘラケズリ 体部外面タタキ	内:	灰白 灰白	N8/ N6/		~0,1cm	大の砂	良	把手部のみ		1043 - 02
232	SD5 II層	須恵器 瓶		(5.8)		内外面ロクロナデ	内:	灰白	N7/ N5/		~0.1cm	大の砂	良	頸部30%		1047 - 04
233	SD5 II層	須恵器 瓶	(7.4)	(4,4)		内外面ロクロナデ 外面沈線1条	内:	灰	N6/ N6/		~0.3cm	大の砂	やや良	口縁30%		1038 - 01
234	SD5 II層	須恵器 瓶	(7.6)	(5,1)		内外面ロクロナデ	内:	₩	N6/ N6/		.1cm大の荷	炒粒含	良	20%		1048 - 02
235	SD5 II層	須恵器 横瓶	(8.8)	(1.8)		内外面ロクロナデ	内:	灰	N6/ N5/	やや密 粒含	~0.1 cm	大の砂	やや良	口縁25%		1044 - 02
	4 개념	194 /IPA					155	<u> </u>	110/	too hel						

表10 遺物(土器・陶器)観察表(4)

#17 At all			法	量 (cm)								
報告書番号	出土遺構	器種など	口径	器高	その他	成形・調整技法の特徴	色	調	胎土	焼成	残存度	備考	登録番号
236	SD5 II層	須恵器 横瓶	(13.4)	(3.4)		内外面ロクロナデ	内:灰 外:灰	N6/ N6/	やや密 ~0.2cm大の砂 粒微量含	やや良	口縁15%		1037 - 04
237	SD5 II層	須恵器 横瓶	(12.6)	(5.9)		口縁ロクロナデ 外面タタキ 内面板ナデ	内:灰 外:赤灰	5Y4/1 5Y6/1	やや密 ~0.1cm大の砂	良	10%		1043 - 05
238	SD5 II層	須恵器 短頸壷	(11.4)	(9.6)	底径 (6.6)	内外面ロクロナデ 外面沈線3条 底部ロクロヘラケズリ	内:灰 外:灰	N6/ N6/	密 ~0.1cm大の砂粒含	良	体部50%		1047 - 06
239	SD5 II層	須恵器 台付壷	-	(2.1)	高台径 (10.8)	内外面ロクロナデ	内:灰白 外:灰白	5Y7/1 5Y7/1	やや密 ~0.1cm大の砂 粒含	やや良	底部40%	内外面自然釉付着 方形透孔	1061 - 03
240	SD5	須恵器 台付壷		(2.1)	高台径 (9.6)	内外面ロクロナデ	内:灰白 外:灰白	7.5YR7/1 7.5YR7/1	密 ~0.1cm大の砂粒含	やや良	底部25%	内外面自然釉付着	1045 - 04
241	SD5 II層	須恵器	(32.4)	(13.7)	(0.0)	口縁ロクロナデ 外面タタキ 内面ナデ	内:灰 外:灰	75Y6/1	やや密 ~0.3cm大の砂 粒含	やや良	口縁30%	1	1065 - 01
242	SD5	土肺器	(22.8)	(2.3)		口縁ヨコナデ 内面暗文 底部ケズリ	内:橙 外:橙	5YR6/6 5YR6/6	やや密 ~0.1cm大の砂	不良	15%		1123 - 02
243	SD5	土師器	(12.6)	(3.9)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ	内:にぶい掲 外:にぶい褐	7.5YR5/4 7.5YR5/3	密 ~0.4cm大の砂粒含	良	口縁10%		1084 - 04
244	SD5 II層	土師器 変	(17.4)	(6.8)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	内:にぶい黄橙 外:橙	10YR7/3 5YR7/6		やや不良	口緑15%		1084 - 05
245	SD5	土師器 更	(18.6)	(5.7)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	内:にぶい黄橙 外:にぶい黄橙	10YR7/3 10YR7/3	(00 上のB) 社会	良	口縁30%		1085 - 05
246	SD5 II層	土師器	(23,2)	(5.0)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	内:橙外:橙		やや密 ~0.1cm 大の砂	やや良	口縁15%		1086 - 06
247	SD5 II層	土師器	(25.8)	(9.3)		□縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ケズリ	内:にぶい橙 外:にぶい橙		密 ~0.2cm大の砂粒微	やや不良	口縁15%		1097 - 03
248	SD5 II層	土師器	(31.8)	(4.6)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	内:灰黄褐外:にぶい黄橙		粗 ~0.3cm大の砂粒多	やや不良	口縁10%		1095 - 01
249	SD5 II層	土師器 麦	(25.8)	(7,7)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコナデ	内:にぶい橙 外:にぶい黄橙	7.5YR7/3 10YR7/3	密 ~0.1cm大の砂粒含	良	口縁10%		1081 - 01
250	SD5	土師器	(19.8)	(3.9)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	内:浅黄橙 外:浅黄橙	10YR8/3 10YR8/3	粗 ~0.4cm大の砂粒含	やや良	口縁15%		1085 - 02
251	SD5 II層	土師器	(13.2)	(3.3)		口縁ヨコナデ 内面ヨコハケ	内:橙 外:橙		やや密 ~0.1cm大の砂 粒含	やや良	口縁15%		1085 - 04
252	SD5	土師器	(13.8)	(3.9)		口縁ヨコナデ 内面ヨコハケ	内:灰黄褐 外:にぶい橙		密 ~0.2cm 大の砂粒微	やや良	口縁10%		1094 - 02
253	SD5 II層	土師器	(17.0)	(4.1)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	内:にぶい黄橙 外:にぶい黄橙		密 ~0.2cm大の砂粒微	良	口縁15%		1088 - 04
254	SD5 II層	土師器	(18.8)	(4.7)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	内:にぶい橙 外:にぶい橙		密 ~0.1cm大の砂粒微	不良	口縁25%	接合痕	1088 - 01
255	SD5	土師器	(25,6)	(7.2)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ケズリ	内: 橙 外: 橙		密 ~0.2cm大の砂粒微	やや不良	口縁10%		1097 - 04
256	SD5	土師器	(17.0)	(6.1)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	内:橙 外:橙	5YR6/6 5YR6/6	やや密 ~0.1cm大の砂	やや良	口縁20%		1084 - 02
257	SD5 II層	土師器 把手付賽	(25.2)	(12.4)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面タテハケ	内:にぶい黄橙 外:にぶい黄橙	10YR6/3 10YR7/4	やや相 ~0.5cm 大の砂	良	口縁10%	把手部欠損	1094 - 03
258	SD5 II層	土師器			残存長 (5.9)	外面タテハケ後ユピオサエ 内面ケズリ	内:浅黄橙 外:浅黄橙	10YR8/3 10YR8/3	やや粗 ~0.3cm大の砂	やや良	把手のみ		1097 - 02
259	SD5	土師器 把手			残存長 (5.1)	内外面ナデ	内:灰白外:にぶい黄橙	10YR8/2 10YR7/3	やや密 ~0.3cm大の砂	良	把手のみ		1095 - 02
264	SD5 II層	須恵器 杯蓋	(11.8)	(2.5)	(0.1)	内外面ロクロナデ 頂部回転ヘラケズリ	内:灰白 外:灰白	N7/	やや密 ~0.1cm大の砂 粒含	良	小片		1053 - 05
265	SD5 II層	須恵器 杯蓋	(10.4)	(3.5)		内外面ロクロナデ 外面沈線 1条 頂部 ヘラ 切後ナデ	内:灰白 外:灰白	5Y8/1 N7/		良	口縁20%		1053 - 03
266	SD5 II層	須恵器 杯蓋	(11.6)	(2.6)	-	内外面ロクロナデ 頂部回転ヘラケズリ つまみ貼付ナデ	内:褐灰 外:灰白	7.5YR6/1 N8/	やや密 ~0.1cm大の砂 粒含	良	口縁25%		1053 - 07
267	SD5	須恵器 杯蓋	(12.8)	(3.3)		内外面ロクロナデ 頂部回転ヘラケズリ つまみ貼付ナデ	内:淡橙 外:淡橙	5YR8/3 5YR8/3	やや密 ~0.1cm大の砂	やや不良	体部60%		1054 - 05
268	SD5	須恵器 杯蓋	(13.6)	(2.2)		内外面ロクロナデ 頂部回転ヘラケズリ	内:灰白 外:灰白	N7/ N7/	やや密 ~0.1cm 大の砂	良	口縁25%		1052 - 01
269	SD5 II層	須恵器 杯蓋	(12.0)	(1.4)		内外面ロクロナデ	内:灰白 外:灰白	5Y6/1 5Y6/1	やや粗 ~0.2cm大の砂	良	口縁10%	外面自然釉付着	1052 - 03
270	SD5 皿層	須恵器 杯蓋	(17.4)	(1.5)		内外面ロクロナデ 頂部ヘラケズリ	内:にぶい黄橙 外:灰白		やや密 ~0.1cm大の砂	良	口縁10%		1058 - 01
271 .	SD5	須恵器 杯身	(9,0)	(2.5)		内外面ロクロナデ	内:灰白 外:灰白	N7/ N7/	やや密 ~0.1cm大の砂	良	小片		1054 - 02
272	SD5 II層	須恵器 杯身	(9.8)	(2.4)		内外面ロクロナデ	内:灰 外:灰	7.5Y6/1 7.5Y6/1	やや密 ~0.2cm大の砂	良	小片		1052 - 02
273	SD5 II層	須恵器 杯身	(13.8)	(2.7)		内外面ロクロナデ 底部回転ヘラケズリ	内:灰白 外:灰白	N7/ N7/	やや密 ~0.1cm大の砂 粒含	良	小片		1054 - 04
274	SD5 II層	須恵器 杯身	(10.6)	(2.4)		内外面ロクロナデ	内:灰白 外:灰白	N7/ N7/	やや密 ~0.1cm 大の砂 粒含	良	小片		1054 - 03
275	SD5	須恵器 杯身	(11.6)	(2.4)		内外面ロクロナデ	内:黄灰 外:灰白	2.5Y6/1 N7/	やや密 ~0.1cm大の砂 粒含	良	小片		1058 - 08
276	SD5 III層	須恵器 杯身	(10.8)	(2.8)		内外面ロクロナデ	内:青灰 外:明青灰		やや密 ~0.2cm大の砂	良	25%		1053 - 04
277	SD5 II層	須恵器 杯身	(10.5)	(2.5)		内外面ロクロナデ	内: 灰 外: 灰白	N6/ N7/	かかなっ 010m ナの形	良	小片		1054 - 01
278	SD5 II層	須恵器 杯身	(10.0)	(3.3)	底径 (7.8)	内外面ロクロナデ 底部回転ヘラケズリ	内:灰白 外:灰白	10Y7/1 10Y7/1	やや密 ~0.1cm大の砂	やや良	30%		1053 - 01
279	SD5 II層	土師器 高杯	(17.6)	(4.6)		口縁ヨコナデ 外面摩滅	内:橙 外:橙	7.5YR7/6 7.5YR7/6	やや密 ~0.5cm大の砂 粒微量含	不良	口縁15%		1099 - 04
280	SD5 II層	須恵器 有蓋高杯	(13.9)	(5.5)		内外面ロクロナデ 底部回転ヘラケズリ	内:灰白 外:黄灰	N7/ 2.5Y4/1	やや密 ~0.1cm大の砂 粒含	良	75%		1058 - 07
281	SD5 Ⅲ層	須恵器 高杯	(11.0)	(2.9)		内外面ロクロナデ	内:灰 外:灰	N6/ N6/	やや密 ~0.1cm大の砂 粒含	良	口縁15%		1057 - 03
282	SD5 II層	須恵器 高杯	(13.8)	(3.6)		内外面ロクロナデ 底部ロクロケズリ	内:灰 外:灰	N6/ N6/	やや密 ~0.1cm大の砂 粒含	良	口縁25%		1057 - 04
283	SD5 II層	須恵器 高杯		(6.6)		内外面ロクロナデ	内:灰 外:灰	N6/ N6/	やや密 ~0.1cm大の砂 粒含	良	脚部30%	二方透かし	1057 - 05
284	SD5	須恵器 直口壷	(8.0)	(6.4)		内外面ロクロナデ	内:灰 外:黄灰	5Y6/1 25Y6/1	やや密 ~0.1cm大の砂 対微量含	やや良	□縁45%	外面自然釉付着	1037 - 07
285	SD5 III層	須恵器 壷	(11.8)	(2.3)		内外面ロクロナデ	内:灰 外:灰	10YR6/1 7.5YR6/1	やや密 ~0.1cm大の砂 粒含	良	口縁10%		1058 - 03
286	SD5 II層	須恵器 鉢	(11.2)	(3.4)		内外面ロクロナデ	内:赤灰 外:灰	2.5Y4/1 7.5Y4/1	やや密 ~0.2cm 大の砂	良	□縁10%		1053 - 02
287	SD5 国層	須恵器 フラスコ瓶		(12.4)		内外面ロクロナデ	内:灰 外:灰白	N6/ 10Y7/1	やや密 ~0.1cm大の砂 粒含	良	体部30%	内外面自然釉付着	1048 - 01
288	SD5 四層	須恵器 甕	(40,8)	(2.7)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ	内:淡黄 外:淡黄	2.5Y8/4 2.5Y8/4	密 〜0.3cm大の砂粒微 量含	良	口縁10%		1092 - 03
289	SD5 呱層	須惠器 甕	(18.4)	(8.5)		口縁ヨコナデ 外面タタキ2段 内面同心円 文	内:灰白 外:灰白	N8/ 5Y7/1	やや密 ~0.1cm大の砂 粒含	良	口縁40%		1041 - 05
290	SD5 Ⅲ層	土師器 杯身	(16.4)	(4.2)		口縁ヨコナデ 内外面ナデ	内:赤褐 外:赤褐	5PB7/1 5PB7/1	密 ~0.1cm大の砂粒微 量含	良	口縁25%	内面放射暗文	1099 - 01
291	SD5 Ⅲ層	土師器 変	(14.4)	(14.5)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面摩滅	内:黄灰 外:灰黄褐	2.5Y4/1 10YR5/2	密 ~0.1cm大の砂粒微 量含	やや不良	口縁完存		1090 - 01
292	SD5 II層	土師器 賽	(13.2)	(5.7)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	内:灰褐 外:にぶい橙	7.5YR5/2 7.5YR6/4	やや密 ~0.2cm大の砂 粒微量含	やや良	口縁15%		1088 - 03
293	SD5 Ⅲ層	土師器 変	(13.6)	(5,3)		口縁ヨコナデ 外面摩滅 内面ヨコナデ	内:にぶい橙 外:にぶい橙	7.5YR6/4 7.5YR6/4	やや粗 ~0.3cm大の砂 粒含	やや良	口縁25%		1081 - 03
294	SD5 II層	土師器 変	(16.0)	(4.3)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	内:橙 外:にぶい橙	5YR7/6 7.5YR7/4	粗 ~0.4cm大の砂粒含	やや良	口縁10%		1084 - 03
297	SD5 IV層	須恵器 杯蓋	(11.4)	(4.3)		内外面ロクロナデ 頂部ヘラケズリ	内:黄灰 外:黄灰	2.5Y7/3 2.5Y7/3	やや密 ~0.1cm大の砂	不良	口縁15%		1073 - 04
298	SD5 IV層	須恵器 杯蓋	(11.9)	(3.8)		内外面ロクロナデ 頂部へラ切後ナデ	内:緑灰 外:灰	7.5Y6/1 N4/	密 ~0.1cm大の砂粒含	良	口縁10%	外面自然釉付着	1062 - 03
299	SD5	須恵器 杯蓋	(10.8)	(3.5)		内外面ロクロナデ 頂部回転ヘラケズリ	内:灰外:灰	N6/ N6/	密 ~0.1cm大の砂粒含	良	口縁10%		1069 - 02

表11 遺物(土器・陶器)観察表(5)

報告書 番号	出土遺構	器種など	法 口径	量 (em) 器高	その他	成形・調整技法の特徴	色	調	胎土	焼成	残存度	備考	登録番号
300	SD5	須恵器	(12.2)	(6.8)		内外面ロクロナデ 頂部回転ヘラケズリ	内:灰白 外:灰白	N7/	やや密 ~0.1cm大の砂	良	体部15%		1055 - 03
301	IV層 SD5	杯蓋 須恵器	(12,2)	(3.9)		内外面ロクロナデ 頂部回転ヘラケズリ	内:灰	N6/	粒含 やや密 ~0.1cm大の砂	Ŕ	口縁60%		1055 - 02
302	IV層 SD5	杯蓋 須恵器	(12.8)	(4.2)		内外面ロクロナデ 頂部ヘラ切後ナデ	外:灰 内:灰白	N6/ N7/	粒含 やや密 ~0.1cm大の砂	良	体部25%		1055 - 04
	IV層 SD5	杯蓋 須恵器	(11.8)	(3.8)		内外面ロクロナデ 頂部ヘラケズリ	外:明オリー: 内:灰白	5Y7/1	粒含 粗 ~0.1cm大の砂粒微	やや良	口縁10%		1070 - 04
303	IV層 SD5	杯蓋 須恵器					外:灰 内:灰	N5/ N6/	量含 やや密 ~0.1cm大の砂	良	25%		1055 - 01
304	IV層 SD5	杯蓋 須恵器	(11.6)	(6.6)		内外面ロクロナデ 頂部へラ切後ナデ 内外面ロクロナデ 頂部回転へラケズリ後	外:灰白 内:灰	N8/ N4/	粒含 やや密 ~0.1cm大の砂	やや良	口線75%		1070 - 03
305	IV層 SD5	杯蓋 須恵器	(10.6)	(2.8)		ナデ つまみ貼付ナデ 内外面ロクロナデ 頂部回転ヘラケズリ	外:オリー 内:灰	プ灰 2.5GY6/1 N5/	粒含 やや密 ~0.2cm大の砂				-
306	IV Me SD5	杯蓋 須恵器		(2.1)		つまみ貼付ナデ	外: 灰 内: 灰白	7.5Y6/1 N7/	粒含 やや密 ~0.1cm大の砂	やや良	小片	EL TOTAL BLOOD ALL AND	1068 - 02
307	IV M	杯蓋 須恵器	(13.2)	(1.8)		内外面ロクロナデ 頂部回転ヘラケズリ	外: 炭旨 内: 灰百	10Y7/2 N7/	粒微量含 やや粗 ~0.1cm大の砂	やや良	口禄25%	外面自然釉付着	1067 - 03
308	IV ME SD5	杯蓋 須恵器	(11.2)	(2.2)		内外面ロクロナデ 頂部回転ヘラケズリ	外:灰 内:灰白	N6/ N7/	粒含 やや密 ~0.1cm大の砂	やや良	口縁15%		1067 - 04
309	IV 🗟	杯蓋 杯蓋	(14.2)	(2.0)		内外面ロクロナデ	外:炭 内:灰	5Y6/1 N6/	粒含 やや密 ~0.1cm大の砂	良	口縁25%		1058 - 02
310	SD5 IV層	杯蓋 杯蓋 須恵器	(12.4)	(2.0)		内外面ロクロナデ	好:灰 内:灰	N5/ N6/	粒含 やや密 ~0.1cm大の砂	やや良	口縁10%	外面自然釉付着	1067 - 06
311	SD5 IV層	杯蓋	(13.2)	(2.0)		内外面ロクロナデ	外:灰	N5/ N7/	粒含 20.16m人の砂	やや良	口縁10%		1067 - 05
312	SD5 IV層	須恵器 杯蓋	(11.4)	(2.0)		内外面ロクロナデ	内:灰白外:灰	5Y6/1	密 ~0.1cm大の砂粒含	良	口縁45%		1068 - 01
313	SD5 IV層	須恵器 杯身	(9.2)	(3.5)		内外面ロクロナデ 底部回転ヘラケズリ	内:灰白 外:灰白	N7/ N6/	やや密 ~0.2cm大の砂 粒含	やや良	ほほ完存	外面沈線1条	1066 - 01
314	SD5 IVME	須恵器 杯身	(9.0)	(3.1)		内外面ロクロナデ	内:灰白外:灰白	5Y7/1 5Y7/1	やや密 ~0.1cm大の砂 粒含	やや良	口禄10%	外面沈線1条	1066 - 04
315	SD5 IV層	須恵器 杯身		(3.5)		内外面ロクロナデ 底部回転ヘラケズリ	内:青灰外:青灰	10BG5/1 10BG5/1	やや密 ~0.2cm大の砂 粒含	やや良	口縁10%		1066 - 02
316	SD5 IV層	須恵器 杯身	(12.2)	(3.7)		内外面ロクロナデ 底部回転ヘラケズリ	内:灰外:灰	N6/ N6/	やや密 ~0.1cm大の砂 粒微量含	やや不良	口縁15%		1069 - 03
317	SD5 IV層	須恵器 杯身	(11.4)	(3.3)		内外面ロクロナデ 底部回転ヘラケズリ	内:灰 外:灰白	N6/ N7/	密 ~0.1cm大の砂粒含	良	25%		1056 - 03
318	SD5 IV層	須恵器 杯身	(10.6)	(2.4)		内外面ロクロナデ 底部回転ヘラケズリ	内:灰外:灰	N6/ N6/	やや密 ~0.1cm大の砂 粒含	やや良	口縁15%		1066 - 05
319	SD5 IV層	須恵器 杯身	(13.2)	(3.5)		内外面ロクロナデ 底部回転ヘラケズリ	内:灰 外:灰	N6/ N6/	やや密 ~0.2cm大の砂 粒微量含	やや良	□縁45%		1070 - 01
320	SD5 IV層	須恵器 杯身	(13.2)	(3.4)		内外面ロクロナデ 底部ヘラ切後ナデ	内:灰 外:黄灰	5Y6/1 2.5Y6/1	密 ~0.1cm大の砂粒含	良	25%		1058 - 04
321	SD5 IV層	須恵器 杯身	(10.6)	(3.6)		内外面ロクロナデ 底部回転ヘラケズリ	内:オリー 外:オリー	ブ灰 2.5GY6/1 ブ灰 2.5GY6/1	やや粗 ~0.3cm大の砂 粒含	やや不良	口縁25%		1056 - 01
322	SD5 IV層	須恵器 杯身	(12.0)	(4.9)		内外面ヨコナデ 底部ヘラ切後ナデ	内:灰 外:灰	N6/ N6/	粗 ~0.3cm大の砂粒含	良	ほほ完存		1051 - 01
323	SD5 IV層	須恵器 杯身	(11,6)	(4.0)		内外面ロクロナデ 底部ヘラ切	内:灰白 外:灰	N7/ N6/	やや粗 ~0.1cm大の砂 粒微量含	やや良	口縁25%		1070 - 02
324	SD5 IV層	須恵器 杯身	(11.0)	(4.1)		内外面ロクロナデ	内:灰 外:灰	N5/ N4/	密 ~0.1cm大の砂粒含	良	□縁10%		1062 - 05
325	SD5 IV層	須恵器 有台杯	(16.8)	(3.9)	高台径 (12,4)	内外面ロクロナデ 底部ロクロヘラケズリ 高台貼付ナデ	内:灰白 外:黄灰	5Y7/1 2.5Y6/1	やや粗 ~0.1cm大の砂 粒含	良	ほぼ完存		1053 - 08
326	SD5 IV層	須恵器 有台杯	(15.2)	(5.0)	高台径 (9.0)	内外面ロクロナデ 底部ヘラ切後ナデ 高台 貼付ナデ	内:暗青灰 外:青灰	5PB4/1 5B6/1	やや密 ~0.1cm大の砂 粒含	良	75%		1059 - 02
327	SD5 N層	須恵器 有台杯		(2.7)	高台径 (11.1)	内外面ロクロナデ 底部回転へラケズリ 高 台貼付ナデ	内:灰 外:灰	N6/ N6/	密 ~0.1cm大の砂粒含	やや良	底部25%	外面自然釉付着	1062 - 02
328	SD5	須恵器 有台杯		(2.7)	高台径 (11.1)			N6/ N6/	密 ~0.2cm大の砂粒含	やや良	底部40%		1062 - 01
329	SD5 IV層	須恵器 高杯		(4.5)	,	内外面ロクロナデ 底部回転ヘラケズリ	内:灰白 外:灰白	2.5Y7/1 10YR7/1	やや粗 ~0.3cm大の砂 粒含	不良	杯部20%		1069 - 05
330	SD5 IV層	須恵器 高杯		(10.0)	底径 (14,0)	内外面ロクロナデ 外面沈線2条 2方透かし	内:灰白 外:灰白	N7/ N7/	密 ~0.1cm大の砂粒含	良	脚部30%	脚部のみ	1059 - 03
331	SD5 IV層	須恵器 高杯		(4.2)	底径 (7.9)	内外面ロクロナデ 脚部接合痕	内:灰 外:灰	N6/ N6/	密 ~0.1cm大の砂粒含	やや良	口縁50%	内面自然釉付着	1070 - 05
332	SD5 IV層	須恵器 高杯		(1,1)	底径 (10,0)	内外面ロクロナデ	内:灰外:灰	N6/ N6/	やや密 ~0.1cm大の砂 粒含	良	口縁20%		1051 - 02
333	SD5 IV層	須恵器高杯	(14.8)	(6.4)	底径 (9.4)	内外面ロクロナデ 外面沈線 2条 底部回転 ヘラケズリ		N7/ 10Y7/1	やや密 ~0.1cm大の砂 粒含	良	25%		1055 - 05
334	SD5 IV層	須恵器	(11.0)	(3.1)	(0.17	内外面ロクロナデ	内:灰白 外:灰	5Y7/1 N6/	密 ~0.2cm大の砂粒含	やや良	口縁45%		1073 - 02
335	SD5	須恵器		(13.2)		内外面ロクロナデ 体部外面沈線 3条 口頸 部 対象 9条		N6/ 75Y7/1	やや密 ~0.3cm大の砂 粒微量含	やや良	頸部70%	外面自然釉付着	1073 - 05
336	SD5 IV層	類恵器 平瓶	(8.0)	(4.4)		内外面ロクロナデ	内:灰	N6/ N3/	粗 ~0.2cm大の砂粒含	やや良	口縁25%	外面自然釉付着	1073 - 01
337	SD5 IV層	須恵器 平瓶	(6.8)	(5,0)		内外面ロクロナデ	内: 灰白 外: 灰白	N8/ N8/	やや密 ~0.1cm大の砂 粒含	良	口縁25%	外面自然釉付着	1055 - 06
338	SD5	須恵器	(7.8)	(5.8)		内外面ロクロナデ	内:灰口 内:灰 外:灰	N4/	やや密 ~0.1cm大の砂 粒含	やや良	口頸部完存	内外面自然釉付着	1061 - 02
339	IV層 SD5	平瓶 須惠器	(11.0)	(2.4)		内外面ロクロナデ	内:灰 内:灰 外:灰	N6/	やや密 ~0.1cm大の砂 粒含	やや良	口縁15%		1068 - 04
340	IV層 SD5 NB	重 須恵器	(9.4)	(3.2)		内外面ロクロナデ	内:灰白	N7/	型音 密 ~0.1cm大の砂粒含	良	□縁15%		1043 - 04
341	IV層 SD5	重 須惠器	<u> </u>	(7.3)	-	内外面ロクロナデ 外面沈線1条	外:灰 内:灰宫	7.5Y7/1	やや粗 ~0.1cm大の砂 粒含	やや良	最大径40%		1072 - 01
342	IV B	重 須恵器		(15,4)		内外面ロクロナデ 外面沈線 2条 下位回転 ヘラケズリ 内面上位ナデ	外:灰百 内:灰 外:灰		やや密 ~0.2cm 大の砂		最大径40%		1071 - 01
343	IV層 SD5	重 須恵器	 	(12,4)		ヘラケスリ 内面上位ナア 内外面ロクロナデ 底部カキメ	内:灰白	5Y8/1	やや密 ~0.1cm大の砂	良	50%		1079 - 04
344	IV層 SD5	フラスコ瓶 須恵器	(12.4)	(10.0)		内外面ロクロナデ 外面沈線 2条	外:灰白	5Y8/1 N6/	松宮 密 ~0.1cm大の砂粒含	良	口縁完存		1059 - 01
345	IV層 SD5	長頸壷 須恵器	(16.0)	(5.2)		内外面ロクロナデ 外面波状文 頂部回転へ	外:明青灰 内:灰白	5PB7/1 N8/	やや密 ~0.2cm大の砂	良	75%		1051 - 03
346	N Ma SD5	重蓋 須恵器	1/	(7.5)		ラケズリ 内外面ロクロナデ 外面タタキ 内面当て具	外:灰白	N8/ N5/	やや粗 ~0.1cm 大の砂	やや不良	口縁10%		1072 - 02
347	IV層 SD5		(18.8)	(6.9)		後ナデ消し 口縁ロクロナデ 外面タタキ 内面同心円文	外:灰	N5/ 2.5Y8/1	やや密 ~0.1cm大の砂	不良	口縁10%		1075 - 04
348	IV層 SD5	運 須恵器	46.4	104,1	最大径	類部外面タタキ 内面工具ナデ	内:明緑灰	2.5Y8/1 7.5GY7/1	やや密 ~0.2cm大の砂	やや良	90%		1080 - 01
349	IV層 S.D.5	大甕 須恵器	(11.0)	(10.4)	(90.2)	口縁ロクロナデ 外面ヘラケズリ後タタキ	外:明緑灰	10GY7/1 5Y7/1	やや密 ~0.4cm大の砂	やや良	体部10%	内外面自然釉付着	1063 - 01
350	IV層 SD5	横瓶 須恵器	(12.6)	(9.5)		内面ケズリ 内外面ロクロナデ 外面タタキ 内面当て具	外:灰白	5Y7/1 5Y5/1	やや密 ~0.3cm大の砂	やや良	口縁60%		1064 - 01 1060 - 01
351	IV M∰ S.D.5	横瓶 土師器	(15.6)	(5.7)	-	後ナデ 口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	外:灰 内:灰褐	5Y5/1 7.5YR5/2	粒含 密 ~0.1cm大の砂粒含	良	口縁10%		1081 - 04
352	IV層 SD5	養 土師器	(14.4)	(5.7)		後へラケズリ 口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	外:にぶい 内:灰黄褐	10YR6/2	密 ~0.1cm大の砂粒微	良	口縁10%		1007 - 01
352	IV RES	土師器	(17.2)	(4.7)		□縁ヨコナテ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	外:にぶい	黄橙 10YR6/3 黄橙 10YR7/4	量含 密 ~0.1cm大の砂粒微	やや良	口縁10%		1098 - 03
	IV層 SD5	麦 土師器	+	_		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	外:橙 内:浅黄	7.5YR7/6 2.5Y7/3	量含 やや密 ~0.1cm大の砂	やや良	口縁30%		1089 - 05
354	IV層 SD5	麦 土師器	(16.6)	(7.5)		後ユピオサエ	外: にぶい	黄橙 10YR6/3 黄褐 10YR6/3	粒含 やや密 ~0.1cm大の砂	やや良			1089 - 06
355	IV層 SD5	上師器 上師器	(13,4)	(5.5)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	外:灰褐 内:にぶい	7.5YR5/2 黄橙 10YR7/3	粒微量含		口縁20%		ļ
356	IV層 SD5	- 麦 - 土師器	(15.8)	(5,3)		口縁ョコナデ 外面タテハケ 内面ョコハケ	外:にぶい	黄橙 10YR7/3	密 ~0.1cm大の砂粒含 やや密 ~0.1cm大の砂	良	口縁25%		1087 - 06
357	IV ME	王即 奋 蹇	(16.0)	(6.5)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	内:浅黄橙 外:浅黄橙	10YR8/4	やや密 ~0.1cm大の砂 粒微量含	不良	□縁40%		1096 - 03

報告書番号	出土遺構	器種など		÷量(cm		成形・調整技法の特徴		色	調	胎	±	焼 成	残存度	備考	登録番号
	CDE		口径	器高	その他		rfs .	正类概	103/106 /9	97 97.59t - 0	1+0%				
358	SD5	土師器	(14.8)	(7.3)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	外:	灰黄橙 灰黄橙 橙	10YR6/2 10YR6/2			不良	口緑25%		1086 - 01
359	SD5 IV層	土師器	(19,2)	(3,1)		口縁ヨコナデ	外:	にぶい橙	2.5YR6/8			やや良	口縁35%		1096 - 04
360	SD5 IV層	土師器	(19.2)	(4.3)		口縁ヨコナデ 内面ヨコハケ	外:	にぶい黄橙にぶい黄橙	10YR6/3	含		やや良	口縁20%		1091 - 02
361	SD5 IV層	土師器	(19.6)	(5.7)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	外:	浅黄橙浅黄橙	10YR8/3 10YR8/3	やや密 ~0. 粒含	3 cm 大の的	良	口縁15%	黒斑	1086 - 05
362	SD5 IV層	土師器	(22.4)	(4.0)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	外:	浅黄橙 浅黄橙	10YR8/3 7.5YR8/4	密 ~0.1cm		不良	口縁10%		1087 - 05
363	SD5 IV層	土師器	(20.6)	(5.1)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	外:	にぶい黄橙 にぶい黄橙	10YR7/4	やや密 ~0. 粒微量含		やや不良	□縁10%		1089 - 01
364	SD5 IV層	土師器	(22.8)	(6.7)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ		<u>橙</u> 黄橙	5YR6/6 7.5YR7/8	粒微量含		やや不良	口縁10%		1098 - 02
365	SD5 IV層	土師器	(22,0)	(5,2)		口縁ヨコナデ 内面ヨコハケ		淡黄	2.5Y8/3 2.5Y8/3	含	大の砂粒多	不良	口縁10%		1087 - 04
366	SD5 IV層	土師器	(24.0)	(4.1)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ	外:	にぶい黄橙にぶい黄橙	10YR7/3	粒微量含		やや良	口縁10%		1091 - 04
367	SD5 IV層	土師器	(36,4)	(5,7)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	外:	にぶい黄橙 浅黄橙	10YR8/4	粒多含		やや不良	口縁10%		1092 - 01
368	SD5 IV層	土師器	(19,6)	(20.8)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面上位ヨコ ハケ下位ケズリ		にぶい黄橙		粒含		やや良	口縁40%		1083 - 01
369	SD5 IV層	土師器杯	(11,8)	(2.5)	***	内外面ヨコナデ 底部ヘラ切後ナデ	内:		5YR6/6			良	口縁20%	内面放射暗文	1099 - 06
370	SD5 V層	土師器 把手			残存長 (5.3)	ユビオサエ	外:	にぶい黄橙にぶい黄橙	10YR7/4			やや不良	把手のみ		1094 - 04
371	SD5 V層	土師器 把手			残存長 (5.2)	ユビオサエ	外:	浅黄橙 浅黄橙	10YR8/4			やや不良	把手のみ		1094 - 05
373	SD5 V層	須恵器 杯蓋	(10,6)	(2,4)		内外面ロクロナデ	内:	灰	N6/ 7.5Y6/1			良	口縁15%		1057 - 01
374	SD5 V層	須恵器 杯蓋	(9.8)	(3.1)		内外面ロクロナデ 頂部ヘラ切後ナデ	外:	暗緑灰暗緑灰	10G4/1 10G4/1	やや密 ~0. 粒含		良	口縁20%		1074 - 05
375	SD5 V層	須恵器 杯蓋	(11,6)	(3.1)		内外面ロクロナデ 頂部ヘラ切後ナデ	内:	灰白	7.5Y7/1 7.5Y7/3			良	底部25%		1074 - 01
376	SD5 V層	須恵器 杯蓋	(13.2)	(3.7)		内外面ロクロナデ 頂部回転ヘラケズリ	内:	灰白	N7/ N7/	やや密 ~0. 粒含		良	25%		1074 - 04
377	SD5 V層	須恵器 杯蓋	(12.0)	(4.5)		内外面ロクロナデ 頂部回転ヘラケズリ	内:	灰	N7/ N6/	やや密 ~0. 粒含		良	口縁15%		1057 - 02
378	SD5 V層	須恵器 杯蓋	(12.6)	(4.3)		内外面ロクロナデ 頂部ヘラ切	内:	青灰	5PB7/1 5PB7/1	粒含	1cm大の砂	やや良	ほぼ完存		1076 - 03
379	SD5 V∰	須恵器 杯蓋	(11.2)	(5.0)		内外面ロクロナデ 頂部回転ヘラケズリ	内:	灰白	7.5YR8/1 N8/	粒含	1 cm 大の砂	良	口縁25%	壷蓋?	1079 - 03
380	SD5 V層	須恵器 杯身	(10.0)	(2.5)		内外面ロクロナデ 底部ヘラ切後ナデ	内:	青灰	5PB5/1	やや粗 ~0. 粒含		やや不良	口縁30%		1076 - 02
381	SD5 V層	須恵器 杯身	(10.0)	(2.5)		内外面ロクロナデ	内:	青灰	5B6/1	やや密 ~0. 粒含	1 cm 大の砂	良	口縁10%		1075 - 02
382	SD5 V層	須恵器 杯身	(11.0)	(4.0)		内外面ロクロナデ 底部ヘラ切後ナデ		青灰	5PB6/1 5PB6/1	粗 ~0.6cm		不良	口縁50%		1076 - 01
383	SD5 V層	須恵器 杯身	(11.4)	(3.5)		内外面ロクロナデ 底部ヘラ切後ナデ	外:	灰 暗青灰	N6/ 5PB3/1			やや良	体部25%		1075 - 01
384	SD5 V層	須恵器 杯身	(11.4)	(3.6)		内外面ロクロナデ 底部ヘラ切後ナデ	外:	明青灰 青灰	5PB5/1	やや密 ~0. 粒含		やや良	20%		1074 - 02
385	SD5 V層	須恵器 杯身		(3.2)		内外面ロクロナデ	外:	明青灰 明青灰	5PB7/1	粒含		良	底部25%		1078 - 04
386	SD5 V層	須恵器 杯身	(13.4)	(4.1)		内外面ロクロナデ 頂部回転ヘラケズリ 重焼痕	内:	灭	N6/ N6/	やや密 ~0. 粒含		良	体部ほぼ完 存		1077 - 02
387	SD5 V層	須恵器 高杯	(14.8)	(6.4)		内外面ロクロナデ 底部回転へラケズリ 外面沈線2条	内:	灰白	N7/ 10Y7/1	やや密 ~0. 粒含		良	25%		1055 - 08
388	SD5 V層	須恵器 高杯		(12.7)	底径 (11.4)	内外面ロクロナデ	内:	灰白	N7/ N7/			良	30%	外面自然釉付着	1077 - 01
389	SD5 V層	須恵器 高杯		(9.0)	底径 (7.4)	内外面ロクロナデ	内:	灰	N6/ N6/	やや密 ~0. 粒含		良	脚部ほぼ完 存		1077 - 03
390	SD5 V層	須恵器	(13,2)	(3,3)		内外面ロクロナデ	内:	灰白	N8/ 5Y7/2			良	口縁10%		1074 - 06
391	SD5 V層	須恵器	(12.0)	(3,3)		内外面ロクロナデ	内:	暗灰	N4/ N3/	やや密 ~0. 粒含		良	口縁15%		1055 - 07
392	SD5 V層	須恵器		(6.9)		内外面ロクロナデ 底部回転ヘラケズリ	外:	青灰	5PB6/1 5PB6/1	やや粗 ~0. 粒含		良	体部30%		1078 - 02
393	SD5 V層	須恵器 平瓶	(6.8)	(3,2)		内外面ロクロナデ	外:	暗灰 灰白	N3/ 7.5Y7/1	粒含	1cm大の砂	良	口縁10%		1079 - 02
394	SD5 V層	須恵器 平瓶	(6.2)	(3.5)		内外面ロクロナデ	外:		N7/ N6/	やや密 ~0. 粒含		良	口縁10%	内面自然釉付着	1079 - 01
395	SD5 V層	須恵器 平瓶	7.8	14.7		内外面ロクロナデ 外面沈線 2条 底部回転 ヘラケズリ	外:	灰白	N7/			良	ほぼ完存		1078 - 01
396	SD5 V∰	須恵器	(11,1)	(9.0)		内外面ロクロナデ 外面沈線 1条 底部回転 ヘラケズリ	外:	青灰	5PB6/1 5PB6/1	粒含	1 cm 大の砂	良	体部30%		1078 - 03
397	SD5 VM	土師器	(11.0)	(4.8)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ		ス異 にぶい黄橙 明黄褐	10YR7/4			やや不良	口縁10%		1086 - 02
398	SD5 V層	土師器 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	(19.8)	(5.1)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	外:	橙	7.5YR7/6	やや密 ~0. 粒微量含 やや粗 ~0.		良	口縁20%		1088 - 05
399	SD5 VMS SD5	工	(19.6)	(5.9)		口縁ヨコハケ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	外:	にぶい黄橙	10YR7/4	粒微量含		不良	□縁30% □縁ほぼ完		1089 - 02
400	V層 SD5	工明 研 更 土師器	(18.0)	(7.8)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	外:	にぶい黄橙	10YR7/4	密 ~0.2cm7 粗 ~0.5cm7		良	存		1087 - 03
401	V層 SD5	上	(21.6)	(7.4)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	内:/ 外:/		7.5R7/6	会		不良	口縁10%		1096 - 01
402	V層 SD5	土師器	(18.4)	(7.0)		口縁ヨコナデ 外面ヨコハケ 内面ヨコハケ	外:	灭白 英黄橙	10YR8/2	密 ~0.5cm	NY 1X 1Q	やや不良	口縁10%		1090 - 02
403	VMS SD5	土師器	(19.8)	(3.9)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ナデ	外::	浅黄橙 串黄橙	10YR8/4	密 ~0.1cm やや密 ~0.	Cの砂粒含	不良	口縁20%		1087 - 02
404	V∰ SD5	土 野部 土 師器	(20.0)	(4.7)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	外::	浅黄橙 にぶい黄橙	10YR8/3 10YR7/4	粒含 やや粗 ~0		やや不良	口縁15%		1088 - 06
405	V層 SD5	土師器	(22.4)	(3.5)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	外:	にぶい黄橙 浅黄橙	10YR7/4	粒含 やや粗 ~0.		やや不良	口縁10%		1094 - 01
406	V∰ SD5	土師器	(22.0)	(3.6)		口縁ヨコナデ内面ヨコハケ	外:	浅黄橙	10YR8/4	粒多含 やや密 ~0.3		やや不良	口縁15%		1087 - 01
407	V層 SD5	上師器 上師器	(13.6)	(4.0)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	内:/	にぶい黄橙	5YR7/6	粒含 やや密 ~0.		やや良	口縁25%		1089 - 03
408	V層	土師器	(14.2)	(5.4)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	外:	天黄褐 にぶい黄橙	10YR4/1	粒含 粗 ~0.3cm		不良	口縁15%		1089 - 04
409	SD5 V層 SD5	土師器	(15.0)	(4.1)	-	口縁ョコナデ	外:	橙 臀	5YR6/6 5YR7/6	含		不良	口縁20%		1091 - 01
410	V層 SD5	土師器 土師器	(15.0)	(4.5)		口縁ヨコハケ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	外:	にぶい <u>橙</u> 登	7.5YR7/4	密 ~ 0.1cm		不良	口縁60%		1085 - 01
411	V∰ SD5	土師器	(15.6)	(7.5)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	外:	登 にぶい黄橙	5YR7/6	密 ~0.1cm やや密 ~0.		良めでは	口縁90%		1085 - 06
412	V∰ SD5	土師器	(37.2)	(6.9)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ 口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面上位ヨコ	外: 月	灭黄褐 登	10YR5/2	粒微量含 密 ~0.1cm		やや不良	口縁10%		1093 - 01
413	V層	長胴甕 須恵器	(18.6)	(20.4)		ハケ下位ヘラケズリ 内外面ロクロナデ 頂部回転ヘラケズリ	外:	登 青灰	5PB5/1	やや密 ~0.		良良	口縁70%		1082 - 01
415	S D10	杯蓋 須恵器	(15.6)	(3.9)		つまみ貼付ナデ 内外面ロクロナデ	外:	青灰 灭白	5PB5/1	粒多含			体部50%		1024 - 01
416	S D10	杯蓋 須恵器	(15.8)	(1.0)			好:	灭白	N8/	密 ~0.1cm 7 量含 やや密 ~0.	cm大の砂	やや良	口縁10%		1026 - 03
417	S D10	杯身	(10.0)	(2.2)		内外面ロクロナデ 底部ヘラ切後ナデ	外:	灭百	N8/	粒含		良	体部30%		1023 - 04

表13 遺物(土器・陶器)観察表(7)

## 1	登録番号
19	1024 - 0
19 19 19 19 19 19 19 19	
19 10 10 10 10 10 10 10	1023 - 0
19 19 19 19 19 19 19 19	1022 - 0
19 19 19 19 19 19 19 19	1022 - 0
19 19 19 19 19 19 19 19	1022 - 0
19 19 19 19 19 19 19 19	1022 - 0
19 19 19 19 19 19 19 19	1024 - 0
1987 1987	.号 1025 - 0
19 19 19 19 19 19 19 19	
59 19	1025 - 0
5010 1010	1025 - 0
50 10 10 10 10 10 10 10	1025 - 0
5310	1026 - 0
53.50 「日本日本 1.50 「日本日本 1	1026 - 0
35.010	1023 - 0
1979 1970 1985 1444 422	1023 - 0
15 15 15 15 15 15 15 15	1027 - 0
1955 S.D.10 上間	1027 - 0
1975 1970	1027 - 0
1988 SD10 正子子	1028 - 0
441 SD11	1028 - 0
141 S.D. 現産 3.2 3.2 所能のですが、動物であり、 3.5 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1031 - 0
1915 1915 1925	
5.11 1.11	1031 - 0
1950 1970	1032 - 0
1845 SD11 「原金学	1031 - 0
19	1031 - 0
447 SDI1 第一次	1032 - 0
448 SD11 本盤	1031 - 0
149 SD11	1032 - 0
140 SD111 上版名	1033 - 0
189	1033 - 0
152 SK42 別度部	1033 - 0
102 5 N 12 所置	1033 - 0
5 5 5 5 7 7 7 7 7 7	4043 - 0
5	4043 - 0
465 S K 42 長頭者	4043 - 0
456 S K 42 生部器 (2.0) (9.2) (9.2) (1.4) (4.2)	4043 - 0
458 SH2	4043 - 0
459 SH2 内部	1017 - 0
18	1017 - 0
461 SH2 10	3024 - 0
462 SH23 ロクロ土師器 内外面ロクロチア 底部糸切床調整 内に	4013 - 0
463 S H 23 ロクロ土師器 (11.4) (2.5) 内外面コナテ (2.5) 内外面コナテ (2.5) 内外面コカナテ (2.5) 内外面コカナ (2.5) 内外面コカナテ (2.5) 内のコカナ (2.	4009 - 0
464 S H 23 土師	4010 - 0
465 S H 23 小橋	4009 - 0
466 S H 23	
467 S H 23	4011 - 0
468 S H 23 内部	
469 S H 23 山茶楠	
470 S H 23 陶器 山茶楠 (18.2) 5.6 高行径 (17.2) 内面自然執行系 (17.2) 25,777/ 東東東 金 ~ 0.1cm大の砂粒合 (5.7) 良 底部45% 内面自然執行系 (18.4) 人方面自然執行系 (18.4) 人方面自然執行系 (18.4) 大学、反白 (17.2) 577/ (17.2) 公 ~ 0.1cm大の砂粒合 (17.2) セや良 (18.4) 成部35% 内面自然執行系 (18.4) 大学、反白 (17.2) 大学、反白 (17.2) 大学、反白 (17.2) 大学、反白 (17.2) 大学、反白 (17.2) 大学、反白 (17.2) 大学、反白 (18.4) 大学、反白 (19.7) 大学、反白 (19.7) 大学、反白 (19.7) 大学、反白 (19.7) 大学、反白 (19.7) 本学、反白 (19.7) 大学、反白 (19.7) 大学、反白	-
470 S H 23 山茶椀 (16.6) (4.5) 信子 乗乗乗	4010 - 0
472 SH23 内容	
473 S H23 陶器 山茶館 (2.7) 商台経 (6.7) 付き。 (6.7) 付き。 (6.7) 付き。 (6.7) 付き。 (7.6) 円分配のフロナア 底部系切末調整 高台閣 (7.6) 付き。 (7.6) 付き。 (7.6) 付き。 (7.6) 付き。 (7.6) 付き。 (7.6) 日本の日本の砂粒合 (7.6) 付き。 (7.6) 付き。 (7.6) 付き。 (7.6) 円分配のフロナア 底部系切末調整 高台閣 (7.7) 円分配のフロナア 底部系切末調整 高台閣 (7.7) 円分の配の (7.7) 円	
476 S H 23 山茶椀 (2.8) 向子子 内外面ロクロナア 底部糸切末調整 高台閣 内: 戻 大・ 戻 大・	4012 - 0
476 S H 23 内部	4011 - 0
476 SH23 山茶穂 (2.6) 付ナテ 付ナテ 依然の出来 大田 大田 大田 大田 大田 大田 大田 大	4011 - 0
470 5 1.4 5 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	4012 - 0
財界 宣石名 市局面のカロよる 京都を知土領教 宣石財 中、正白 95V2/1 みわ客 。0.9ナの計	4012 - 0
477 S H 23	4013 - 0

報告書 番号	出土遺構	器種など	法 口径	量 (cm) 器高	その他	成形・調整技法の特徴		色	調	胎土	焼 成	残存度	備考	登録番号
478	S H23	陶器		(2.6)	高台径	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整 高台貼 付ナデ	内	: 灰白 : 灰白	2,5Y7/1 2,5Y7/1	密 ~0.1cm大の砂粒含	やや良	底部65%		4011 - 06
479	S H23	山茶椀 陶器		(6,8)	(7.4) 高台径	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整 高台貼	内	: 灰白	5Y8/1		良	底部45%	内面自然釉付着	4012 - 03
480	S H23	山茶椀 陶器		(2,2)	(6.8) 高台径		内	: 灰白 : 灰白	5Y8/1 2,5Y7/1	やや密 ~0.2cm大の砂	やや良	底部50%		4011 - 04
481	S B 73	山茶椀 ロクロ土師器	(8.2)	2.0	(7.2) 底径	付ナデ 内外面ロクロナデ 底部糸切未調整	内		2.5Y7/1 7.5YR7/6	寒 - 0.1 十の砂粒会	不良	50%		3012 - 01
482	S B 73	川 ロクロ土師器	(8.4)	2,2	(4.6) 底径	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整	外内	: 橙 : にぶい黄橙	7.5YR7/6 10YR7/4	* 01 +の助性会	不良	底部25%		3012 - 05
483	S B 73	ロクロ土師器	(8.2)	2.0	(5.0) 底径	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整	内	: にぶい黄橙 : にぶい黄橙	10YR7/3		不良	25%		3012 - 02
484	S B 73	ロクロ土師器	(10,8)	2.5	(5.4) 底径	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整		: にぶい黄橙 : にぶい橙 : にぶい橙	7.5YR7/4	やや密 ~0.1cm 大の砂	やや良	30%		3013 - 01
485		ロクロ土師器		(2,8)	(6.8)	内外面ロクロナデ	内	淡黄	7.5YR7/4 2.5Y8/3 2.5Y8/2	粒含	不良	25%		3013 - 01
486	S B 73	椀 ロクロ土師器	(16.0)	(3.3)	底径	外面ロクロナデ 内面剥離 底部糸切未調整	内内	:	10YR7/3	de 0.1 Landblack	やや良	底部完存		3012 - 07
487	S B73	有台皿 ロクロ土師器		(4.0)	8.5	内面ナデ 高台貼付ナデ	外内	にぶい黄橙 にぶい黄橙 にぶい黄橙	10YR7/3 10YR7/3	st 01 to that A		10%		3012 - 00
488	S B73	有台皿 土師器	(8,0)	(1,6)		[1縁ヨコナデ 外面ユビオサエ	内	にぶい黄橙	10YR7/3	家 - 0.1+の砂粒会	不良	20%		3012 - 06
489	S B 73	土師器	(9.6)	(1.6)		口縁ヨコナデ 内外面摩滅	内	にぶい黄橙 淡黄	10YR7/3 2.5YR8/3 2.5YR8/3	The Content of the East of the	不良	10%		3012 - 00
		土師器				口縁ヨコナデ	内	淡黄 にぶい黄橙	10YR7/3	やや粗 ~0.3cm大の砂	やや不良			3013 - 02
490 491	S B 73	鍋 陶器	(28.4)	(2.6)	高台径	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整 高台貼	内	: にぶい黄橙 : 灰白	10YR7/2 5Y8/1		-	口縁10%		3010 - 02
	S B73	小椀 陶器	(10.8)	3.1	(4.6) 高台径	付ナデ	外	灰白	5Y8/1 7.5Y7/1	密 ~0.1cm大の砂粒含	良	底部25%	由而自耕料从美	
492	S B 73	小椀 陶器	(10.0)	2.7	(4.6) 高台径	内外面ロクロナデ 高台貼付ナデ 内外面ロクロナデ 底部糸切未調整 高台貼	外内	灰白	7.5Y7/1 5Y8/2	密 ~0.1cm大の砂粒含	やや良	口縁15%	内面自然釉付着	3010 - 03
493	S B 73	小椀 陶器	(11.0)	5.8	(5.8) 高台径	付ナデ 内外面ロクロナデ 底部糸切未調整 高台貼	外内	灰白 灰白	5Y8/2 7.5Y6/1		やや良	底部75%		3010 - 01
494	S B 73	山茶椀 陶器		(1.8)	(7.0) 高台径	付 籾殻痕 内外面ロクロナデ 底部糸切未調整 高台貼	外内	灰白	5Y7/1 7,5Y6/1	粗 ~0.2cm大の砂粒含	やや良	底部完存		3011 - 02
495	S B 73	山茶椀 陶器	-	(2.6)	(8.2) 高台径	付ナデ 籾殻痕 内外面ロクロナデ 底部糸切未調整 高台貼	外内	灰白	7.5Y7/1 7.5Y7/1	密 ~ 0.1cm大の砂粒含	やや良	底部65%	中流白虾虾11	3011 - 01
496	S B 73	山茶椀 ロクロ土師器	(10.4)	(4.4)	(6.6)	付ナデ 籾殻痕 重焼痕	外内	灰白 浅黄	7.5Y7/1 2.5YR8/3	密 ~0.1cm大の砂粒含	良めて自	底部60%	内面自然釉付着	3010 - 06
497	S K31	ロクロ土師器	(10.4)	2.2	(5.8)	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整	外内	浅黄	2.8YR8/3 2.5Y8/3	在 ~0.1cm人の砂粒音	やや不良	底部60%		4041 - 05
498	S K31	ロクロ土師器	(10,2)	2.5	(5.4)	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整	外	浅黄 にぶい黄橙	2.5Y8/3	密 ~0.1cm大の砂粒含 やや密 ~0.1cm大の砂	やや不良	底部35%		4041 - 06
499	S K31	ロクロ土師器	(9.7)	3.0	(5.6)	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整	91	にぶい黄橙 浅黄橙	10YR7/3	粒含 やや密 ~0.2cm大の砂	やや不良	口縁10%		4009 - 02
500	S K31	ロクロ土師器	(13.6)	(2.7)		内外面ロクロナデ	外:	浅黄橙	10YR8/3		やや良	口縁20%		4041 - 07
501	S K31	有台皿ロクロ土師器	(11.5)	(3.1)	底径	内外面ロクロナデ	外:	褐灰 灰黄	10YR6/1	粒含 やや密 ~0.2cm大の砂	やや不良	杯部45%		4041 - 04
502	S K31	有台杯	(10.5)	5.5	(7.1) 高台径	内外面ロクロナデ 内外面ロクロナデ 底部糸切未調整 高台 貼	外:	灰黄 灰白	2.5Y6/2	粒含 やや密 ~0.1cm大の砂	やや良	杯部80%		4041 - 08
503	S K31	小椀 陶器	(10.5)	3.8	(4.7) 高台径	付ナデ	外:	灰百 灰百	10YR7/1 N8/	粒含 やや密 ~0.2cm大の砂	良	60%		4041 - 03
504	S K31	小椀 陶器		(2.6)	(4.2) 高台径	付ナデ	外:	灰百	2.5Y7/ 5Y7/1	粒含	やや良	底部60%		4041 - 01
505	S K31	山茶椀 陶器	((3.7)	(7.0) 高台径	付ナデ 内外面ロクロナデ 底部糸切未調整 高台貼	外:	灰白	5Y7/1 2.5Y7/1	密 ~0.2cm大の砂粒含	やや良	底部完存		4041 - 02
506	S K 32	山茶椀 陶器	(16.8)	5.3	(7.8) 高台径	付ナデ 内外面ロクロナデ 底部糸切未調整 高台貼	外:	灰白	2,5Y7/1 5Y7/1	密 ~0.1cm大の砂粒含	良	ほは完存		4040 - 02
507	S K 32	山茶椀 ロクロ土師器	(16.8)	5.3	(7.4) 底径	付ナデ	外内	灰白	5Y7/1 2,5Y5/1	密 ~0.1cm大の砂粒含 やや密 ~0.1cm大の砂	良	口縁20%	内面自然釉付着	4040 - 01
508	S K72	ロクロ土師器	(9.0)	2.0	(5.8)	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整	外:	黄灰 浅黄橙	2.5Y5/1 10YR8/4	粒含	やや良	30%		3009 - 06
509	S K72	ロクロ土師器	(8.8)	2.3	(6.0) 底径	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整 内外面ロクロナデ 底部糸切未調整		浅黄橙 にぶい黄橙	10YR8/4	粒含	やや良	25%		3009 - 03
510 511	S K 72	ロクロ土師器	(9.4)	2.4	(5.0) 底径	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整 内外面ロクロナデ 底部糸切未調整		にぶい黄橙 灰黄	10YR7/2	粒含 やや密 ~0.1cm大の砂	やや良	底部60%		3009 - 02
512	S K72	ロクロ土師器	(9.2)	2.1	(5.2) 底径	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整		灰黄 にぶい橙	2.5Y6/2 5YR7/4	粒含 密 ~0.1cm大の砂粒含	やや良	25%		3009 - 04
513	S K72	ロクロ土師器	(9.4)	2.1	(5.0) 底径	内外面ロクロナデ 底部摩滅	内:	にぶい橙 浅黄	5YR7/4 2.5Y7/3	MI 01 Lordell	不良	30%		3009 - 05
514	S K72	ロクロ土師器	(17.2)	5.6	(5.0) 高台径	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整	内:	浅黄 にぶい黄橙	2,5Y7/3 10YR7/3	※ - 0.1 … 十の砂料金	やや良	30%		3009 - 01
515	S K72	- 椀 陶器	(15.8)	(3.5)	(7.4)	内外面ロクロナデ	内:	にぶい黄橙 灰白	2.5Y7/1	やや密 ~0.1cm大の砂	良	10%		3008 - 04
516	S K72	山茶椀 陶器	(16.0)	5,5	高台径	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整 高台貼	内:	灰白	2.5Y7/1 2.5Y7/1	粒含 やや密 ~0.1cm大の砂 粒含	良	50%		3008 - 03
517	S K72	山茶椀 陶器	(8,0)	2.0	(8.0) 底径	付ナデ 籾殻痕 内外面ロクロナデ 底部糸切未調整	内:	灰白	2,5Y7/1	やや粗 ~0.1cm大の砂	良	底部完存		3008 - 02
518	S K72	山皿 陶器	8.4	3.8	(3.4) 高台径			灰白 黄灰 灰白	2.5Y7/1 2.5Y6/1	粒含 やや密 ~0.1cm大の砂	良	高台部50%		3008 - 02
519	S K 74	耳皿 土師器	(10,2)	1.9	4.6	付ナデ 口縁ヨコナデ 内外面ユビオサエ	外:	灰白 にぶい黄 にぶい黄	2.5Y7/1 2.5Y6/3 2.5Y6/3	粒含	やや良	20%		3005 - 04
520	S K74	土師器	(16.8)	3.3	底径	口縁ヨコナデ 外面ユピオサエ後ナデ 内面	内:	にぶい橙	2.5Y6/3 10YR7/4	密 ~0.1cm大の砂粒含	良	1.1縁25%		3005 - 07
521	S K74	土師器	(20.0)	(5.2)	(10.2)	ナデ 口縁ヨコナデ 外面上位ケズリ 下位ユビオ	内:	にぶい橙 淡黄	2.5Y8/3	SE OI LOPHE	良	口縁10%		3006 - 01
522	S K74	ロクロ土師器	(8.0)	2.3	底径	サエ 内面ヨコハケ 内外面ロクロナデ 底部糸切後ナデ	内:	淡黄 灰白	2.5Y8/3 2.5YR8/2	やや密 ~0.1cm大の砂	不良	30%		3005 - 02
523	S K74	ロクロ土師器	(8.8)	(2.1)	(5,0)	内外面ヨコナデ 底部糸切未調整	内:		2.5YR8/2 N5/	DE 1 1 1 1 1 1 1 1 1	良	口縁15%		3005 - 09
524	S K74	ロクロ土師器	(10,6)	2,2	(4.6) 底径	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整	内:	灰白 にぶい橙	10YR8/2 5YR7/4	密 ~0.1cm大の砂粒含	やや良	20%		3005 - 03
525	S K74	ロクロ土師器		(2.0)	(6.4)	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整	内:	にぶい橙 橙	5YR7/6	やや密 ~0.1cm 大の砂	やや良	底部完存		3005 - 05
526	S K74	ロクロ土師器		(1.4)	(4.4) 底径	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整	外:	にぶい黄橙	5YR7/6 10YR7/2	やや密 ~0.1cm大の砂	やや良	底部完存		3005 - 01
527	S K74	陶器		(1.5)		内外面ロクロナデ 底部糸切後ナデ 高台貼	内:	にぶい黄橙 灰白	10YR7/2 2.5Y7/1		良	底部完存		3004 - 06
528	S K74		(8.6)	2,4		付ナデ 内外面ロクロナデ 底部糸切未調整 高台貼	内:	灰白 灰白	2.5Y7/1	やや密 ~0.1cm大の砂	良	底部50%		3004 - 03
529	S K74	小椀 陶器 小椀	(8.3)	2,7	4.1 高台径	付ナデ 内外面ロクロナデ 底部ナデ 高台貼付ナデ	内:	灰白灰白	2.5Y7/1 2.5Y7/1	やや密 ~0.1cm大の砂	良	底部完存		3004 - 02
530	S K74	陶器	(8.0)	4.4	4.2 底径	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整	内:	灰百 灰白	2.5Y7/1 5Y7/1	やや密 ~0.5cm大の砂	やや良	底部完存		3004 - 07
531	S K74	小皿 陶器	(8.0)	2,7	(4.4) 底径	内外面ロクロナデ	内:	灰白 灰白	5Y7/1 2,5Y7/1	やや密 ~0.1cm大の砂	良	30%		3004 - 04
532	S K74	小皿 陶器	(8.2)	2.7	4.2 底径	内外面ロクロナデ 底部糸切後ナデ	内:	灰白	2.5Y7/1 2.5Y7/1	やや密 ~0.1cm 大の砂	良	30%		3004 - 05
533	S K74	小皿 陶器	8.2	2.2	4.0 底径	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整	内:	灰白 灰白	2.5Y7/1 2.5Y7/1	ter a la establica	良	完存		3004 - 01
534	S K74	小皿 陶器	16.4	5.0	3.9 高台径	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整 高台貼	内:	灰白 灰白	10YR7/1	やや粗 ~0.1cm大の砂	良			3003 - 01
535	S K74	山茶椀 陶器	(16.4)	5.6	高台径	付ナデ 粉穀痕 内外面ロクロナデ 底部ロクロナデ 高台貼	<u>外:</u> 内:	灰白 灰白	10YR7/1 2.5Y7/1	やや密 ~0.1cm 大の砂	良	底部完存		3003 - 04
-00		山茶椀	1 /	1 5.5	(7,0)	付ナデ	% :	灰白	2.5Y7/1	私音				1-50 04

報告書	出土遺構	器種など	法	量 (em))	成形・調整技法の特徴	色		胎土	焼成	残存度	備考	登録番号
番号	山工堰阱		口径	器高	その他				na 1.	W. W.	721172	Nu 3	.W. # M - 7
536	S K74	陶器 山茶椀	(16.6)	5.4	高台径 (7.0)	内外面ロクロナデ 底部糸切後ナデ 高台貼 付ナデ 利殻痕	外:灰白	10YR8/1 10YR8/1	粗 ~0.1cm大の砂粒含	良	底部完存		3003 - 05
537	S K74	陶器 山茶椀	16.0	5.6	高台径 6.9	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整 高台貼 付ナデ 初殻痕	外:灰白	5Y7/1 5Y7/1	粗 ~0.1cm大の砂粒含	良	底部完存	<u> </u>	3003 - 03
538	S K74	陶器 山茶椀	15.4	4.7	高台径 7.6	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整 高台貼付ナデ 籾殻痕	外:灰白	5Y7/1 5Y7/1	粒含	良	80%		3003 - 02
539	S K 74	陶器 山茶椀	(15.4)	5.3	高台径 (7.8)	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整 高台貼 付ナデ	外:灰白	2.5Y8/1 2.5Y8/1	やや密 ~0.1cm大の砂 粒含	良	底部完存		3003 - 06
540	S K74	陶器 山茶椀	(16.0)	4.7	高台径 (8.0)	内外面ロクロナデ 高台貼付ナデ 籾殻痕	内:灰白 外:灰白	10YR7/1 10YR7/1	粗 ~0.1cm大の砂粒含	良	口縁10%		3001 - 03
541	S K 74	陶器 山茶椀	(16.6)	4,3	高台径 (8.2)	内外面ロクロナデ 底部糸切後ナデ 高台貼 付ナデ 籾殻痕	外:灰白	N8/ N8/	やや密 ~0.1 cm 大の砂 粒含	良	50%		3001 - 01
542	S K 74	陶器 山茶椀	(16.0)	4.5	(7.6)	内外面ロクロナデ 底部糸切後ナデ 高台貼 付ナデ 籾殻痕 内外面ロクロナデ 底部糸切未調整 高台貼	外:灰白	2.5Y7/1 2.5Y7/1 2.5Y7/1	やや密 ~0.1cm大の砂 粒含 やや密 ~0.1cm大の砂	やや良	30%		3001 - 04
543	S K 74	陶器 山茶椀	(16.6)	4.1	高台径 (6.8) 高台径	内外面ログロナテ 版部示切末調整 高台貼 付ナデ 籾殻痕 内外面ロクロナデ 底部糸切未調整 高台貼	外:灰白	2.5 Y 7 / 1 5 Y 7 / 1	粒含	良	底部完存		3001 - 02
544	S K74	陶器 山茶椀 陶器		(3.3)	(7.8)	付ナデ 籾殻痕	外:灰白 内:灰白	5Y7/1 10YR7/1	密 ~0.2cm大の砂粒含 やや粗 ~0.2cm大の砂	良	底部50%		3081 - 06
545	S K74	山茶椀		(2.7)	高台径 (7.3)	内外面ロクロナデ 底部ナデ 高台貼付ナデ 内外面ロクロナデ 底部糸切未調整 高台貼	外:灰白	10YR7/1 10YR7/1	粒含	やや良	底部完存		3007 - 03
546	S K74	山茶椀 陶器		4.2		付ナデ 籾殻痕	外: 灰旨 内: 灰白	10YR7/1 2.5Y8/1	粗 ~0.1cm大の砂粒含 やや密 ~0.1cm大の砂	良	底部完存		3002 - 01
547	S K 74	山茶椀		(3.8)	高台径 (8.0) 高台径	内外面ロクロナデ 底部ナデ 高台貼付ナデ 内外面ロクロナデ 底部糸切未調整 高台貼	外:灰白	2.5Y8/1 5Y8/1		やや良	底部50%		3002 - 04
548	S K74	山茶椀		(3.2)	(7.6) 高台径	付ナデ 内外面ロクロナデ 底部糸切未調整 高台貼	外:灰白	5Y8/1 2,5Y7/1	粒含 やや密 0.1 cm 大の砂粒	良	底部30%		3082 - 03
549	S K 74	山茶椀		(3.1)	(8.1)	付ナデ 内外面ロクロナデ 底部糸切未調整 高台貼	外:灰白	2.5Y7/1	含 やや密 ~0.1cm大の砂	良	底部50%		3082 - 04
550	S K 74	山茶椀		(2,3)	(7.0) 高台径	付ナデ	外: 炭呂 内: 灰白	2.5Y7/1 5Y7/1	粒含	良	底部60%		3081 - 03
551	S K74	山茶椀		(4.0)	(6.6)	内外面ロクロナデ 底部ナデ 高台貼付ナデ 内外面ロクロナデ 底部糸切未調整 高台貼	外:灰白	5Y7/1	粗 ~0.2cm大の砂粒含 やや密 ~0.1cm大の砂	良	底部50%		3002 - 03
552	S K74	山茶椀 陶器		(3.0)	高台径	付ナア 籾殻痕	外:黄灰 丙:灰白	2.5Y6/2 5Y7/1	粒含 やや密 ~0.1cm 大の砂	良	底部完存		3002 - 02
553	S K74	山茶椀		(2.5)	高台径	付ナデ 内外面ロクロナデ 底部糸切後ナデ 高台貼	外:灰白	5Y7/1	粒含 やや密 ~0.1cm大の砂	良	底部35%		3081 - 02
554	S K74	山茶椀	-	(2.9)	(6.3)	付ナデ 内外面ロクロナデ 底部糸切後ナデ 高台貼	外:灰白	7.5Y7/1 7.5Y7/1	粒含	良	底部30%		3083 - 01
555	S K74	山茶椀		(3.4)	(7.2)	内外面ロクロナテー底部ボ切後ナテー高行動 付ナデ 内外面ロクロナデー底部糸切後ナデー高台貼	外:灰白	7.5Y7/1 N8/	粗 ~0.1cm大の砂粒含 やや密 ~0.1cm大の砂	良	底部30%		3002 - 05
556	S K 74	山茶椀		(3.8)	(5.8)	付ナデ 重焼痕 内外面ロクロナデ 底部糸切未調整 高台貼	外:灰白	N8/ N7/	粒含 やや密 ~0.1cm大の砂	良	底部60%	-	3083 - 03
557	S K74	山茶椀		(1.9)	(8.8) 高台径	付ナデ 籾殻痕	外:灰白	N7/ 5Y7/1	粒含	良	底部30%		3082 - 01
558	S K 74	山茶椀		(1.9)	(9.4)	付ナデ 籾殻痕		5Y7/1 N8/	密 ~0.2cm大の砂粒含 やや密 ~0.1cm大の砂	良	底部30%		3081 - 07
559	S K 74	陶器 山茶椀		(2.0)	(9.4)	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整 高台貼 付ナデ	外:灰白	N8/ 2,5Y7/4	を 粒含 やや密 ~0.1cm大の砂	良	底部30%		3082 - 07
560	S K 74	陶器 山茶椀		(1.9)	高台径 (8.1)	付ナデ		2.5Y7/4	粒含	良	底部10%		3083 - 02
561	S K74	陶器 山茶椀		(2.1)	(7.5)		外:灰白	5Y8/1 5Y8/1	密 ~0.1cm大の砂粒含	良	底部25%		3083 - 05
562	S K 74	陶器 山茶椀		(2.3)	(8.2)	内外面ロクロナデ 底部ロクロナデ 高台貼 付ナデ 制殻痕	外:灰白	5Y7/1 5Y7/1		良	底部15%		3082 - 08
563	S K74	陶器 山茶椀		(1.7)	(7.9)	内外面ロクロナデ 底部糸切末調整 高台貼 付ナデ 籾殻痕	外:灰白	5Y7/1 5Y7/1		良	底部75%		3081 - 01
564	S K 74	陶器 山茶椀		(2.2)	(7.6)	内外面ロクロナデ 底部ヘラ切 高台貼付ナ デ 籾殻痕	外:灰白	5Y7/1 5Y7/1		良	底部50%		3081 - 05
565	S K 74	陶器 山茶椀		(2.2)	(6,2)	内外面ロクロナデ 底部糸切後ナデ 高台 貼付ナデ 重焼痕 内外面ロクロナデ 底部糸切未調整 高台 貼	外:灰白	5Y7/1 5Y8/1		良	底部50%		3083 - 04
566	S K 74	陶器 山茶椀		(2.0)	高台径 (5.6)	付ナデ	外:灰白	5Y8/1		良	底部30%		3082 - 05
567	S K74	陶器 山茶椀		(2.2)	(6.4)	内外面ロクロナデ 底部糸切後ナデ 高台貼 付ナデ 刺殻痕	外:褐灰	10YR6/1 10YR6/1	粒含	良	底部50%		3082 - 09
568	S K 74	陶器 山茶椀		(1.8)	高台径 (7.8)	付ナデ	外:灰白	2.5Y7/1	やや密 ~0.1cm大の砂 粒含 やや密 ~0.1cm大の砂	やや良	底部完存		3007 - 04
569	S K 74	陶器 山茶椀		(2.0)	高台径 (7.7)	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整 高台貼付ナデ 籾殻痕 内外面ロクロナデ 底部糸切未調整 高台貼	外:灰白	7.5Y7/1 2.5Y7/1	粒含 やや粗 ~0.2cm大の砂	良	底部50%		3082 - 02
570	S K 74	陶器 山茶椀		(1.9)		付ナデ	外:灰白	2.5Y7/1	粒含 やや密 ~0.1cm大の砂	やや良	底部完存		3007 - 01
571	S K 74	陶器 山茶椀		(1.4)	(7.2)	P17F回ロクロナナ ACIP / / 同口知リナナ	外:灰白	2.5Y7/1	粒含 やや密 ~0.1cm大の砂	良	底部25%		3082 - 10
572	S K 74	陶器 山茶椀		(2.0)	(7.6)	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整 高台 貼 付ナデ 籾殻痕 内外面ロクロナデ 底部糸切未調整 高台 貼	外:灰白	5Y7/1 2.5Y7/1	粒含	良	底部25%		3081 - 04
573	S K 74	陶器 山茶椀		(1.8)	(7.9)	付ナデ 籾殻痕	外:灰白	2.5Y7/1	密 ~0.1cm大の砂粒含 やや密 ~0.1cm大の砂	良	底部45%		3081 - 08
574	S K86	陶器 山茶椀		(2.9)	(7.6)	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整 高台貼 付ナデ	外:灰白	5Y7/1	粒含	やや良	底部35%		3015 - 01
575	S K 87	陶器 山茶椀		(3.2)	高台径 (7.3)	付ナデ	外:灰白	2.5Y8/1	やや密 ~0.2cm大の砂 粒含	やや良	底部完存		3015 - 02
579	包含層 CJ - 23	縄文土器 深鉢		(11.8)	150.5×	外面二枚貝による条痕 爪型文 竹管文	内:黄灰 外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	10YR7/3	やや密 ~0.1cm大の砂 粒含 やや密 ~0.5cm大の砂	やや不良	不明	八ツ崎I式	3084 - 01
580	包含層 CR - 24	縄文土器 深鉢	ļ	10.2	底径 (14.4)	摩滅	内:にぶい黄橙 外:浅黄 内:にぶい黄橙	2.5Y7/3	やや密 ~0.5cm 大の砂 粒含 やや粗 ~0.4cm 大の砂	やや良	不明		3085 - 01
581	包含層 BT - 22	縄文土器 鉢		(3,3)	底径 (11.0)	摩滅	外:にぶい黄橙	10YR6/3	やや租 ~0.4cm人の砂 粒含 やや密 ~0.2cm大の砂	良	底部25%	穿孔	2024 - 01
582	包含層 BT - 22	縄文土器 鉢		<u> </u>		粘土紐貼	外:橙	5YR6/6	粒含	やや良	底部20%		2030 - 01
583	包含層 CJ - 19	古式土師器 器台	(8.6)	(2.4)		口縁ヨコナデ 内外面ミガキ	内:にぶい黄橙 外:にぶい黄橙 由:樫	10YR7/4	密 ~ 0.1cm人の砂粒音	良	杯部40%		3062 - 03
584	包含層 CI - 20	古式土師器 器台	(9.4)	(2.2)		□縁ヨコナデ 内外面摩滅 □縁ヨコナデ 外面ハケ後ミガキ 内面ヨコ	内:橙外:橙	7.5YR7/6		やや不良	杯部40%		3062 - 02
585	包含層 CO - 20	古式土師器 器台	(10.0)	(2.3)		ミガキ	外:にぶい橙	7.5YR6/4	やや粗 ~0.1cm大の砂 粒含	やや良	杯部65%		3062 - 01
586	包含層 C1 - 20	占式土師器 器台	(7.0)	(7.3)	the CV	脚部内外面摩減 杯部外面ミガキ 内面 ヨコ ナデ	内:にぶい黄橙 外:にぶい橙	10YR7/3 7.5YR6/4	やや密 ~0.1cm大の砂 粒含	やや不良	器部完存		3064 - 03
587	包含層 CK - 23	古式土師器 器台	(7.8)	7.5	底径 (11.8)	脚部内外面ミガキ 杯部内外面ミガキ	内:浅黄 外:浅黄	2.5Y7/3 2.5Y7/3	密 ~0.1cm大の砂粒含	良	50%		3064 - 04
588	包含層 CQ - 23	占式土師器 器台脚部		(7.6)	底径 12.8	外面ミガキ 内面ナデ 杯部内面剥離 底 縁ヨコナデ	外:にぶい黄橙		やや密 ~0.4cm大の砂 粒含	良	25%		3064 - 01
589	包含層 CP - 21	占式土師器 器台脚部		(7,7)	底径 14.2	外面ハケ後ミガキ 内面タテハケ 3方透か し	内:にぶい褐 外:にぶい橙	7.5YR6/4	やや粗 ~0.2cm大の砂 粒含	良	不明		3064 - 02
590	包含層 CU - 22	古式土師器 高杯脚部		(7,7)		内外面ロクロナデ	内:灰黄外:灰黄	2.5Y7/2 2.5Y7/2	やや粗 ~0.3cm大の砂 粒含	良	頸部完存		3059 - 05
591	包含層 CI - 20	古式土師器		(9.7)		外面ミガキ 頻都内面ミガキ 体部内面上位 ナデ下位ケズリ	外:にぶい黄橙	10YR7/3		良	30%		3068 - 01
592	包含層 CJ - 20	古式土師器直门壷	(16.4)	(6.4)		[[縁ヨコナデ 内外面ミガキ	内:にぶい橙 外:にぶい橙	5YR6/4		良	30%		3068 - 03
593	包含層 CQ - 21	土師器	(18.0)	(4.2)		□縁ヨコナデ 外面上位刺突文下位ハケメ 内面刺突文	内:浅黄橙 外:浅黄橙	10YR8/4 10YR8/4	密 ~0.1cm大の砂粒含	不良	10%		3068 - 04
594	CQ - 22 Pit2	古式土師器 董		(3.7)		外面上位刺突文下位タテハケ 内面上位刺 突文下位ミガキ	外:明黄橙	5YR6/8 10YR7/6	やや密 ~0.4cm大の砂 粉含	不良	頸部15%		3073 - 01
595	包含層 CP - 21	古式土師器 壷	(17.4)	(4.6)		口縁ヨコナデ 外面上位刺突文下位タテハケ 内面上位刺突文下位ナデ	内:灰黄褐 外:灰黄褐	10YR5/2 10YR5/2	やや密 ~0.2cm大の砂 粒含	やや良	頸部40%		3071 - 05
596	包含層 CR - 23	古式土師器 二重口縁壷		(5.3)		内外面ミガキ	内:橙 外:橙	7.5YR6/6 7.5YR6/6	やや密 ~0.3cm 大の砂 粒含	やや良	25%		3068 - 02

報告書	11. 1. 10. 10.	10176 A 14	法	量 (cm)		atomy of the balance of the fact		^		P/- 1-	late +4°	THE FOR	備	考	登録番号
報告書番号	出土遺構	器種など	口径	器高	その他	成形・調整技法の特徴		色	AFI	胎 土	焼成	残存度	1/88	45	立林省ケ
597	包含層 CR - 23	古式土師器 二重口縁壷	(25.2)	(4.0)		「1縁ヨコナデ 内外面ミガキ	内:外:	橙	7.5YR6/6 7.5YR6/6	密 ~0.1cm大の砂粒含	良	口繰10%			3072 - 03
598	包含層 CQ - 23	古式土師器 受口状口縁甕	(24.6)	(5,2)		□縁ナデ 外面タテハケ 内面ナデ	外:	褐灰 褐灰	10YR6/1 10YR5/1	密 ~0.1cm大の砂粒含	良	口線25%			3067 - 05
599	包含層 Cl - 19	古式土師器 賽	(18.0)	(3,6)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハ ケ後ナデ		にぶい橙 にぶい黄橙	7.5YR6/4 10YR6/3	粒含	良	口縁50%			3066 - 01
600	包含層 CJ - 19	古式土師器 受口状口縁蹇	(17.0)	(5.9)		口縁ヨコナデ 内外面摩滅	内:	にぶい黄橙 にぶい黄橙	10YR6/3 10YR7/3	粒含	やや良	口線10%			3071 - 02
601	包含層 CQ - 23	古式土師器 受口状口縁甕	(16.3)	(4.2)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ		浅黄橙 にぶい橙	10YR8/4 7.5YR7/4	やや密 ~0.1cm大の砂 粒含	良	口練50%			3067 - 04
602	包含屬 CK - 19	古式土師器 く字状口縁甕	(14.8)	(3,1)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	外:	浅黄 浅黄	10YR8/3 10YR8/3	やや密 ~0.1cm大の砂 粒含	良	15%			3059 - 06
603	包含層	古式土師器 受口状口縁甕	(19.4)	(5,3)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコナデ	内: 外:	橙 橙	5YR6/5	やや密 ~0.4cm大の砂 粒含	やや不良	[1緑20%			3072 - 04
604	包含層 CI - 20	古式土師器 産		(2.5)	底径 (3.6)	内面タタキ 外面ミガキ	内:	灰白 にぶい黄橙	10YR8/2 10YR7/3	やや粗 ~0.3cm大の砂 粒含	やや良	底部完存			3060 - 01
605	包含層 CJ - 19	古式土師器 壷		(3,5)	底径 (2.5)	内面摩滅 外面ナデ下位ミガキ		にぶい黄橙 にぶい橙	10YR7/2 5YR7/4	やや密 ~0.1cm大の砂 粒含	やや良	底部完存			3061 - 01
606	包含層 CN - 20	古式土師器 壷		(2.6)	底径 (3.2)	内外面摩滅	内:	橙 橙	7.5YR7/6 7.5YR7/6	粒含	不良	底部完存			3061 - 03
607	包含層 CH - 19	古式土師器		(2.6)	底径 (5.0)	内面タタキ 外面摩滅	内:	浅黄橙 浅黄橙	10YR8/3 10YR8/3	やや密 ~0.1cm 大の砂 粒含	やや良	底部50%			3060 - 05
608	包含層 CI - 20	古式土師器 壺		(3.0)	底径 (8.5)	内面ハケ 外面摩滅	外:		5YR7/8	やや粗 ~0.2cm 大の砂 粒含	やや不良	底部95%			3060 - 06
609	包含層 CJ - 22	古式土師器 壷		(3.7)	底径 (7.4)	内外面タタキ 高台ナデ		灰褐	2.5YR6/8 5YR6/2	密 ~0.1cm大の砂粒含	やや良	底部50%			3060 - 02
610	包含層 CT - 23	占式土師器 壷		(4.4)	底径 (8.0)	外面タテハケ 内面ケズリ	外:	褐灰 赤橙	10YR5/1 10YR6/8	粒含	良	底部15%			3070 - 04
611	包含層 CJ - 20	古式土師器 壷		(4.1)	底径 (6.8)	内面ヨコハケ 外面ハケ後ミガキ 底部ケズ リ	外:	橙	2,5Y8/3 5YR7/6		やや良	底部完存			3060 - 04
612	包含層 CR - 19	古式土師器 S字状口縁台付甕	(12.0)	(2.3)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面摩滅	外:	浅黄橙 にぶい黄	10YR8/4 10YR7/4	粒含	やや良	口縁20%			3067 - 01
613	包含層 CX - 21	古式土師器 S字状口縁台付甕	(12.0)	(3.3)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ユビオサ エ	外:	黄橙 黄橙	7.5YR8/3 7.5YR8/3	粒含	やや良	口縁20%			3067 - 02
614	包含層 CQ - 21	古式土師器 S字状口縁台付蹇	(13.4)	(3.1)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ユビオサ エ	外:	にぶい黄 橙	10YR6/2	やや粗 ~0.1cm大の砂 粒含	良	30%			3065 - 03
615	包含層 CI - 20	古式土師器 S字状口縁台付甕	(14.4)	(2.6)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ユビオサ エ	外:	にぶい黄橙 褐灰	10YR6/3 10YR5/1	密 ~0.1cm大の砂粒含	良	30%			3066 - 05
616	包含層 CQ - 21	古式土師器 S字状口縁台付甕	(14.0)	(3.3)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ナデ		浅黄橙 浅黄橙	10YR8/3 10YR8/3	密 ~0.1cm大の砂粒含	良	30%			3065 - 05
617	包含層 CQ - 23	古式土師器 S字状口縁台付甕	(14.0)	(4,1)		□線ヨコナデ 外面タテハケ後ヨコハケ 内面ユビオサエ	外:	にぶい赤褐 明褐	5YR5/4 5YR5/6	和 ~ 0.2cm 人 0.09 極 高	良	10%	ļ		3066 - 03
618	包含層	占式土師器 S字状口縁台付甕	(14.2)	(3.0)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ		にぶい橙 橙	5YR7/6		良	10%	<u> </u>		3066 - 04
619	包含層 CI - 20	古式土師器 S字状口縁台付蹇	(13.0)	(2,8)		1.1縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ユビオサ	外:	灰黄褐 橙	7.5YR7/5		良	11縁40%			3070 - 01
620	包含層 CQ - 21	古式土師器 S字状口縁台付 甕	(14.0)	(3,1)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ユビオサ	外:		7.5YR7/6 7.5YR7/6	やや密 ~0.2cm大の砂 粒含	やや良	口縁30%			3067 - 03
621		古式土師器 S字状口縁台付甕	(14.0)	(3.2)		「1縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ナデ	外:	にぶい黄橙にぶい黄橙	10YR7/3 10YR7/3	密 ~0.1cm大の砂粒含	良	50%			3065 - 04
622	包含層 CQ - 21	古式土師器 S字状口縁行付甕	(16.0)	(3.2)		「口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ユビオサ エ	外:	にぶい橙 にぶい橙 浅黄橙	2.5YR6/3		良	口練25%			3065 - 02
623	包含層 CJ - 20	古式土師器 S字状1.1縁台付甕	(17.0)	(3.6)		11縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ナデ 口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ユビオサ	外:	改典恒 にぶい黄 褐灰	10YR7/3 10YR7/3 7.5YR5/1		良	15%			3065 - 01
624	包含層 Cl - 20 包含層	古式土師器 S字状[1縁台付甕 古式土師器	(16,0)	(4,4)		□縁ョコナデ 外面タテハケ 内面ユビオリ エ □ □縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ユビオサ	外:	にぶい褐 にぶい黄橙	7.5YR6/3 10YR7/3	密 ~0.1cm大の砂粒含	良	口縁20%			3066 - 06
625	CI - 20 包含層	S字状门縁台付養 古式土師器	(16.8)	(5,6)	頸部径	I.		にぶい黄 褐灰	10YR6/3	粗 ~0.1cm大の砂粒含 やや密 ~0.1cm大の砂	良	25%			3066 - 02
626	CP - 21 包含層	S字状口縁台付甕 古式土師器		(3.6)	(5.6)	外面タテハケ 内面ユビオサエ 底縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ユビオサ	外:	褐灰 にぶい橙	10YR5/1 5YR6/4	粒含	やや良	脚部のみ	-		3069 - 05
627	CP - 21 包含層	S字状 I縁台付甕 須恵器	(10.0)	(6.8)	(9.6)	ı	外:	にぶい黄橙 緑灰	10YR7/4 5G5/1	粒含	やや良	底部55% 口縁15%			3070 - 03
628	BV - 21 包含層	杯蓋 須恵器	(12.2)	(3.8)		内外面ロクロナデ 頂部回転へラケズリ	外:	緑灰	5G5/1 10G6/1	密 ~0.1cm大の砂粒含 密 ~0.1cm大の砂粒含	良良	「1縁20%	ļ		2019 - 03
629	BX - 23 包含層	杯蓋 須恵器	(13.3)	(3.7)		内外面ロクロナデ 頂部四転ペラケスリ	内:	緑灰	10G6/1 5G6/1	やや粗 ~0.3cm大の砂	良	日禄15%			2018 - 02
630 631	BV - 19 包含層	杯蓋 須恵器	(12.8)	(3.1)		内外面ロクロナデ	内:	緑灰 灰白	5G6/1 10YR7/1	粒含 やや粗 ~0.1cm大の砂	やや良	10%			3050 - 02
632	CF - 22 包含層	杯蓋 須恵器	(10.6)	(4.3)		内外面ロクロナデ 頂部へラ切	内:	灰白 灰白	2.5Y7/1 7.5Y5/1	粒含 やや密 ~0.1cm大の砂	やや不良	50%			1110 - 03
633	AP - 17 表採	杯蓋 須恵器	(12.0)	(3.5)		内外面ロクロナデ 頂部ケズリ	内.	灰	7.5Y6/1 N6/	粒含 やや粗 ~0.1cm大の砂		15%	ļ		3050 - 01
634	包含屬	杯蓋 須恵器	(11.8)	(3,8)		内外面ロクロナデ 頂部ヘラ切	外:	灰	10Y5/1 N7/	粒含 やや密 ~0.5cm大の砂 粒含		11線25%			1103 - 06
635	AI - 20 包含層 BV - 19	杯蓋 須恵器	(13.9)	(3.8)		八外面ロクロナデ 頂部回転ヘラケズリ	内:	淡黄	5Y8/3	やや粗 ~0.2cm大の砂	不良	1.1縁30%			2020 - 01
636	包含層	杯蓋 須恵器	(13,9)	(4,5)		内外面ロクロナデ 頂部ヘラ切後ナデ	内:	淡黄 明緑灰	5Y8/3 5G7/1	程言 密 ~0.1cm大の砂粒含	良	口縁15%			2018 - 01
637	BW - 20 包含層	杯蓋 須恵器 杯蓋	(10.5)	(3.0)		内外面ロクロナデ 頂部回転ヘラケズリ	内:	明緑灰 明青灰 明青灰	5G7/1 5B7/1 5B7/1	密 ~0.1cm大の砂粒含	やや不良	ほぼ完存	口縁部自然	熱付着	1113 - 02
638	AG - 21 包含層 AT - 19	杯蓋 須恵器 杯蓋	(11.6)	(2.4)		つまみ貼付ナデ 内外面ロクロナデ		灰白	N7/ 10Y6/	やや粗 ~0.2cm人の砂	やや良	15%			1103 - 02
639	包含層 AJ - 24	作監 須恵器 杯蓋	(14.8)	(1.6)		内外面ロクロナデ 頂部回転ヘラケズリ	内:	灰白 灰白	N8/	やや密 ~0.1cm大の砂 粒微量含	良	25%			1107 - 04
640	AJ - 24 包含層 AO - 19	須恵器 杯蓋	(15.8)	(3.4)		内外面ロクロナデ 頂部回転ヘラケズリ つまみ貼付ナデ	内:	灰黄 灰白		セ 版版 1 やや密 ~0.2cm 大の砂 粒含	良	50%			1110 - 01
641	包含層 AT - 19	須恵器 杯蓋	(16.8)	(3.2)		内外面ロクロナデ 頂部回転ヘラケズリ つまみ貼付ナデ	内:	明青灰明青灰	10BG7/1	やや密 ~0.1cm大の砂 粒衡量含		日禄10%			1113 - 04
642	包含層 AP - 22	須恵器 杯蓋	(15.2)	(1,6)		外面回転ヘラケズリ	内:	にぶい黄橙 黄灰	10YR7/2 2,5Y6/1		良	15%			1107 - 07
643	包含層 AG - 21	須恵器 杯蓋	(15.4)	(0.8)		内外面ロクロナデ 頂部回転ヘラケズリ	内:	灰白 灰白	7.5Y7/1 7.5Y7/1		良	25%			1107 - 03
644	検出面 DM - 18	須恵器 杯身	(7.6)	(2.3)		内外面ロクロナデ 底部回転ヘラケズリ	内:	灰	N5/ N5/	やや密 ~0.2cm 大の砂 粒含	良	1.1縁25%			4051 - 09
645	包含層 DB - 21	須恵器 杯身	(9.0)	(2.6)		内外面ロクロナデ 頂部へラ切	内:	灰灰	N6/ N6/	やや粗 ~0.1cm大の砂 粒含	良	15%			3049 - 04
646	包含層 DJ - 24	須恵器 杯身	(10,1)	(2.7)		内外面ロクロナデ 頂部ヘラケズリ	内:	灰灰	N7/ N7/	やや粗 ~0.3cm大の砂 粒含	やや良	10%			3051 - 04
647	包含層 AK - 20	須恵器 杯身	(9.6)	(3.2)		内外面ロクロナデ 底部回転ヘラケズリ	外:	灰白 灰白	2.5Y7/1 2.5Y7/1		良	50%			1110 - 05
648	包含層 CB - 20	須恵器 杯身	(11.0)	(2.9)		内外面ロクロナデ		灰白 灰白	2.5Y7/1 2.5Y8/2	やや密 ~0.1cm大の砂 粒含	不良	10%			3049 - 06
649	包含層 CY - 23	須恵器 杯身	(9.2)	(2,5)		内外面ロクロナデ	外:	灰白 灰白	2.5Y7/1 5Y7/1	密 ~0.1cm大の砂粒含	やや良	小片			3049 - 01
650	包含層 CB - 21	須恵器 杯身	(10.2)	(2,6)		内外面ロクロナデ	内:	灰灰	N6/ N5/	やや密 ~0.1cm大の砂 粒含	良	10%			3049 - 02
651	包含層 AG - 21	須恵器 杯身	(9.6)	(3,3)		内外面ロクロナデ 底部ヘラケズリ		灰白	N6/ 10Y7/1	密 ~0.1cm大の砂粒含	良	ほぼ完存			1113 - 03
652	包含層 CE - 18	須恵器 杯身	(10.2)	(2.9)		内外面ロクロナデ	内:	灰	10Y6/1 7.5Y5/1	やや密 ~0.1cm大の砂 粒含	良	10%			3049 - 05
653	包含層 AG - 21	須恵器 杯身	(10.2)	(3,2)		内外面ロクロナデ 底部回転ヘラケズリ	内:	灰	7.5Y5/1 5Y5/1	粗 ~0.2cm大の砂粒含	やや良	30%			1106 - 08
654	包含層 DM - 18	須恵器 杯身	(10.8)	(3,2)		内外面ロクロナデ 底部回転ヘラケズリ	内:	灰灰	N5/ N5/	密 ~0.1cm大の砂粒含	良	口縁10%			4048 - 03

表17 遺物(土器・陶器)観察表(11)

极州:===			法	量 (cm)					-,			I			
報告書番号	出土遺構	器種など	口径	器高	その他	成形・調整技法の特徴		色	調	,	抬 土	焼成	残存度	備考	登録番号
655	包含層 CB - 20	須恵器 杯身	(10.6)	(3.1)		内外面ロクロナデ 頂部ヘラケズリ	内: // 外: //	K K	7.5YR6/1 N5/	やや密 粒含	~0.1cm大の砂	やや良	口縁20%		3055 - 01
656	包含層 DO - 24	須恵器 杯身	(10,4)	(3,7)		内外面ロクロナデ 底部ヘラ切後ナデ	内://	X白 X	N7/ N5/	やや密 粒含		良	口縁40%		4048 - 01
657	包含屬 BV - 18	須恵器 杯身	(13.2)	(3.3)		内外面ロクロナデ	内: i	炎黄 炎黄	5Y8/3 5Y8/3	粒含	~0.2cm大の砂	不良	口縁20%		2020 - 02
658	検出面 DL - 20	須恵器 杯身	(10.0)	(3.5)		内外面ロクロナデ 底部回転ヘラケズリ	内:5 外:5		N6/ N6/	やや密 粒含	~0.1cm大の砂	良	口縁30%		4051 - 05
659	検出面 DL - 23	須恵器 杯身	(10.4)	(3.6)		内外面ロクロナデ 底部回転ヘラケズリ	内: 5	反白	5Y6/1 N7/	やや密 粒含	~0.1cm大の砂	良	口縁10%		4051 - 07
660	表採	須恵器 杯身	11.9	4.2		内外面ロクロナデ 頂部ヘラ切後ナデ	内: 5	K	N7/ N5/		.1cm大の砂粒含	良	完存		3051 - 03
661	包含層 BV - 21	須恵器 杯身	(14.0)	(4,1)		内外面ロクロナデ 底部回転ヘラケズリ	内: 外:	录灰	5G6/1 10GY5/1	粒含	~0.2cm大の砂	良	口縁10%		2018 - 04
662	包含層 C1 - 21	須恵器 杯身	(12.4)	(3,1)		内外面ロクロナデ	内:5	天白	5Y7/1 7.5Y7/1	やや密 粒含		良	10%		3049 - 03
663	包含層 BV - 21	須恵器 杯身	(13,0)	(3.5)		内外面ロクロナデ 底部回転ヘラケズリ	内:原外:原	Ę	5Y5/1 5Y5/1	粒含	~0.1cm大の砂	やや良	口縁10%		2020 - 04
664	包含層	須恵器 杯身	(12.8)	(3,9)		内外面ロクロナデ 頂部ヘラケズリ		天白	N7/ N7/	粒含	~0.1cm大の砂	やや良	口縁25%		3054 - 01
665	表土	須恵器 杯身	(12.2)	(2.7)		内外面ロクロナデ 底部回転へラケズリ後 ナデ	外:5		2.5Y8/1	やや密粒含	~0.2cm大の砂	やや不良	口縁15%		4048 - 02
666	検出面 DL - 24	須恵器 杯身	(11,3)	(3.3)		内外面ロクロナデ 底部ヘラ切後ナデ	内: 相 外: 相	登	5YR6/6 5YR6/6	I	.1cm大の砂粒含	ペペ不良	□縁40%		4051 - 03
667	検出面 DJ - 18	須恵器 杯身	(14.2)	(3.5)		内外面ロクロナデ 底部回転ヘラケズリ	内:# 外:5	Ŕ	5GY6/1 7.5Y5/1	粒含	~0.1cm大の砂	やや良	11縁25%		4051 - 02
668	包含層 AL - 20	須恵器 有台杯	(15.6)	(4.0)	高台径 (11.6)	内外面ロクロナデ 底部回転ヘラケズリ 高台貼付ナデ	外:1	こぶい黄橙	10YR7/2	粒含	~0.1cm大の砂	イベル良	25%		1110 - 02
669	包含層 AE - 23	須恵器 有台杯	(14.6)	(4,8)	高台径 (10.2)	内外面ロクロナデ 高台貼付ナデ		貴灰	5Y6/1 2.5Y6/1			良	日縁10%		1106 - 03
670	包含層 AI - 18	須恵器 高杯		(3,1)	-1-07	内外面ロクロナデ 3方透かし		貴灰	5Y6/1 2.5Y6/1	やや密粒含		良	小片		1103 - 07
671	包含層 AT - 19	須恵器 高杯		(4.4)	底径 (8.6)	内外面ロクロナデ	内:1	手灰	5B6/1 5B6/1	やや密	~0.1cm大の砂	やや不良	脚部80%		1110 - 04
672	検出面 DL - 23	須恵器	(9.0)	(3.7)		内外面ロクロナデ 外面沈線2条	内: // 外: // 内: //	ス 月 天白	N7/ N7/		.1cm大の砂粒含	良	□縁10%		4051 - 04
673	包含層 AO - 21	須恵器	(13.4)	(5.1)		内外面ロクロナデ	外:):	K	10Y5/1 10Y5/1	粒含	~0.1cm大の砂	良	口縁25%		1107 - 06
674	包含層 AM - 23	須恵器		(8.5)		内外面ロクロナデ 体部外面沈線2条刺突文 内面底部当具度	外:	K	N6/ N6/	粒含	~0.5cm大の砂	良	体部50%		1111 - 01
675	包含層 AW - 23	須恵器 提瓶		(6.8)		外面タタキ 内面ロクロナデ 類部ロクロナデ	内:原外:原	×白	N7/ N7/		.1cm大の砂粒含	良	頸部60%		1109 - 01
676	包含層 CD - 18	須恵器 提瓶		(17.3)		内外面ロクロナデ	内:原外:是	K	N6/ N6/ N7/	粒含	~0.2cm 大の砂	やや良	頸部80%		3053 - 01
677	包含層 AP - 22	須恵器 平瓶 須恵器		(6.7)		内外面ロクロナデ 内面粘土円盤充填	外: 5	KÁ .	N7/ 5Y7/1		.1cm大の砂粒含 ~0.1cm大の砂	やや良	口縁50%		1113 - 05
678	包含層 AC - 24 包含層	類思語 瓶 須恵器	(8.0)	(4.9)		内外面ロクロナデ	外:5	X 日 X 白	5Y7/1 2,5Y8/2	粒微量	~0.1cm人の砂 含 ~0.1cm大の砂	や作良	口縁10%		1106 - 01
679	AD - 24	類思語 横瓶 須恵器	(11.6)	(3.7)		口縁ロクロナデ 外面タタキ 内面同心円文		月褐灰	7.5YR7/2 N6/	粒含		良	口練20%	内面自然釉付着	1103 - 03
680	包含層 DG - 23 包含層	横瓶	(13.6)	(4.2)		内外面ロクロナデ	外:	Ŕ	N5/ 5Y7/1	粒含	~0.1cm大の砂	ベベ良	口縁15%		3052 - 01
681	AJ - 19 包含層	細頸壷	(10.6)	(2.5)		内外面ロクロナデ	外:/:	K百 等灰	10Ŷ7/1 5PB5/1	粒含		良	[1縁25%		1103 - 01
682	AK - 19 包含層	須恵器 有台長頸壷 須恵器	<u> </u>	(7.1)	高台径	内外面ロクロナデ 内外面ロクロナデ 底部糸切未調整 高台貼	外:i		5PB5/1 N6/	1	.1cm大の砂粒含 ~0.1cm大の砂	ペペ点	頸部のみ	内外面自然釉付着	+
683	AS - 24 包含層	有台畫 須恵器		(8,2)	(8.2) 高台径	付ナデ	外:原内:原	K	N6/	粒含	~0.1cm大の砂	良良	底部25%		1107 - 08
684	AW - 20 包含層	有台椀 須恵器		(7.6)	(7.6) 高台径	付ナデ 内外面ロクロナデ 底部ヘラ切後ナデ 高台	外:5		N6/ 5PB6/1	粒含 やや密		良	底部25%		1107 - 01
685	AG - 21 包含層	有台椀 須恵器	(19,2)	(5.0)	(5.6)	貼付ナデ 内外面ロクロナデ 外面刺突文	外:i	手灰	5PB6/1 7,5Y7/1	粒含や粗	~0.2cm大の砂	į.	小片		1107 - 01
686	1G 包含層	変 須恵器	(23.6)	(4.0)		内外面ココナデ	外: 5	k	N4/ 10Y6/1	粒含や粗	~0.2cm大の砂	やや良	1.1縁10%		3052 - 02
687 688	CS - 23 包含層	変 須恵器	(21.6)	(4.8)		口縁ヨコナデ 外面タタキ 内面ナデ	内:#	音灰 录灰	N3/ 5G5/1	粒含 やや粗	~0.2cm大の砂	良	[1縁10%		2022 - 01
689	BW - 17 包含層	甕 須恵器	(20,0)	(7.2)		口縁ョコナデ 内外面ロクロナデ	内:	录灰 音灰	5G5/1 N3/	粒含や容	~0.1cm大の砂	Ŗ Ŗ	山線15%		2022 01
690	BW - 16 包含層	新 須恵器	(12,4)	(1,7)		内外面ロクロナデ	内://	音灰 人	N3/ N5/	粒含 ※ ~0	.2cm大の砂粒含	やや良	小片		1113 - 01
691	AM - 23 包含層	円面硯 土師器	(15.4)	(4.1)		口縁ヨコナデ 外面ミガキ	内:(こぶい橙	N5/ 5YR6/4		.1cm大の砂粒含	やや良	口線10%		1127 - 06
692	AD - 24 包含層 AP - 22	上師器 土師器	(14,4)	(2.6)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	内:	こぶい橙	5YR6/4 10YR6/3	やや密	~0.5cm大の砂	ヤや不良	口線15%		1130 - 01
693	包含層	土師器	(16,0)	(4.7)		11練ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	内:	こぶい黄橙 反黄褐	10YR4/2	やや良	~0.1cm大の砂		口縁25%		2021 - 02
694	BX - 20 包含層 AC - 24	土師器	(15,5)	(3.1)		口縁ョコナデ	内·	こぶい黄橙 こぶい黄橙 こぶい黄橙	10YR7/2		.lem大の砂粒含	良	口縁35%		1133 - 03
695	包含層	土師器	(16.2)	(4.4)		口縁ヨコナデ 内面ヨコハケ	内:	こぶい黄橙		やや密	~0.1cm大の砂	やや良	口縁10%		1128 - 03
696	AJ - 20 包含層 AJ - 20	土前器	(15.0)	(4.7)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	カ: F 別: F	线黄橙 阴黄橙 暨		やや楽	~0.1cm大の砂	代代报	口頸部25%		1128 - 05
697	包含層 DL - 19		(17.6)	(5,0)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	内:(u こぶい橙 こぶい橙	7.5YR7/4 7.5YR7/4		.2cm大の砂粒含	良	口縁45%		4049 - 01
698	包含層	土前器	(18.8)	(4.3)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ナデ	内: (こぶい祖 こぶい掲 こぶい黄橙	7.5YR6/3	やや密 粒含	~0.1cm大の砂	良	口縁10%		2028 - 01
699	表土 DL - 17	土師器	(16,4)	(8.3)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	内: t 外: t	D.		やや密	~0.2cm大の砂	ペペ・良	口縁25%		4052 - 03
700	包含層 AH - 22	土師器	(24,4)	(3.7)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	内:1	ェ こぶい黄橙 桟黄橙		やや密	-0.1 cm大の砂	良	[1縁15%		1128 - 01
701	包含層 BX - 23	土師器	(19,2)	(13,3)		[1縁ヨコナデ 体部外面タテハケ 内面ヨコ ハケ	内:4	スロセ こぶい黄橙 こぶい黄橙	10YR7/4	やや密	~0.1cm大の砂	やや良	口縁30%		2029 - 01
702	包含層 AP - 22	土師器	(16.2)	(4.5)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	内:(こぶい橙こぶい橙	7.5YR7/4 7.5YR7/4		~0.1cm大の砂	ペペ・良	∫1縁20%		1126 - 07
703	包含層 CB - 19	土師器	(26.0)	(11.8)		[縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	内: {	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		やや密	~0.1cm大の砂	や中良	口繰10%		3056 - 01
704	包含層 AG - 21	土師器	(14.6)	(3,1)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	内:	戋黄 戋靑	2.5Y7/3 2.5Y7/3	やや粗粒含	~0.1cm大の砂	やや良	口練10%		1126 - 02
705	包含層 AI - 19	土師器	(16.0)	(6.3)		「1縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	内: 机外: 机	ů	10YR8/3 10YR8/3	密~0	.2cm大の砂粒含	良	口縁40%		1126 - 03
706	包含層 AD - 22	土師器	(17.8)	(4.9)		1.1縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコナデ		火黄褐		やや密	~0.3cm大の砂	やや良	口縁25%		1127 - 04
707	包含層 AQ - 29	土師器	(20.4)	(3,6)		外面摩滅 内面上位ヨコナデド位工具ナデ	内:	こぶい黄橙こぶい黄橙	10YR7/4	やや密	~0.3cm大の砂	やや不良	口繰10%		1130 - 06
708	包含層 AL - 20	土師器	(20.6)	(4.2)		内外面摩滅	内: 杜外: 杜	Ŷ		やや粗	~0.2cm大の砂	不良	口線15%		1129 - 02
709	包含層	土師器	(15.5)	(11,7)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面上位 ヨコ ハケ下位ケズリ	内:	 こぶい黄橙 こぶい橙			~0.3cm大の砂	良	口縁60%		2028 - 03
710	包含層 AK - 21	土師器	(18.0)	(12.3)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面摩滅	内:1	こぶい黄橙	10YR7/3 10YR7/3	やや密	~0.5cm大の砂	やや良	口繰75%		1132 - 01
711 712	包含層 AP - 22	土師器	(19.6)	(9.1) (3.7)	底径 (8.4)	口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	内: 5	大黄褐 で黄褐 こぶい黄橙	10YR6/2	やや寒	~0.2cm大の砂	良	口縁25%	同一個体?	1126 - 06
713	AP - 22 包含層 AG - 22		(19.0)	(4.8)	(4,0)	口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面上位ヨコ ハケ下位ナデ	内:4			やや密	~0.1cm大の砂	良	1縁10%		1133 - 01
	AU - 44	≫6.	1	1	l	*** T. 12. 7 7	7F: Y	~ 163 A 1.00 m	1.01 ft0/ 4	455-17		1		i	

表18 遺物(土器・陶器)観察表(12)

報告書 番号	出土遺構	器種など	法 口径	量 (cm) 器高	その他	成形・調整技法の特徴		色	調	В	台 土	焼成	残存度	備	考	登録番号
714	包含層 BX - 20	土師器	(29,4)	(7.7)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	内:	淡黄 淡黄	2.5Y7/4 2.5Y7/4	やや良粒会	~0.3cm大の砂	良	口縁50%			2021 - 03
715	包含層	土師器	(16.0)	(13.5)		口縁ヨコナデ 外面ヨコハケ 内面タテハケ	内:	にぶい黄橙 にぶい橙	10YR6/4 7.5YR6/4	やや密	~0.2cm大の砂	良	口縁10%			1134 - 01
716	AF - 21 包含層		(14.2)	(9.0)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ 頸部外面強いヨコナデ後タテハケ	内:	にぶい黄橙 にぶい黄橙	10YR7/4 10YR7/4	やや密	~0.2cm大の砂	やや良	口縁55%			1127 - 01
717	AD - 22 包含層	土師器	(14.8)			口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ナデ	内:	黄橙	10YR5/3 10YR5/3	やや粗	~0.3cm大の砂	良	口縁15%			2023 - 01
718	BU - 18 包含層	土師器	(13.0)	(4.7)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	内:	にぶい黄橙 にぶい橙		やや粗	~0.3cm大の砂	やや良	1.1縁20%			1130 - 03
719	AQ - 21 包含層		(16.8)	(3.5)		□縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ	内:	とあい位 浅黄橙 にぶい橙	10YR8/3 7.5YR7/2	やや密	~0.1cm大の砂	やや良	口縁10%			1133 - 02
720	AD - 22 包含層 AQ - 22	土師器	(20.0)	(23.3)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面摩滅	内:	灰白 にぶい橙	2.5Y8/2 7.5Y7/4	やや密	~0.1cm大の砂	やや良	口練25%			1131 - 01
721	包含層 DM - 17	長胴甕 土師器 甕	(17.2)	(5.8)		口縁ヨコナデ 外面ヨコナデ	内:	にぶい橙にぶい橙		やや密	~0.2cm大の砂	やや良	口縁15%			4049 - 02
722	包含層 AE - 23	土師器		(2.4)	底径 (9.6)	外面タテハケ 内面ナデ	内:	灰黄褐 にぶい黄橙		やや密	~0.1cm大の砂	良	底部20%	平底		1127 - 02
723	包含層 CA - 20	上師器 把手			残存長 (4.4)	外面オサエ	内:	浅黄		やや密	~0.1cm大の砂	やや良	把手部のみ			3059 - 02
724	包含層 AG - 21	土師器			残存長 (4.3)	外面ナデ 内面ヨコハケ	内:	橙		やや密	~0.1cm大の砂	やや良	把手部のみ			1126 - 01
725	包含層 CA - 19	土師器 把手			残存長	内外面ユビオサエ	内:	にぶい黄橙 にぶい黄橙	10YR7/2 10YR7/2		1cm大の砂粒含	良	把手部のみ			3057 - 02
726	包含層 AM - 19	土師器			残存長	内外面摩滅	内:	橙	5YR7/8 5YR7/8		~0.2cm大の砂	不良	小片			1129 - 03
727	包含層 CB - 18	土師器 把手			残存長	外面貼付ナデ 内面ナデ	内:	淡黄 淡黄	2.5Y8/4 2.5Y8/4		1cm大の砂粒含	良	把手部のみ			3057 - 03
728	包含層 AY - 19	土師器	(9.4)	(1.9)		内外面ナデ	内:	褐灰 褐灰	10YR5/1 10YR5/1	密 ~0.	1cm大の砂粒含	良	口縁20%			1118 - 07
729	包含層 CH - 23	土師器		2.1		口縁ヨコナデ 内外面ユビオサエ	内:	にぶい黄橙 にぶい黄橙		やや密 粒含	-0.1cm大の砂	やや良	小片			3033 - 02
730	包含層 AV - 17	土師器	(10.6)	(1.5)		内外面摩滅	内:		7.5YR7/6 7.5YR7/6	やや粗 粒含	~0.1cm大の砂	やや不良	口繰15%			1118 - 04
731	包含層 CI - 25	土師器	(8.4)	2.0	底径 (3.6)	内外面ナデ	内:	浅黄橙 浅黄橙	10YR8/3 10YR8/3	粒含	~0.2cm大の砂	やや良	口縁25%			3026 - 01
732	包含層 CH - 23	土師器	(20,8)	(3,9)		口縁ヨコナデ 外面ユビオサエ 内面ケズリ	内:	褐灰 褐灰	10YR4/1 10YR4/1	やや密 粒含	~0.1cm大の砂	やや良	10%			3037 - 01
733	包含層 CI - 25	土師器	(18.2)	(5.0)		□縁ヨコナデ 外面ユビオサエ 内面ケズリ	外:	にぶい掲 黒褐	7,5YR5/4 10YR3/2	やや密 粒含	~0.1cm大の砂	やや良	口縁15%			3037 - 02
734	包含層 AU - 18	土師器	(21.4)	(3,3)		口縁ヨコナデ 内面ヨコナデ	外:	にぶい黄橙 灰黄橙	10YR7/2 10YR7/2	粗 ~0.	2cm大の砂粒含	やや良	口縁10%			1118 - 02
735	包含屬 AT - 20	土魳器 鍋	(20,8)	(4,4)		口縁ヨコナデ 内面ヨコナデ	外:	褐灰 にぶい黄橙	10YR6/1 5YR6/1		2cm大の砂粒含	やや良	口縁15%			1118 - 01
736	包含層 CH - 23	土師器 鍋	(17.8)	(4.6)		口縁ヨコナデ 外面ユビオサエ 内面ケズリ	外:	にぶい黄橙 にぶい橙	7.5YR7/4	やや密 粒含	~0.1cm大の砂	やや良	口線30%			3036 - 01
737	包含層 CI - 25	土師器 鍋	(20.2)	(6.2)		口縁ヨコナデ 外面ユビオサエ 内面ヨコハ ケ	外:	浅黄橙 浅黄橙	10YR8/3 10YR8/3		1cm大の砂粒含	やや良	10%			3036 - 03
738	検出面	土師器	(25.2)	(6.2)		口縁ヨコナデ 外面タテハケ 内面ヨコハケ		灰白 にぶい褐	7.5Y6/3	やや粗 粒含	~0.3cm大の砂	やや不良	口縁20%	<u> </u>		4050 - 01
739	包含層 CH - 23	土師器	(17.4)	(2.4)		口縁ヨコナデ内面ケズリ	外:	にぶい橙 にぶい橙	7.5YR7/4 7.5YR7/4		3cm大の砂粒含	やや良	口縁10%			3036 - 02
740	包含層 CH - 23	土師器	(20.4)	(8.9)		口縁ヨコナデ 外面ユビオサエ 内面上位ユ ビオサエ下位ケズリ 口縁ヨコナデ 外面ユビオサエ 内面上位ケ	外:	灰白 灰白	2.5Y8/2	粒含	~0.2cm大の砂	やや良	口縁15%			3035 - 01
741	包含層 CH - 23 包含層	土師器	(27.4)	(5.6)		ズリ下位ヨコハケ	外:	にぶい黄橙 灰黄褐	10YR8/2 10YR7/2		3cm大の砂粒含 ~0.2cm大の砂	やや良	口縁10%			3035 - 02
742	AS - 18 包含層	コクロ土師器	(26,8)	(8,9)	底径	口縁ヨコナデ 外面ユビオサエ 内面板ナデ	外:	灰黄褐 にぶい黄橙	10YR6/2	粒含	~0.1cm大の砂	やや良	口縁20%			1102 - 03
743	CG - 24 包含層	ロクロ土師器	(8.8)	2.2	(5.0)	内外面ロクロナデ 底部摩滅	外:	にぶい黄橙 褐灰	10YR7/3 10YR6/1	粒含	~0.1cm大の砂	やや良	15%			3027 - 02
744	CH - 23 包含層	ロクロ土師器	(9.8)	1.7	(6.6)	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整 内外面ロクロナデ 底部糸切未調整	外:	にぶい黄橙 灰黄褐	10YR7/2 10YR6/2	粒含や密	~0.1cm大の砂	やや良	30%			3029 - 04
745 746	CG - 23 包含層	ロクロ土師器	(8.0)	2.0	(5.0) 底径	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整	内	灰黄褐 灰白	10YR6/2 10YR8/2	やや密	~0.1cm大の砂	やや良	10%			3025 - 04
747	CH - 23 包含層	ロクロ土師器	(9.0)	2,4	(6.0) 底径	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整	内:		10YR7/2 7.5YR7/6	やや粗	~0.2cm大の砂	やや不良	60%			3033 - 06
748	CH - 23 包含層	ロクロ土師器	(9.8)	2.1	(4.2) 底径	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整	内:	浅黄橙 灰黄褐	7.5YR8/4 10YR6/2	やや粗	~0.1cm大の砂	やや良	口縁20%			3028 - 05
749	CG - 23 包含層	ロクロ土師器	(7.6)	2.3	(6.6) 底径	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整		浅黄橙	7.5YR7/6 10YR8/3 10YR8/4	やや粗	~0.1cm大の砂	やや良	50%	<u> </u>		3028 - 06
750	CG - 23 包含層	ロクロ土師器	(9,8)	2.0	(4.4) 底径	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整	内:	浅黄橙 褐灰 褐灰		やや粗	~0.1cm大の砂	やや良	25%			3032 - 03
751	CH - 23 包含層	ロクロ土師器	(8.8)	2.2	(6.0) 底径 (4.4)	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整	内:	淡黄 淡黄	2.5Y8/4	やや密	~0.1cm大の砂	やや良	底部15%			3025 - 03
752	CH - 24 包含層 CH - 23	ロクロ土師器	(10.1)	2.3	底径 (6,0)	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整		校員 橙 にぶい橙	2.5YR7/6 7.5YR7/6	やや密	~0.1cm大の砂	やや不良	底部10%			3034 - 02
753	包含層 CH - 23	ロクロ土師器	(8.6)	2.2	底径 (4.8)	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整	内:	黄灰 淡黄	2.5Y6/1 2.5YB7/3	やや密	~0.1cm大の砂	やや良	15%			3032 - 04
754	包含層 CH - 23	ロクロ土師器皿	(9.4)	2.3	底径 (5.4)	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整	内外	灰白 灰白	2.5Y8/2 2.5Y8/2	やや密 粒含	~0.2cm大の砂	やや良	50%			3032 - 06
755	包含層 CG - 23	ロクロ土師器	(9.6)	2.7	底径 (5.4)	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整	内:	浅黄橙 にぶい黄橙	10YR8/3 10YR7/4	やや密 粒含	~0.1cm大の砂	やや良	30%			3030 - 01
756	包含層 CH - 23	ロクロ土師器 III	(10,0)	2.2	底径 (6.8)	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整	内:	灰黄 灰黄	2.5Y7/2 2.5Y7/2	やや密 粒含	~0.1cm大の砂	やや良	20%			3032 - 02
757	包含層 CG - 23	ロクロ土師器 皿	(9.2)	2.6	底径 (5.4)	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整	外:	灰黄 灰黄	2.5Y7/2	粒含	~0.1cm大の砂	やや良	底部50%			3028 - 04
758	包含層 CH - 23	ロクロ土師器 皿	(10.0)	2.1	底径 (6.0)	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整	外:	にぶい黄橙にぶい黄橙	10YR7/3	粒含	~0.1cm大の砂	やや良	10%			3031 - 06
759	包含層 CG - 23	ロクロ土師器皿	(10.0)	2.4	底径 (2.4)	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整	外:	灰黄 淡黄	2.5Y7/2 2.5Y8/3	やや粗 粒含	~0.2cm大の砂	やや良	底部完存			3027 - 06
760	包含層 CI - 25	ロクロ土師器皿	(9,8)	2.1	底径 (5.4)	内外面ロクロナデ 底部剥離	外:	褐灰 灰黄褐	10YR6/1	粒含	~0.1cm大の砂	やや良	15%			3025 - 05
761	包含層 CG - 23	ロクロ土師器皿	(8.9)	2.1	底径 (4.8)	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整	外:	黄灰 にぶい黄橙	10YR7/3	粒含	~0.1cm大の砂	やや良	50%	-		3028 - 02
762	包含層 CG - 23	ロクロ土師器 ロクロ土師器	(9.4)	2,5	底径 (5.0) 底径	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整	外	にぶい橙 にぶい橙	2.5YR7/6	粒含	~0.1cm大の砂 ~0.1cm大の砂	やや良	30%			3029 - 05
763	包含層 CH - 23 包含層	ロクロ土師器	(10.0)	2.5	低任 (4.8) 底径	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整	内:	型 授赤橙	5YR7/8	粒含	~0.1cm大の砂	不良	30%			3033 - 05
764	CH - 23 包含層	ロクロ土師器	(9.2)	2.1	(4.6)	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整	外:	淡赤橙 淡赤褐	2.5YR7/4	粒含や容	~0.1cm大の砂	やや良	30%			3034 - 01
765	CH - 23 包含層	ロクロ土師器	(9.4)	2.1	(6.4)	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整	外:	淡赤褐 灰白	7.5YR7/4 10YR8/2	粒含	~0.1cm大の砂	やや良	15%			3034 - 03 3034 - 04
766	CH - 24 包含層	ロクロ土師器	(10.8)	(2.2)	(7.2) 底径	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整 ウム面ロクロナデ 底部糸切未運整	外:	灰白 灰白	10YR8/2 2.5Y8/2	粒含 やや粗	~0.1cm大の砂	やや良	底部完存			3027 - 04
767	CG - 23 包含層	皿 ロクロ土師器	(8.9)	2.6	4.6 底径	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整 内外面ロクロナデ 底部糸切未調整	外:	にぶい黄橙 浅黄橙	10YR7/3 7.5YR8/4	粒含や容	~0.1cm大の砂	やや良	15%			3027 - 04
768 769	CH - 23 包含層	Ⅲ ロクロ土師器	(10,5)	(3.0)	(6.0)	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整	外:	浅黄橙 黄灰 褐灰	10YR8/3 2.5Y6/1	粒含や粗	~0.3cm大の砂	やや良	50%			3027 - 05
769	CG - 23 包含層	ロクロ土師器	(10.0)	(2.4)	(5.8) 底径 7.6	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整	内:	浅黄橙	7.5YR5/1 7.5YR8/6	粒含や密	~0.1cm大の砂	やや良	底部完存			3033 - 04
!	CH - 23 包含層	有台皿 ロクロ土師器		(2.4)	底径	内外面ロクロナデ 底部糸切末調整	内:	浅黄橙 灰白	10YR8/4 2.5YR7/1	松含	~0.1cm大の砂	やや良	底部完存			3031 - 04
771	CH 23	有台皿		(2.8)	(6.7)	1777国ロフロアア 欧部ボリ木調整	外:	灰	5Y6/1	粒含		1\14	/exuiP元ff	l		0001 - 04

表19 遺物(土器・陶器)観察表(13)

報告書番号	出土遺構	器種など	法 口径	量 (cm) 器高	その他	成形・調整技法の特徴	色	詞	胎	±	焼 成	残存度	備考	登録番号
772	包含層	ロクロ土師器		(3.1)	底径	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整	内:淡黄	2.5Y8/2		cm大の砂	不良	底部50%		1118 - 03
773	AX - 21 包含層	有台皿 ロクロ土師器	(15,8)	3.1	(6.2) 底径	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整	外:淡黄 内:浅黄	2.5Y8/2 10YR8/4	粒含 やや粗 ~0.3c	m大の砂	やや良	底部完存		3025 - 01
	CH - 23 包含層	椀 ロクロ土師器	(13.6)	3.8	5.6 底径	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整	外:浅黄 内:浅黄	2.5Y6/3	やや密 ~0.1c	m大の砂	やや良	20%		3027 - 01
774	CG - 24 包含層	- 椀 陶器			(6,4) 高台径		外:浅黄 内:灰白	2.5Y7/3 5Y7/1		m大の砂	やや良	底部完存	内外面自然釉付着	3075 - 03
775	CH - 23 包含層	山茶椀 陶器	(15.8)	(5.4)	(8.0) 高台径	付ナデ	外:灰白	5Y7/1 2.5Y7/1	粒含 やや粗 ~0.3c				四年回日然和17月	
776	CG - 23	山茶椀	(16,5)	5.5	(8.0)	付ナデ 籾殻痕	外:炭呂 内:灰白	2.5Y7/1	粒含	m大の砂	やや良	口線70%		3077 - 05
777	包含層 CG - 23	山茶椀	(17.0)	5.1	(8.0)	付ナデ 籾殻痕	外:灰白	2.5Y7/1	粒含		やや良	口縁50%		3075 - 04
778	包含層 CH - 24	陶器 山茶椀	(15.9)	4.9	高台径 (4.9)	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整 高台貼 付ナデ 籾殻痕	内:灰白外:灰白	2.5Y7/1			やや良	口練80%	内面自然釉付着	3077 - 04
779	包含層 CG - 23	陶器 山茶椀	(16.2)	5.0	高台径 (8.0)	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整 高台貼 付ナデ 籾殻痕	内:灰白 外:灰白		粒含	m大の砂	良	口縁70%	内面自然釉付着	3077 - 03
780	包含層 CI - 24	陶器 山茶椀	(15.0)	5.4	高台径 (8.0)	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整 高台貼 付ナデ 籾殻痕	内:灰白外:灰白	7.5Y7/1 7.5Y7/1	粒含		やや良	底部30%		3075 - 05
781	包含層 CG - 23	陶器 山茶椀	(17.4)	5.4	高台径 (8.2)	付ナデ 籾殻痕	外:灰白	7,5YR7/1 7,5YR7/1	やや密 ~0.1c 粒含	m大の砂	やや良	30%		3075 - 06
782	包含層 CD - 18	陶器 山茶椀	(17.0)	5.6	高台径 (8.0)	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整 高台貼 付ナデ	内:灰白 外:灰白	7.5Y7/1 7.5Y7/1	やや粗 ~0.1c 粒含	m大の砂	良	底部40%		3041 - 04
783	包含層 AH - 22	陶器 山茶椀		(5.7)	高台径 (8.5)	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整 高台貼 付ナデ		ープ灰 2.5GY7/1	密 ~0.1cm大	の砂粒含	やや良	口縁20%		1101 - 04
784	包含層 BB - 21	陶器 山茶椀	(15.6)	(5.1)	高台径 (76)	内外面ロクロナデ 高台貼付ナデ 籾殻痕	内:灰白 外:灰白	2.5Y7/1 2.5Y7/1	やや密 ~0.1c	m大の砂	良	口禄10%		1114 - 06
785	包含層 CI - 25	陶器 山茶椀	(15.2)	(5.1)	高台径 (9.0)	内外面ロクロナデ 底部糸切末調整 高台貼 付ナデ 籾殻痕	内:灰白外:灰白	2.5YR7/1 2.5YR7/1	やや粗 ~0.50	m大の砂	やや良	口縁10%		3076 - 05
786	包含層	陶器	(16,4)	(4.8)	高台径	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整 高台貼	内:灰白	2.5Y7/1	やや密 ~0.10	m大の砂	やや良	口縁25%		3075 - 01
787	CH - 23 包含層	山茶椀 陶器	(16,6)	(4.6)	(8.0) 高台径	付ナデ 籾殻痕 内外面ロクロナデ 底部糸切未調整 高台貼	内:灰白	2.5Y7/1 2.5Y7/1	やや粗 ~0.20	m大の砂	やや良	底部完存	内外面自然釉付着	3075 - 02
788	CH - 23 包含層	山茶椀 陶器	(15,6)	4.5	(7.5) 高台径	付ナデ 籾殻痕 内外面ロクロナデ 底部糸切未調整 高台貼		2.5Y7/1 2.5Y7/1	やや密 ~0.20	m大の砂	良	口線10%		3076 - 02
789	C1 - 23 包含層	山茶椀 陶器	(17.0)	(4,9)	(7.2) 高台径			2.5Y7/1 2.5Y7/1	粒含 やや粗 ~0.4c	m大の砂	やや良	□縁10%		3077 - 06
\vdash	CH - 23 包含層	山茶椀 陶器		-	6.4 高台径	付ナデ 籾殻痕	外:灰白 内:灰白	2.5Y7/1	粒含 密 ~0.1cm大0	の砂約今	良	口縁40%	内面自然釉付着	3040 - 01
790	CH - 23 包含層	小椀 陶器	(9.2)	2.8	(4.0) 高台径	内外面ロクロナデ 底部ナデ 高台貼付ナデ 内外面ロクロナデ 底部糸切後ナデ 高台貼	外:灰白 内:灰白	2.5Y7/1 7.5Y7/1	やや密 ~0.1c		良		 	3039 - 05
791	CH - 24 包含層	小機 陶器	(10,1)	3,3	5.4 高台径	付ナデ	外:灰白	7,5Y7/1 N8/	粒含 やや密 ~0.1c		-	底部完存	内外面自然釉付着	-
792	AY - 18 包含層	海報 小椀 陶器	(9.9)	(3.7)	(4.5) 高台径	内外面ロクロナデ 底部ナデ 高台貼付ナデ 内外面ロクロナデ 底部糸切後ナデ 高台貼	内:灰白 外:灰白 内:灰白	N8/ 2.5Y8/1	粒含		良	口縁10%	h=6#61/1*	1114 - 08
793	CG - 23	内施 内施	(10.2)	3.2	高台径	付ナデ 内外面ロクロナデ 底部糸切後ナデ 高台貼	外:灰白	2.5Y8/1 7.5Y7/1	粗 ~0.2cm大0 やや密 ~0.5c		やや良	高台50%	内面自然釉付着	3040 - 06
794	包含層 CH - 23	小椀	(10.4)	3.3	(5.0)	付ナデー 一	外:灰白	7.5Y7/1	粒含	III /C V 119	良	口縁45%	内面煤付着	3040 - 02
795	包含層 CG - 24	陶器 小椀	(9,6)	(2,7)	高台径 (5.0)	内外面ロクロナデ 高台貼付ナデ	内:明緑外:明緑	灰 10GY7/1	密 ~0.1cm大	の砂粒含	良	底部40%		3045 - 08
796	包含層 CH - 23	陶器 小椀	(9.6)	3.3	高台径 (5.4)	付ナデ	外:灰白	5Y7/1 5Y7/1	密 ~0.1cm大	の砂粒含	良	高台80%	内外面自然釉付着	3039 - 04
797	包含層 CG - 23	陶器 小椀	9.3	3.1	高台径 3.2	付ナデ	外:灰白	5Y8/1 5Y8/1	密 ~0.1cm大		良	口縁完存	内外面自然釉付着	3039 - 01
798	包含層 CH - 23	陶器 小椀	(9.4)	3.1	高台径 (5.0)	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整 高台貼 付ナデ	外:灰白	2.5Y7/1 2.5Y8/1	やや密 ~0.1c 粒含		良	底部完存	内外面自然釉付着	3039 - 03
799	包含層 C1 - 25	陶器 小椀	(10.4)	3,1	高台径 (5.2)	内外面ロクロナデ 底部糸切後ナデ 高台貼 付ナデ 籾殻痕	内:灰白 外:灰白	2,5Y7/1 2,5Y7/1	やや密 ~0.1c 粒含	m大の砂	良	口縁25%	内面自然釉付着	3040 - 04
800	包含層 AT - 22	陶器 小椀	(10,2)	(3.3)	高台径 (4.7)	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整 高台貼 付ナデ	外: 灰白	N7/ N7/	密 ~0.1cm大	の砂粒含	良	口縁25%		1114 - 01
801	包含層 CP - 24	陶器 小椀	(10.2)	3.2	高台径 (10.2)	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整 高台貼 付ナデ	外:灰白	5Y7/1 5Y7/1	密 ~0.1cm大	の砂粒含	良	高台45%	内面自然釉付着	3039 - 08
802	包含層 CH - 23	陶器 小椀	(10.0)	3.4	高台径 (4.9)	内外面ロクロナデ 底部ナデ 高台貼付ナデ	内:明緑 外:明緑	灰 5G7/1 灰 5G7/1	やや密 ~0.1c 粒含	m大の砂	良	25%		3044 - 01
803	包含層 CH - 23	陶器 小椀	(10.2)	(3.0)	高台径 (5.0)	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整 高台貼 付ナデ	内:灰白 外:灰白	5GY8/1 5GY8/1	やや密 ~0.1c 粒含	m大の砂	良	底部90%		3043 - 07
804	包含層 AY - 18	陶器 小椀	(9.0)	(2.6)	高台径 (4.3)	内外面ロクロナデ 底部糸切後ナデ 高台貼 付ナデ	内:灰白 外:灰白	N7/ N7/	やや密 ~0.2c 粒微量含	m大の砂	良	口縁10%		1114 - 07
805	包含屬 AU - 19	陶器 小椀	(9.4)	(2.1)	高台径	内外面ロクロナデ 高台貼付ナデ	内:灰白			m大の砂	やや良	口繰15%	底部自然釉付着	1114 - 02
806	包含層 DB - 24	陶器 小椀	(9.4)	2.9	高台径 (62)	内外面ロクロナデ 底部糸切後ナデ 高台貼 付ナデ	- 1	灰 7.5GY8/1		m大の砂	良	口縁30%		3042 - 01
807	包含層	陶器 小椀	(9.8)	3.8	高台径	1000	2 1 1 23/100	灰 7.5GY8/1		m大の砂	良	底部55%		3042 - 06
808	CO - 19 包含層	陶器	(9.8)	2,9	(4.8) 高台径	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整 高台貼	内:明オリ	ープ灰 5GY7/1	密 ~0.1cm大	の砂粒含	良	口縁30%		3041 - 07
809	DE - 20 包含層 CF - 19	小椀 陶器 小椀	(8.9)	2.7	高台径	付ナデ 内外面ロクロナデ 高台貼付ナデ 重焼痕	外:明オリ 内:明緑	№ 7.5GY7/1	やや密 ~0.10		良	底部30%	内面自然釉付着	3041 - 05
810	CF - 19 包含層 CH - 23	小機 陶器 小機	(8.6)	2.8	(5,0) 高台径	内外面ロクロナデ 底部糸切後ナデ 高台貼	外:明緑 内:灰 外:灰	5Y6/1	やや密 ~0.10	m大の砂	やや不良	口縁40%	口縁自然釉付着	3040 - 05
811	包含層	陶器	(9.0)	2.7	(2.8) 高台径		内:灰	5Y6/1 5Y6/1	やや密 ~0.10	m大の砂	やや良	底部完存	内外面自然釉付着	
812	CG - 24 包含層	小椀 陶器	(11.0)	3,6	4.6 高台径	付ナデ 内外面ロクロナデ 底部糸切未調整 高台貼	外:灰白 内:灰白	5Y7/1 5Y7/1	やや粗 ~0.10	m大の砂	やや良	底部75%	内外面自然釉付着	-
	CG - 25 包含層	小椀 陶器 小椀	-	-	(4.6) 高台径	付ナデ	外:灰白	5Y7/1 灰 10GY8/1	やや密 ~0.30	m大の砂	りんべび	50%	内外面自然釉付着	-
813	CG - 23 包含層	陶器	(9.8)	2.9	(5.2) 高台径	7979回口7口77 底即不切不調室 重观报	外:明緑内:灰白	灰 10GY8/1 2,5Y7/1	粒含 やや粗 ~0.5c		良良	底部完存	F 27 F世日 日 8条件目り 石	3039 - 07
814	CI - 23 包含層	小椀	(9.2)	3.0	(3.9)	付ナデ	好:炭 内:灰白	5Y6/1	粒含 やや粗 ~0.50		-			
815	CI - 23 包含層	小椀	(8.0)	2.5	3.3 底径	Pine D D D D D D D D D D D D D D D D D D D	好:灰 内:灰白	5Y6/1	粒含 やや密 ~0.1a		良	底部完存		3039 - 06
816	CI - 25	小皿	(8.2)	2.6	3.0	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整	外:灰旨 内:明緑	5Y7/1	粒含 やや密 ~0.1c		やや良	底部完存		3040 - 07
817	包含層 CG - 23	陶器 小皿	(9.2)	2.4	底径 (3.6)	内外面ロクロナデ 底部糸切未調整	外:明緑	灰 10GY7/1	粒含		良	口縁25%		3043 - 05
818	包含層 CH - 23	陶器 小皿	(8.4)	2.1	底径 4.0	内外面ロクロナデ	内:灰白外:灰白	5Y7/1	やや密 ~0.10		やや良	底部完存		3040 - 08
819	包含層 AY - 23	陶器	(8.6)	(1.7)		内外面ロクロナデ 底部糸切未調整	内:灰白外:灰白	7,5Y7/1	やや密 ~0.2c 粒含	m人の砂	良	口縁25%	内外面自然釉付着	-
820	表採	陶器 小皿	(8.0)	(1.5)		内外面ロクロナデ 底部糸切未調整	内:灰白外:灰白	7.5Y7/1 7.5Y7/1	密 ~0.1cm大		やや不良	口縁65%		1114 - 03
821	包含層 AK - 20	陶器 小皿	(7.4)	(1,5)		内外面ロクロナデ 底部糸切未調整	内:灰外:灰	7.5Y6/1	粗 ~0.1cm大 含	の砂粒多	やや良	口縁10%		1114 - 04
822	包含層 CH - 23	白磁 椀		(2.1)		内外面施釉	内:灰白 外:灰白	7.5Y8/1 7.5Y8/1	密 ~0.1cm大		良	小片	玉縁状口縁	3079 - 02
823	包含層 CH - 23	白磁梅		(3.5)		内外面施釉	内:灰白 外:灰白	7.5Y8/1 7.5Y8/1	やや密 ~0.2c 粒含	m大の砂	良	小片	玉縁状口縁	3079 - 04
824	包含層 DB - 21	白磁 椀		(4.2)		内外面施釉	内:灰白 外:灰白	N8/ N8/	密 ~0.1cm大	の砂粒含	良	小片		3079 - 03
825	包含層 CL - 20	白磁		(2.6)		内外面施釉	内:灰白外:灰白	N8/ N8/	密 ~0.1cm大	の砂粒含	良	小片	口禿	3079 - 05
826	包含層 CR - 21	户磁 検		(3.1)		内外面施釉	内:灰白外:灰白	2.5GY8/1 2.5GY8/1	密 ~0.1cm大	の砂粒含	良	小片		3079 - 07
827	包含層 DN - 23	白磁	(12.0)	(2.0)		内外面施釉	内:灰白外:灰白	7.5Y7/1 7.5Y7/1	密 ~0.1cm大	の砂粒含	良	小片		3079 - 06
828	包含層	白磁		(3.1)		内外面施釉	内:灰白	10Y8/1	密 ~0.1cm大	の砂粒含	良	小片	花文	3079 - 08
829	CE - 24 包含層		<u> </u>	(1,6)		内外面施釉	外:灰白	10Y8/1 5Y8/1	密 ~0.1cm大		良	小片		3079 - 01
323	DK - 22	椀		1.2.07			外:灰白	5Y8/1		1-1	L			

表20 遺物(土器・陶器)観察表(14)

報告書番号	出土遺構	器種など	法	量(cm)	成形・調整技法の特徴	色	調		胎	±	焼	成	残存度	備	考	登録番号
番号	1117777	100 (AE & C)	口径	器高	その他	ルスガン 同り並引入(スペン) (1) (X)			<i>M</i> 11 -	_	7/6	MA.	741172	cus		37.94 H 7
830	包含層 CM - 23	白磁皿		(1,3)	高台径 (3.8)	内外面ロクロナデ後施釉 高台ケズリダシ	内:灰白 外:灰白	5Y8/1 5Y8/1	密 ~(0.1cm大の	砂粒含	良		小片			3079 - 09
831	包含層 CO - 22	青磁 椀		(2.9)		内外面施釉	内:灰 外:灰	N7/ N7/	密 ~(0.1cm大の	砂粒含	良		小片			3080 - 04
832	包含層 CJ - 20	背磁 椀		(3.9)		内外面施釉	内:灰白 外:灰白	7.5GY6/1 7.5GY6/1	密 ~(0.1cm大の	砂粒含	良		小片	連弁文		3080 - 02
833	包含層 CO - 24	青磁 椀	(15,8)	(3.1)		内外面施釉	内:灰白 外:灰白	5Y7/1 5Y7/1	密 ~(0.1cm大の	砂粒含	身		口縁10%			3080 - 01
834	包含層 DM - 21	青磁 椀		(3,0)		内外面施釉 高台內面露胎	内:灰 外:灰	N7/ N7/	密 ~(0.1cm大の	砂粒含	良		小片			3080 - 03
835	包含層 CO - 21	陶器 天目茶椀	(12.0)	(6.1)		内外面施釉 外面下部ケズリ	内:灰白 外:灰白	2.5Y7/1 2.5Y7/1	やや密 粒含	₹ ~0.2cm	n大の砂	良		口縁10%			3080 - 06
836	包含層 CT - 22	陶器 瀬戸	(13.1)	(3.0)	高台径 (7.4)	内外面施釉 外面下部ケズリ 底部ケズリ 高台貼付	内:灰白 外:灰白	5Y7/1 5Y7/1	密 ~(0.1cm大の	砂粒含	良		底部30%			3080 - 05

表21 遺物(土器・陶器)観察表(15)

報告書 番号	出土遺構	器種など	法 量 (cm)	色	調	胎 土	焼成	残存度	備	考	登録番号
260	SD5 II層	土製品 土錘	(長) 5.5cm (孔径) 0.4cm (幅) 2.5cm	浅黄橙		やや密 ~0.3cm大の砂 粒含		30%			1122 - 04
261	SD5 II層	土製品 土錘	(長) 7.1cm (孔径) 0.7cm (幅) 2.4cm	橙		やや密 ~0.1cm大の砂 粒含		ほぼ完存			1122 - 01
295	SD5 Ⅲ層	土製品 土錘	(長) 5.1cm (孔径) 0.4cm (幅) 2.3cm	浅黄橙		やや密 ~0.1cm大の砂 粒含		ほぼ完存			1122 - 03
372	SD5 IV層	土製品 土錘	(長) 7.5cm (孔径) 0.6cm (幅) 3.9cm	橙	2.5YR6/6	やや粗 ~0.5cm大の砂 粒含	やや不良	ほぼ完存			1122 - 02
576	S K74	土製品 土鍾	(長) 6.0cm (孔径) 0.6cm (幅) 2.0cm	橙		密 ~0.1cm大の砂粒含		ほぼ完存			3038 - 05
577	S K74	土製品 土錘	(長) 2.9cm (孔径) 0.6cm (幅) 1.8cm	橙		やや密 ~0.3cm大の砂 粒含		ほぼ完存			3038 - 04
578	S K74	土製品 土錘	(長) 6.3cm (孔径) 0.7cm (幅) 1.9cm	にぶい黄		やや密 ~0.2cm大の砂 粒含		ほぼ完存			3038 - 03
262	SD5 11層	製塩土器 脚部	(長) 4.0cm (脚径) 2.0cm	明赤褐	2.5YR5/6	やや密 ~0.3cm大の砂 粒含	やや不良	脚部のみ			1100 - 02
263	SD5 II層	製塩土器 脚部	(長) 5.2cm (脚径) 2.1cm	橙	7.5YR7/6	やや密 ~0.1cm 大の砂 粒含	不良	脚部のみ			1100 - 04

表22 遺物(土製品)観察表

報告書 番号	出土遺構	器種など	法 量 (cm)	残存度	備考	登録番号
414	SD5 V層	石製品 砥石	(長) 11.7cm (幅)2.8cm (厚) 1.4cm	ほぼ完形		1123 - 01
837	S H 23 埋土	石製品 石斧	(長) 8.2cm (幅) 4.8cm (厚) 2.2cm	ほぼ完形		4009 - 04
838	S H 76	石製品 石鏃	(長) 2.5cm (幅) 1.4cm (厚) 0.4cm	80%	サヌカイト 凹基無茎	3087 - 01
839	S H76	石製品 石鏃	(長) 1.9cm (幅) 1.8cm (厚) 0.2cm	ほぼ完形	サヌカイト 門基無茎 早期以前の可能性あり	3087 - 02

表23 遺物(石製品)観察表

報告書 番号	出土遺構	器種など	法 最 (cm)	残存度	備	考	登録番号
439	S D10	銀製品銀環	(径) 3.4cm (孔径) 1.7cm (厚) 0.9cm	完形			1023 - 06
188	SD5 I層	鉄製品 鉄鏃	(長) 6.4cm (幅) 3.8cm	ほぼ完形			1124 - 03
189	SD5 I層	鉄製品 鉄鏃	(長) 2.6cm (幅) 2.1cm (厚) 0.7cm	70%			1124 - 01
190	SD5 I層	鉄製品 鉄鎌	(長) 9.8em (幅) 1.9em	60%			1125 - 01
296	SD5 山層	鉄製品 鉄鏃	(長) 2.4em (幅) 2.4em	80%			1124 - 02
840	M - 19 Pit 4	鉄製品 紡錘車	(長) 12.3cm(幅) 5.2cm	80%			4054 - 01
841	検出面 L2C	鉄製品 刀子	(長) 4.6cm (幅) 0.4cm	小片			4053 - 01
842	検出面 DL - 24	鉄製品 鉄鎌	(長) 16,0cm (幅) 2.8cm	80%			4053 - 02

表24 遺物(金属製品)観察表

報告書番号	出土遺構	器種など	法 量 (cm)	色	調	残存度	備	考	登録番号
457	S K 42	ガラス製品 小玉	(推定径) 0.95cm (幅) 0.6cm (厚) 0.35cm	暗緑灰	10G4/1	45%			4042 - 01

表25 遺物(ガラス製品)観察表

M. 結 語

1. 地形の形成

上惣作遺跡は、鎌田川と合流して大きく西へ蛇行する員弁川に取り囲まれるように形成された下位段丘上に立地する。ここでは、この段丘の形成過程について見てみたい。

鎌田川は、養老山脈に源を発する田切川と貝野川 が合流してできたものである。流速が速く、流量も 大きい貝野川は東方から流れ込み、田切川と合流す る。田切川は、貝野川と合流することで、西方へ押 しだされ、合流点の西側が浸食されることになる。 一方、合流した貝野川の流速は衰え、合流点の南側 に土砂が堆積される。堆積した土砂は自然堤防の役 割を果たし、貝野川の流れと浸食される部分が徐々 に北へ移動することになる。この浸食と堆積を繰り 返すことで、しだいに田切川の流路が西の方向へ向 かうようになったと考えられる。こうして現在の鎌 田川の流れが形成され、西側を流れる員弁川との合 流地点でも、同様の浸食と堆積を繰り返し、員弁川 も西へ流れを変えることになる。しかし、員弁川の 西側には鈴鹿山脈が控えており、結果として、堆積 によって形成された自然堤防を迂回する形で現在の ような流れができたと考えられる。こうして形成さ れた自然堤防が上惣作遺跡の立地する段丘に相当す る。

2. 縄文時代

この時代の遺構は検出されなかったが、当該時期 の遺物が4点出土した。

そのうち早期後半の深鉢(第108図 579)は、東海地方の「八ツ崎 I 式」に相当する。「八ツ崎 I 式」 土器は、上惣作遺跡の周辺では大安町に所在する照 光寺遺跡で採集されている他、県内では度会町上ノ 垣外遺跡、亀山市北瀬古遺跡、安濃町西相野遺跡、 津市東浦遺跡、飯南町奈可切遺跡などで出土例が知 られている。

底部に網代痕の残る土器(第108図 580)は、中期末から後期前半に比定できる。当該時期の遺跡としては、上惣作遺跡の北西約500mの地点に川向遺

跡があり、やはり中期末から後期前半の竪穴住居や埋設土器、集石遺構などが確認されている。その他、東員町村前遺跡でも中期末の竪穴住居が検出されており[®]、これらの遺跡との関わりを考慮に入れて検討することができよう。

2. 古墳時代

C地区で古墳時代前期の竪穴住居SH76が検出された。竪穴住居に伴って出土した土器は、元屋敷段階に相当する。当該時期の遺構・遺物の調査は、員弁郡内では初の事例となった。

上惣作遺跡より時期が遡るものの古墳時代の遺跡としては北勢町川向遺跡で、遺構を伴わないものの初期の遺物が一定量出土している。その他、古墳時代と考えられる遺物は各地で採集されている。。

員弁郡内では、員弁川の支流毎に古墳群が形成されており、それらを造営した集団の生活の跡は当然存在するはずである。今後、こうした古墳群の分布状況とも関連して集落遺跡の実態について検討していくことも必要である。

3. 飛鳥・奈良時代

(1)遺構

a. 竪穴住居

飛鳥・奈良時代の竪穴住居は、26棟が確認された。 立地条件から見ると、最も標高の高いB・D地区に 集中する。また、D地区の竪穴住居は、同一場所で 1~2辺の壁を共有する例と、重複することなく近 接した位置へ建替える例が認められるが、その他の 地区では単独で存在するものが多く、地区ごとで住 居造営の連続性に違いが認められる。

まず、規模について見てみる。住居の規模は、全体を確認できたものと、全体は確認できなかったものの面積を推測することできた22棟を分別すると、 $46 \,\mathrm{m}^2 e$ 超える特大住居 $1 \,\mathrm{t} k$ 、 $34 \,\mathrm{c} 39 \,\mathrm{m}^2 e$ の大型住居 $5 \,\mathrm{t} k$ 、 $26 \,\mathrm{c} 33 \,\mathrm{m}^2 e$ の中型住居 $6 \,\mathrm{t} k$ 、 $21 \,\mathrm{c} 26 \,\mathrm{m}^2 e$ の小型住居 $6 \,\mathrm{t} k$ 、 $20 \,\mathrm{m}^2 \mathrm{U} \mathrm{F} 4 \,\mathrm{t} k$ $20 \,\mathrm{c} 8 \,\mathrm{c} 8$ 。

最大規模を誇るSH12は、他の住居との較差が大

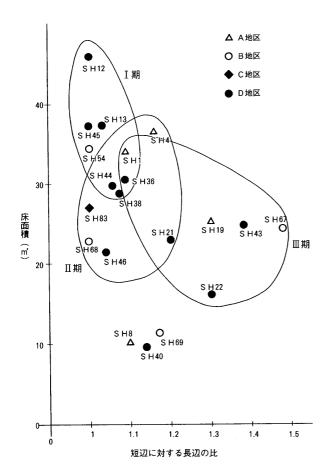
きく、また、最も高い位置に立地している点からも 上惣作遺跡における中心的存在であったことを窺わ せる。

平面形態では、正方形あるいはそれに近いものと、 長方形をなすものとがある。短辺と長辺との比は、 1:1が5棟、 $1:1\sim1.1$ が4棟、1:1.1以上が 13棟となり、比が大きいものが多数を占める。

棟方向は、北に対する東西への振れで見た場合、その角度が10°以下のほぼ南北軸の沿うもの、10~20°の範囲のもの、30~45°の角度をもって、住居の四隅を正方位に近い方向に向けるものに分けられる。40°前後のものは、計測誤差等を考慮した場合、同一方向のまとまりとして考えることもできよう。

また、遺跡の立地する土地は斜度があまりなく、 住居の造営に際して地形的な制約を受けたとは考え にくい。

次に、住居の内部施設について見ていく。 竈痕跡 は焼土のみ、あるいは崩壊した状態でほとんどの住居で検出されている。 竈の付設された位置は、北壁



第118図 竪穴住居時期別の規模と辺の比

が8棟、東壁が10棟で、ほとんどの場合が辺の中央に付設されている。また、建替えが行われた住居の場合、建替え前と建替え後との竈を付設する位置は、SH68からSH67への建替えに伴い、東壁から北壁に変わるのを例外として、そのまま踏襲される。

竈の構造の点で見ると、SH12、SH5、SH83、SF6は竈の袖に補強として芯材として1から2個の石を用いている。用いられた石は遺跡内に散在する角のとれた砂岩である。竈の補強材として石を用いる例は、近隣の北勢町権現坂遺跡の奈良・平安時代と考えられる竪穴住居21でも確認されている。

また、SH46は1棟のみ住居外へ延びる煙道が確認されている。

周溝は、ほとんどの住居で確認されていない。確認されたのは、SH39とSH83のみである。 2 棟の周溝は全ての壁に掘削されるが、全周せず途中で途切れている。竈との関係を言えば、竈は周溝を掘削した後に付設されたことが確認されている。

ほとんどの住居で周溝が確認されなかった理由として、周溝を排水施設とした場合、遺跡の立地する場所が浸透性の高い砂礫層であるため、周溝を必要としなかったことが考えられる。

主柱穴は、ほぼ半数の住居で確認されたが、4基とも検出されたのは全体の1/3にあたる9棟にすぎない。また、2基のみ検出された住居は4棟ある。主柱穴は、平面形態が正方形に近いほど検出率が高い傾向が認められる。

貯蔵穴が検出された住居は5棟ある。貯蔵穴の配置される位置は、竈の対面1、竈の右脇3、竈の左脇1で、竈の右脇に配置される場合が最も多い。

次に、竪穴住居の時期について検討してみたい。 遺構の時期は、遺構相互の重複関係、棟方向、出土 遺物などから判断される。まず、重複関係では、同 一場所での建替えと考えられる住居があり、ここか ら少なくとも2時期を推定することができる。この 場合、重複する住居は古い方が面積が大きく、検出 面からの深さが浅くなる。そして、床面積は、建替 えに伴い縮小傾向を示している。

遺構から出土した土器を見ると、7世紀中葉、7世紀後葉、7世紀末~8世紀初の3時期のものがある。

これらのことを総合して考えると、竪穴住居の時期および変遷は、以下のように3時期に区分されると考えられる。

I期(7世紀中葉)

SH12、SH38、SH43、SH45、SH54、S H66がある。

平面形態は、ほぼ正方形をなす。床面積は、28.1~46.2㎡で、平均では34㎡を超える。住居の棟方向は、SH66以外は北に対して、40°程度東あるいは西に傾ける。これは計測誤差を考慮すると、約90°の違いなので同一方向としてみることもできる。竈は、北側住居隅の東西どちらかの壁に付設されるが、いずれにしても住居の北寄りに配置される。主柱穴は、半数の住居で4基とも確認されている。貯蔵穴の配置される位置は、竈の右脇が2例、竈の対面が1例である。

Ⅱ期(7世紀後葉)

SH4、SH9、SH13、SH21、SH39、SH 44、SH46、SH68、SH83がある。

平面形態は、I期に比べ長方形化する。SH9は著しく長方形をなすが、短辺と長辺の比は、およそ1:1.1程度になる。床面積は、22.8~36.4㎡で、平均では約29㎡となりI期に比べ縮小する。棟方向は、統一性が見られない。竈は、東壁に付設される住居が2棟あるが、北壁に付設される例が多い。主柱穴が4基とも確認されたのは、約1/3に減少する。貯蔵穴は竈の左右に配置されるものが、それぞれ1基ずつある。周溝は、SH39とSH83で確認されており、周溝が確認されたのはこの時期に限定される。

Ⅲ期(7世紀末~8世紀初)

SH1、SH19、SH22、SH36、(SH40)、SH67がある。

平面形態は、長方形化がさらに進み、短辺と長辺との比は1:1.1以上になり、しかもばらつきが見られる。床面積も15.8~34.1㎡とさらに縮小し、平均で26㎡程度になる。棟方向は、若干のばらつきはあるが、およそ北に対して東へ10~20°の範囲にまとまりを見せる。竈は、住居の北壁に付設されるよ

うになる。主柱穴が確認された住居はわずかに 2 棟である。貯蔵穴は、住居の北東隅に配置される。

主柱穴や貯蔵穴は、時期が新しくなるにつれて、 検出される率が低くなっており、平面形態や規模、 住居の構造等の変化と関連付けて検討できるのかも しれない。

I期		Ⅱ期		Ⅲ期
				S H 1
		S H 4		
		S H 9		
S H12	\rightarrow	S H13	\rightarrow	S H 19
		S H21	\rightarrow	S H 22
				S H 36
S H 38	\rightarrow	S H 39	\rightarrow	(SH40)
S H43	\rightarrow	S H 44		
S H 45	\rightarrow	S H46		
S H 54				
S H 66	>	S H 68	\rightarrow	S H 67
		S H83		

b. 掘立柱建物

この時期と考えられる掘立柱建物は、41棟が検出された。分布の状況を見ると、竪穴住居と同様にB・ D地区に集中しており、A地区では1棟も検出されていない。

規模の判明した建物は、1 間×1 間、2 間×2 ~ 3 間の総柱建物と、2 間×2 ~ 5 間、3 間×4 ~ 6 間の側柱建物があり、特に、2 間×2 間の建物の占める割合が高い。これらの建物は、棟方向ごとに一定のまとまりを見てとることはできるが、官衙的な規則性に従って配置された様子を窺うことはできない。

まず、住居と考えられる梁行3間の側柱建物は7棟ある。これらの建物は、竪穴住居と重複するか、あるいは近接した位置に建っており、竪穴住居から掘立柱建物へ住居形態を移行して建替えられたものと想定される。また、これらの掘立柱建物相互の重複はないことから、掘立柱建物柱に移行してからの

建替えは行われなかった可能性が指摘できる。

竪穴住居から掘立柱建物への移行関係は、以下の ように考えられる。

竪穴住居		掘立柱建物
S H13	\rightarrow	S B14
S H39(40)	\rightarrow	S B 41
S H 44	\rightarrow	S B 51
S H 46	\rightarrow	S B 47
S H 54	\rightarrow	S B 51
S H 68	\rightarrow	S B 63
S H83	\rightarrow	S B 81

建物面積は、桁行がのびるにつれて大きくなる。 桁行 3 間では約25㎡、4 間で27㎡弱、5 間以上では 60㎡前後になり、4 間以下と5 間以上との較差が非 常に大きいことがわかる。5 間以上の規模を誇る建 物はSB14とSB41があり、竪穴住居 SH12がそう であるように上惣作遺跡の中心的な存在として考え られる。

建物の構造を見ると、柱通りは決してよくなく、 隅柱と隅柱を結んだラインより建物の外側へ張り出 す柱穴が多い。柱間寸法も等間であることは少ない。 すべて異なることは少ないが、中央あるいは端が広 くなったり狭くなったりする例が多い。

棟方向を見ると、地区毎に異なったまとまりが認められる。B地区では、北に対して50°前後西に、C地区では北に対して15°程度西に、D地区では、北に対して10°程度東に振る建物が多い。

次に、掘立柱建物の時期について検討してみたい。 先に述べた竪穴住居の時期を基にすると、SB14は、 Ⅲ期としたSH19の竈を破壊していることからⅣ期 以降になる。SB35、SB41も同様にSH36、SH 40との関係からⅣ期以降と考えられる。SB51は、 SH44との関係が考えられるが、SH44との関係か らⅢ期以降と考えられる。SB53は、I期のSH54 と重複するのでⅢ期以降となるが、限られた調査の 範囲で、調査区外に場所を替えて建替えた可能性を 考慮する必要があるため、そのままⅢ期の建物とす る無理がある。 S B 81は、S H 83を期としたので II 期以降に位置 づけられる。

次に、高床式の倉庫と考えられる総柱建物のうち、2間×2間の建物は12棟あり、建物全体の約1/3を占める。その分布状況を見ると、竪穴住居の多い D地区にはわずかに2棟しか確認されていない。

建物面積は、全体では $8 \sim 9 \, \text{m}^2 \, \text{L} \, 11 \sim 15 \, \text{m}^2 \, \text{L} \, \text{で } 二$ 別される。さらに地区別に平均値を求める $\text{L} \, \text{L} \,$

平面形態は、正方形あるいはそれに近いものと、 長方形をなすものがある。

柱間寸法は、同規模の居住用建物と比べて、狭くなる。尺度の基準は、明確には見いだせないが、1尺を30.0cm前後とすると、およそ $5\sim7$ 尺で柱割りが行われている。

竪穴住居との重複関係を見ると、正方形プランをもつ建物は、竪穴住居との重複が認められる。一方、長方形プランをもつ建物は、竪穴住居と一定の間隔をもって、棟方向をほぼ揃えて配置される。このことから、長方形プランをもつ建物は竪穴住居に、正方形プランをもつ建物は掘立柱建物に伴う倉である可能性が指摘できる。

この他、梁行2間の側柱建物も存在する。これらの建物は、桁行が2間~5間までのものがあり、同一場所での建替えが認められる建物もある。前述の建物に比べ柱穴が小さく、建替えが行われている状

規模 面積	2×1	2×2	2×2 (総柱)	2×3	2×3	2×4	2×5	3×3	3×4	3×5	3×6	小計
~10	2	2	7									11
~15		4	3	2	1							10
~20			1	2	1	2						6
~25						2		1		!		3
~30							1	1	3			5
~35												0
~40												0
~45												0
~50												0
~55												0
~60										1		1
~65											1	1
小計	2	6	11	4	2	4	1	2	3	1	1	

表26 掘立柱建物規模別一覧

況から見て、構造的に簡素なものであったことが想像されることから、主屋である梁行き3間の建物に付属する副屋、もしくは平地式の倉庫ような性格を持った建物であったと考えられる。

これらの倉庫と居住用建物および副屋との組み合わせは、両者の位置関係と棟方向などから以下のように考えられる。

副屋

上占(土)	e/	启庠		即庄	<u> </u>
S H 45 · 46		S B 58	• 60		
S H 54	—	S B 50	(57)		
S H 66		S B 64			
S H 67		S B 62			
S H 68		S B 65			
S H83	—	S B 5			
S B 14		S B 24		S B 15	(16 · 17)
S B 41	—	S B 25		S B 27	(28 · 29)
S B 47		S B 59			
S B 53		S B 52			
S B 63		S B 55	(56)		

総柱の高床式倉庫は、各住居に $1 \sim 2$ 棟が伴い、 副屋は、大型掘立柱建物 S B 14 と S B 41 のみに伴う と考えられる。

— SB77 (78)

c. 溝

S B 81

住民(主展)

A地区で検出された3条の溝は、遺跡の北辺を区切るように調査区を横断する。埋土からは多量の土器を中心とする遺物を包含する。

最も北に位置するSD5は、大きく5層に分けられるが、Ⅱ~Ⅳ層については出土遺物に大きな時期 差が認められないことから、攪拌されていることが 考えられる。

溝の性格については、SD5は、溝幅が一定で溝底に起伏がなく平坦なことから人工的な溝とも考えられる。逆にSD10は溝底の起伏が激しく、自然流路であった可能性がある。出土遺物からは、溝の埋没時期が集落の廃絶の時期と一致することが確認されている。また、溝の北側で掘立柱建物が確認されていないことなどからして、区画溝的な性格を有し

ていたとも考えられる。

これらの溝の存続時期は、遺物からは集落の営まれた時期と一致するが、SH4などのように、溝と近接している状況から、同時存在に疑問も生じる点もある。

d. その他

上惣作遺跡からは井戸が1基も確認されていない。 比較的容易に水を確保しやすい環境にあったのかも しれないが、集落が砂礫層の上に形成されたという 立地条件から、井戸の掘削が困難であったことが想 像される。後述するように、出土遺物の中で、甕や 壷、瓶類といった貯蔵具の占める割合が高いのもそ うしたことを裏付けているのではないだろうか。

この他に、土坑の数が少ないことも特徴として挙 げられる。

e. 小結

上惣作遺跡の遺構の変遷についてまとめてみたい。 上惣作遺跡は、7世紀の中葉に成立したと考えられる。この時期(I期)には、6棟の住居の存在を想定した。高床式の倉庫を伴う竪穴住居が地形の最も高いB、D地区に建てられる。これらの住居は、平面形が正方形に近く、概ね棟方向を揃えている。これに伴う倉庫は、2間×2間あるいは2間×3間で平面長方形をなす。

Ⅱ期、Ⅲ期の時期には、A地区、C地区への遺構の広がりが認められる。Ⅱ期には9棟、Ⅲ期には10棟の住居が存在したと考えられる。竪穴住居は規模が縮小され、平面形態は長方形化する。これらの住居に伴う高床の倉庫は2間×2間の総柱建物を主体とし、平面形態は正方形に近くなる。また、Ⅲ期になると住居形態に変化が現れ、一部の住居には竪穴住居に変わって、掘立柱建物が採用される。

Ⅳ期になると大型掘立柱建物を中心に、掘立柱建物のみで構成される。居住用と考えられる掘立柱建物は4棟存在し、これに高床倉庫と、平地式の倉庫と考えられる建物が伴う。

この時期には、Ⅱ期、Ⅲ期の時期に広がりを見せたA地区、C地区に遺構は見られなくなり、再びB地区、D地区に限定される。

上惣作遺跡における掘立柱建物の採用は、7世紀 中葉の集落の成立段階にすでに、竪穴住居に伴う小 規模の倉庫としてその存在が確認される。居住用としても7世紀後半代には一部の住居で採用されていた可能性を指摘した。員弁郡内における飛鳥時代の集落遺跡の実態はほとんど知られていない状態にあるが、伊勢地方における竪穴住居から掘立柱建物への遺構時期が一部の地域を除いて、ほぼ8世紀中葉頃とされることから、7世紀後半段階で小規模ながらも掘立柱建物を採用している点から考えても、上惣作遺跡が先進的な性格を有していたことが想像される。

今後は、伊勢北部地域における当該時期の集落遺跡も併せて検討を進めていく必要があろう。

(2)遺物

a. 須恵器

出土した遺物の大半は、須恵器が占める。器種は 杯、高杯、腿、瓶類、壺類、甕、などがあるが、瓶 類や壺類、甕といった貯蔵具の多さが目につく。

出土した須恵器は、猿投編年のⅢ期新段階からⅣ 期中段階に、また陶邑窯の田辺編年ではTK217からMT21型式に相当すると考えられる。産地は、地 元産と考えられるものを中心に、猿投産のものが含まれる。また、一部には美濃の製品も認められる。

員弁川流域の在地の須恵器窯としては、員弁町の岡古窯址、同町暮明古窯、同町奴女里溜古窯址、桑名市七和古窯址などが知られている。しかし、奴女里溜古窯址や七和古窯は8世紀大以降の操業であり、岡、暮明古窯については詳細がほとんど知られていない状況にある。こうした状況は集落跡と同様に、7世紀代の須恵器生産・供給体制の解明も今後の課題となる。

この他、墨書土器などはないものの、使用痕の認められる円面硯が出土しており、識字層の存在を窺うことができる。

b. 土師器甕

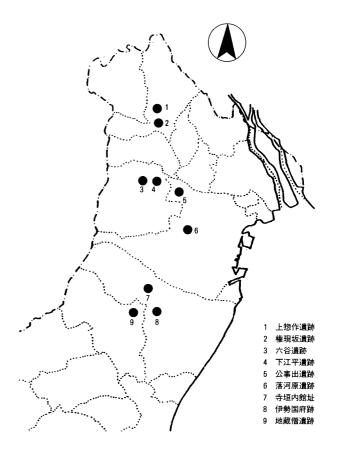
上惣作遺跡からは、口縁部が外反し、体部内面に 横方向のハケメを施す、西口氏が「北勢型」と位置 づけた甕が出土している。(第92図 51)

北勢地域における土師器甕については、体部下半をヘラケズリ調整する甕の占める割合が高いことが 言われている。しかしながら、上惣作遺跡の土師器 甕の主体となるのは、体部を復元できた個体の中で は、外反する口縁部の端部をつまみ上げ、体部内面 下半をヘラケズリ調整する「南勢型」甕や、ヘラケ ズリを用いず、内外面ともハケメ調整する甕である。

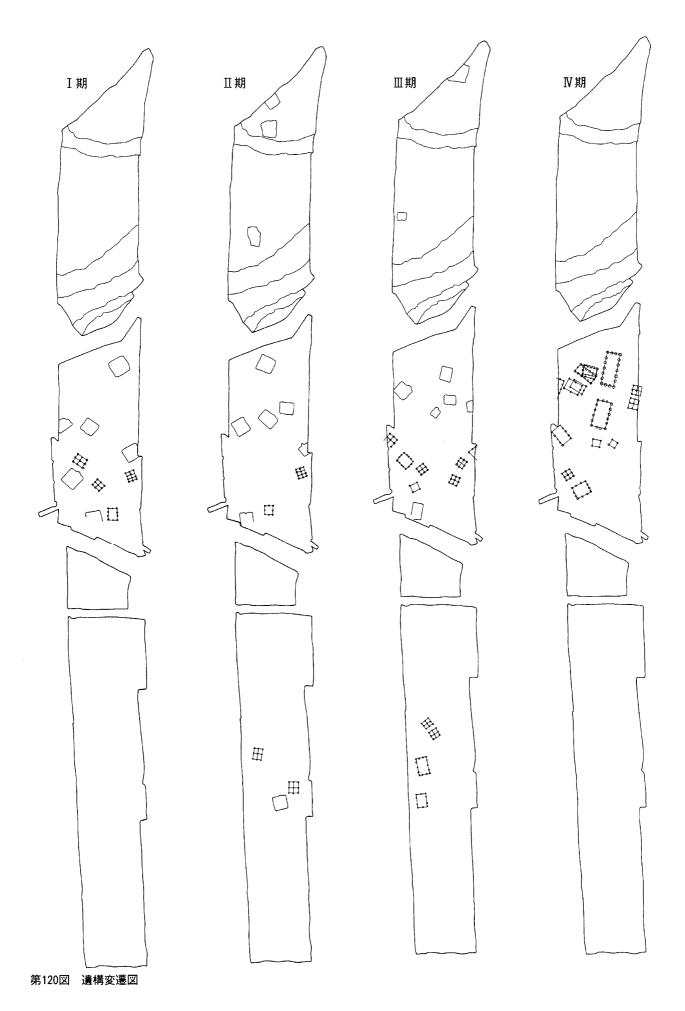
北勢地域における「北勢型」甕が出土した遺跡の分布状況を見ると、鈴鹿山脈に沿って、いくつかのまとまりを認めることができる。しかし、各遺跡から出土した土師器甕全体に占める「北勢型」甕の割合はわずかなものであり、体部下半にヘラケズリを施す甕は存在はむしろ特異なものといえる。はたして実際に「北勢型」甕が成立するのかどうか。今後の資料の蓄積に期待したい。

土師器の生産と流通については、三重県埋蔵文化 財センターで科学的な胎土分析を行っており、上惣 作遺跡出土土器(第96図 147)は、形態だけでなく、 胎土においても南勢地方出土の土器の共通する特徴 を持っていることが報告されている点も、土師器甕 の生産と流通を考える上で興味深い。

土師器の生産遺構である焼成坑は、北勢地域では四日市市山奥遺跡、同市落川原遺跡、同市西ケ谷遺跡などが知られている。 員弁郡内では現在のところ



第119図 「北勢型」甕の出土した主な遺跡



— 109 —

知られていないが、上惣作遺跡が廃絶された後、郡 内で集落遺跡が増大することから考えても、土師器 を供給する場が存在していたことは想像される。こ の点の検討については、今後の資料の増加を待つこ ととしたい。

c. その他

D地区で検出された掘立柱建物SB37内にある小 土坑から鉄製紡錘車が出土している。 鉄製紡錘車の 出土は県内では14例目となる。

紡錘車の出土した小土坑が、掘立柱建物に直接伴うものであるかどうかは判断し難い。しかし、三重県において鉄製紡錘車は、飛鳥・奈良時代の遺構に伴って出土する例が多く、今回の調査で出土した紡錘車も飛鳥・奈良時代と考えられる掘立柱建物SB37に伴うものである可能性は高いといえる。仮に掘立柱建物に伴うものであるとすれば、紡織に関わる遺構・遺物として興味深い。

d. 小結

この地域における7世紀代の資料は少なく、実体はつかめていない状況にある。そうした中で、上惣作遺跡の調査で出土した資料は貴重な資料であるといえよう。他地域との比較、土器の生産と供給など今後の検討課題としたい。

	\mu_D 61	#C-A- N	(1) 1. Mr. 44k	n+ /l\	As deb
	遺跡名	所在地	出土遺構	時代	文献
1	寺垣内舘跡址	鈴鹿市 東庄内町			註28
2	松山遺跡	芸濃町 萩野	C区		註29
3	伊勢寺遺跡	松阪市 伊勢寺町	F 地区 S H19	奈良	註30
4	上寺遺跡	上野市 摺見	水路地区 S K14		註31
5	西沖遺跡	大山田村 広瀬	竪穴住居 SB70	奈良	註32
6	歌野遺跡	大山田村 広瀬	竪穴住居 SB10	奈良	註:33
7	三谷遺跡	大山田村 広瀬			# ± 34
8	斎宮跡	明和町 竹川	第71次 S K 4746	飛鳥	計:35
9	斎宮跡	明和町 斎宮	第75次 S K 5072	奈良中期	第1:36
10	伊賀国府 推定地	上野市 坂之下他	印代東方地区 包含層		≣±37
11	大鼻遺跡	亀 山市 太岡寺町	包含層		計:38
12	宮ノ前遺跡	津市 長岡町	包含層		註:39
13	斎宮跡	明和町 斎宮	掘立柱建物 SB7410	平安前期	註40
14	上惣作遺跡	北勢町 阿下喜	ピット	飛鳥・奈良	

表27 三重県内鉄製紡錘車出土遺跡一覧

4. 平安・鎌倉時代

(1) 掘立柱建物 S B 73

SB73は、12世紀後葉から13世紀前葉にかけての 南東隅土坑を伴う掘立柱建物である。桁行5間×梁 行4間を数える建物の規模は桁行12.6m×梁行9.6m を測り、42尺×32尺と理解できる。また、建物の設 計上の基本として、柱間の1間は桁行にて8.5尺(2. 55m)、梁行にて(2.40m)と、かなり幅広である。 たとえば、京間でいうところの1間=6.5尺(約1.95 m)と比較してもはるかに上回る広さである。この 大規格に応じた建築部材についても、おそらくは一 般的な規格あるいは、それがために追加された床及 び梁を支える柄柱もあると思われる。

建物全体の規模からしても民家としては大規模な 建物であると思われる。

SB73の南東隅の桁行 3 間、梁行1.5間分は、一般に「南東隅土坑」と呼ばれる土坑SK74が存在する。 SK74の周囲には建物構造を基本柱である 5 間×4間の柱以外に柱列を梁行き方向に配置したり、 5 間×4間の柱の中間に柱を補充して南東隅土坑を取り囲む壁を作り、土坑を中心とした空間を形成しているように思われる。また、5 間×4 間に対応する柱のうちSK74内のものは2本とも欠如しており、土坑のある一角が柱のない広い空間として意識されていたことが窺える。

S K74からは日常雑器が多量に出土しており、土坑の床面直上出土のものも多く含まれる、しかし、これらの土器や共に出土した多数の石の多くは、建物廃絶時に投棄されたものであろうと思われるため、これらの土器が S K74あるいは S B73の廃絶時期を示すものと考えられる。

掘立柱建物に伴う南東隅土坑の性格については、 過去にもいろいろと考察が試みられてきた。代表的 と思われるものに厩説と厨房説がある。今回、SK 74の性格を科学的な手法を用いて明らかにしようと、 2種類の分析を行った。その結果、残存脂肪酸分析 ではウシの糞便の脂肪と類似した脂肪および牛の敷 料や飼料に由来する可能性のある植物性脂肪が残存 するという厩説を肯定する結果がだされた。しかし 一方で、牛や馬が排出した糞便に含まれているはず の寄生虫卵や消化残渣は検出されず、残存脂肪酸分 析の結果を補完することはできなかった。しかしながら、分析結果は厩の可能性を示しており、それを否定するものではない。こうした分析結果と後述する民俗例などと照らし合わせてみると、SK74については、厨房説は積極性をみないと思われ、厩説により馬ないしは牛を飼うための施設であったと考えたい。牛馬を飼育することは、中世以降農業の発展にともない牛馬の労働力や牛馬の糞による堆肥が貴重であったためと理解できる。

南東隅土坑の性格については、土坑の構造、出土 遺物、さらには科学的なデータの蓄積に期待すると ころである。

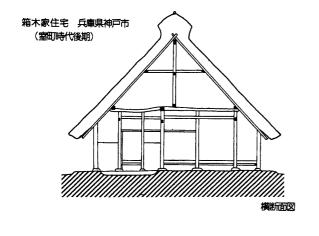
次に、南東隅土坑 S K 74を含めた掘立柱建物 S B 73の間取りについて考察してみたい。中世から近世にかけての民俗例にて検討すると S B 73に近似的な例を認めることができる。(第121・122図)

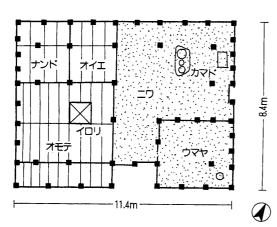
しかし、中世の建物といえども現存するのは礎石

によるため、自立できる掘立柱建物とは柱構造の細部については特性上の相違点は多々あると思われる。また、近世以前は部屋の境にも1間ごとに柱を立てたり、ひとつの部屋の中にも柱を立てたりすることがあり、柱穴から間取りを考えるのは正確さには欠けるところである。しかし、床部と土間部の大まかな区切りと土間部における役割について考えるには有力な参考資料になりうると思われる。

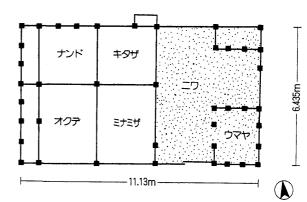
上惣作遺跡が所在する員弁郡内だけでなく、三重 県内での古い民家の間取りに関する調査例によると、 建物の南東隅を厨房や風呂場にする例や北東隅を厩 (馬屋)にする例も一部には見られるが、南東隅を厩 (馬屋)にした例が多いことが指摘されている。

若干の考古学的な補足として、SB73に関わる出土土器の計量的な分布状況を第124図と表28に示す。これによると、SK72周辺の北西隅とSK74のある南東隅に特に多く、南側には少ないことがわかる。

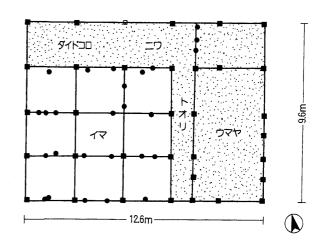




第121図 中世の民家(註41文献より加筆・再トレース)



第122図 近世の特色を残す民家(註42文献より)



第123図 SB73の間取り想定図

民俗例によると、建物の北東隅周辺に厨房施設を置く例が多く見られるので、この付近からの遺物の出土量が多くなると想像されるが、北東隅周辺で出土遺物量が少ないのは意外な結果である。このことから、SB73の場合、厨房ないしは配膳に関わる施設は北西隅にあった可能性が考える。また、南西隅からの出土量が極端に少ないのは、おそらく座敷に相当するためと考えられる。

これらのことを踏まえて、SB73の間取りを想定すると第122図のにようになる。大きく分けて、西側が床を持つ居間空間で東側が土間空間である。土間の南東隅にはウマヤがあり、北に面する土間の西側には厨房があったと考える。居間の中で5間×4間の基本の柱が検出できなかったところが一箇所あるが、イロリがここに位置したためではないかと想像する。しかし、作業スペースであるはずの土間が狭く、特に南から入ったトオリが狭いのは不自然にも思われる。

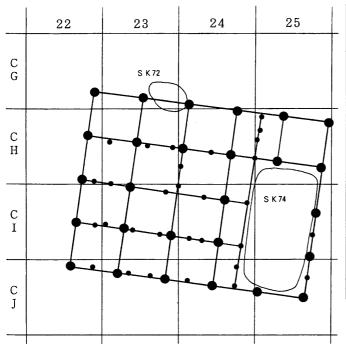
以上、SB73の間取りについて考察を試みたが、 まだまだ検討の余地はありそうである。

(2)中世集落

今回の調査では、「南東隅土坑を」伴う掘立柱建物が確認された以外、中世における上惣作遺跡の具体像を示すものは、明らかにされなかった。しかし、包含層からは多量の中世遺物が出土し、上惣作遺跡から約500m離れた位置に所在する覚正垣内遺跡でも同時期の南東隅土坑を伴う掘立柱建物が検出されていることからも、中世の生活の場が広範囲にわたって営まれていたことが想像される。

集落全体の構成が明らかにされることで、南東隅 土坑の性格も解明されていくのではないだろうか。

最後に、浅尾氏は南東隅土坑の検出された遺跡と 御厨や荘園に関連すると考えられる遺跡と関係付け て、牧の存在や武士団の成長と交通の発展による馬 の必要性によって、一般農家においても馬が飼育さ れた可能性を問いている[®]。



	2 2		2 3			2 4	2 5		
	а	0	а	630	а	150	a	340	
CG	b	1, 160	b	5,775	b	1, 110	b	1,840	
	с	105	С	575	С	85	С	0	
	а	110	a	5,010	a	160	а	280	
СН	b	1,200	b	5,803	b	755	b	1,700	
	с	40	С	1,160	С	440	С	750	
	а	160	а	380	а	80	а	1,850	
CI	b	800	b	1,810	b	1,460	b	7,990	
	С	110	С	400	C,	45	С	325	
	а	80	а	20	а	0	а	0	
СЈ	b	100	b	150	b	100	b	1, 400	
	С	85	С	305	С	90	С	0	

※ a:包含層出土の土師器

(単位は g)

b:包含層出土の山茶碗・山皿

c:グリッド内の遺構出土の土器

第124図 SB73周辺の地区割り(1:200)

表28 SB73周辺の地区毎の出土土器量

【註】

- ① 「北勢町風土記」の記述を参考にした。(『北勢町風土記』 資料集 第一集 北勢町教育委員会 1978)
- ②増子康真「縄文文化研究の現状|『東海先史文化の諸段階』 1975
- ③ 「大安町史」大安町教育委員会編 1986 『三重考古図録』三重県教育委員会 1954
- ④御村精治『上ノ垣外遺跡発掘調査概報』度会町遺跡調査会 1991
- ⑤山田猛『山城遺跡・北瀬古遺跡』三重県埋蔵文化財センター 1994
- ⑥田中秀和他『西相野遺跡・ツヅミ遺跡発掘調査報告書』 安濃町教育委員会・安濃町 遺跡調査会 1998
- ⑦清水正明他『東浦遺跡・椋本南方遺跡ほか』三重県埋蔵文化財センター 1993
- ⑧西出 孝他『奈可切遺跡発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター 1996
- ⑨春日井 恒他『川向遺跡発掘調査報告』北勢町教育委員会 1993
- ⑩「第1回関西縄文文化研究会 関西の縄文住居」発表要旨・資料集 関西 縄文文化研究会 1999
- ⑪註⑨ 文献に同じ
- ⑫岩野見司『考古学上から見た北伊勢』参議鉄道株式会社
- ⑬清水正明「Ⅲ 権現坂遺跡」『一般国道475号東海環状自動車道埋 蔵文化財発掘調査概報』 I 三重県埋蔵文化財センター 1995
- ⑭竹内英昭「飛鳥・奈良時代の集落遺跡の検討ー伊勢地方を例にとってー」『研究紀要』第6号 三重県埋蔵文化財センター 1997
- ⑤尾野善裕「尾張・西三河・猿投・尾北・その他」『古代の土器5-1 7世紀の土器』(近畿東部・東海編) 古代の土器研究会 1997
- ⑯田辺昭三『陶邑古窯址群 I』 平安学園考古クラブ 1966
- ⑰【員弁町史』 員弁町教育委員会 1991

小玉道明『七和2号窯址発掘調査報告』三重県文化財連盟 1973

- - 小菅文裕「員弁町奴女里溜古窯跡出土須恵器」『一般国道475号東 海環状自動車道埋蔵文化財発掘調査概報』 II 三重県埋蔵文化財センター 1996
- ⑲小玉道明『七和2号窯址発掘調査報告』三重県文化財連盟 1973
- ②西口寿生「土師器の地域色-6・7世紀の畿内とその周辺-」『文化財論叢』奈良国立文化財研究所創立30周年記念論文集刊行会1983
- ②四日市市公事出遺跡では、「体部は長胴で丸底、調整は外面上半が タテハケ、下半がケズリ、内面がヨコハケという甕が主体をなす」 ことが報告されている。(葛山拓也『公事出古墳群 公事出遺跡』 四日市市教育委員会 1998
- ②城ケ谷氏は、「北勢型」は安定したものではないため、「南勢型」を「伊勢型」としたうえで、「"口縁部をつまみあげ、口縁部から体部内面を横方向のハケメで調整し、内面下半分をヘラ削りするようなもの"を大きく「東海型」として設定した方がよいのかもしれない。」としている。(城ケ谷和広「古代尾張の土師器~6世紀後半から11世紀の様相~」『年報』平成2年度 愛知県埋蔵文化財センター 1991

- ◎三重県埋蔵文化財センター『研究紀要』第7号 1998
- ②「山奥遺跡」『一般国道1号北勢バイパス埋蔵文化財調査概報』 I 四日市市教育委員会 1997
- 一つ合本鋭次「四日市市西坂部町・落河原遺跡」『昭和47年度県営圃場整備 事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』三重県教育委員会 1973
- 20『西ケ谷遺跡』四日市市遺跡調査会 1996
- ②河北秀実「三重県出土のいわゆる紡錘車の形態とその時期」『Mie history』vol.3 三重歴史文化研究会 1991
 - 斎宮跡台109次調査では平安時代前期の掘立柱建物の柱掘形から出 土している。(註39 文献)
- ②下村登良男「寺垣内舘址」『東名阪道路埋蔵文化財調査報告』日本 道路公団・三重県教育委員会 1970
- ❷『三重県埋蔵文化財年報』18 三重県教育委員会 1988
- ⑩江尻健「伊勢寺遺跡(北浦地区)『昭和63年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告-第2分冊-』三重県教育委員会1989
- ⑩山田猛「上寺遺跡」「昭和54年度県営圃場整備事業地域埋蔵文化財 発掘調査報告」三重県教育委員会 1980
- ③森前稔他「西沖遺跡」『昭和55年度県営圃場整備事業地域埋蔵文化 財発掘調査報告』三重県教育委員会 1981
- ③中森英夫「歌野遺跡」『昭和57年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化 財発掘調査報告』三重県教育委員会 1983
- 鉧『三重県埋蔵文化財年報』12 三重県教育委員会 1982
- ③ 『三重県斎宮跡発掘調査事務所年報1987 史跡斎宮跡発掘調査概報』 三重県斎宮跡調査事務所 1988
- 30註35 文献に同じ
- ・砂泉雄二他『伊賀国府跡(第4次)発掘調査報告』三重県埋蔵文化財 センター 1992
- 38山田猛他『大鼻遺跡』三重県埋蔵文化財センター 1994
- ③本堂弘之他「宮ノ前遺跡」『一般国道23号中勢道路建設事業に伴う 大古曽遺跡・山籠遺跡・宮ノ前遺跡発掘調査報告』 三重県埋蔵文 化財センター 1995
- ⑩赤岩操「第109次調査」『史跡斎宮跡平成7年度発掘調査概報』 斎宮歴史博物館1996
- ①浅尾 悟「土坑を伴う中世掘立柱建物について」【一般国道1号線亀山バイパス埋蔵文化財発掘調査概報】 VI 三重県埋蔵文化財センター 1990
- ❸平山育男『近畿農村の住まい』 1994
- ⑬『大安町史』 2巻 大安町教育委員会 1993
- ⊕註⑪ 文献に同じ

Ⅶ. 自然科学分析

C地区で検出された土坑SK74の性格を推定する 手がかりとして、SK74の埋土の土壌分析を行った。

S K 74は、中世の掘立柱建物に伴い、一般に「南東隅土坑」と呼ばれる。民俗例などから、その性格として厩説と厨房説とがいわれてきたが、根拠となるものがこれまではなかった。そこで今回、土壌サンプルを採取し、分析を行うことにした。

分析方法は、残存脂質分析と花粉・寄生虫卵分析 を選択した。分析方法の選択にあたっては、調査担 当者による遺構の検討の結果、SK74の性格として は厩の可能性があるとの見解に基づいている。

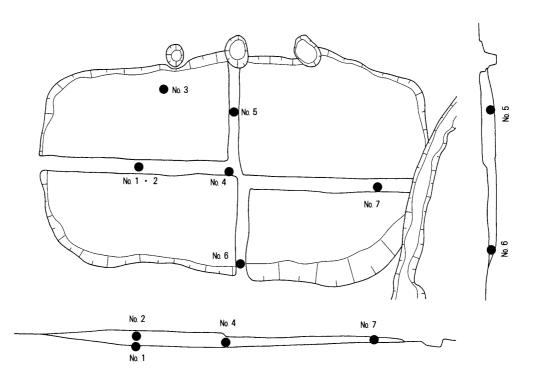
資料の採取にあたっては、試料の汚染を防ぐため、 未使用の移植ゴテを用い、採取前にはエチルアルコー ルで表面洗浄を行った。

分析に供する試料は、SK74掘削途中に埋土及び 土層観察用に残した畦より採取した。(第1図) 2 種類の異なった分析を行うため、試料はできる限り 同一地点から採取した土壌サンプルを2分割した。

採取された試料は採取後、速やかにアルミホイル で密閉し、各分析機関に送付した。

試料No.	層 位
No. 1	10YR3/1黒褐色シルト (炭多い、橙色土ブロック混)
No. 2	10YR2/3黒褐色シルト (〃)
No. 3	土坑内ピット埋土
No. 4	10YR2/3黒褐色シルト (〃)
No. 5	10YR5/4にぶい黄褐色砂
No. 6	2.5YR3/1黒褐色シルト
No. 7	10YR4/3にぶい黄褐色シルト (炭、橙色土ブロック混)

表1 土壌サンプル一覧



第1図 土壌サンプル採取地点

上惣作遺跡における自然科学分析

環境考古研究会 金原正明 金原正子

1 はじめに

上惣作遺跡では、厩を伴う可能性のある掘立柱建物が検出された。掘立柱建物に伴う土坑の堆積物の分析を行い、検討を行う。なお、ウマの糞便は馬回虫卵および草食獣の寄生虫卵の組み合わせから、検証することが可能である。

2 試料

試料は掘立柱建物に伴う土坑底面の堆積物 7 点である。

3 方法

微化石分析法を基本に以下のように行った。

1)サンプルを採量する。2)脱イオン水を加え攪拌する。3)篩別により大きな砂粒や木片等を除去し、沈殿法を施す。4)25%フッ化水素酸を加え30分静置(2・3度混和)。5)水洗後サンプルを2分する。6)片方にアセトリシス処理を施す。7)両方のサンプルを染色後グリセリンゼリーで封入しそれぞれ標本を作成する。8)検鏡・計数を行う。

以上の物理・科学の各処理間の水洗は、1,500rpm、2分間の遠心分離を行った後、上澄みを捨てるという操作を3回繰り返して行った。

なお、分析により検出される花粉粒の同定計数も 行った。

4 結果

(1) 寄生虫卵

分析の結果、各試料とも寄生虫卵および明らかな 消化残渣は検出されなかった。

(2) 花粉

各試料とも花粉密度が比較的低かった。出現した 分類群は、樹木花粉16、樹木花粉と草本花粉を含む もの2、草本花粉16、シダ植物胞子2形態の計36で ある。これらの学名と和名および粒数を表1に示す。 以下に出現した分類群を記す。

〔樹木花粉〕

モミ属、ツガ属、マツ属複維管東亜属、スギ、コウヤマキ、ハンノキ属、カバノキ属、クリーシイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属ーケヤキ、エノキ属ームクノキ、モチノキ属、トチノキ、カキ属

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

クワ科ーイラクサ科、マメ科

[草本花粉]

イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、タデ属、タ デ属サナエタデ節、ソバ属、アカザ科ーヒユ科、ナ デシコ科、キンポウゲ属、アブラナ科、チドメグサ 亜科、セリ亜科、オミナエシ科、タンポポ亜科、ヨ モギ属

〔シダ植物胞子〕

単条溝胞子、三条溝胞子

5 考察

分析の結果、寄生虫等および消化残渣は検出されなかった。試料となった堆積物に動物の糞便は含まれていないとみなされる。

花粉では、各試料ともイネ科が優先し、アカザ科ーヒユ科、ヨモギ属、タンポポ亜科、カヤツリグサ科、クワ科ーイラクサ科が伴われ、ソバ属が伴出する。試料7ではアブラナ科が高率で、マツ属複維管東亜属やクリーシイ属の比率もやや高い。試料1ではタデ属サナエタデ節がやや高い。以上の花粉組成からみると、周囲はイネ科、アカザ科ーヒユ科、ヨモギ属、タンポポ亜科、カヤツリグサ科、クワ科ーイラクサ科の人里植物の繁茂するソバ属やアブラナ科の畑地であったと推定される。試料7では、アブラナ科の集約的な栽培と他より樹木が多い。試料7のみ植生が大きく異なり堆積時期が異なるとみなされる。以上、花粉群集は周囲の植生を反映する。

【参考文献】

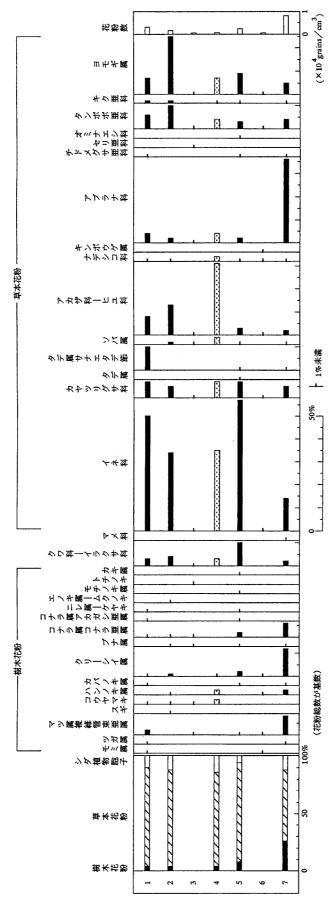
Peter J.Warnock and Karl J.Reinhard(1992)Methods for Extra xting Pollen and Parasite Eggs from Latrine Soils.Jounal of Archaeological Science,19, p.231-245.

中村純(1973)花粉分析.古今書院, p82-110.

金原正明(1993)花粉分析法による古環境復元.新版古代の日本第10巻 古代資料研究の方法, 角川書店, p248-262.

					土坑			
学名	和名	1	2	3	4	5	6	7
Helminth eggs	寄生虫卵(試料1∝中)	(-)	(-)	(-)	(-)_	(-)	(-)	(-
	明らかな消化残渣	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-
Arboreal pollen	樹木花粉							
Abies	モミ属	1					1	
Tsuga	ツガ属	1						:
Pinus subgen. Diploxylon	マツ属複維管束亜属	6		1		4	1	2
Cryptomeria japonica	スギ		1					
Sciadopitys verticillata	コウヤマキ	1	1	1	2			
Alnus	ハンノキ属		1		2		2	
Betula	カバノキ属	1				1		
Castanea crenata-Castanopsis	クリ-シイ属	1	3		1	9	2	4
Fagus	ブナ属		1	1		1		:
Quercus subgen. Lepidobalanus	コナラ属コナラ亜属	2	2	2		10		2
Quercus subgen. Cyclobalanopsis	コナラ属アカガシ亜属	1				2		
Ulmus-Zelkova serrata	ニレ属-ケヤキ	1				1		
Celtis-Aphananthe aspera	エノキ属-ムクノキ		2					
Ilex	モチノキ属					1		
Aesculus turbinata	トチノキ			2				
Diospyros	カキ属					1		
Arboreal · Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉							
Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	8	11	10	3	43		
Leguminosae	マメ科	_			_			
Nonarboreal pollen								
Gramineae	イネ科	153	100	38	39	248	45	4
Oryza type	イネ属型				•			
Cyperaceae	カヤツリグサ科	20	15	7	8	30	5	1
Polygonum sect.	タデ属			·	•	1	_	_
Polygonum sect. Persicaria	タデ属サナエタデ節	30				1		
Fagopyrum	ソバ属		3	1	3	1		
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	26	39	13	35	12	16	
Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	1	10	2	1	2	
Ranunculus	キンポウゲ属	-	•		_	•	1	
Cruciferae	アブラナ科	12	6	4	4	9	-	12
Hydrocetyloideae	チドメグサ亜科	1	Ū	7	_	2		
Apiodeae	セリ亜科	1		1		2		•
Valerianaceae	オミナエシ科					1		
Lactucoideae	タンポポ亜科	17	30	4	5	13	6	1:
Asteroideae	キク亜科	4	<i>3</i> 0	4	1	2	U	1.
	ヨモギ属	22	74	14	8	37	9	1:
Artemisia		44	/4	14	0	3/	9	1.
Fern spore		16	27	0	1.6	10	10	1.
Monolate type spore	単条溝胞子	16	27	9	16	12	13	10
Trilate type spore	三条溝胞子	20	14	4	2	14	5	3:
Arboreal pollen	樹木花粉	15	11	7	5	30	6	99
Arboreal · Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	8	11	10	3	43	0	22/
Nonarboreal pollen	草本花粉	286	272	82	105	358	84	229
Total pollen	花粉総数	309	294	99	113	431	90	330
	試料1g中の花粉数	3.1	1.6	0.5	0.6	2.3	0.4	8.1
TTo become a 11	北京学世 州	×10 ³	×10 ³	×10 ³	$\times 10^3$	×10 ³	×10 ³	×10
Unknown pollen	未同定花粉	1	1	1	2	4	0	(
Fern spore	シダ植物胞子	36	41	13	18	26	18	4

表 2 上惣作遺跡における寄生虫卵(花粉)分析結果



第2図 上惣作遺跡における花粉ダイアグラム

帯広畜産大学生物資源学科 中野益男 ズコーシャ総合科学研究所 中野寛子 清水 了 門 利恵 長田正宏

動植物を構成している主要な生体成分にタンパク質、核酸、糖質(炭水化物)および脂質(脂肪・油脂肪)がある。これらの生体成分は環境の変化に対して不安定で、圧力、水分などの物理的作用を受けて崩壊してゆくだけでなく、土の中に棲んでいる微生物による生物的作用によっても分解してゆく。これまで生体成分を構成している有機質が完全な状態で遺存するのは、地下水位の高い低地遺跡、泥炭遺跡、貝塚などごく限られた場所にすぎないと考えられてきた。

最近、ドイツ新石器時代後期にバター脂肪が存在 していたこと、古代遺跡から出土した約2千年前の トウモロコシ種子、約5千年前のハーゼルナッツ種 子に残存する脂肪の脂肪酸は安定した状態に保持さ れていることがわかった。このように脂肪は微量な がら比較的安定した状態で千年・万年という長い年 月を経過しても変化しないで遺存することが判明し た。

脂質は有機溶媒に溶けて、水に溶けない成分を指 している。脂質はさらに構造的な違いによって誘導 脂質、単純脂質および複合脂質に大別される。これ らの脂質を構成している主要なクラス(種)が脂肪 酸であり、その種類、含量ともに脂質中では最も多 い。その脂肪酸には炭素の鎖がまっすぐに延びた飽 和型と鎖の途中に二重結合をもつ不飽和型がある。 動物は炭素数の多い飽和型の脂肪酸、植物は不飽和 型の脂肪酸を多く持つというように、動植物は種ご とに固有の脂肪酸を持っている。ステロールについ ても、動物性のものはコレステロール、植物性のも のはシトステロール、微生物はエルゴステロールと いうように動植物に固有の特徴がある。従って、出 土遺物の脂質の種類およびそれらを構成している脂 肪酸組成と現生動植物のそれとを比較することによっ て、目に見える形では遺存しない原始古代の動植物

を判定することが可能となる。

このような出土遺構、遺物に残存する脂肪を分析 する方法を「残存脂肪分析法」という。この「残存 脂肪分析法」を用いて上惣作遺跡から出土した土坑 の性格を解明しようとした。

1 土壌試料

三重県北勢町阿下喜字上惣作に所在する上惣作遺跡からは、これまでの調査で古墳時代前期~中世・近世のものと推定されている遺構や遺物が検出されている。この遺跡のC地区で確認された中世の遺構のうち12世紀後葉~13世紀前葉のものと推定されている掘立柱建物SB73内の土坑SK74について、土坑内土壌試料を分析した。遺跡内での掘立柱建物配置状況および建物内土坑内での試料採取地点を表3に示す。試料1を北端埋土下層、2を北端埋土上層、3をII区内Pit 埋土、4を中央埋土、5を東端埋土、6を西端埋土、7を南端埋土から、それぞれ採取した。

2 残存脂肪の抽出

土壌試料419~1,161gに3倍量のクロロホルムーメタノール(2:1) 混液を加え、超音波浴槽中で30分間処理し残存脂肪を抽出した。処理液を濾過後、残渣に再度クロロホルムーメタノール混液を加え、再び30分間超音波処理をする。この操作をさらに2回繰り返して残存脂肪を抽出した。得られた全抽出溶媒に1%塩化バリウムを全抽出溶媒の4分の1容量加え、クロロホルム層と水層に分配し、下層のクロロホルム層を濃縮して残存脂肪酸を分離した。

残存脂肪の抽出量を表3に示す。抽出率は0.0007~0.0122%、平均0.0046%であった。この値は全国各地の遺跡から出土した土壌、石器、土器などの試料の平均抽出率0.0010~0.0100%の範囲内のもので

あった。

残存脂肪をケイ酸薄層クロマトグラフィーで分析した結果、脂肪は単純脂質で構成されていた。このうち遊離脂肪酸が最も多く、次いでグリセロールと脂肪酸が結合したトリアシルグリセロール(トリグリセリド)、ステロールエステル、ステロールの順に多く、微量の長鎖炭化水素も存在していた。

3 残存脂肪の脂肪酸組成

分離した残存脂肪の遊離脂肪酸とトリアシルグリセロールに5%メタノール性塩酸を加え、125℃封管内で2時間分解し、メタノール分解によって生成した脂肪酸メチルエステルを含む画分をクロロホルムで分離し、さらにジアゾメタンで遊離脂肪酸を完全にメチルエステル化してから、ヘキサンーエチルエーテルー酢酸(80:30:1)またはヘキサンーエーテル(85:15)を展開溶媒とするケイ酸薄層クロマトグラフィーで分析した。

残存脂肪酸の脂肪酸組成を第3図に示す。残存脂肪から12種類の脂肪酸を検出した。このうちパルミチン酸(C16:0)、パルミトレイン酸(C16:1)、ステアリン酸(C18:0)、オレイン酸(C18:1)、リノール酸(C18:2)、アラキジン酸(C20:0)、エイコサモノエン酸(C20:1)、ベヘン酸(C22:0)、エルシン酸(C22:1)、リグノセリン酸(C24:0)の10種類の脂肪酸をガスクロマトグラフィー-質量分析により同定した。

試料中の脂肪酸組成パターンをみると3つのパターンに分かれた。1つめはパルミトレイン酸、パルミチン酸の順に多いもので、試料1、2、6、7がこれにあたる。2つめはパルミチン酸、パルミトレイン酸の順に多いもので、3と4がこれにあたる。3つめはオレイン酸が最も多いもので5がこれにあたる。一般に考古遺物にはパルミチン酸が多く含まれている。これは長い年月の間にオレイン酸、リノール酸といった不飽和脂肪酸の一部が分解し、パルチミン酸を生成するためで、主として植物遺体の土壌化に伴う腐植物から来ていると推定される。パルミトレイン酸は通常動物脂肪内に2~3%存在するが、ヒトや牛の糞便、下水処理の汚泥中には20~25%も存在する。オレイン酸の分布割合の高いものとして

は、動物性脂肪と、植物性脂肪の両方が考えられ、 植物性脂肪は特に根、茎、種子に多く分布するが、 動物性脂肪の方が分布割合は高い。また、オレイン 酸はヒトの骨のみを埋葬した再葬墓試料などにも多 く含まれる。ステアリン酸は動物体脂肪や植物の根 に比較的多く分布している。リノール酸は主として 植物種子・葉に多く分布する。

一方、高等動物、特に高等動物の臓器、脳、神経 組織、血液、胎盤に特徴的にみられる炭素数20以上 のアラキジン酸、ベヘン酸、リグノセリン酸などの 高級飽和脂肪酸はそれら3つの合計含有率が、試料 1、2、6、7で約16~17%、3~5で約6~11% であった。通常の遺跡出土土壌中でのアラキジン酸、 ベヘン酸、リグノセリン酸の高級飽和酸3つの合計 含有率は約4~10%であるから、試料3~5の高級 飽和脂肪酸含有量は通常の遺跡出土土壌中の植物腐 植土並みで、1、2、6、7のそれはやや多めであっ た。高級飽和脂肪酸含有量が多い場合としては、試 料中に高等動物の血液、脳、神経組織、臓器などの 特殊な部分が含まれている場合と、植物の種子・葉 などの植物体の表面を覆うワックスの構成分が含ま れている場合とがある。高級飽和脂肪酸が動物、植 物のどちらに由来するかはコレステロールの分布割 合によって決めることができる。概して、動物に由 来する場合はコレステロール含有量が多く、植物に 由来する場合はコレステロール含有量が少ない。

以上、上惣作遺跡の試料中には糞便試料に特徴的なパルミトレイン酸が北端埋土試料1、2、西端埋土試料6、南端埋土試料7に非常に多く含まれていることがわかった。高級飽和脂肪酸は2、6、7にやや多めであることもわかった。

4 残存脂肪酸のステロール組成

残存脂肪のステロールをヘキサンーエチルエーテルー酢酸(80:30:1)を展開溶媒とするケイ酸薄層クロマトグラフィーで分離・精製後、ピリジンー無水酢酸(1:1)を窒素気流下で反応させてアセテート誘導体にする。得られた誘導体をもう一度同じ展開溶媒で精製してから、ガスクロマトグラフィーにより分析した。残存脂肪酸の主なステロール組成を第4図に示す。残存脂肪から17~25種類のステロール

を検出した。このうちコプロスタノール、コレステロール、エルゴステロール、カンペステロール、シトステロールなど8種類のステロールをガスクロマトグラフィーー質量分析により同定した。

試料中のステロール組成を見ると、動物由来のコレステロールはすべての試料中に約2~5%分布していた。通常一般的な植物腐植土中にはコレステロールは2~6%分布している。従って、試料中のコレステロール含有量はすべての試料中で通常の遺跡出土土壌中の植物腐植土並みであった。

植物由来のシトステロールはすべての試料中に約10~20%分布していた。通常の遺跡出土土壌中にはシステロールは30~40%、もしくはそれ以上に分布している。従って、すべての試料中でシステロール含有量は通常の遺跡出土土壌の植物腐植土中でよりも少なめであった。

クリ、クルミなどの堅果植物由来のカンペステロール、スチグマステロールは、すべての試料中にカンペステロールが約4~7%、スチグマステロールが約1~6%分布していた。通常の遺跡出土土壌中にはカンペステロール、スチグマステロールは1~10%分布している。従って、試料中のカンペステロール、スチグマステロール含有量は通常の遺跡出土土壌中の植物腐植土並みであった。

微生物由来のエルゴステロールは3に痕跡程度、他のすべての試料中に約1~3%分布していた。通常出土土壌中にはエルゴステロールは数%分布している。従って、この程度の量は土壌微生物の存在による結果と考えられる。

哺乳動物の腸および糞便中に特異的に分布するコプロスタノールは、試料3、7に約2%、1、2、4~6に約3~5%分布していた。コプロスタノールは通常の遺跡出土土壌中には分布していないが、1~2%程度の量は検出されることがある。また、コプロスタノールが10%以上含まれていると、試料中に残存している脂肪の動物種や性別、また遺体の配置状況などが特定できる場合がある。今回はコプロスタノールが10%以上含まれている試料はなかったが、すべての試料中に約2.3~5.1%の範囲でまんべんなく含まれており、試料中に哺乳動物の腸もしくは糞便由来の脂肪が残存していた可能性も考えら

れる。

一般的に動物遺体の存在を示唆するコレステロー ルとシトステロールの分布比の指標値は土坑で0.6 以上、土器・石器・石製品で0.8~23.5である。また、 コプロスタノールとコレステロールの分布比からは 動物種が判定でき、その分布比は成人男性4.25、成 人女性2.75、ウマ0.36、乳牛 (健康なホルスタイン 種) 0.88、乳牛(病気のホルスタイン種) 0.42、肉 牛 (黒毛和種) 0.80、肉牛 (褐色和種) 0.82、ヒツ ジ3.10などである。試料中のコレステロールとシト ステロールの分布比を表 4 に示す。表からわかるよ うに、コレステロールとシトステロールの分布比は すべての試料が0.6以下であった。コプロスタノール とコレステロールの分布比は、コプロスタノールが 10%以上含まれてはいなかったが、0.51~1.00、平 均0.73であった。この値は健康なウシの値に近いも のであった。従って、コレステロールと、シトステ ロールの分布比は、すべての試料中に動物遺体もし くは動物由来の脂肪があまり残存していないことを 示唆している。またコプロステロールとコレステロー ルの分布比は試料中にウシの糞便由来の脂肪が残存 している可能性を示唆している。

以上、上惣作遺跡の試料中に含まれている各種ス テロール類は、哺乳動物の腸もしくは糞便由来のコ プロスタノールが北端埋土下層試料1、北端埋土上 層試料2、中央埋土試料4、東端埋土試料5、西端 埋土試料6に多い他は、すべて通常の遺跡出土土壌 中の植物腐食土並みか少なめにしか含まれていない ことがわかった。コレステロールとシトステロール の分布比はすべての試料が0.6以下で、試料中に動物 遺体もしくは動物由来の脂肪があまり残存していな いことがわかった。コプロステロールとコレステロー ルの分布比はすべての試料中で0.51~1.00、平均0.7 3で健康な乳牛や肉牛の値に近く、試料中にウシの 糞便由来の脂肪が残存している可能性があることが わかった。すべての試料中のコレステロール含有量、 コレステロールとシトステロールの分布比が低いこ とから、脂肪酸分析でやや多めに含まれていた高級 飽和脂肪酸は動物体の表面を覆うワックスの構成分 由来のものである可能性が高い。

5 脂肪酸組成の数理解析

残存脂肪の脂肪酸組成をパターン化し、重回帰分 析により各試料間の相関係数を求め、この相関係数 を基礎にしてクラスター分析を行って各試料の類似 度を調べた。同時に出土した集落跡の家畜小屋と推 定されているところでウシが飼育されていたと判定 した群馬県西組遺跡、同様に家畜小屋でウマが飼育 されていたり、畠には馬糞が施肥されていたと判定 した群馬県黒井峯遺跡、出土遺構を便所跡と判定し た岩手県平泉柳之御所跡、、秋田県秋田城跡、、流石川県 石動山大宮坊厠跡、岡山県岡山城跡、福岡県鴻臚館 跡、出土土坑にヒト遺体が埋葬されていて、試料中 にコプロスタノールも多く含まれていた愛媛県古照 遺跡7次調査、出土した配石遺構にヒト男性遺体が 埋葬されており、遺構内での遺体配置状況を推測し た鹿児島県西丸尾遺跡の試料など、各遺跡試料に残 存する脂肪酸との類似度も比較した。予めデータベー スの脂肪酸組成と試料中のそれとでクラスター分析 を行い、その中から出土状況を考慮して類似度の高 い試料を選び出し、再びクラスター分析によりパター ン間距離にして表したのが第5図である。

図からわかるように、上惣作遺跡の試料1、6、7はそれらのみで相関行列距離0.05以内でA群を形成し、非常によく類似していた。上惣作遺跡の試料3と4はそれらのみで相関行列距離0.05以内でB群を形成し、非常によく類似していた。上惣作遺跡の試料5は単独でC群を形成した。他の対照試料はD~H群を形成した。これらの群のうちA群とB群は相関行列距離0.1以内の所にあり互いによく類似し、この、A,B群はC群とも相関行列距離0.15以内の所にあり互いに類似していた。

以上、上惣作遺跡のすべての試料は、東端埋土試料5が若干傾向を異にしてはいるが、よく類似していることがわかった。しかし、上惣作遺跡の試料と相関行列距離的に近い所に対照試料はなく、類似する試料を特定することはできなかった。

6 脂肪酸組成による種特異性相関

残存脂肪の脂肪酸組成から種を特定すために、中級脂肪酸(炭素数16のパルミチン酸から炭素数18のステアリン酸、オレイン酸、リノール酸、リノレン

酸まで)と高級脂肪酸(炭素数20のアラキジン酸以上)との比をX軸に、飽和脂肪酸と不飽和脂肪酸と の比をY軸にとり種特異性相関を求めた。この比例 配分により第1象限の原点から離れた位置に高等動物の血液、脳、神経組織、臓器などに由来する脂肪、 第1象限から第2象限の原点から離れた位置にとト 胎盤、第2象限の原点から離れた位置に高等動物の 体脂肪、骨油に由来する脂肪がそれぞれ分布する。 第2象限から第3象限にかけての原点付近に植物と 微生物、原点から離れた位置に植物腐植、第3象限 から第4象限にかけての原点から離れた位置に海産 物動物に由来する脂肪が分布する。

土壌試料の残存脂肪から求めた種特異性相関を第6図に示す。図からわかるように、上惣作遺跡の試料1、2、6、7は第2象限から第3象限にかけての位置でA群を、3と4は第2象限内でB群を、5は第3象限内で単独でC群を、それぞれ形成した。A群とB群の分布位置は試料中に残存する脂肪が植物腐植土中に微量の高等動物の体脂肪や骨油が入り混じった形態のものに、C群のそれは植物腐植土に、それぞれ由来することを示唆している。しかし、各群は第2象限から第3象限にかけてのかなりまとまった位置に分布しており、全体の傾向は極端に異なるものではなく、主として植物腐植土に由来するものであることがわかった。

以上、上惣作遺跡の試料中に残存する脂肪は、主 として植物腐植土に由来するもので、その中に微量 の高等動物の体脂肪や骨油が入り混じった形態のも であることがわかった。

7 総括

上惣作遺跡C地区から出土した土坑の性格を判定するために、土坑内土壌試料の残存脂肪分析を行った。残存する脂肪の脂肪酸分析、ステロール分析、脂肪酸組成の分布に基づく数理解析の結果、上惣作遺跡の土坑残存する脂肪はウシの糞便の脂肪と類似していることがわかった。従って、上惣作遺跡の土坑SK74は牛舎であったと推測される。また、上惣作遺跡の土坑SK74の試料に混入していた植物性脂肪は牛の敷料や飼料に由来する可能性が高い。今回は土坑外の対照試料がないので、土坑内外で比較で

きなかった。対照試料があればより性格に判定でき たかもしれない。

【参考文献】

- (1) R.C.A.Rottlander and H.Schlichtherle: 「Fod identification of samples from archaeological sites 」, 「Archaeo physika」,10 巻,1979, pp260.
- (2) D.A.Priestley,W.C.Galinat and A.C.Leopold:「Presevation of polunsaturated fatty acid in ancient Anasazi maize seed」,

 [Nature] ,292卷,1981,pp260.
- (3) R.C.A.Rottlander and H.Schlichtherle: 「Analyse fruhgesch ichtlicher Gefa β inhalte 」,「Naturwissenschaften」,70巻,1983,pp33.
- (4) 中野益男:「残存脂肪分析の現状」、『歴史公論』、第10巻,(6),1984、pp124.
- (5) M.Nakano and W.Fischer:「The Glycolipids of Lactobacillu scasei DSM 20021」,「Hooe-Seyler's Z.Physiol.chem. 』,358卷,1977, pp1439.
- (6) 中野益男:「残留脂肪酸による古代復元」、『新しい研究法は考古学になにをもたらしたか』、田中琢、佐原眞編、クバプロ、1995、pp148
- (7) 中野益男, 伊賀 啓, 根岸 孝, 安本教博、畑 宏明, 矢吹俊男, 佐原 眞, 田中 琢:古代遺跡に残存する脂質の分析」, 『脂質生化学 研究』, 第26巻, 1984, pp40.

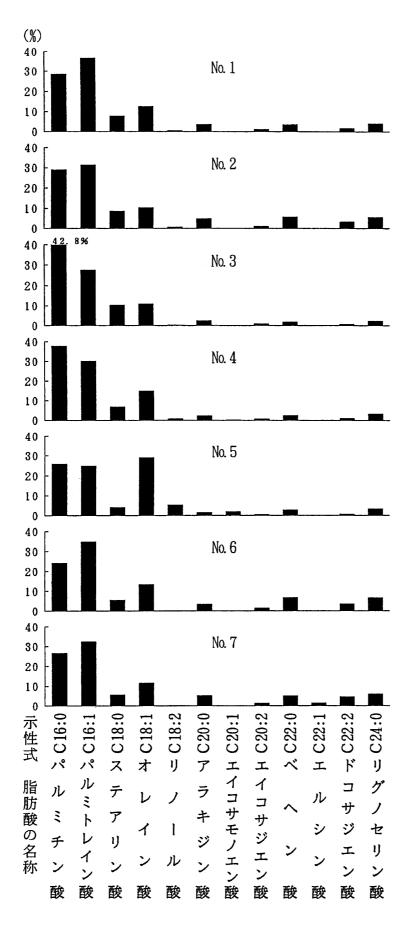
- (8)中野益男:「真脇遺跡出土土器に残存する動物油脂」,『真脇遺跡』,石川県鳳至郡能登町教育委員会・真脇遺跡発掘調査団,1986,pp401
- (9) 中野益男, 根岸 孝, 長田正宏, 福島道広, 中野寛子:「ヘロカルウス遺跡の石器製品に残存する脂肪の分析」,『ヘロカルウス遺跡』, 北海道文化財研究所調査報告書第3集, 1987,pp191.
- (10) 中野益男,中野寛子,福島道広,長田正宏:「西組遺跡・押手 遺跡・黒井峯遺跡の遺構群に残存する脂質の分析」,『未発表』,群馬 県北群馬郡子持村教育委員会.
- (11) 中野益男:「トイレの化学」、『みちのく古代トイレ(便所) シンポ』、秋田考古学協会、1995、pp17.
- (12) 中野益男,中野寛子,明瀬雅子:「鴻臚館」,『印刷中』,福岡県福岡市教育委員会.
- (13) 中野益男,中野寛子,明瀬雅子,浅田正宏:「古照遺跡7次調査の土坑に残存する脂肪の分析」,『古照遺跡-7次調査』,松山市文化財調査報告書38(第2分冊),1994,pp9.
- (14) 中野益男,中野寛子,明瀬雅子,長田正宏:「西丸尾遺跡の配石遺構に残存する脂肪の分析」、『西丸尾遺跡』,鹿児島県埋蔵b文化財発掘調査報告書(64),鹿児島県教育委員会,1992,pp255.

試料No.	試	料 名	湿重量(g)	全脂質(mg)	抽出率(%)
1	SK74	北端下層埋土	1160.5	27. 5	0.0024
2	"	〃 上層埋土	1074.6	33. 6	0.0031
3	"	Ⅱ区内pit埋土	731.8	5. 1	0.0007
4	"	中央埋土	497. 3	23. 2	0.0047
5	"	東端埋土	488. 7	22.8	0.0047
6	"	西端埋土	419. 2	19.9	0.0047
7	"	南端埋土	617. 1	75. 2	0.0122

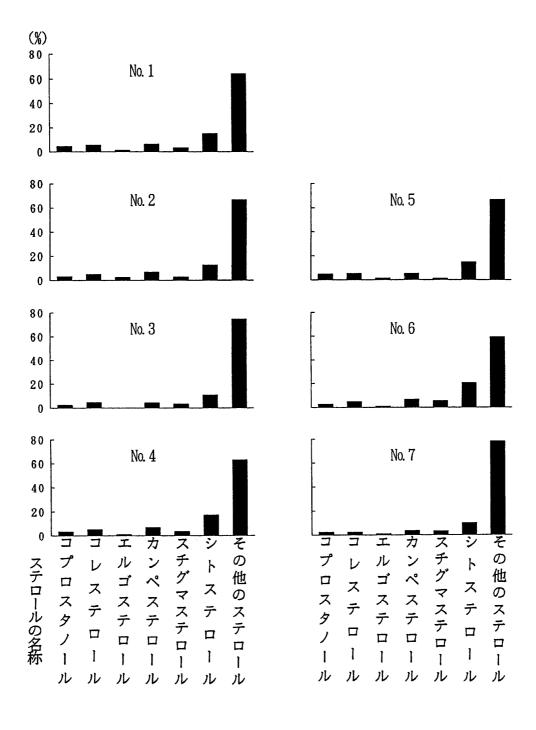
表3 土壌試料の残存脂肪抽出量

武料No.	コプロスタノール(%)	コレステロール(%)	シトステロール(%)	コレステロール シトステロール	コプロスタノール コレステロール
1	4. 32	5. 49	15. 07	0.36	0.79
2	3. 23	4.98	12.72	0.39	0.65
3	2. 36	4.60	10.67	0.43	0. 51
4	3. 40	5. 13	17. 16	0.30	0.66
5	5. 11	5. 43	14. 79	0. 37	0. 94
6	2. 72	4.63	20. 25	0.23	0. 59
7	2. 29	2. 29	9.88	0. 23	1.00

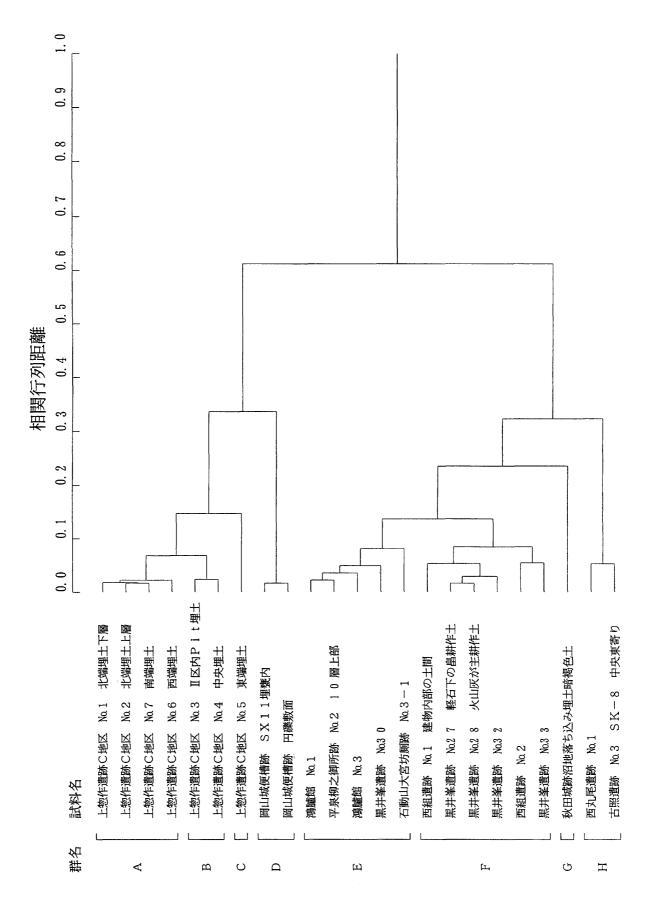
表 4 試料中に分布するステロールの割合



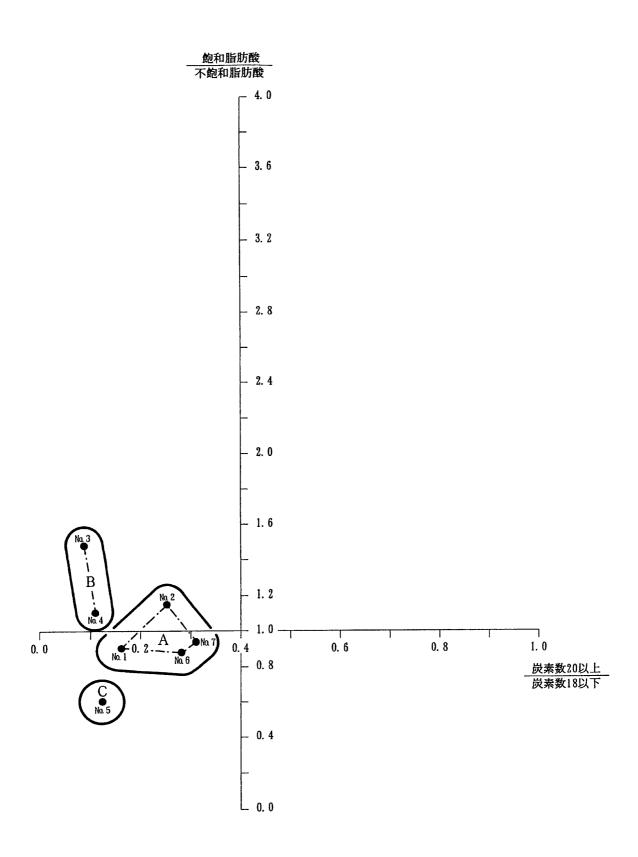
第3図 試料中に残存する脂肪の脂肪酸組成



第4図 試料中に残存する脂肪のステロール組成



第5図 試料中に残存する脂肪の脂肪酸組成樹状構造図



第6図 試料中に残存する脂肪脂肪酸組成による種特異性相関

(参考資料)

北勢沿岸流域下水道事業上惣作遺跡隣接地立会調査

1 調査の概要

平成9年度に、国道306号線地内において、北勢 沿岸流域下水道(北部処理区)員弁川幹線管渠工事 が行われた。

工事箇所は、員弁川水系が形成した標高約90~94 mの段丘上にひろがる水田地帯にあたり、隣接地には上惣作遺跡が所在する。

協議の結果、工事掘削される7箇所の内、1調査 区を除く6箇所について立ち会い調査が必要と判断 された。

立ち会い調査は、工事の進捗状況に合わせ、平成9年12月25日、平成10年1月6・7・14日、同2月10日、2月12・16日に実施された。

2 調査の結果

調査の結果、No.3・5調査区において遺構・遺物 の存在が確認された。各調査箇所の概要は以下のと おりであった。

No. 1 調査区

掘削を伴わないため調査の必要はないと判断された。

No. 2 調査区

現道表面下に、約0.6mの道路造成時の盛土があり、 その下に黒色土(旧耕作土)、砂礫層、巨礫層、黄 褐色粘土層を確認した。

遺構・遺物は確認されていない。

No. 3 調査区 (第2図)

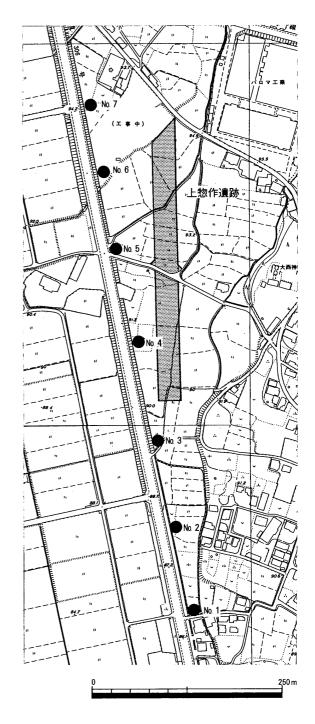
現道表面下に、道路造成時の盛土があり、その下 に黒色土(旧耕作土)、灰色粘質土、灰色砂質土、 黒色粘質土、黄色シルト層、巨礫層を確認した。

遺構は、黄色シルト層上面でピットを1基検出した。平面円形をなし、径約0.4m、検出面からの深さは約20cmを測る。

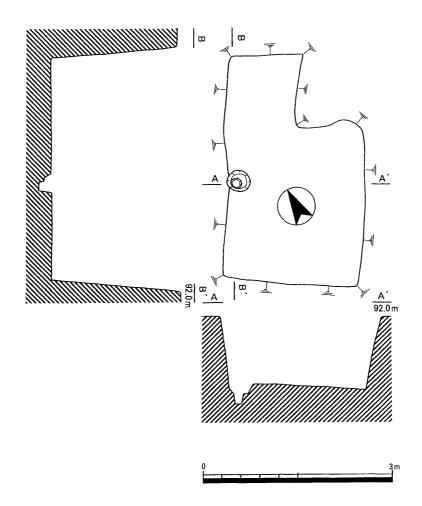
遺物は、黒色粘質土層から山茶椀(1)が出土した。1は、体部下半に丸みをもち、底部に潰れた高台が付く。藤澤編年の第4~5型式に相当すると考えられる。

No. 4 調査区 現道表面化の盛土は約1.2mあり、その下に黒色土、礫を含む茶褐色土を確認した。

遺構・遺物は確認されていない。



第1図 調査箇所位置図(1:5,000)



第2図 No.3調査区実測図(1:60)

No. 5 調査区

約1.2mの現道表面下の盛土の下に黒色シルト層、 黄灰色シルト層、褐色礫層を確認した。

遺構は、黄灰色シルト層上面で検出された。検出された遺構には、土坑3基の他、複数のピットがあるが、建物としてのまとまりは認められない。

遺物は、黒色シルト層から須恵器甕(3)土師器 甕(2)などが出土した。2は、口縁が受口状をな す。3は、体部外面にタタキを施し、内面に同心円 状の当て具痕が残る。

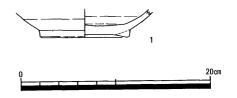
No. 6 調査区

現道表面下の盛土の下に黒色土、砂礫層を確認した。

遺構・遺物は、確認されていない。

No. 7 調査区

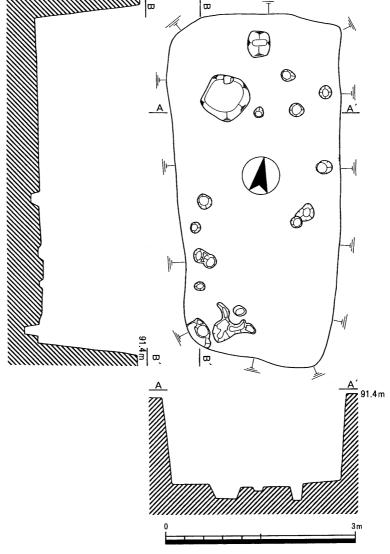
現道表面下の盛土の下に黒色土、砂礫層を確認した。遺構・遺物は確認されていない。



第3図 出土遺物実測図(1)(1:4)

3 まとめ

調査箇所の大半は、砂礫層が広がっており、員弁 川あるいはその支流の旧河道であったことが考えられる。遺構が確認された3・5調査区については、 狭小な調査区のため詳細は不明であるが、検出されたピットの中には掘立柱建物の柱穴に成りうる形状・ 規模のものもある。こうしたことから上惣作遺跡の 西への広がりが、東海環状自動車道建設予定地から 少なくとも現在の国道306号線まではおよぶものと 判断される。

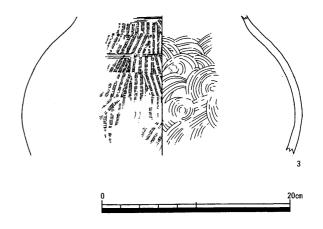


第4図 No.5調査区実測図(1:60)



No.3 調査区の東側では、平成8年度に東海環状自動車道建設に伴う範囲確認調査が実施され、遺構・遺物が存在しないことが確認されている。

この周辺は、阿下喜の集落がある上位の段丘が西に張り出してきている場所にあたる。このため、遺跡は上位の段丘と一定の空間を隔ててひろがっていたことが推測される。また、複雑に入り組んだ河道を避けて、わずかな微高地を選んでいたとも考えられる。



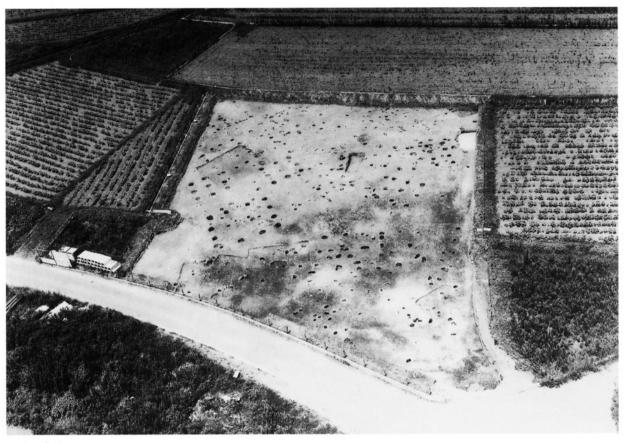
第5図 出土遺物実測図(2)(1:4)



A地区全景



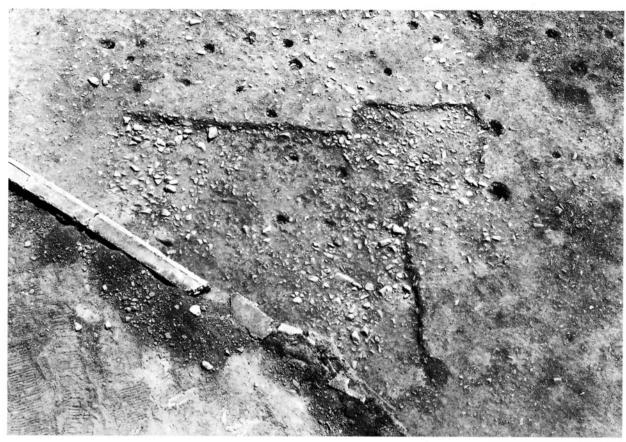
D地区全景



B地区全景



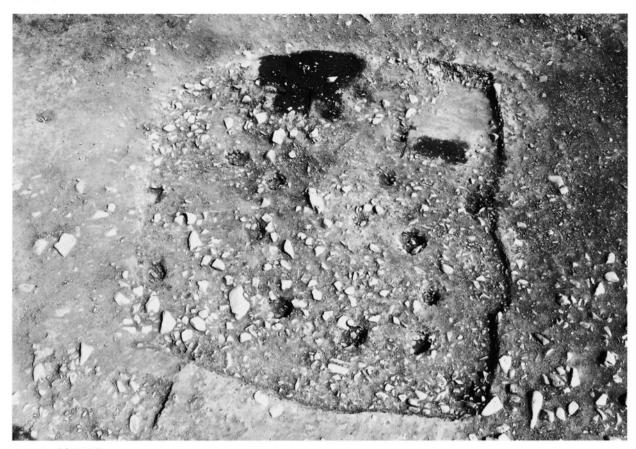
C地区全景



SH1・2 (西から)



SH8 (東から)



SH4 (南から)



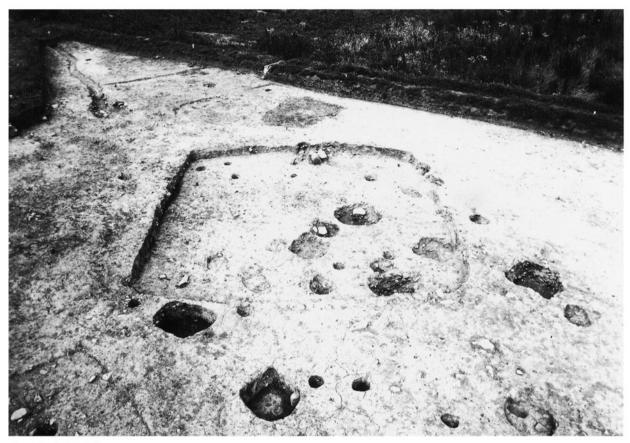
SH4竈遺物出土状況 (東から)



SH9 (北から)



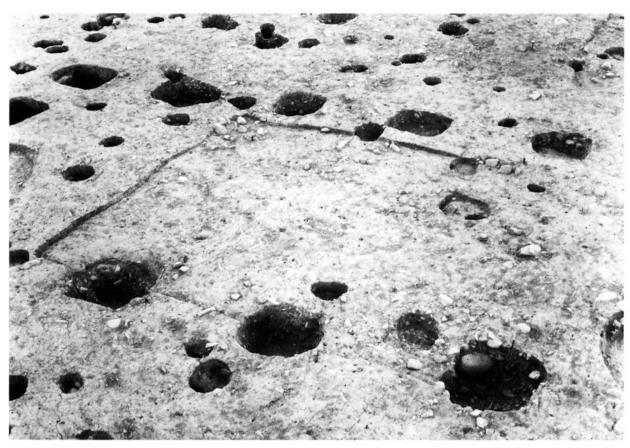
SH13 (北から)



SH12 (西から)



SH12竈遺物出土状況(西から)



SH19 (西から)



S H21~23(南から)



SH38~40(東から)



SH43・44 (南から)



SH45・46(南から)



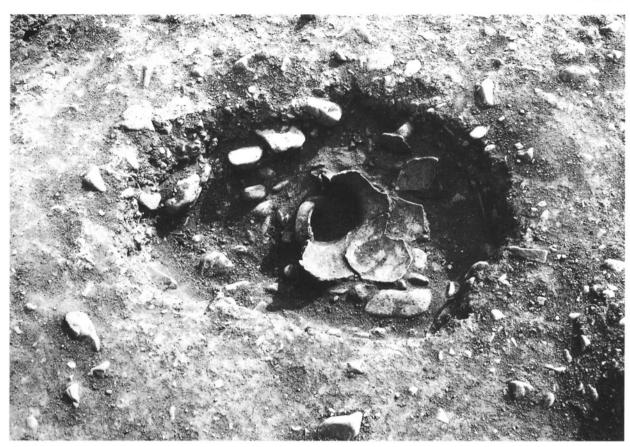
SH45遺物出土状況(南から)



S H 54 (北東から)



SH54竈遺物出土状況(南西から)



SH54貯蔵穴遺物出土状況(北東から)



S H 69 (南西から)



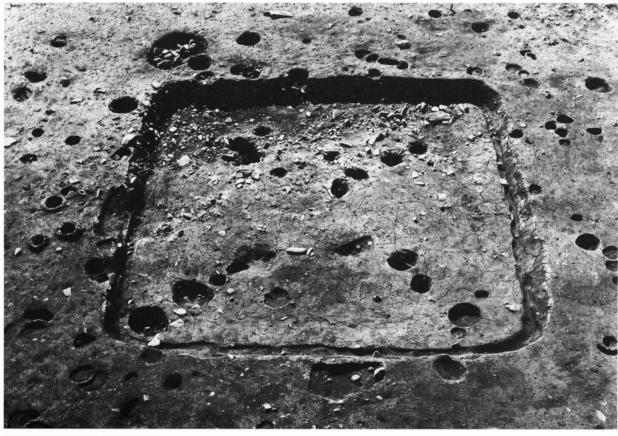
SH66・68 (北から)



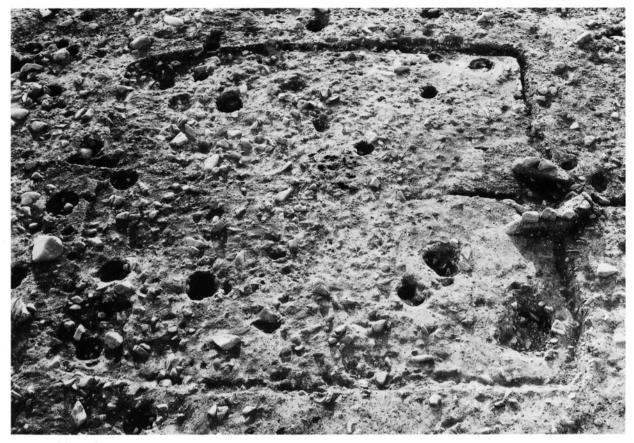
SH67・68 (北から)



SH71 (西から)



SH76(北から)



SH83 (東から)



SH83竈(西から)



SB14 (北から)



SB15~18 (東から)



SB24・25 (南から)



SB41、SK42(北から)



SH54、SB56・57 (南東から)



SB64 (南から)



SH54、SB53 (北東から)



SB59~61 (西から)



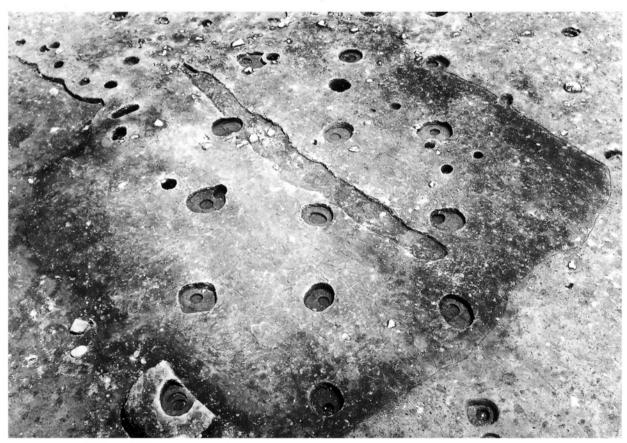
SB61 (西から)



SB62・63 (東から)



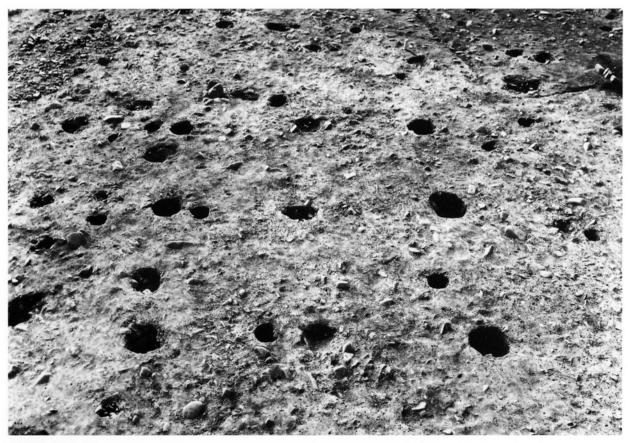
SB73、SK72・74 (北から)



SH76、SB77・78 (北から)



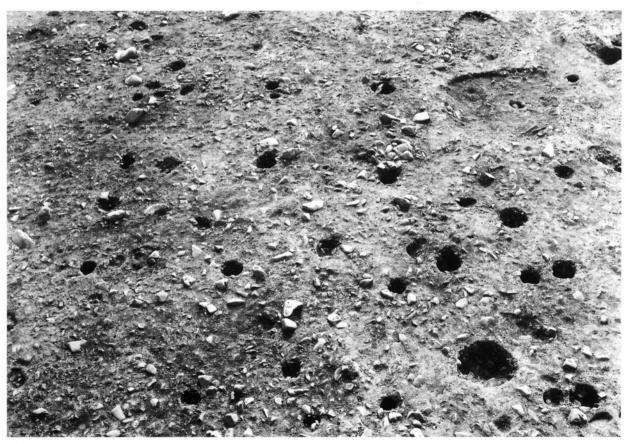
SB81 (北から)



SB82(北から)



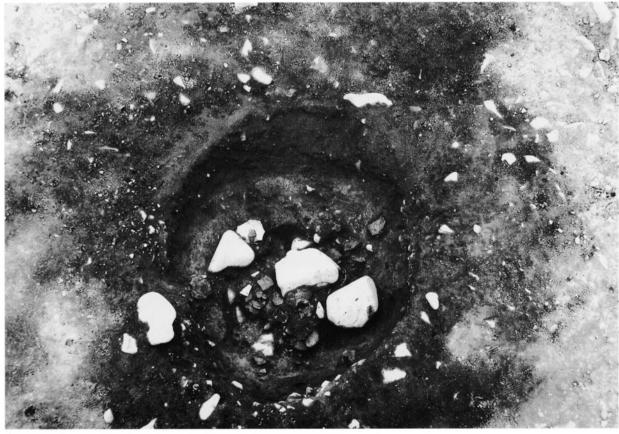
SB84(北から)



SB85、SK86・87 (北から)



SF6 (東から)



SK31 (東から)



SK72 (西から)



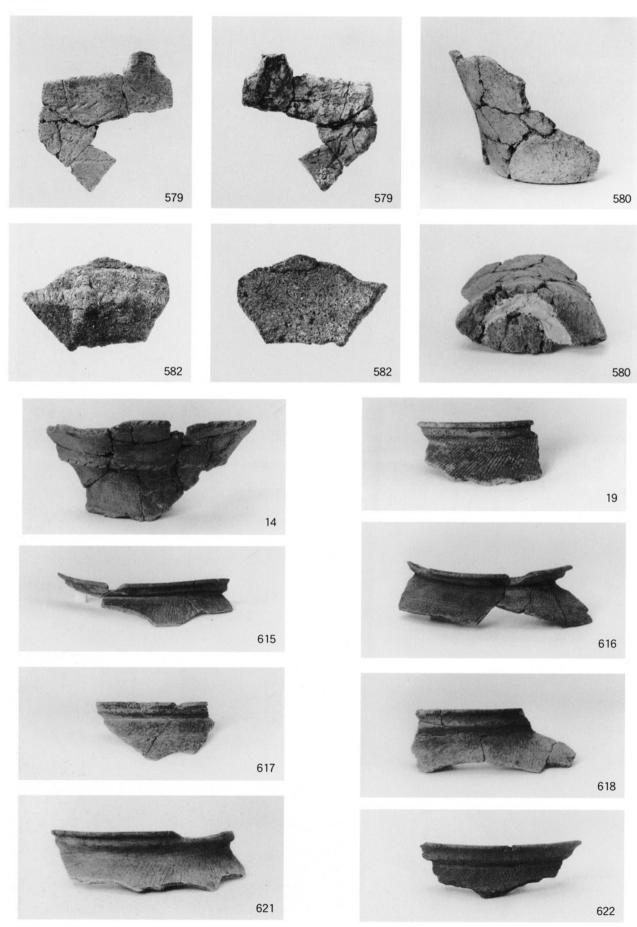
SK80(南から)



SD75(東から)



縄文土器出土状況

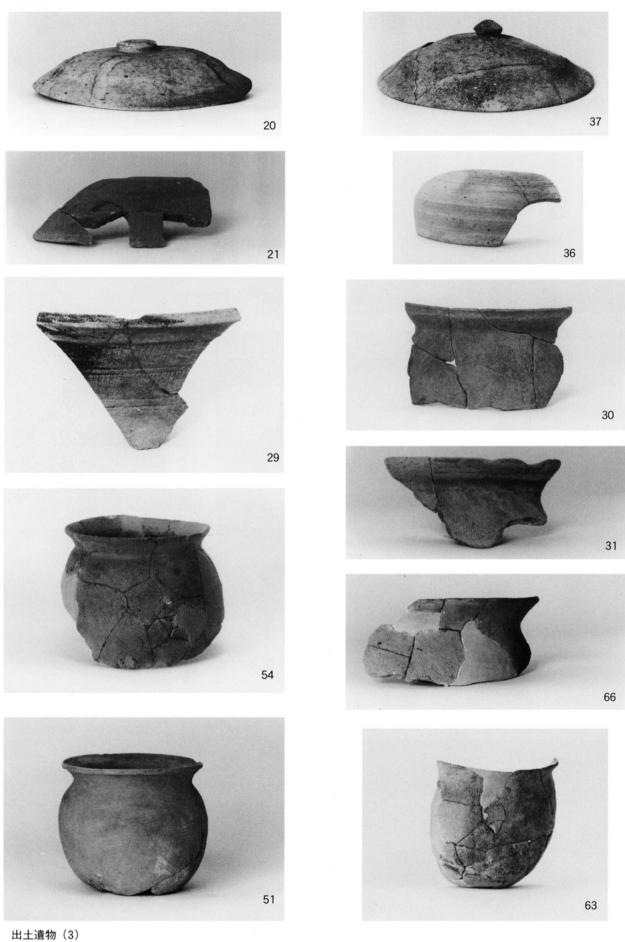


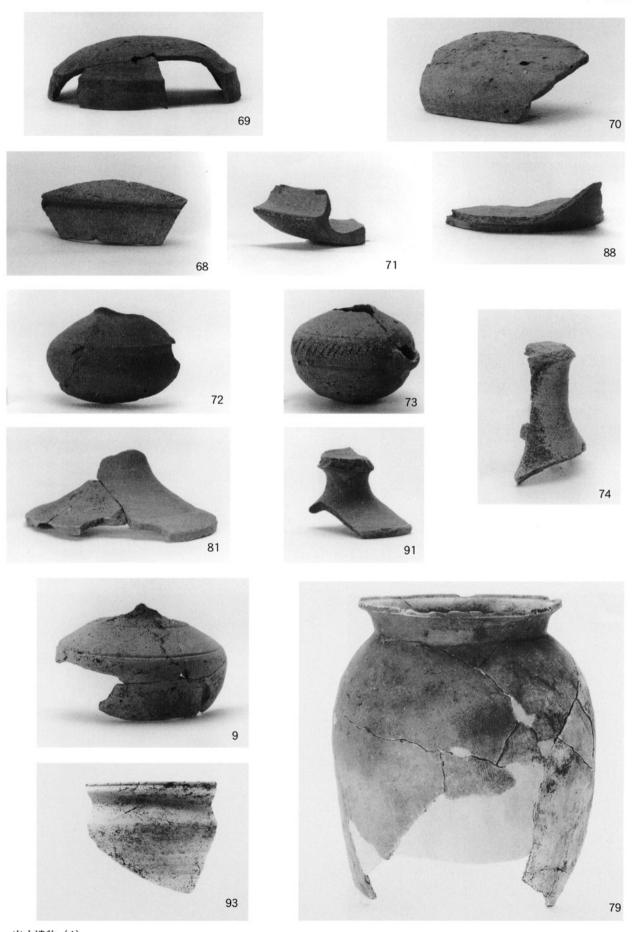
出土遺物(1)



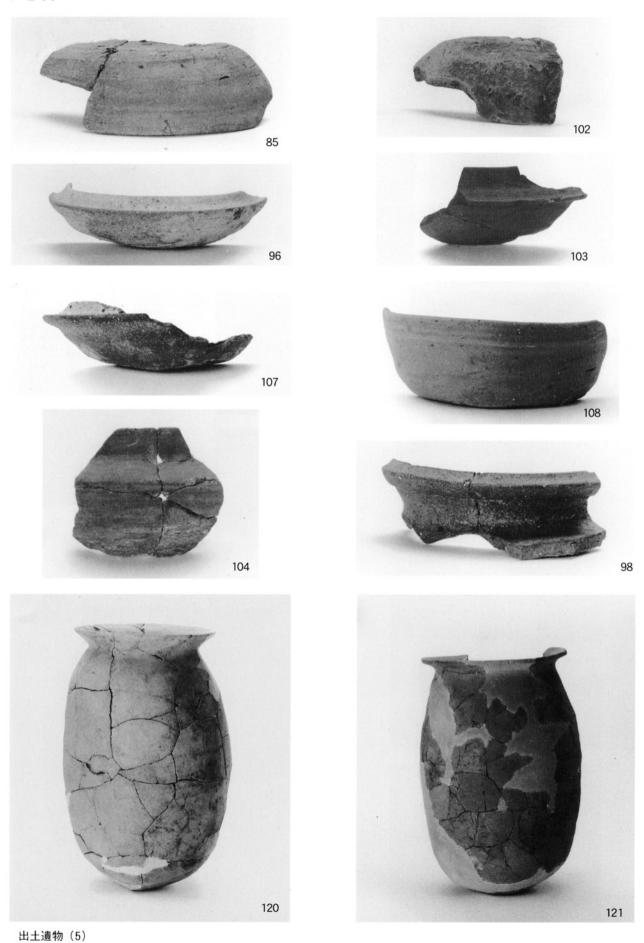
出土遺物(2)

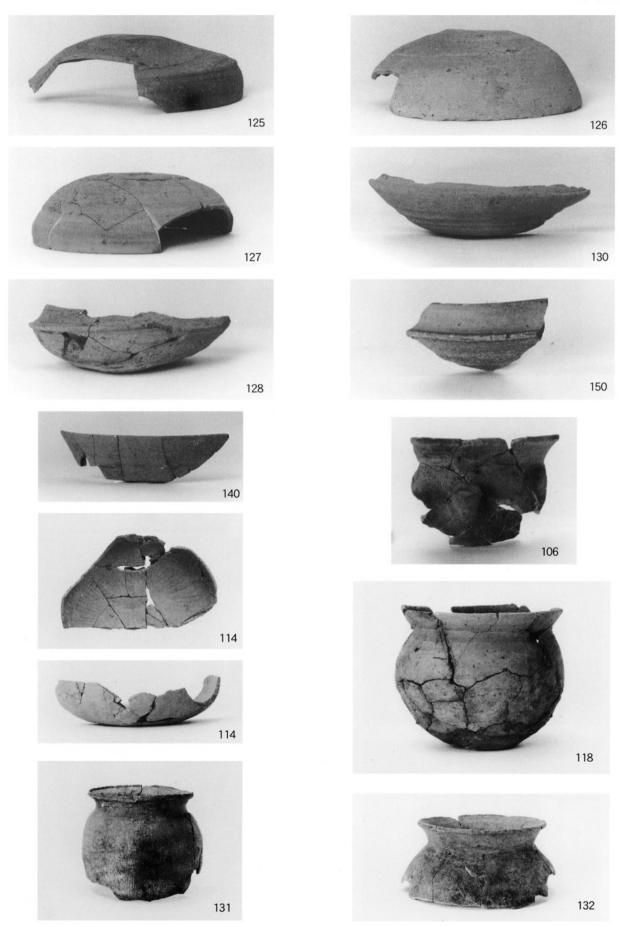
P L 28



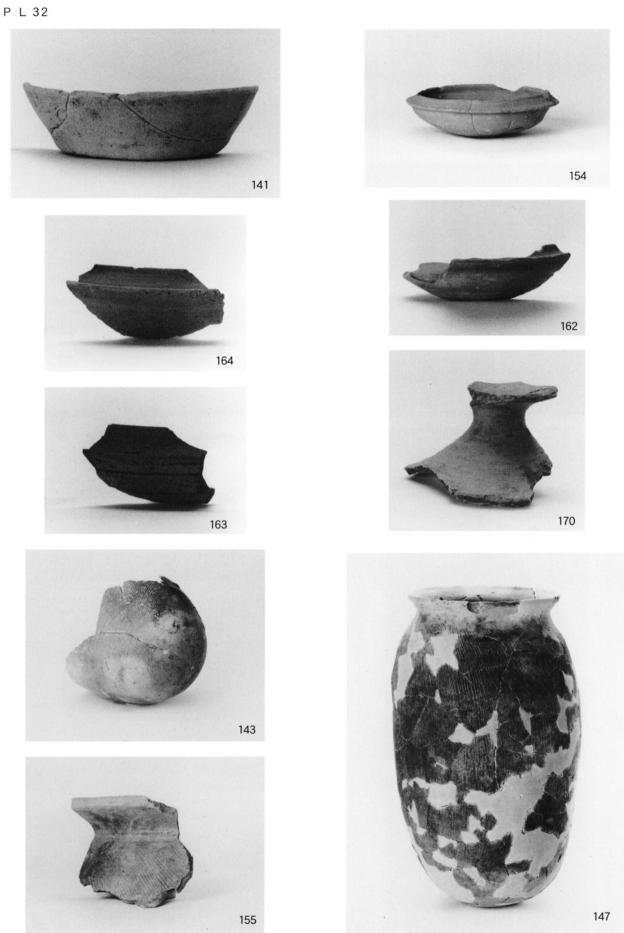


出土遺物(4)

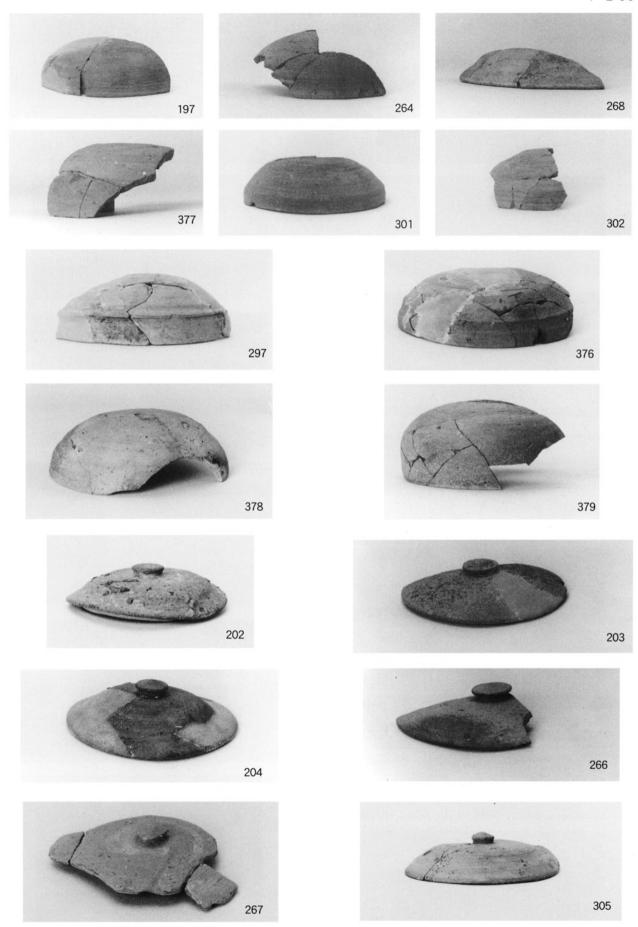




出土遺物(6)

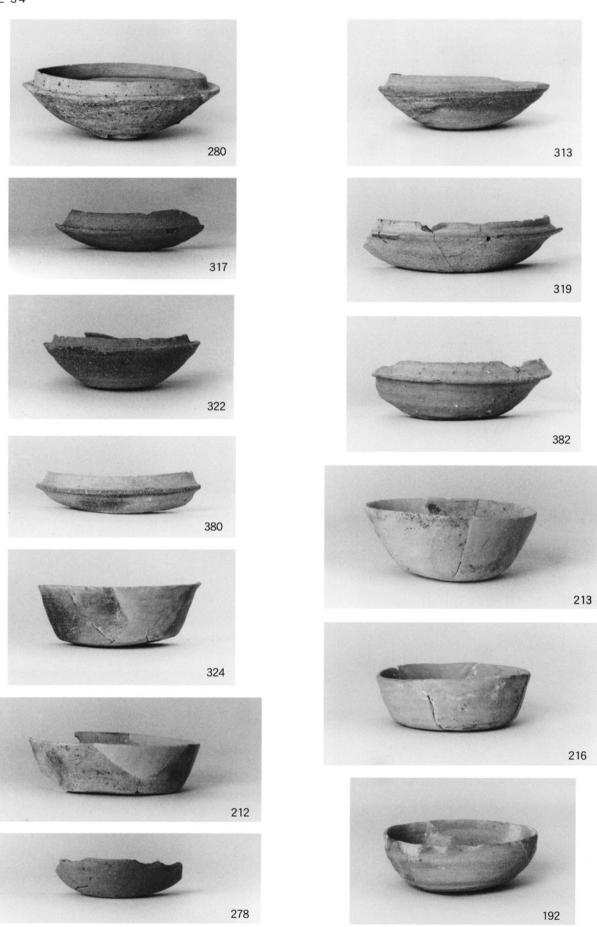


出土遺物(7)



出土遺物(8)

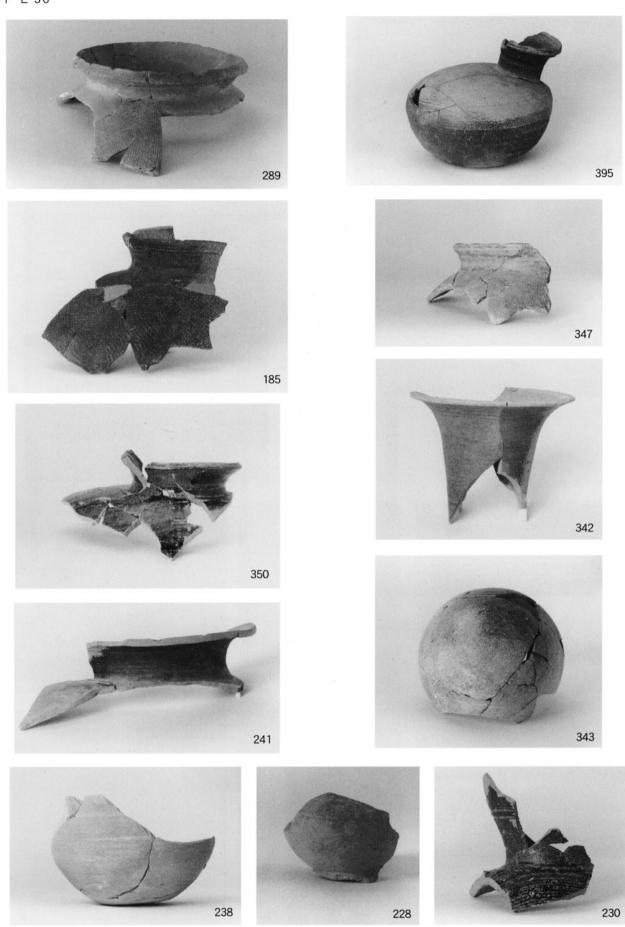
出土遺物(9)



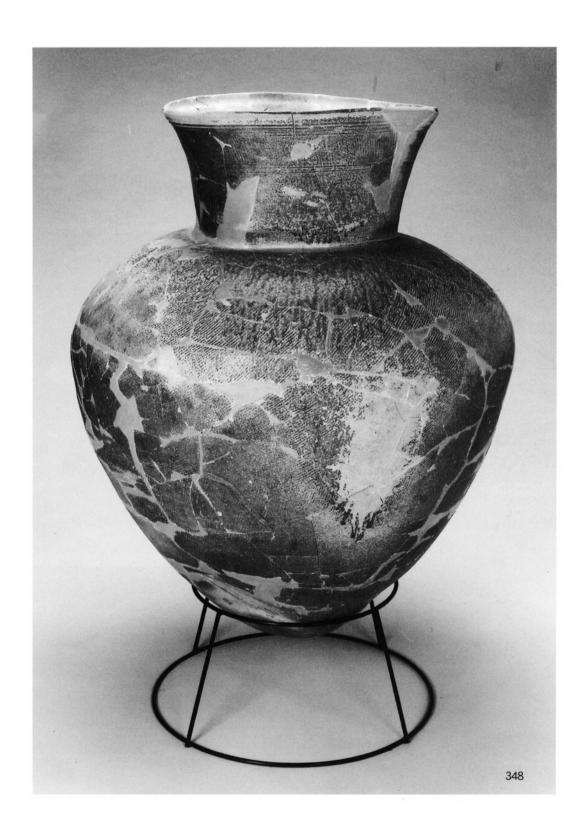
- 166 -



出土遺物(10)

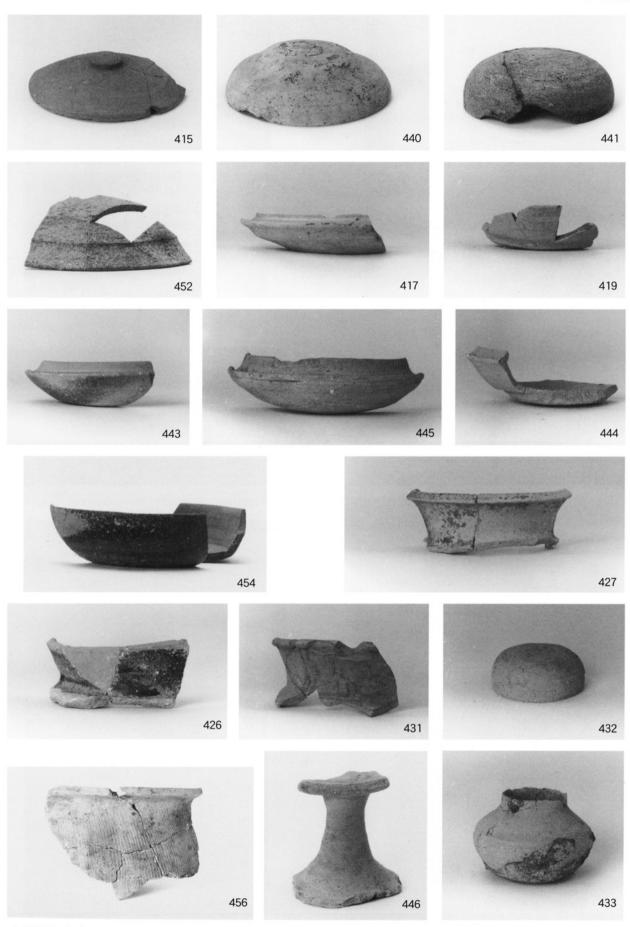


出土遺物(11)





- 170 -



出土遺物(14)



出土遺物(15)



- 173 -

P L 42

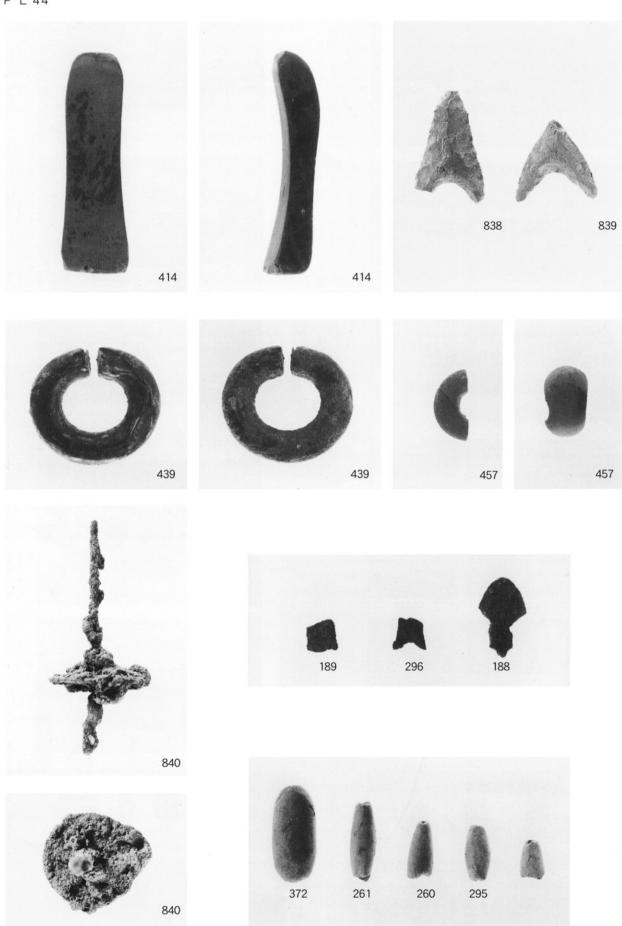


出土遺物(17)



出土遺物(18)

P L 44



出土遺物(19)

報告書抄録

ふりがな	かみそう	かみそうさくいせきはっくつちょうさほうこく							
書名	上惣作	上惣作遺跡発掘調査報告							
副書名	,			3,007 - 10,000				(173.5/1-1)	
巻 多	3	1 - 44 % 54			7.70				
シリーズ名	三重県	三重県埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号 186-3									
編著者名	角 正	角正 芳浩							
編集機関	三重県	三重県埋蔵文化財センター							
所 在 地	₹515-	〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川 5 0 3 TEL 0596-52-1732							
発行年月日 2001年3月									
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積		
所収遺跡名	跡名 所在地		遺跡番号	0 / "	0 / //		m²	調査原因	
かみそうさくいせき上物作遺跡	い員 は な 弁 は 数 が 大 数 が 下 で を 数 が 下 で か も 数 が で 大 数 が で で う う も ち も ち も ち も も も も も も も も も も も も も	24321	69	136° 30′ 56″	35° 8′ 52″	$ \begin{array}{c} 19950317 \\ $	240 4,470 5,000 1,470	一般国道475 号線東海道 建設に伴う 事前調査	
所収遺跡名	種 別	主な時代主		な遺構	主な遺物		特記事項		
上惣作遺跡	集落跡	飛鳥時代 要穴 ~奈良時代 掘立 土坑 溝 平安時代 竪穴		在居 住居 柱建物 法 大遺構 柱建物	古式土師器 須恵器・土師器 土製品・鉄製品 ガラス玉 山茶椀・山皿・土師 器・ロクロ土師器				

平成 13(2001) 年 3 月に刊行されたものをもとに 平成 19(2007) 年 9 月にデジタル化しました。

三重県埋蔵文化財調査報告186-3 一般国道475号東海環状自動車道

WILE TO THE PROPERTY A

上 惣 作 遺 跡

発掘調査報告 2001.3

編集

三重県埋蔵文化財センター

発 行

印刷 共栄堂印刷株式会社

D地区実測図および等高線図(1:200)

県埋蔵文化財調査報告186-3 惣作遺跡発掘調査報告』